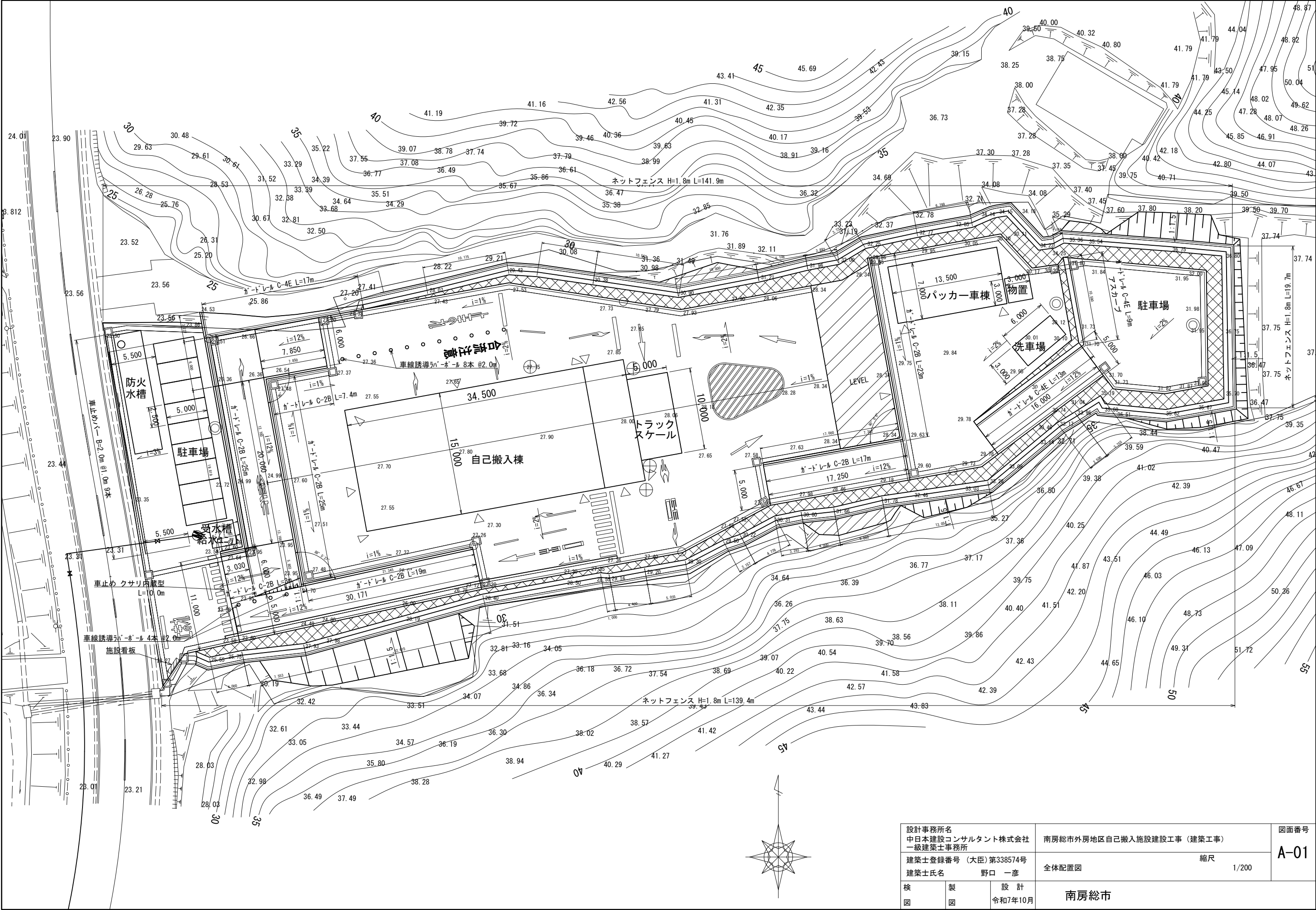


# 南房総市外房地区自己搬入施設建設工事 (建築工事)

※注 1 記載の縮尺はA 1 サイズ図面での縮尺を示す

図 番	図面の種類	縮 尺	図 番		縮 尺	図 番		縮 尺
	(建築工事・意匠図)						(建築工事・構造図)	
A-01	全体配置図	1/200	A-28	自己搬入棟 展開図 (3)	1/50	S-01	構造関係特記仕様書 (1)	—
A-02	建築工事特記仕様書 (1)	—	A-29	自己搬入棟 展開図 (4)	1/50	S-02	構造関係特記仕様書 (2)	—
A-03	建築工事特記仕様書 (2)	—	A-30	自己搬入棟 展開図 (5)	1/50	S-03	構造関係特記仕様書 (3)	—
A-04	建築工事特記仕様書 (3)	—	A-31	自己搬入棟 天井伏図	1/100	S-04	構造関係共通事項 (1)	—
A-05	建築工事特記仕様書 (4)	—	A-32	自己搬入棟 建具配置図	1/100	S-05	構造関係共通事項 (2)	—
A-06	建築工事特記仕様書 (5)	—	A-33	自己搬入棟 建具表 (1)	1/50	S-06	構造関係共通事項 (3)	—
A-07	建築工事特記仕様書 (6)	—	A-34	自己搬入棟 建具表 (2)	1/50	S-07	構造関係共通事項 (4)	—
A-08	建築工事特記仕様書 (7)	—	A-35	自己搬入棟 建具枠廻り詳細図 (1)	1/5	S-08	構造関係共通事項 (5)	—
A-09	建築工事特記仕様書 (8)	—	A-36	自己搬入棟 建具枠廻り詳細図 (2)	1/5	S-09	柱脚 (ハイベース) 仕様書 (1)	—
A-10	建築材料等品質性能表 (1)	—	A-37	自己搬入棟 部分詳細図 (1)	1/10, 1/5	S-10	柱脚 (ハイベース) 仕様書 (2)	—
A-11	建築材料等品質性能表 (2)	—	A-38	自己搬入棟 部分詳細図 (2)	1/10, 1/5	S-11	デッキ合成スラブ標準仕様書	—
A-12	自己搬入棟 法規チェックリスト	—	A-39	自己搬入棟 部分詳細図 (3)	1/10	S-12	地盤改良工事特記仕様書	1/500
A-13	自己搬入棟 法規チェック図 (1)	1/100	A-40	自己搬入棟 部分詳細図 (4)	1/10	S-13	ボーリング柱状図、地盤改良断面図	1/200
A-14	自己搬入棟 法規チェック図 (2)	1/100	A-41	自己搬入棟 部分詳細図 (5)	1/10	S-14	自己搬入棟 基礎伏図	1/100
A-15	自己搬入棟 面積算定図	1/100	A-42	自己搬入棟 部分詳細図 (6)	1/10	S-15	自己搬入棟 床梁伏図	1/100
A-16	自己搬入棟 仕上表	—	A-43	パッカー車棟 法規チェックリスト	—	S-16	自己搬入棟 床梁伏図、屋根伏図	1/100
A-17	自己搬入棟 1 階平面図	1/100	A-44	パッカー車棟 法規チェック図	—	S-17	自己搬入棟 軸組図 (1)	1/100
A-18	自己搬入棟 2 階平面図、屋根伏図	1/100	A-45	パッカー車棟 仕上表	—	S-18	自己搬入棟 軸組図 (2)	1/100
A-19	自己搬入棟 断面図	1/100	A-46	パッカー車棟 平面図、屋根伏図、断面図、立面図	1/100	S-19	自己搬入棟 軸組図 (3)	1/100
A-20	自己搬入棟 立面図	1/100	A-47	パッカー車棟 矩計図	1/30	S-20	自己搬入棟 軸組図 (4)	1/100
A-21	自己搬入棟 矩計図 (1)	1/30	A-48	パッカー車棟 1 階平面詳細図	1/50	S-21	自己搬入棟 部材断面リスト (1)	1/30
A-22	自己搬入棟 矩計図 (2)	1/30	A-49	パッカー車棟 建具配置図、建具表、建具枠廻り詳細図	1/100, 1/50, 1/5	S-22	自己搬入棟 部材断面リスト (2)	1/30
A-23	自己搬入棟 矩計図 (3)	1/30	A-50	パッカー車棟 部分詳細図	1/10	S-23	自己搬入棟 鉄骨詳細図	1/30
A-24	自己搬入棟 1 階平面詳細図	1/50	A-51	物置 法規チェックリスト	—	S-24	パッカー車棟 基礎伏図、床梁伏図、屋根伏図	1/100
A-25	自己搬入棟 2 階平面詳細図	1/50	A-52	物置 仕上表	—	S-25	パッカー車棟 軸組図	1/100
A-26	自己搬入棟 展開図 (1)	1/50	A-53	物置 平面図、断面図、立面図、面積算定図	1/30, 1/50	S-26	パッカー車棟 部材断面リスト	1/30
A-27	自己搬入棟 展開図 (2)	1/50				S-27	パッカー車棟 鉄骨詳細図	1/30

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-00
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 図面リスト（建築工事） ー		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-01
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/200		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

工事名称：南房総市外房地区自己搬入施設建設工事			章 項 目			特 記 事 項			章 項 目			特 記 事 項			章 項 目			特 記 事 項				
1 一 般 共 通 事 項	フレックス工期契約制度 ○ 適用する（工事の着手期限日 令和 年 月 日、工事の終期日 令和 年 月 日）、○ 適用しない		● 9. 材料の品質等	(1. 4. 2)		● 10. 技能士	(1. 5. 2)		● 24. 創意工夫等	○ 21. 県内生産品		● 25. 設計図CADデータ	○ 22. 中間検査		● 26. 電子納品	○ 23. 中間検査の指定対象工事		● 27. 完成時の提出図書等	(1. 8. 1～3)			
	留意事項 ・受注者は、工事着手日を明らかにするため、契約締結後7日以内に工事着手日通知書を発注者に届け出なければならない。 ・契約締結日から工事着手日の前日までの間は、建設業法第26条に基づく主任技術者又は監理技術者の設置を要しない。 ・契約締結日から工事着手日の前日までの間は、建設工事請負契約書第11条に基づく現場代理人の設置を要しない。 ・工事着手日までの間は、工事の施工（現場事務所等の設置、資機材等の発注及び工場製作等を含む）を行ってはない。 ・前金払は、工事着手日の10日前までは請求できない。 ・工事実績情報システムへの登録に際しては、主任（監理）技術者及び現場代理人の従事期間は、工事着手日をもって登録するものとする。（「工事契約日から工事着手日の前日までを除くこととする。」）			(1)			現場駐駐報告書提出すること。			受注者は「県内生産品使用状況調査票」を作成し工事完了時に監督職員に提出するとともに、完成検査後に以下の技術管理課メールアドレスに電子データで提出しなければならない。 メール送付先：kensanhin@mz.pref.chiba.lg.jp なお、監督職員への提出にあたっては、この特記仕様書の完成図等を含むものとし、「千葉県登録事業に係る電子納品運用ガイドライン」に基づき、その他フォルダに保存し、電子成果として提出することとする。 ・回数：（ ）回 ・実施時期：（ ）完了時			本工事は、低入札価格調査制度調査対象工事（以下「調査対象工事」という）に該当した場合は、千葉県建設工事検査要綱（検査の区分を規定）及び中間検査実施細則（中間検査実施区分を規定）の定めに関わらず中間検査の指定対象工事として、中間検査を実施する。 1) 調査対象工事の中間検査の実施は、「中間検査実施細則」に関わらず原則として・2ヶ月に1回、及び主要工種を考慮し施工上の変化点等で行うが、実施時期は監督職員が指定する。なお、検査日及び検査監氏名は別途通知する。 2) 中間検査は、通知日までに完了した出来形部分の出来形確認及び技術的確認等を行うが、給付の対象としない。			受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫に関する項目、または地域・社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。			・設計図CADデータ：● 貸与する、○ 貸与しない 貸与する設計図CADデータを当該工事の施工図または完成図の作成以外の目的に使用してはならない。		工事完成時の提出図書等は以下のものとする。	
	5. 工作物、外構等 洗車場、トラックスケール、防火水槽			● 防水工事			● 防水工事			● 28. 施設点検			本工事完成（「工事事目的の引渡し」を行った日）後、1年目及び2年目に関係者（営繕課、工事監理事務所、施設管理者、受注者）による施設点検（不具合の有無を確認し、その処理について協議）を行うので、当課からの依頼により施設点検に立会い協力するものとする。			2 仮 設 工 事			● 1. 監督職員事務所		・監督職員用のスペース：規模(m <sup>2</sup> ): ○ 10程度、○ 20程度、○ 35程度、○ 65程度 ○ 100程度、○ ( ) 程度 ・備品等の種類及び数量 ○ 書棚、○ 図面架、○ 見本棚、○ 机及び椅子、○ 更衣ロッカー( )、○ 書機、○ 図面架、○	

章	特	記	事	項	章	特	記	事	項	章	特	記	事	項	章	特	記	事	項	章	特	記	事	項																																		
9 防 水 工 事	○ 1. アスファルト防水					(9. 2. 2～5) (表 9. 2. 3～9)					9 防 水 工 事	○ 2. 改質アスファルトシート防水					(9. 3. 2、3) (表 9. 3. 1～3)					9 防 水 工 事	○ 4. 塗膜防水					(9. 5. 3) (表 9. 5. 1、2)					10 石 工 事	○ 5. 乾式工法					(10. 2. 2) (10. 5. 2、3) (表10. 2. 4)																			
	屋根保護防水											屋根露出防水密着工法											防水層の種類											・乾式工法の種類による金物の種類、形状、寸法等																								
	種 別 施工箇所					絶縁用シート						立上り部の保護					種 別 施工箇所						仕上塗料					種 別 施工箇所						保護層					・標準仕様書 表10. 2. 4による (方式 ○スライド方式、 ○ ロッキング方式)					○ 図示														
	○ A-1					○ ポリスチレンフィルム						○ 乾式保護材					○ AS-T1						○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ X-1						○ 主材料の製造所の仕様					○ 主材料の製造所の仕様					・アソカの材質及び形状					○ ステンレス (SUS304) M10、 ○ ( )									
	○ A-2					○ 厚さ0. 15mm以上						○ コンクリート押え					○ AS-T2						○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ X-2						○ 主材料の製造所の仕様					○ 主材料の製造所の仕様					・あと施工アンカーの材質及び寸法等					○ ( )									
	○ A-3					○						○ れんが					○ AS-J1						○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1						○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・だぼ用の穴の位置					○ 標準仕様書10. 5. 2(2) (7)による、 ○ ( )									
	屋根保護防水絶縁工法											種 別 施工箇所					絶縁用シート						立上り部の保護					種 別 施工箇所						仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・石裏面処理					○ 適用する、○ 適用しない				
	種 別 施工箇所					絶縁用シート						立上り部の保護					種 別 施工箇所						仕上塗料					種 別 施工箇所						保護層					・階段張りの表面処理					○ 適用する、○ 適用しない														
	○ B-1					○ ポリスチレンフィルム						○ 乾式保護材					○ AS-T3						○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2						○ 屋内防水					○ 屋内防水					・一般目地					目地幅 (mm) 屋外 ○ 4以上、 ○ ( )									
	○ B-2					○ 厚さ0. 15mm以上						○ コンクリート押え					○ AS-T4						○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2						○ 屋内防水					○ 屋内防水					・受け金物					○ 標準仕様書10. 2. 2(3)による、 ○ ( )									
○ B-3					○					○ れんが					○ AS-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・乾式工法の場合の取付け代					○ 70mm程度、 ○ ( )													
屋根保護防水密着断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・石裏の補強用モルタル					○ 適用する、○ 適用しない								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・目地					一般目地 目地幅 (mm) 屋外 ○ 4以上、 ○ ( )																		
○ AI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ AI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ AI-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ BI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
・AI及びBIに用いる断熱材[6]：										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ A1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ B1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ B1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ B1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
・AI及びBIに用いる断熱材[6]：										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ A1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ BI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
・AI及びBIに用いる断熱材[6]：										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ A1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ BI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
・AI及びBIに用いる断熱材[6]：										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ A1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ BI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
・AI及びBIに用いる断熱材[6]：										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ A1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ BI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
・AI及びBIに用いる断熱材[6]：										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ A1-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-T1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-T2					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ A1-3					○					○ れんが					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
屋根保護防水絶縁断熱工法										種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示								
種 別 施工箇所					絶縁用シート					立上り部の保護					種 別 施工箇所					仕上塗料					種 別 施工箇所					保護層					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示																		
○ BI-1					○ フラットヤーンクロス					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-1					○ 地下外壁防水					○ 地下外壁防水					・伸縮調整目地					○ 標準仕様書11. 1. 1による、 ○ 図示													
○ BI-2					○ 70g/㎡程度					○ 乾式保護材					○ ASI-J1					○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様					○ Y-2					○ 屋内防水					○ 屋内防水					・伸縮調整目地					○													

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項										
11 タ イ ル 工 事	● 2. セメントモルタルによる タイル張り	○ 1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	・位置： ☒ 標準仕様書表11.1.1)による、○ 図示 ・目地寸法： ☒ 標準仕様書表9.7.3)による、○ ( )	(11.1.3) (表11.1.1)	12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	(12.1.4) (表12.1.1)	12 木 工 事	○ 4. 造作用単板積層材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	13 屋 根 及 び 工 事	○ 1. 長尺金属板葺	(13.2.2、3)	● 2. 折板葺	○ 1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	・位置： ☒ 標準仕様書表11.1.1)による、○ 図示 ・目地寸法： ☒ 標準仕様書表9.7.3)による、○ ( )	(11.1.3) (表11.1.1)	12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	(12.1.4) (表12.1.1)	12 木 工 事	○ 4. 造作用単板積層材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	13 屋 根 及 び 工 事	○ 1. 長尺金属板葺	(13.2.2、3)				
		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.2.2、7)	○ 2. 製材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)	● 5. 合板等	(12.2.1)	・試験張り： ○ 行う、● 行わない ・見本焼き： ○ 行う、● 行わない ・下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理： ● 目荒し工法（高圧水洗処理）、○ MOR工法、○ ( )	・試験張り： ○ 行う、● 行わない ・見本焼き： ○ 行う、● 行わない ・下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理： ● 目荒し工法（高圧水洗処理）、○ MOR工法、○ ( )	(11.2.2、7)	○ 2. 製材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)		● 5. 合板等	(12.2.1)	・試験張り： ○ 行う、● 行わない ・見本焼き： ○ 行う、● 行わない ・下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理： ● 目荒し工法（高圧水洗処理）、○ MOR工法、○ ( )	・試験張り： ○ 行う、● 行わない ・見本焼き： ○ 行う、● 行わない ・下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理： ● 目荒し工法（高圧水洗処理）、○ MOR工法、○ ( )	(11.2.2、7)											
		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)	○ 3. 造作用集成材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	○ 7. 防蟻・防蟻処理	(12.3.1、2)	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)	○ 3. 造作用集成材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)		○ 7. 防蟻・防蟻処理	(12.3.1、2)	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)											
11 タ イ ル 工 事	● 3. 有機系接着剤による タイル張り	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)	12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	(12.1.4) (表12.1.1)	12 木 工 事	○ 4. 造作用単板積層材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	13 屋 根 及 び 工 事	○ 1. 長尺金属板葺	(13.2.2、3)	● 2. 折板葺	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)	12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	(12.1.4) (表12.1.1)	12 木 工 事	○ 4. 造作用単板積層材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	13 屋 根 及 び 工 事	○ 1. 長尺金属板葺	(13.2.2、3)	● 2. 折板葺	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)
		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)		○ 2. 製材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)		● 5. 合板等	(12.2.1)		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする		(11.3.2～4、7)	○ 2. 製材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)		● 5. 合板等	(12.2.1)		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする		(11.3.2～4、7)					
		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)		○ 3. 造作用集成材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)		○ 7. 防蟻・防蟻処理	(12.3.1、2)		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする		(11.3.2～4、7)	○ 3. 造作用集成材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)		○ 7. 防蟻・防蟻処理	(12.3.1、2)		・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする		(11.3.2～4、7)					
11 タ イ ル 工 事	● 3. 有機系接着剤による タイル張り	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)	12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	(12.1.4) (表12.1.1)	12 木 工 事	○ 4. 造作用単板積層材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	13 屋 根 及 び 工 事	○ 1. 長尺金属板葺	(13.2.2、3)	● 2. 折板葺	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	・「タイルの形状、寸法等」： 標準的な曲がりの役物は一体成形とする	(11.3.2～4、7)	12 木 工 事	○ 1. 表面仕上げ	(12.1.4) (表12.1.1)	12 木 工 事	○ 4. 造作用単板積層材 <sup>[G]</sup>	(12.2.1)	13 屋 根 及 び 工 事	○ 1. 長尺金属板葺	(13.2.2、3)	● 2. 折板葺	・「		







章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項						
19 内装工事	○ 9. フローリング張り [6]	(19. 5. 2～6) (表 19. 5. 1～5)					19 内装工事	● 12. 壁紙張り	(19. 8. 2, 3)					20 ユニット及びその他の工事	○ 7. 手すり						20 ユニット及びその他の工事	○ 19. 耐震スリット											
		・単層フローリング： ○ フローリングボード1等							・ホルムアルデヒド放散量：☒ 規制対象外、○（ ）							材料種表面仕上げ直径(mm)取付箇所備考 ○ 集成材○ クリアラッカー○ 35、○ 45、 ○ ビニル製ハンドレール○ ○ ○ (20. 2. 8) 区分焼付け、○(、 種類焼 ほうろう黒板、○(、 色色 緑、○(、 ○ ホワイトボード							方向タイプ耐火性能防水性能備考 ○ 垂直方向○ 完全(全貫通型)○ 耐火型○ 有り ○ 水平方向○ ○ 非耐火型○ 無し										
		工法☒ 釘留め工法(○ 根太張り、○ 直張り)、○ 接着工法 樹種☒ なら 厚さ、大きさ☒ 標準仕様書表19. 5. 1による、○ 仕上塗装○ 塗装品、○ 無塗装品 間伐材等の適用○ 適用する、○ 適用しない							施工箇所壁紙の種類防火性能備考 事務室、会議室○ 紙、○ 繊維、● プラスチック、○ 不燃、● 準不燃 ○ 無機質、○ その他○ 難燃、○ 準不燃 ○ 紙、○ 繊維、○ プラスチック、○ 不燃、○ 準不燃 ○ 無機質、○ その他○ 難燃							(20. 2. 8) 区分焼付け、○(、 種類焼 ほうろう黒板、○(、 色色 緑、○(、 ○ ホワイトボード							・目的地：内壁外壁 目的地：○ シーリング材(見え掛かりのみ)○ シーリング材(見え掛かりのみ) ○ シーリング材(内外とも) 目的地寸法○ 20×10○ 20×10 (幅mm×深さmm)○ 目的地材の材質は標準仕様書表9. 7. 11による										
		○ フローリングブロック1等 工法☒ 接着工法 樹種☒ なら 厚さ、大きさ☒ 標準仕様書表19. 5. 1による、○ 仕上塗装○ 塗装品、○ 無塗装品 間伐材等の適用○ 適用する、○ 適用しない							・モルタル、プラスター面の素地ごしらえ：☒ B種、○ A種 ・コンクリート面の素地ごしらえ：☒ B種、○ A種 ・せっこうボード面の素地ごしらえ：● B種、○ A種							(20. 2. 9) 取付箇所 寸法(mm)○ 図示、○ 厚さ(mm)☒ 5、○							○ 20. 止水板										
		・複合フローリング： ○ 天然木化粧複合フローリング 工法☒ 釘留め工法(○ 根太張り、○ 直張り)、○ 接着工法 樹種☒ なら 種別(表19. 5. 2)☒ A種、○ B種、○ C種 仕上塗装○ 塗装品、○ 無塗装品 間伐材等の適用○ 適用する、○ 適用しない							・フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量：☒ 規制対象外、○（ ）							(20. 2. 9) 取付箇所 寸法(mm)○ 図示、○ 厚さ(mm)☒ 5、○							○ 21. エキスパンションジョイント金物										
		・フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量：☒ 規制対象外、○（ ）							○ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) ○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ○ フェノールフォーム断熱材							・衝突防止表示：形状、寸法○ 30φ、○（ ） 材質○ ステンレス製、○（ ） ・案内用図記号：JIS Z 8210による ・非常用出入口：○ 適用する、○ 適用しない ・誘導標識、非常用出入口等の表示：● 消防法に適合する市販品、○（ ） ・色、書体、印刷等の種別、取付け形式等：図示による ・その他の表示：図示による							○ 22. くつさきマット										
		・接着工法の場合の表面断熱材：☒ 合成樹脂発泡シート、○（ ）							断熱材現場発泡工法：断熱材の種類○ A種1、○ A種1H 厚さ(mm)○ 25、○ 30、○（ ） 施工箇所○ 図示、○（ ） ・現場発泡断熱材(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							(20. 2. 11) 適用安全使用温度(上限温度)：○ 400℃、○ 650℃、○（ ） 適用安全使用温度(下限温度)：○（ ） ・煙突用成形ライニング材：(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							○ 22. くつさきマット										
		・現場塗装仕上げ：施工箇所(☒ ウレタン樹脂ワニス塗り ○ オイルステインの上、ワックス塗り ○ 生地のままワックス塗り							・断熱材現場発泡工法：断熱材の種類○ A種1、○ A種1H 厚さ(mm)○ 25、○ 30、○（ ） 施工箇所○ 図示、○（ ） ・現場発泡断熱材(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							(20. 2. 11) 適用安全使用温度(上限温度)：○ 400℃、○ 650℃、○（ ） 適用安全使用温度(下限温度)：○（ ） ・煙突用成形ライニング材：(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							○ 22. くつさきマット										
		○ 10. 畳敷き							・種類：○ A種、○ B種、○ C種、○ D種 (畳床：○ KT-I、○ KT-II、○ KT-III、○ KT-K、○ KT-N)							(20. 2. 12) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		● 11. せっこうボードその他のボード及び合板張り							・適用：以下によるほか、図示による。 ・合板類、MDF及びパーティクルボード、接着剤のホルムアルデヒド放散量：● 規制対象外、○（ ） ・木質系セメント板：種類厚さ(mm)、規格等 ○ 硬質木毛セメント板 [6]○ 15、○ 20、○ 25、 ○ 中質木毛セメント板 [6]○ 15、○ 20、○ 25、 ○ 普通木毛セメント板 [6]○ 15、○ 20、○ 25、 ○ 硬質木片セメント板 [6]○ 12、○ 15、○ 18、○ 21、○ ○ 普通木片セメント板 [6]○ 30、							(20. 2. 12) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
20 ユニット及びその他の工事	● 1. フリーアクセスフロア	(20. 2. 2)					20 ユニット及びその他の工事	○ 2. 可動間仕切	(20. 2. 3)					20 ユニット及びその他の工事	○ 15. カーテンレール	(20. 2. 14)					20 ユニット及びその他の工事	● 27. フェンス											
		施工箇所事務室、会議室							構造形式○ 置敷式○ 支柱調整式○ 置敷式○ 支柱調整式 寸法(mm)● 500×500○ 500×500○ 500×500 高さ(mm)● 50 耐震性能○ 1. 0G、● 0. 6G○ 1. 0G、○ 0. 6G○ 1. 0G、○ 0. 6G 所定荷重● 3. 000N、○ 5. 000N○ 3. 000N、○ 5. 000N○ 3. 000N、○ 5. 000N 表面仕上材● 帯電防止床タイル○ 帯電防止床タイル○ 帯電防止床タイル ○ タイルカーペット○ タイルカーペット○ タイルカーペット							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		備考(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							・スラットの材質：アルミスラット焼付け塗装仕上げ クロススラット消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工 ・ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、[6]とする ・寸法、取付け箇所：☒ 図示、○（ ）							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		・単位法精度：● 標準仕様書20. 2. 2 (2) (4) (a)～(c)による ○ 以下による パネルの長さ（ ） パネルの平面形状（角度）（ ） フリーアクセスフロアの高さ（ ）							(20. 2. 3) 構造形式○ スタッド式(内蔵)、○ スタッド式(露出)、○ パネル式 構成基材の種類○ スタッド 表面仕上げ材○ メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付、○ 壁紙張り (パネル表面仕上げ) 遮音性(dB/500Hz)○ 0、○ 12、○ 20、○ 28、○ 36 防火性能○ 不燃、○							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		・パネル内に取付ける建具：○ あり(☒ 図示、○ )、○ なし ・ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落とし：☒ 標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質 ・表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能：標準仕様書19章による ・パネル材のホルムアルデヒド放散量：☒ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上、○（ ）							(20. 2. 3) 構造形式○ スタッド式(内蔵)、○ スタッド式(露出)、○ パネル式 構成基材の種類○ スタッド 表面仕上げ材○ メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付、○ 壁紙張り (パネル表面仕上げ) 遮音性(dB/500Hz)○ 0、○ 12、○ 20、○ 28、○ 36 防火性能○ 不燃、○							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		○ 3. 移動間仕切							(20. 2. 4) 走行方法○ 平行方向移動式、○ 二方向移動式 操作方法による種別○ 手動式、○ 電動式、○ 部分電動式 圧接装置の操作方法○ プッシュ式、○ ハンドル式、○ 総厚さ(mm) パネル表面材材質○ 鋼板、○ 仕上り○ 焼付塗装、○ 壁紙張り、○ 遮音性(dB/500Hz)○ 36未満、○ 36以上 (品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		● 4. トイレブース							(20. 2. 5) 表面材の種類●メラミン樹脂系化粧板、○ポリエステル樹脂系化粧板 脚部形状○ 幅木タイプ、○ 材質○ アルミニウム製、● ステンレス製、 ○ 表面材と同材、○ 製造所の仕様 形状● 標準、○ R (品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による ・パネル材のホルムアルデヒド放散量：● JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上○（ ）							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		○ 5. 隔て板							(10. 7. 4)							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
		● 6. 階段滑り止め							(20. 2. 6) 材料種表面材の種類形状幅木タイプ、○ 材質○ アルミニウム製、● ステンレス製、 ○ 表面材と同材、○ 製造所の仕様 形状● 標準、○ R (品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による ・パネル材のホルムアルデヒド放散量：● JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上○（ ）							(20. 2. 14) 形式操作方法種類スラットの材質スラット幅(mm)ボックス・レールの材質 ● 模型● 手動● ギヤ式● アルミニウム合金製 [6] ○ 電動○ 2本操作コード式○ アルミスラット○ 80 ○ 手動○ 1本操作コード式○ クロススラット○ 100 ○ 電動—							○ 22. くつさきマット										
21 内装工事	○ 9. フローリング張り [6]	(19. 5. 2～6) (表 19. 5. 1～5)					21 内装工事	● 12. 壁紙張り	(19. 8. 2, 3)					22 ユニット及びその他の工事	○ 7. 手すり						22 ユニット及びその他の工事	○ 19. 耐震スリット											
		・単層フローリング： ○ フローリングボード1等							・ホルムアルデヒド放散量：☒ 規制対象外、○（ ）							材料種表面仕上げ直径(mm)取付箇所備考 ○ 集成材○ クリアラッカー○ 35、○ 45、 ○ ビニル製ハンドレール○ ○ ○ (20. 2. 8) 区分焼付け、○(、 種類焼 ほうろう黒板、○(、 色色 緑、○(、 ○ ホワイトボード							方向タイプ耐火性能防水性能備考 ○ 垂直方向○ 完全(全貫通型)○ 耐火型○ 有り ○ 水平方向○ ○ 非耐火型○ 無し										
		工法☒ 釘留め工法(○ 根太張り、○ 直張り)、○ 接着工法 樹種☒ なら 厚さ、大きさ☒ 標準仕様書表19. 5. 1による、○ 仕上塗装○ 塗装品、○ 無塗装品 間伐材等の適用○ 適用する、○ 適用しない							施工箇所壁紙の種類防火性能備考 事務室、会議室○ 紙、○ 繊維、● プラスチック、○ 不燃、● 準不燃 ○ 無機質、○ その他○ 難燃、○ 準不燃 ○ 紙、○ 繊維、○ プラスチック、○ 不燃、○ 準不燃 ○ 無機質、○ その他○ 難燃							(20. 2. 8) 区分焼付け、○(、 種類焼 ほうろう黒板、○(、 色色 緑、○(、 ○ ホワイトボード							○ 20. 止水板										
		○ フローリングブロック1等 工法☒ 接着工法 樹種☒ なら 厚さ、大きさ☒ 標準仕様書表19. 5. 1による、○ 仕上塗装○ 塗装品、○ 無塗装品 間伐材等の適用○ 適用する、○ 適用しない							・モルタル、プラスター面の素地ごしらえ：☒ B種、○ A種 ・コンクリート面の素地ごしらえ：☒ B種、○ A種 ・せっこうボード面の素地ごしらえ：● B種、○ A種							(20. 2. 9) 取付箇所 寸法(mm)○ 図示、○ 厚さ(mm)☒ 5、○							○ 21. エキスパンションジョイント金物										
		・フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量：☒ 規制対象外、○（ ）							○ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) ○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ○ フェノールフォーム断熱材							・衝突防止表示：形状、寸法○ 30φ、○（ ） 材質○ ステンレス製、○（ ） ・案内用図記号：JIS Z 8210による ・非常用出入口：○ 適用する、○ 適用しない ・誘導標識、非常用出入口等の表示：● 消防法に適合する市販品、○（ ） ・色、書体、印刷等の種別、取付け形式等：図示による ・その他の表示：図示による							○ 22. くつさきマット										
		・接着工法の場合の表面断熱材：☒ 合成樹脂発泡シート、○（ ）							断熱材現場発泡工法：断熱材の種類○ A種1、○ A種1H 厚さ(mm)○ 25、○ 30、○（ ） 施工箇所○ 図示、○（ ） ・現場発泡断熱材(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							(20. 2. 11) 適用安全使用温度(上限温度)：○ 400℃、○ 650℃、○（ ） 適用安全使用温度(下限温度)：○（ ） ・煙突用成形ライニング材：(品質・性能及び試験方法)建築材料等品質性能表による							○ 22. くつさきマット										



章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項
20 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 1040 1041 1042 1043 1044 1045 1046 1047 1048 1049 1050 1051 1052 1053 1054 1055 1056 1057 1058 1059 1060 1061 1062 1063 1064 1065 1066 1067 1068 1069 1070 1071 1072 1073 1074 1075 1076 1077 1078 1079 1080 1081 1082 1083 1084 1085 1086 1087 1088 1089 1090 1091 1092 1093 1094 1095 1096 1097 1098 1099 1100 1101 1102 1103 1104 1105 1106 1107 1108 1109 1110 1111 1112 1113 1114 1115 1116 1117 1118 1119 1120 1121 1122 1123 1124 1125 1126 1127 1128 1129 1130 1131 1132 1133 1134 1135 1136 1137 1138 1139 1140 1141 1142 1143 1144 1145 1146 1147 1148 1149 1150 1151 1152 1153 1154 1155 1156 1157 1158 1159 1160 1161 1162 1163 1164 1165 1166 1167 1168 1169 1170 1171 1172 1173 1174 1175 1176 1177 1178 1179 1180 1181 1182 1183 1184 1185 1186 1187 1188 1189 1190 1191 1192 1193 1194 1195 1196 1197 1198 1199 1200 1201 1202 1203 1204 1205 1206 1207 1208 1209 1210 1211 1212 1213 1214 1215 1216 1217 1218 1219 1220 1221 1222 1223 1224 1225 1226 1227 1228 1229 1230 1231 1232 1233 1234 1235 1236 1237 1238 1239 1240 1241 1242 1243 1244 1245 1246 1247 1248 1249 1250 1251 1252 1253 1254 1255 1256 1257 1258 1259 1260 1261 1262 1263 1264 1265 1266 1267 1268 1269 1270 1271 1272 1273 1274 1275 1276 1277 1278 1279 1280 1281 1282 1283 1284 1285 1286 1287 1288 1289 1290 1291 1292 1293 1294 1295 1296 1297 1298 1299 1300 1301 1302 1303 1304 1305 1306 1307 1308 1309 1310 1311 1312 1313 1314 1315 1316 1317 1318 1319 1320 1321 1322 1323 1324 1325 1326 1327 1328 1329 1330 1331 1332 1333 1334 1335 1336 1337 1338 1339 1340 1341 1342 1343 1344 1345 1346 1347 1348 1349 1350 1351 1352 1353 1354 1355 1356 1357 1358 1359 1360 1361 1362 1363 1364 1365 1366 1367 1368 1369 1370 1371 1372 1373 1374 1375 1376 1377 1378 1379 1380 1381 1382 1383 1384 1385 1386 1387 1388 1389 1390 1391 1392 1393 1394 1395 1396 1397 1398 1399 1400 1401 1402 1403 1404 1405 1406 1407 1408 1409 1410 1411 1412 1413 1414 1415 1416 1417 1418 1419 1420 1421 1422 1423 1424 1425 1426 1427 1428 1429 1430 1431 1432 1433 1434 1435 1436 1437 1438 1439 1440 1441 1442 1443 1444 1445 1446 1447 1448 1449 1450 1451 1452 1453 1454 1455 1456 1457 1458 1459 1460 1461 1462 1463 1464 1465 1466 1467 1468 1469 1470 1471 1472 1473 1474 1475 1476 1477 1478 1479 1480 1481 1482 1483 1484 1485 1486 1487 1488 1489 1490 1491 1492 1493 1494 1495 1496 1497 1498 1499 1500 1501 1502 1503 1504 1505 1506 1507 1508 1509 1510 1511 1512 1513 1514 1515 1516 1517 1518 1519 1520 1521 1522 1523 1524 1525 1526 1527 1528 1529 1530 1531 1532 1533 1534 1535 1536 1537 1538 1539 1540 1541 1542 1543 1544 1545 1546 1547 1548 1549 1550 1551 1552 1553 1554 1555 1556 1557 1558 1559 1560 1561 1562 1563 1564 1565 1566 1567 1568 1569 1570 1571 1572 1573 1574 1575 1576 1577 1578 1579 1580 1581 1582 1583 1584 1585 1586 1587 1588 1589 1590 1591 1592 1593 1594 1595 1596 1597 1598 1599 1600 1601 1602 1603 1604 1605 1606 1607 1608 1609 1610 1611 1612 1613 1614 1615 1616 1617 1618 1619 1620 1621 1622 1623 1624 1625 1626 1627 1628 1629 1630 1631 1632 1633 1634 1635 1636 1637 1638 1639 1640 1641 1642 1643 1644 1645 1646 1647 1648 1649 1650 1651 1652 1653 1654 1655 1656 1657 1658 1659 1660 1661 1662 1663 1664 1665 1666 1667 1668 1669 1670 1671 1672 1673 1674 1675 1676 1677 1678 1679 1680 1681 1682 1683 1684 1685 1686 1687 1688 1689 1690 1691 1692 1693 1694 1695 1696 1697 1698 1699 1700 1701 1702 1703 1704 1705 1706 1707 1708 1709 1710 1711 1712 1713 1714 1715 1716 1717 1718 1719 1720 1721 1722 1723 1724 1725 1726 1727 1728 1729 1730 1731 1732 1733 1734 1735 1736 1737 1738 1739 1740 1741 1742 1743 1744 1745 1746 1747 1748 1749 1750 1751 1752 1753 1754 1755 1756 1757 1758 1759 1760 1761 1762 1763 1764 1765 1766 1767 1768 1769 1770 1771 1772 1773 1774 1775 1776 1777 1778 1779 1780 1781 1782 1783 1784 1785 1786 1787 1788 1789 1790 1791 1792 1793 1794 1795 1796 1797 1798 1799 1800 1801 1802 1803 1804 1805 1806 1807 1808 1809 1810 1811 1812 1813 1814 1815 1816 1817 1818 1819 1820 1821 1822 1823 1824 1825 1826 1827 1828 1829 1830 1831 1832 1833 1834 1835 1836 1837 1838 1839 1840 1841 1842 1843 1844 1845 1846 1847 1848 1849 1850 1851 1852 1853 1854 1855 1856 1857 1858 1859 1860 1861 1862 1863 1864 1865 1866 1867 1868 1869 1870 1871 1872 1873 1874 1875 1876 1877 1878 1879 1880 1881 1882 1883 1884 1885 1886 1887 1888 1889 1890 1891 1892 1893 1894 1895 1896 1897 1898 1899 1900 1901 1902 1903 1904 1905 1906 1907 1908 1909 1910 1911 1912 1913 1914 1915 1916 1917 1918 1919 1920 1921 1922 1923 1924 1925 1926 1927 1928 1929 1930 1931 1932 1933 1934 1935 1936 1937 1938 1939 1940 1941 1942 1943 1944 1945 1946 1947 1948 1949 1950 1951 1952 1953 1954 1955 1956 1957 1958 1959 1960 1961 1962 1963 1964 1965 1966 1967 1968 1969 1970 1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2032 2033 2034 2035 2036 2037 2038 2039 2040 2041 2042 2043 2044 2045 2046 2047 2048 2049 2050 2051 2052 2053 2054 2055 2056 2057 2058 2059 2060 2061 2062 2063 2064 2065 2066 2067 2068 2069 2070 2071 2072 2073 2074 2075 2076 2077 2078 2079 2080 2081 2082 2083 2084 2085 2086 2087 2088 2089 2090 2091 2092 2093 2094 2095 2096 2097 2098 2099 2100 2101 2102 2103 2104 2105 2106 2107 2108 2109 2110 2111 2112 2113 2114 2115 2116 2117 2118 2119 2120 2121 2122 2123 2124 2125 2126 2127 2128 2129 2130 2131 2132 2133 2134 2135 2136 2137 2138 2139 2140 2141 2142 2143 2144 2145 2146 2147 2148 2149 2150 2151 2152 2153 2154 2155 2156 2157 2158 2159 2160 2161 2162 2163 2164 2165 2166 2167 2168 2169 2170 2171 2172 2173 2174 2175 2176 2177 2178 2179 2180 2181 2182 2183 2184 2185 2186 2187 2188 2189 2190 2191 2192 2193 2194 2195 2196 2197 2198 2199 2200 2201 2202 2203 2204 2205 2206 2207 2208 2209 2210 2211 2212 2213 2214 2215 2216 2217 2218																											

22

舗装工事

○ 8. 弾性舗装

・弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ：図示、○（ ）  
区分種類  
表層弾性塗装材15～20  
基層再生密粒度アスファルト混合物(13)30  
加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

○ 9. ブロック系舗装

○ コンクリート平板舗装[6]  
構成および厚さ図示、○（ ）  
種類寸法(mm)厚さ(mm)目地材備考  
○普通平板(N)○300角○60○砂表面加工  
○透水性平板(P)○研ぎ出し  
○保水性平板(M)○洗い出し  
○たたき出し  
クッション材○砂、○空練りモルタル  
普通平板○再生材料を用いた舗装用ブロック[6]  
透水性平板○透水性コンクリート[6]  
仕上り面の平坦人性○歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする  
○（ ）  
○インターロッキングブロック舗装[6]  
構成および厚さ図示、○（ ）  
種類部位厚さ(mm)形状寸法横断面勾配(N/m㎡)備考  
○普通ブロック(N)○車路、駐車場80○図示2%5.0以上表面加工  
○透水性ブロック(P)○駐車場  
○保水性ブロック(M)  
○普通ブロック(N)○歩行者用通路60○図示1.5～2%3.0以上表面加工  
○透水性ブロック(P)  
○保水性ブロック(M)  
歩行者用通路に使用する普通ブロック○再生材料を用いた舗装用ブロック[6]  
透水性ブロック○透水性コンクリート[6]  
舗装の割付（車路、駐車場）○ヘリンボンボンド(45°)、○ヘリンボンボンド(90°)  
仕上り面の平坦人性○走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする  
○（ ）  
区分部位厚さ(mm)種類  
敷砂層○車路、駐車場20砂  
○歩行者用通路30  
フィルター層100川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)  
不織布（ジオテキスタイル）敷設位置○図示、○敷砂層と路盤の間に敷設、○フィルター層と路床の間に敷設  
単位面積質量○60g/㎡以上、○（ ）  
厚さ(mm)○0.5～1.0、○（ ）  
引張強さ○98N/5cm(10kgf/5cm)以上、○（ ）  
透水係数○1.5×105-51cm/sec以上、○（ ）  
○ 鋪石舗装（歩行者用通路）  
構成および厚さ図示、○（ ）  
種類形状・寸法(mm)厚さ(mm)施工方法基層基盤の厚さ(mm)  
○花崗岩○割石・図示○うろこ張り○コンクリート版○70、○  
○○  
クッション材○砂、○空練りモルタル  
仕上り面の平坦人性○歩行に支障となる段差がないものとし、鋪石間の段差は3mm以内  
○（ ）  
○ 10. 砂利敷き  
・ 種類：  
○ A種（施工範囲 ○ 図示、○ 通路、○ ）  
○ B種（施工範囲 ○ 図示、○ 建物周囲他、○ ）  
● 11. 路面標示用塗料  
JIS K 5665（路面標示用塗料）による  
種類施工適用色幅(mm)塗布厚さ(mm)備考  
● 3種1号溶解粉体状●白●150●1.0  
○ 1種[6]常温液状○  
○ 2種[6]加熱○  
低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料[6]

23

植栽及び屋上緑化工事

○ 1. 植栽地の確認等

・ 土壌の水素イオン濃度 (pH) 試験：○ 行う、○ 行わない  
・ 電気伝導度 (EC) の試験：○ 行う、○ 行わない

○ 2. 植栽基盤の整備

○ 樹木の植栽基盤の整備  
植栽工法有効土層の厚さ (cm)整備範囲土壌改良材  
樹木○ A種樹高12m以上○ B種樹高100、○120、○150  
○ C種樹高7m以上～12m未満○ D種樹高80、○100  
樹高3m以上～7m未満○樹高60、○80  
樹高3m未満○樹高50、○60  
○ 芝、地被類○ B種樹高20  
○ 植栽基盤の排水設備 図示、○（ ）  
・ 植込み用土：○ 現場発生土の良質土、○ 客土  
・ 土壌改良材  
バーク堆肥[6]  
施工箇所○植栽範囲、○ 図示  
使用量植栽基盤面積1㎡あたり（○ 50L、○ ）  
汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）[6]  
施工箇所○植栽範囲、○ 図示  
使用量植栽基盤面積1㎡あたり（○ 10L、○ ）  
材料  
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植栽試験の調査の結果、害が認められないものとする

○ 3. 樹木

・ 樹種、寸法、株立数等：○ 図示、○（ ）

○ 4. 支柱

・ 支柱材：○ 丸太（間伐材）[6]、○ 真竹、○（ ）  
・ 防腐処理方法：○ 加圧防腐処理丸太材、○（ ）  
・ 形式：○ 図示、○（ ）

○ 5. 幹巻き用材料

・ 材料：○ 幹巻き用テープ、○ わら及びこも

○ 6. 芝

・ 種類：○ コウライシバ、○ ノシバ、○（ ）  
・ 芝張りの工法：○ 平地○ 目地張り、○ ペタ張り  
法面○ ペタ張り、○ 目地張り

○ 7. 吹付けは種

種子の種類発芽率種子の量(g/㎡)備考  
○ 洋芝類（採取後2年以内）○ 発芽率80%以上  
○

○ 8. 地被類

○ 9. 新植、芝等の枯損償、移植樹木の枯損処置

○ 10. 屋上緑化[6]  
・ 植栽基盤及び材料：  
○ 屋上緑化システム  
土壌層の厚さ○ 図示、○（ ）  
排水層○ 軽量骨材（層の厚さ：）、○ 板状成型品  
植込み用土○ 改良土、○ 人工軽量土  
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等○ 図示、○（ ）  
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等○ 図示、○（ ）  
（品質・性能及び試験方法）建築材料等品質性能表による  
○ 屋上緑化軽量システム  
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等○ 図示、○（ ）  
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等○ 図示、○（ ）  
（品質・性能及び試験方法）建築材料等品質性能表による  
・ 工法：  
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法  
支柱○ 設置する（形式○ 図示、○ ）  
かん水装置○ 設置する（種類○ 図示、○ ）

別記1  
建設副産物の処理

1. 共通事項  
1) 「千葉県建設リサイクル推進計画2016ガイドライン」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を建設副産物情報交換システム（COBRIS）により作成し、施工計画書に含め、各1部提出すること。  
なお、受注者は「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。  
また、計画の実施状況（実績）については、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「建設副産物情報交換システム登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を工事完成後1年間保存しておくこと。  
・ 作成対象工事  
「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は請負金額が、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」は最終請負金額が100万円以上の全ての工事について建設資材の利用、建設副産物の発生・搬出の有無にかかわらず作成する。  
2) 「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」に基づき、建設副産物の処理に先立ち「建設副産物処理承認申請書」を作成し、監督職員の確認を受け、同申請書を1部提出すること。なお、建設廃棄物の処理を委託する場合は、収集運搬又は処分について許可業者と各々建設廃棄物処理契約書を締結し、「建設廃棄物処理委託契約書」を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを同申請書に添付すること。  
建設副産物の処理完了後速やかに、「建設副産物処理調書」を作成し、1部提出するとともに、実際に要した処理費等を証明する資料（受入伝票、写真等）を監督職員に提出し確認を受けること。  
3) 建設廃棄物の処理に当たって、産業廃棄物管理票制度に基づくマニフェスト方式による場合は、原則として複写式伝票のD票及びE票の写しを提出すること。  
また、マニフェスト方式による場合は、原則として廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき指定された情報処理センターが発行する当該工事のマニフェスト情報を収録した電子媒体又は建設廃棄物の引渡し時、運搬終了時及び処分終了時に登録される情報を印刷したもの（受渡確認票等）を提出すること。  
4) 以下の項目の数量については、積算のための参考数量を示す。  
2. 建設発生土  
○ 指定(A)（工事間流用）の場合  
本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、工事間流用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。  
搬出先（相手先工事名、場所等）工事（市町地先）  
土量及び処理量第種建設発生土m3  
搬出時期年月～年月  
なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。  
○ 指定(A)（その他）の場合  
建設発生土（m3）は、（）地先に搬出するものとする。  
なお、詳細については監督職員の指示によること。  
○ 指定(B)の場合  
建設発生土（m3）は、（）地先に搬出するものとする。  
1) 上記、指定(A)及び指定(B)については、「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」による。  
2) 建設発生土を搬出又は搬入する場合は「建設発生土管理基準」に基づき「建設発生土の管理調書」を作成・保管する。  
3) 建設発生土に係る留意事項  
・ 利用先の確保  
他の工事現場での利用を促進するため、ストックヤード、土質改良プラント及び「建設発生土情報交換システム」を積極的に活用し、利用先の確保に努める。  
・ 中間処理施設の選定  
中間処理施設の選定に当たっては、利用先の品質要件にあう発生処理土を確保するため、他の残土と混ざらないよういかに再生処理できるかが大きな要素となる。このため、経済性を含めて、総合的に判断する必要がある。  
また、リサイクル原則化ルールに基づき、「建設副産物情報交換システム -COBRIS-」（JACIC）の登録処理業者を活用して、50km範囲で検索する。  
・ 品質・安全性の確保  
処理土の品質・安全性を確認するため、土質試験、土壌分析試験などを行う。  
・ 一時保管  
利用先との工程調整のため一時保管する場合には廃棄物処理法等の手続きが必要となるので注意する。  
3. 路盤廃材  
数量搬出先片道運搬距離処分方法備考  
○ 路盤廃材t都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
4. 建設廃棄物等  
数量搬出先片道運搬距離処分方法備考  
○ コンクリート塊t都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ （無筋）  
○ コンクリート塊t都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ （有筋）  
○ アスファルト塊t都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ その他がれき類m3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ 廃プラスチックm3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ 金属くずm3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ その他くず類m3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ 廃石膏ボードm3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ 混合廃棄物m3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ 建設汚泥m3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ カッター汚泥m3都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○  
都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○  
都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○  
都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○  
都市町km○ 中間処理場○ 最終処分場  
○ スクラップ控除t都市町km○ 有価物処理  
工事発注後、事情により上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。  
なお、運搬に先立ち受け入れ条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。

別記2  
工事区分

工事内容  
はり、床、壁貫通部鉄筋補強○  
埋込形（分電盤、端子盤、プルボックス）スリーブ、型枠○  
風道、埋込形消火栓ボックス、吹出口、吸込口、換気扇、大便器等鉄筋補強○  
軽量鉄骨下地天井、壁ボード類の切込みスリーブ、型枠○  
スリーブ穴埋め、型枠穴埋め○  
鉄骨、PC板等への穴開け、補強、スリーブ入れ（工場加工）○  
配電盤、制御盤、発電機、キュービクル、躯体と一体のもの○  
屋上受水槽、サービスタング配電盤、制御盤、キュービクル、上記以外○  
屋上受水槽、消火水槽鉄筋基礎○  
テレビアンテナ、避雷針、無筋基礎○  
高架水槽、クーリングタワー、消化栓補給水槽躯体と一体のもの○  
桟台、アンカーボルト上記以外○  
床、壁、天井○  
配線ビッド、トレンチビッド○  
その他○  
機器付属の制御盤（接地とも）一次側○  
二次側○  
制御盤と動力盤の間（接地とも）操作配管○  
回路配線（）○  
電源供給○  
操作配管○  
天吊り型FUI及び全熱交換形換気扇（接地とも）電源供給○  
操作配管○  
煙感器から運動制御盤を経て防火ダンパーに至る配線配管○  
防油堤○  
インサート、吊りボルト（設備機器、器具、背反、ダクト用）○  
インサート、吊りボルト（天井）○  
換気扇枠○  
外部取り付け方ラリ（ダクト、チャンパー接続用フランジを含む）○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

設計事務所名  
中日本建設コンサルタント株式会社  
一級建築士事務所  
建築士登録番号（大臣）第338574号  
建築士氏名野口一彦  
検図製図設計  
令和7年10月

南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）  
縮尺  
建築工事特記仕様書（8）  
南房総市

図面番号  
A-09

章	項目	特記	品質・性能、試験方法	章	項目	特記	品質・性能、試験方法	章	項目	特記	品質・性能、試験方法																																																				
9	1	防水工事	・乾式保護材： 窯業系パネル 無糸綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形シートクレープ養生したものを 金属合板 金属板と樹脂を積層一体化したもの ・品質・性能： <table><tr><th>分類・規格</th><th>窯業系パネルⅠ類 (耐衝撃性に優れ、また寒冷地仕様)</th><th>窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)</th><th>金属複合板</th></tr><tr><td>寸法の許容差</td><td>厚さ +10%、-5%、幅 ±1%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>外観</td><td>割れ、貫通、き裂がない。 異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>含水率</td><td>出荷時において10%以下</td><td></td><td></td></tr><tr><td>曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)</td><td>標準時 550N・cm以上</td><td>450N・cm以上</td><td>300N・cm以上</td></tr><tr><td>凍結融解完了時(試験サイクル数)</td><td>400N・cm以上 (300)</td><td>320N・cm以上 (200)</td><td>250N・cm以上 (300)</td></tr><tr><td>吸水率(%)</td><td>20以下</td><td>20以下</td><td>1以下</td></tr><tr><td>吸水による長さ変化率(%)</td><td>0.07以下</td><td>0.07以下</td><td>0.01以下</td></tr><tr><td>難燃性</td><td>不燃</td><td>不燃</td><td>表面材は不燃</td></tr><tr><td>耐凍結融解性能</td><td>300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。</td><td>300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。</td><td>300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)</td></tr><tr><td>耐衝撃性能</td><td>質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたりするとき、裏面に達する穴があかないこと。</td><td>質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたりするとき、裏面に達する穴があかないこと。 残変変形量1/100以下</td><td></td></tr><tr><td>剛性(E×I)</td><td>(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>80,000N・cm52以上</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・試験方法： 1) 寸法の測定方法 厚さ 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求め厚さ 供試体の厚さとする。 幅 供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央 1箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が 1mm の1級直尺を用いて測定する。 2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前と、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。(窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。) なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。 3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 4) 難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。 5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅400mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試薬)」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。 その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。 24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ(L2)を測る。 吸水による長さ変化率 (ΔL)は、次式によって求める。 (ΔL) = (L2 - L1) / L1 × 100 ΔL 吸水による長さ変化率(%), L1 乾燥時の標線間の長さ(mm), L2 吸水時の標線間の長さ(mm) 6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。 100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。) 凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の空气中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。 7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対 辺単純支持方法による。 試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは、鋼製のなす形おもり又は球形おもりとし、記号(W1-1000)、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。	分類・規格	窯業系パネルⅠ類 (耐衝撃性に優れ、また寒冷地仕様)	窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)	金属複合板	寸法の許容差	厚さ +10%、-5%、幅 ±1%			外観	割れ、貫通、き裂がない。 異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。			含水率	出荷時において10%以下			曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)	標準時 550N・cm以上	450N・cm以上	300N・cm以上	凍結融解完了時(試験サイクル数)	400N・cm以上 (300)	320N・cm以上 (200)	250N・cm以上 (300)	吸水率(%)	20以下	20以下	1以下	吸水による長さ変化率(%)	0.07以下	0.07以下	0.01以下	難燃性	不燃	不燃	表面材は不燃	耐凍結融解性能	300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)	耐衝撃性能	質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたりするとき、裏面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたりするとき、裏面に達する穴があかないこと。 残変変形量1/100以下		剛性(E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)	—	—	80,000N・cm52以上											
分類・規格	窯業系パネルⅠ類 (耐衝撃性に優れ、また寒冷地仕様)	窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)	金属複合板																																																												
寸法の許容差	厚さ +10%、-5%、幅 ±1%																																																														
外観	割れ、貫通、き裂がない。 異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。																																																														
含水率	出荷時において10%以下																																																														
曲げ強さ・曲げモーメント(N・cm)	標準時 550N・cm以上	450N・cm以上	300N・cm以上																																																												
凍結融解完了時(試験サイクル数)	400N・cm以上 (300)	320N・cm以上 (200)	250N・cm以上 (300)																																																												
吸水率(%)	20以下	20以下	1以下																																																												
吸水による長さ変化率(%)	0.07以下	0.07以下	0.01以下																																																												
難燃性	不燃	不燃	表面材は不燃																																																												
耐凍結融解性能	300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300 サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)																																																												
耐衝撃性能	質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたりするとき、裏面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたりするとき、裏面に達する穴があかないこと。 残変変形量1/100以下																																																													
剛性(E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)	—	—																																																												
80,000N・cm52以上																																																															
11	2	既調合モルタル	・既調合モルタル： モルタルを地下としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 ・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0 %以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80 kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強さ</td><td>標準時 0.60 N/mm<sup>2</sup>以上 温冷繰り返し後 0.40 N/mm<sup>2</sup>以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20 %以下</td></tr><tr><td>曲げ強さ</td><td>4.0 N/mm<sup>2</sup>以上</td></tr></table> ・試験方法： 1) 試料の調整 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。繰り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。 2) 保水率の試験方法 JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P 3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5 Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅうリング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を設置し、1)で調整した試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さsをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率(%) = 50/平均値×100 (注) 50 リング型わくの内径(mm) 3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)のうち推奨仕様B-1 規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに1)で調整した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施陶の「50角ユニットタイル(外のり寸法約 300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。 また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 I タイルの母材破断 TM 既調合モルタルとタイルの界面破断 M 既調合モルタルの母材破断 MG 既調合モルタルと下地板の界面破断 G 下地板の母材破断 (なお、標準時の接着強さは、抜き取った試験片5箇所とも全0.6N/mm <sup>2</sup> 以上を確保していること。) d) 適用タイルが「小口タイル、二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)のうち推奨仕様B-1 規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに1)で調整した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装用モザイクタイルで乾式成形のⅠ類(施陶)「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 5) 接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法 (試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々「4)接着強さ(標準時)の試験方法」の「試験体」と同様とする。 (温冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909に規定する「建築用仕上塗材」に規定する7.10温冷繰返し試験に準じて行う。試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ヒビ割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。 (温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。 なお、温冷繰返し後の接着強さは、抜き取った試験片5箇所とも全0.4N/mm <sup>2</sup> 以上を確保していること。 6) 長さ変化率の試験方法 JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉体樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。 7) 曲げ強さの試験方法 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。 (試験室の状態 試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。)	項目	品質・性能	保水率	70.0 %以上	単位容積質量	1.80 kg/L以上	接着強さ	標準時 0.60 N/mm <sup>2</sup> 以上 温冷繰り返し後 0.40 N/mm <sup>2</sup> 以上	長さ変化率	0.20 %以下	曲げ強さ	4.0 N/mm <sup>2</sup> 以上																																																
項目	品質・性能																																																														
保水率	70.0 %以上																																																														
単位容積質量	1.80 kg/L以上																																																														
接着強さ	標準時 0.60 N/mm <sup>2</sup> 以上 温冷繰り返し後 0.40 N/mm <sup>2</sup> 以上																																																														
長さ変化率	0.20 %以下																																																														
曲げ強さ	4.0 N/mm <sup>2</sup> 以上																																																														
15	1	防水工事	・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>防水剤の種類</td><td>建築用のモルタルに用いるセメント防水剤</td></tr><tr><td>混合割合</td><td>セメント重量の5%以下</td></tr><tr><td>凝結及び安定性</td><td>凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりが無い</td></tr><tr><td>曲げ及び圧縮強度比</td><td>防水剤を混入したもの、のしないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上</td></tr><tr><td>吸水比</td><td>防水剤を混入したもの、のしないものの吸水比 95%以下</td></tr><tr><td>透水性</td><td>防水剤を混入したもの、のしないものの透水性 80%以下</td></tr></table> ・試験方法： JIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、3.0×1055Paとし1時間行う。	項目	品質・性能	防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	混合割合	セメント重量の5%以下	凝結及び安定性	凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりが無い	曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、のしないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	吸水比	防水剤を混入したもの、のしないものの吸水比 95%以下	透水性	防水剤を混入したもの、のしないものの透水性 80%以下																																														
項目	品質・性能																																																														
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤																																																														
混合割合	セメント重量の5%以下																																																														
凝結及び安定性	凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりが無い																																																														
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、のしないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上																																																														
吸水比	防水剤を混入したもの、のしないものの吸水比 95%以下																																																														
透水性	防水剤を混入したもの、のしないものの透水性 80%以下																																																														
16	11	建築用金物	・品質： デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。 ・性能： <table><tr><th>使用頻度による性能</th><td>1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及び引っ張力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。 2) キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。 3) キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行なった後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。 4) キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする。)</td></tr><tr><th>外力に対する性能</th><td>1) デッドボルトの押込み強度試験(10KN)を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。 2) デッドボルトの側圧強度試験(10KN)を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。 3) デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(デッドボルトの突出量が8mm未満)にならないこと。 4) デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。 5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の形込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、ドロコケは厚さ1.6mm 以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。</td></tr><tr><th>使用厚の質量に対する性能(シリンダ箱錠のみ)</th><td>1) ラッチボルトの側圧強度試験(4KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。 2) レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 3) 握り玉のねじり強度試験(3KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 4) ハンドルの引張強度試験(2KN以上)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 5) ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN以上)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。</td></tr><tr><th>錠</th><td>1) かぎ(鍵) 数は、1.5万回以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ(鍵) 違い数とみなさないものとする。 2) 同一タンブラーの使用数数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。</td></tr></table> ・試験方法： JIS A 1541-1 (建築金物一般-第1部：試験方法)による。	使用頻度による性能	1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及び引っ張力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。 2) キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。 3) キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行なった後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。 4) キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする。)	外力に対する性能	1) デッドボルトの押込み強度試験(10KN)を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。 2) デッドボルトの側圧強度試験(10KN)を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。 3) デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(デッドボルトの突出量が8mm未満)にならないこと。 4) デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。 5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の形込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、ドロコケは厚さ1.6mm 以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。	使用厚の質量に対する性能(シリンダ箱錠のみ)	1) ラッチボルトの側圧強度試験(4KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。 2) レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 3) 握り玉のねじり強度試験(3KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 4) ハンドルの引張強度試験(2KN以上)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 5) ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN以上)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	錠	1) かぎ(鍵) 数は、1.5万回以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ(鍵) 違い数とみなさないものとする。 2) 同一タンブラーの使用数数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。																																																				
使用頻度による性能	1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及び引っ張力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。 2) キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。 3) キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行なった後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。 4) キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする。)																																																														
外力に対する性能	1) デッドボルトの押込み強度試験(10KN)を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。 2) デッドボルトの側圧強度試験(10KN)を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。 3) デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(デッドボルトの突出量が8mm未満)にならないこと。 4) デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。 5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の形込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、ドロコケは厚さ1.6mm 以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。																																																														
使用厚の質量に対する性能(シリンダ箱錠のみ)	1) ラッチボルトの側圧強度試験(4KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。 2) レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 3) 握り玉のねじり強度試験(3KN・cm)を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 4) ハンドルの引張強度試験(2KN以上)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。 5) ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN以上)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。																																																														
錠	1) かぎ(鍵) 数は、1.5万回以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ(鍵) 違い数とみなさないものとする。 2) 同一タンブラーの使用数数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。																																																														
16	11	建築用金物	・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>防水剤の種類</td><td>建築用のモルタルに用いるセメント防水剤</td></tr><tr><td>混合割合</td><td>セメント重量の5%以下</td></tr><tr><td>凝結及び安定性</td><td>凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりが無い</td></tr><tr><td>曲げ及び圧縮強度比</td><td>防水剤を混入したもの、のしないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上</td></tr><tr><td>吸水比</td><td>防水剤を混入したもの、のしないものの吸水比 95%以下</td></tr><tr><td>透水性</td><td>防水剤を混入したもの、のしないものの透水性 80%以下</td></tr></table> ・試験方法： JIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、3.0×1055Paとし1時間行う。	項目	品質・性能	防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	混合割合	セメント重量の5%以下	凝結及び安定性	凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりが無い	曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、のしないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	吸水比	防水剤を混入したもの、のしないものの吸水比 95%以下	透水性	防水剤を混入したもの、のしないものの透水性 80%以下																																														
項目	品質・性能																																																														
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤																																																														
混合割合	セメント重量の5%以下																																																														
凝結及び安定性	凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 安定性 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりが無い																																																														
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、のしないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上																																																														
吸水比	防水剤を混入したもの、のしないものの吸水比 95%以下																																																														
透水性	防水剤を混入したもの、のしないものの透水性 80%以下																																																														
17	11	クロウザ類	・性能試験項目 <table><tr><th>区分</th><th>ドアクローザ</th><th>ヒンジクローザ</th><th>フロアヒンジ</th></tr><tr><td>閉じ力及び閉じ力による区分(注1)(注2)</td><td>番手 閉じモーメント(N・m) 1 5以上 2 10以上 3 15以上 4 25以上 5 35以上 6 45以上</td><td>効率(%) 閉じモーメント(N・m) 10以上 15以上 25以上 35以上 45以上</td><td>閉じモーメント(N・m) 効率(%) 5以上 10以上 15以上 25以上 35以上 45以上</td></tr><tr><td>閉じ速度(秒)</td><td>常温(5～35℃) 無風状態において、開扉(70°)から全閉(0°)までの時間を5～8秒に調整できること。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>温度依存性(℃)</td><td>機械油の流動点とは、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品品量り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ストッパ</td><td>ストッパ入力 ストッパ解除力</td><td>60 N・m以下 但しコンシールド型は200 N・m以下 100 N・m以下</td><td>100 N・m以下 10 N・m以上</td></tr><tr><td>バックチェック性能(秒)(バックチェック機能を有する機種のみ適用)</td><td>ドア開扉方向に荷重60 N/mを開扉50° から負荷する。 バックチェック開始角度(70°～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>ディレードアクション性能(秒)(ディレードアクション解除角度(60°～75°) (ディレードアクション機能を有する機種のみ適用)</td><td>開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10 秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>戸の開閉位置(中心吊り込み面自由のみに適用)</td><td>-</td><td>-</td><td>±3mm以内</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の効力(%)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の閉じ速度(秒)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>繰返し開閉後のバックチェック性能(秒)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の戸閉位置(mm)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>耐久試験回数(繰返し開閉回数)</td><td>Grade 2 20万回</td><td>10万回</td><td>30万回</td></tr></table> Grade1を選定する場合は、図示による。 注1 バラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。 注2 コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。	区分	ドアクローザ	ヒンジクローザ	フロアヒンジ	閉じ力及び閉じ力による区分(注1)(注2)	番手 閉じモーメント(N・m) 1 5以上 2 10以上 3 15以上 4 25以上 5 35以上 6 45以上	効率(%) 閉じモーメント(N・m) 10以上 15以上 25以上 35以上 45以上	閉じモーメント(N・m) 効率(%) 5以上 10以上 15以上 25以上 35以上 45以上	閉じ速度(秒)	常温(5～35℃) 無風状態において、開扉(70°)から全閉(0°)までの時間を5～8秒に調整できること。			温度依存性(℃)	機械油の流動点とは、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品品量り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。			ストッパ	ストッパ入力 ストッパ解除力	60 N・m以下 但しコンシールド型は200 N・m以下 100 N・m以下	100 N・m以下 10 N・m以上	バックチェック性能(秒)(バックチェック機能を有する機種のみ適用)	ドア開扉方向に荷重60 N/mを開扉50° から負荷する。 バックチェック開始角度(70°～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。	-	-	ディレードアクション性能(秒)(ディレードアクション解除角度(60°～75°) (ディレードアクション機能を有する機種のみ適用)	開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10 秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。	-	-	戸の開閉位置(中心吊り込み面自由のみに適用)	-	-	±3mm以内	繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m)	-	-	-	繰返し開閉後の効力(%)	-	-	-	繰返し開閉後の閉じ速度(秒)	-	-	-	繰返し開閉後のバックチェック性能(秒)	-	-	-	繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒)	-	-	-	繰返し開閉後の戸閉位置(mm)	-	-	-	耐久試験回数(繰返し開閉回数)	Grade 2 20万回	10万回	30万回
区分	ドアクローザ	ヒンジクローザ	フロアヒンジ																																																												
閉じ力及び閉じ力による区分(注1)(注2)	番手 閉じモーメント(N・m) 1 5以上 2 10以上 3 15以上 4 25以上 5 35以上 6 45以上	効率(%) 閉じモーメント(N・m) 10以上 15以上 25以上 35以上 45以上	閉じモーメント(N・m) 効率(%) 5以上 10以上 15以上 25以上 35以上 45以上																																																												
閉じ速度(秒)	常温(5～35℃) 無風状態において、開扉(70°)から全閉(0°)までの時間を5～8秒に調整できること。																																																														
温度依存性(℃)	機械油の流動点とは、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品品量り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。																																																														
ストッパ	ストッパ入力 ストッパ解除力	60 N・m以下 但しコンシールド型は200 N・m以下 100 N・m以下	100 N・m以下 10 N・m以上																																																												
バックチェック性能(秒)(バックチェック機能を有する機種のみ適用)	ドア開扉方向に荷重60 N/mを開扉50° から負荷する。 バックチェック開始角度(70°～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。	-	-																																																												
ディレードアクション性能(秒)(ディレードアクション解除角度(60°～75°) (ディレードアクション機能を有する機種のみ適用)	開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10 秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。	-	-																																																												
戸の開閉位置(中心吊り込み面自由のみに適用)	-	-	±3mm以内																																																												
繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m)	-	-	-																																																												
繰返し開閉後の効力(%)	-	-	-																																																												
繰返し開閉後の閉じ速度(秒)	-	-	-																																																												
繰返し開閉後のバックチェック性能(秒)	-	-	-																																																												
繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒)	-	-	-																																																												
繰返し開閉後の戸閉位置(mm)	-	-	-																																																												
耐久試験回数(繰返し開閉回数)	Grade 2 20万回	10万回	30万回																																																												
14	自閉式上吊り戸引装置	・試験方法： (1) 耐久性(開閉繰り返し) 試験 JIS A 5545(2011)「サッシ用金物」の7.1(戸車の試験)開閉繰り返しに準じる。ただし、閉については、外力によらず、試験体の自閉装置及び御装置のみにより扉を開端位置から開端位置までの作動を確認できる試験を行う。 1) 同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。 2) 適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制扉装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとする。 3) その他の制扉装置については、メーカーの耐久性性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認できるものとする。 (2) 耐衝撃性試験 JIS A 1518(1996)「ドアセットの砂袋による耐衝撃性試験方法」に準じ、重量30kgの砂袋を用い落下高さ17cmで、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。 (3) 気密性能試験 JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。																																																													
19	13	断熱材	・品質・性能： <table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>断熱性</td><td>下記のいずれかによって行うこと。 1) JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の断熱性試験方法」による断熱2級表面加熱試験又は断熱3級表面加熱試験に適合していること。 2) 法定準不燃材料、断熱材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリ試験)に適合していること。</td></tr><tr><td>発熱性</td><td>準不燃材料試験の加熱時間は10分、断熱材料試験の加熱時間は5分において次の1)～3)に適合していること。 1) 総発熱量が90MJ/m<sup>2</sup>以下であること。 2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/m<sup>2</sup>を超えないこと。</td></tr></table> ・試験方法： 1) 原液試験(原液粘度試験) JIS K 7117-1「プラスチック 液状、乳濁状または分散状の樹脂 プルックフィールド回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。 2) 発泡品試験 イ) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。 ロ) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。 ハ) 試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3による。 ニ) 試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。 ホ) 圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。 ヘ) 熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。 ト) 接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。 チ) 透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。 3) 経年性試験 下記に規定する表面試験及び発熱性試験による。 イ) 表面試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。 ロ) 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、断熱材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。	項目	品質・性能	断熱性	下記のいずれかによって行うこと。 1) JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の断熱性試験方法」による断熱2級表面加熱試験又は断熱3級表面加熱試験に適合していること。 2) 法定準不燃材料、断熱材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリ試験)に適合していること。	発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、断熱材料試験の加熱時間は5分において次の1)～3)に適合していること。 1) 総発熱量が90MJ/m <sup>2</sup> 以下であること。 2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/m <sup>2</sup> を超えないこと。																																																						
項目	品質・性能																																																														
断熱性	下記のいずれかによって行うこと。 1) JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の断熱性試験方法」による断熱2級表面加熱試験又は断熱3級表面加熱試験に適合していること。 2) 法定準不燃材料、断熱材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリ試験)に適合していること。																																																														
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、断熱材料試験の加熱時間は5分において次の1)～3)に適合していること。 1) 総発熱量が90MJ/m <sup>2</sup> 以下であること。 2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/m <sup>2</sup> を超えないこと。																																																														

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所	南房総市外房地区自己搬入施設建設工事(建築工事)	図面番号
建築士登録番号(大臣)第338574号	縮尺	A-10
建築士氏名 野口 一彦	建築材料等品質性能表(1)	—
検 図	製 図	設 計
	令和7年10月	南房総市



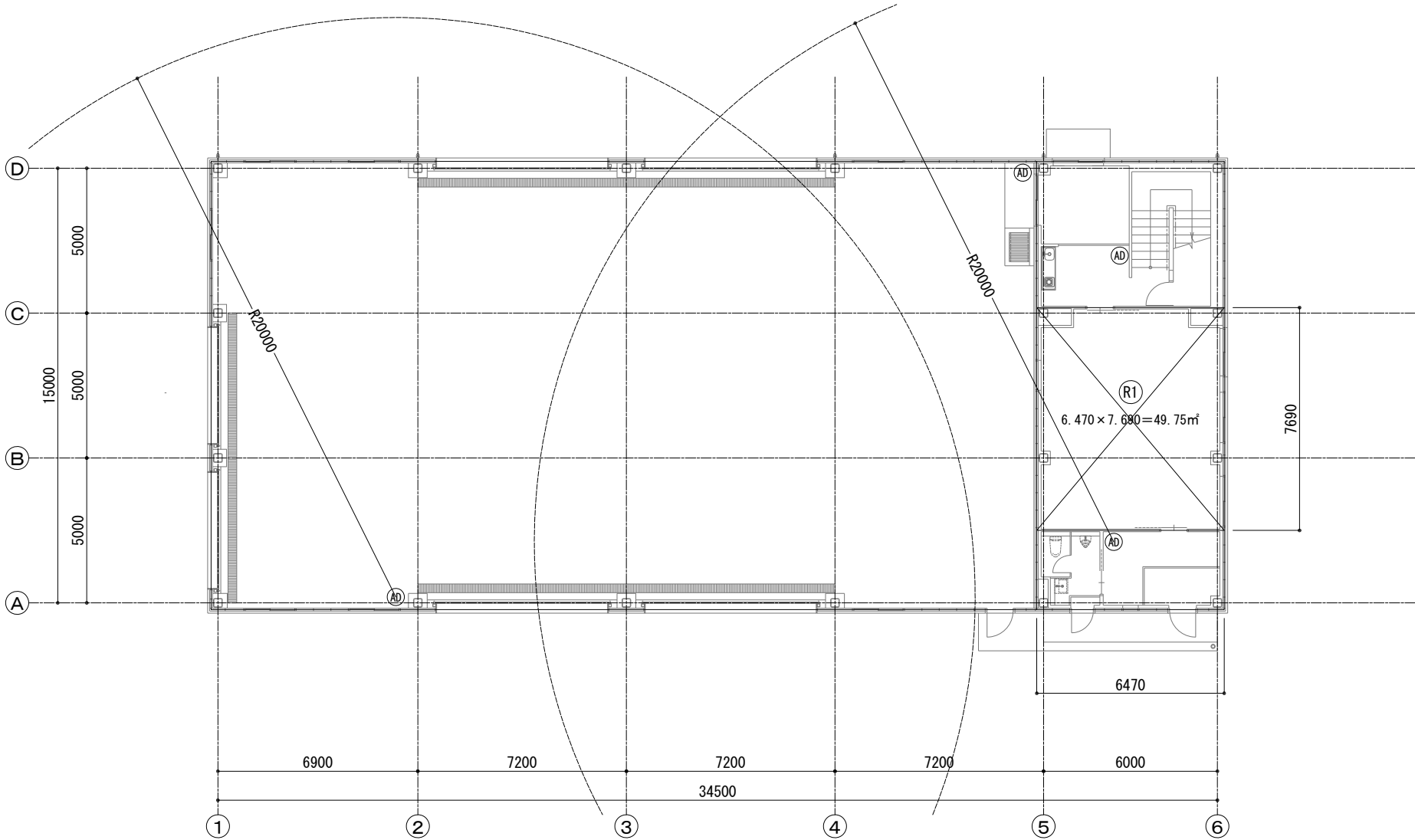
建 築 概 要				地域・地区等				その他確認事項							
建 物 名		自己搬入棟		法令・条項		項 目		該当事項		項 目		摘 要			
敷 地 面 積		5,797.12 m <sup>2</sup>		都 計 法		都市計画区域		都市計画区域外		防 火 対 象 物		Ⓐ 防火対象物 第 1 4 項 ・ 協議済			
構造・規模		鉄骨造 2階建て		建基法43条		敷地等と道路との関係		市道丸山8号線 幅員 10 m							
建 築 面 積		566.62 m <sup>2</sup>		建基法48条		用途地域		指定なし							
延べ床面積		641.07 m <sup>2</sup>		建基法52・53条		容積・建ぺい率（全施設）		容積率：制限なし 建ぺい率：制限なし							
耐火建築物		その他建築物		建基法56・56の2条		建築物の高さ □ 斜線 日影		制限なし							
軒 高 さ		8.22 m		建基法22・61・62条		防火地域等		指定なし							
最高の高さ		8.47 m		その他の法令・条例		騒音規制、各種保全地域 宅地規制、公園法、その他		指定なし							
建 築 基 準 法 （令）															
審 査 項 目			法令条項 法 令		チ ェ ッ ク				判 定						
耐火・難 燃構造等			地域・規模による構造制限		防火地域→階数（ ） 延べ面積（ m <sup>2</sup> ） 構 造（ ） [階数3以上又は延べ面積100㎡を超えるもの 耐火、左記以外準耐火又は耐火] 準防火地域→階数（ ） 延べ面積（ m <sup>2</sup> ） 構 造（ ） [階数4以上又は延べ面積 1,500㎡ を超えるもの 耐火] [階数3又は延べ面積 500㎡ を超え、1,500㎡ 以下 準耐火又は耐火]										
			屋 根 葺 材		2 2 1 0 9 の 5 1 3 5 の 2 2 の 2 Ⓐ 区域外		OK								
居室の採光・換気等			居室の採光及び換気		2 8		[法規チェック図（1）の計算書による]				OK				
			換気設備の技術的基準		2 0 の 2 ～ 4		・ 有 → 室名（ ） ・ 火を使用する居室の有無 換気方法（ ） Ⓐ 無				OK				
			換気設備（自然給気）		129の 2 の 2		給気口高さ（ m ）／天井高さ（ ） ≤ 1/2 排気口位置天井面から（ cm ） ≤ 80 cm								
			窓その他開口部を有しない居室		3 5 1 1 6 の 2		無 窓 居 室 ・ 有 室 名（ ） Ⓐ 無				OK				
			無窓居室の主要構造部		3 5 の 3		構 造 （ ） [耐火構造又は不燃材料]								
階・廊下			2 以上の直通階段		3 5 1 2 1 1 ～ 3		居室の床面積 避難直上階（ 55.22 m <sup>2</sup> ）／ 400 m <sup>2</sup> ①・2ヶ所 その他の階（ m <sup>2</sup> ）／ 200 m <sup>2</sup> 1・2ヶ所				OK				
			避難階段の設置及構造		1 2 2 1 2 3		地上（1）階、地下（0）階 ・ 避難階段 [5階以上、地下2階以下] ・ 特別避難階段 [15階以上、地下3階以下] Ⓐ 該当せず				OK				
			直通階段・歩行距離		1 2 0 1 2 5		無窓居室 →歩行距離（ m ） ≤ 30 ・ 10m を加えている その他の居室→歩行距離（ 15.7 m ） ≤ 50 [廊下・階段 準不燃]				OK				
			階段・踊場の幅 け上げ・ふみ面寸法		3 6 2 3		直上階居室計（ 55.22 m <sup>2</sup> ） >200㎡ →（ m ） ≥ 1.2m、（ ） ≤ 20/≥24 上記外 →（ 1.28 m ） ≥ 0.75m、（ 16.7/28.0 ） ≤ 22/≥21				OK				
			踊場の位置及び 直階段のふみ幅		2 4		階高（ 4.00 ） m ・ 4mまで Ⓐ 4m以上に付き踊場設ける（ 2 ）ヶ所、ふみ幅1.2m以上（ 1.28 m ）				OK				
			階段及び踊場の手すり		2 5		階段の幅・高さ（ 1.28 m、 4.00 m ） 一般手すり ・ 設置 中間手すり ・ 設置 [幅 3m、かつ高さ 1mを超える] Ⓐ 不要				OK				
			廊 下 幅		3 5 1 1 9		その階の居室の床面積の合計[A]（ 55.25 m <sup>2</sup> ）、 廊下幅（ 1.30 m ） [ A > 200㎡は、両側居室 1.6m 以上、 片側居室 1.2m 以上]				OK				
廊下広場・バルコニー等の 手摺			屋 外 階 段		2 3 1 2 1 の 2		直通階段の幅（ cm ） ≥ 90cm、その他の階段（ cm ） ≥ 60cm 直通階段の構造（ ） [木造以外]								
			路上広場・バルコニー等の 手摺		1 2 6		高さ（ m ） ≥ 1.1 m								
防 火 区 画										3 6 1 1 2		[すべて 1,500㎡ 以内]			
縦穴区画										1 1 2 -11		その他の部分と防火区画			
防火区画に接する部分の 構造等										1 1 2 -1 6 17, 19		90cm 以内の壁面等の構造（ ） [準耐火構造・告第 1369 号] 防火戸面積（ ≤ 3㎡ ） [防火設備の構造・告第 2563, 2564 号]			
防火区画を貫通する ダンパーの構造等										1 1 2 - 2 1		鋼製 温度ヒューズ連動 防火区画を貫通する配管類は、両側1mを不燃材料で作り、隙間を モルタル充填又は国土交通大臣が認定する区画貫通処理工法とする。			
防火戸その他の防火設備										1 0 9		延焼の恐れのある部分 ・ 有 その部分の補強（ ） Ⓐ 無		OK	
居室の排煙設備の設置 ※室は法規チェック図の通り										3 5 1 1 6 の 2		居室の床面積 100 m <sup>2</sup> （全ての居室） Ⓐ 超えない ・ 超える 越える場合の措置法 （ ・ 防煙壁を設置 ・ 自然排煙 ） 居室の排煙面積 1/50 Ⓐ 以上 ・ 未満も有り 未満の場合の措置法（ ） [告第 1436 号]		OK	
排 煙 設 備 の 構 造										1 2 6 の 3		排煙口までの距離（ m ） ≤ 30 m 操作位置（高さ）、壁付 1.5 m ≥（ m ） ≥ 0.8 m 天井吊上げ（ m ） ≤ FL+1.8 m 排煙口 [別表計算書による] ・ 全て自然排煙 ・ 1部 機械排煙			
非 常 照 明 の 設 置										3 5 1 2 6 の 4		階数（ 2 ） 延べ面積（ 641.07 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [階数3以上で延べ面積500㎡を超える、又は延べ1,000㎡を超える] Ⓐ 不要		OK	
非 常 用 進 入 口 の 設 置										1 2 6 の 6		階数（ 2 ） ・ 設 置（ ≥ 3 ） ・ 代用進入口の間隔（ m ≤ 10 m ） ・ 非常用進入口の間隔（ m ≤ 40 m ） Ⓐ 不 要		OK	
非 常 用 進 入 口 の 構 造										1 2 6 の 7		代用進入口の 巾 高さ 又は 大きさ （ ≥ 0.75 m、 ≥ 1.2 m、 ≥ 直径 1.0 m ）			
制限を受ける特殊建築物										3 5 の 2 の 2		・ 該当する ・ 階数3以上で、延べ面積 500㎡ を超える ・ 階数2で延べ面積 1,000㎡ 又は階数1で延べ面積 3,000㎡ を超える ・ 耐火構造以外でこころ、ボイラー等火を使用する室がある Ⓐ 該当しない		OK	
特 殊 建 築 物 の 内 容										1 2 9		上記に該当する場合 居室の壁、天井の仕上材（ ）			
廊下・階段・通路の壁・天井の仕上材（ ）															
そ の 他										3 3 1 2 9 の 1 4		最高の高さ ・ 設 置（ m ≤ 20 m ） Ⓐ 不 要		OK	
化 学 物 質 の 発 散 ※石綿・クロルビリホス 使用なし										2 8 の 2 の 2		化学物質を発散する建築材料を使用する居室 [告第1112, 1113, 1114, 1115, 273, 274] ・ 有 室 名（ ） Ⓐ 無（すべて F☆☆☆☆以上を使用する）		OK	

消 防 法 （令）					
審 査 項 目		法令条項 法 令		チ ェ ッ ク	判 定
		1 7	1 0		
消 火 設 備	消 火 器 具	1 7	1 0	延べ面積（ 641.07 m <sup>2</sup> ） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積（部分： 0 m <sup>2</sup> ） Ⓐ 設置 [延べ面積 150㎡ を超える又は地階等の部分で床面積 50㎡以上] ・ 不 要	OK
	屋 内 消 火 栓 設 備		1 1	延べ面積（ 641.07 m <sup>2</sup> ） 構造（ S 造 ） 地階・無窓階又は4階以上の階の床面積（部分： 0 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [耐火構造で延べ面積3,000㎡以上又は地階等の部分で 床面積600㎡以上] [耐火構造かつ壁・天井の仕上げ難燃材料] Ⓐ 不 要	OK
	水噴霧消火設備等		1 3 ～ 1 8	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積（部分： 0 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [発電機室等の部分で床面積 200㎡ 以上] ・ 緩和申請する Ⓐ 不 要	OK
	屋 外 消 火 栓 設 備		1 9	地上階の1階又は1+2階の床面積（ 753.96 m <sup>2</sup> ） 構 造（ S 造 ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階 3m、 2階 5m は1の建築物とみなす ・ 設置 [耐火構造で 9,000㎡ 以上] Ⓐ 不 要	OK
警 報 設 備	自動火災報知設備		2 1	延べ面積（ 641.07 m <sup>2</sup> ） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積（部分： 0 m <sup>2</sup> ） Ⓐ 設置 [延べ面積500㎡以上又は2階以上で駐車用途200㎡以上] ・ 不 要	OK
	非 常 警 報 設 備		2 4	地階階数（ 0 ） ・ 設 置 [地階階数3以上但し自火放設備無し] Ⓐ 不 要 [地階階数2以下又は自火放設備有り]	OK
避 難 設 備	誘導灯・誘導標識		2 6	[避難口・通路誘導灯] 地 階 ・ 有 Ⓐ 無 無窓階 ・ 有 Ⓐ 無 ・ 設 置 Ⓐ 不 要 [誘導標識] Ⓐ 設 置 ・ 不 要 [誘導灯の有効範囲内]	OK
	消 防 用 水		2 7	敷地面積（ 5,797.12 m <sup>2</sup> ） 床面積（ 753.96 m <sup>2</sup> ） 構造（ S 造 ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階 3 m、2階 5m かつ建築物の床面積を1,500㎡でそれぞれ除した商の和が1以上となる ものは1の建築物とみなす ・ 設置 [敷地面積が 2万㎡ 以上かつ耐火構造で床面積が 1.5万㎡ 以上] Ⓐ 不 要	OK
無 窓 階	連 結 散 水 設 備		2 8 の 2	・ 地階の床面積合計（ 0 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [地階の床面積の合計 700㎡ 以上] Ⓐ 不 要	OK
	無 窓 階	規則・ 5～2		避難上消火活動上有効な開口部 Ⓐ各階共の床面積の 1/30 以上有り ・床面積の 1/30 未満の階有り（ ）	OK
危 険 物	緩 和 適 用 条 項		3 2	・ 屋内消火栓設備 ・ 水噴霧消火栓設備 ・ 屋外消火栓設備 ・ 消防用水 ・ 連結散水設備 ・ 自動火災報知設備	
	危 険 物 の 制 限 等		1 0	軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所	
				・ 少量危険物 室 名（ ） ・ 一般取扱所（ ） ・ 貯 蔵 所（ ）	
				危険物の量（ ） 構造及び仕上（ ）	

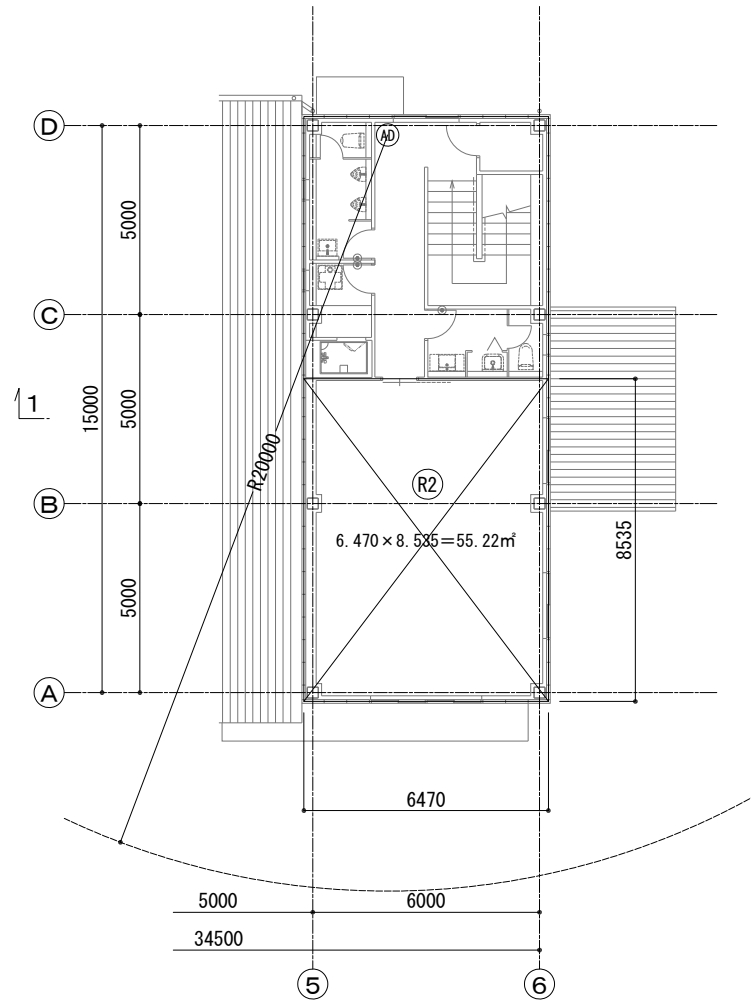
指定建築材料は法37条適合品とする。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所		南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  <b>A-12</b>
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦		自己搬入棟 法規チェックリスト ー		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	





自己搬入棟 1階法規チェック図 1/100



自己搬入棟 2階法規チェック図 1/100

排煙面積（令１２６条の２第１項）計算表（㎡）

階	室 名	天井高	床 面 積	排煙面積計算		
				必要排煙面積 (A／５０)	排煙用有効開口面積	判定
1	事務室	3,000	49.75	1.00	AW-2 0.815×0.700×2 = 1.14 計 1.14	○K
2	会議室	3,000	55.22	1.11	AW-6 0.815×0.500×2×2 = 1.63 計 1.63	○K

採光面積（令１１１条、令１１６条の２）計算表（㎡）

階	室 名	天井高	床 面 積	採光面積計算		
				必要採光面積 (A／２０)	採光用有効開口面積	判定
1	事務室	3,000	49.75	2.49	AW-2 1.700×1.200×1 = 2.040 0.815×0.700×2 = 1.141 計 3.18	○K
2	会議室	3,000	55.22	2.77	AW-5 2.900×1.400×1 = 4.060 計 4.06	○K

有窓・無窓計算表

階	建具符号	有効幅 (m)	有効高さ (m)	箇所数	1m×1m 又は 75cm×1.2m	内側からの 開放方法	有効面積 (㎡)	各階の 有効面積合計 (㎡)	各階床面積 (㎡)	必要有効面積 (床面積/30) (㎡)	判 定
1	A0D-1A	5.90	4.00	1	○	操作スイッチ	23.60	23.60	540.98	18.04	有窓階
2	AW-5	0.70	1.40	2	○	クレセント	1.96	4.34	100.09	3.34	有窓階
	AW-6	0.85	1.40	2	○	クレセント	2.38				

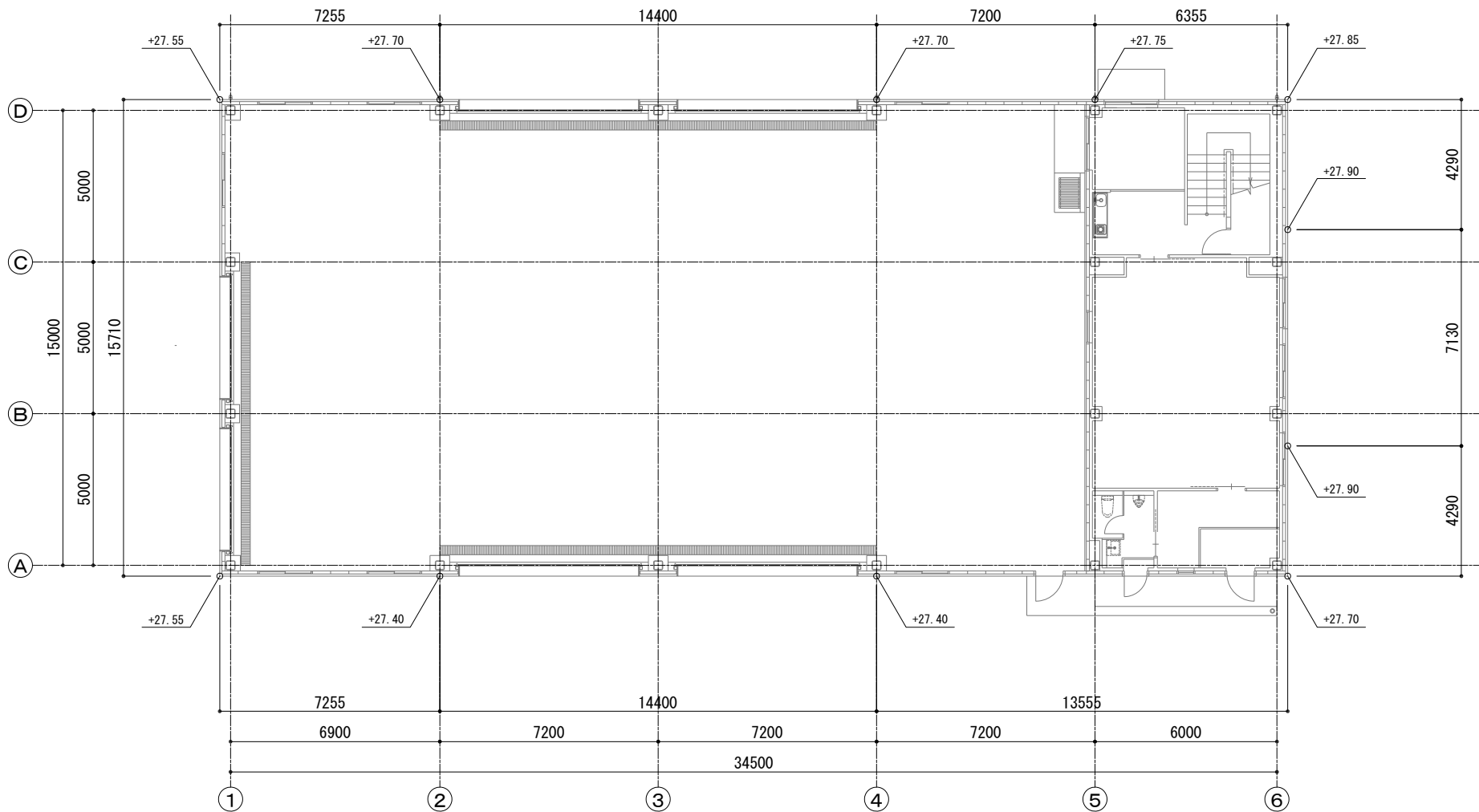
換気面積（法２８条第２項、令２０条の２、令２０条の８）計算表（㎡）

階	室 名	天井高	床 面 積	換気面積計算		
				必要換気面積 (A／２０)	換気用有効開口面積	判定
1	事務室	3,000	49.75	2.49	■法28条2項 AW-2 1.700÷2×1.200×1 = 1.020 AW-3 1.700÷2×1.200×1 = 1.020 AD-1 1.600÷2×2.000×1 = 1.600 計 3.64 ■令20条の8 機械換気 HEU-*** ***㎡/h 49.75㎡×3.00m=149.25㎡→***回/h換気	○K
2	会議室	3,000	55.22	2.77	■法28条2項 AW-5 1.415÷2×1.400×2 = 1.981 AW-6 1.700÷2×1.400×2 = 2.380 計 4.36 ■令20条の8 機械換気 HEU-*** ***㎡/h 55.22㎡×3.00m=165.66㎡→***回/h換気	○K

消火器本数

1 階	540.98 ÷ 400 = 1.36 → 2 本以上かつ20m以内に1箇所
2 階	100.09 ÷ 400 = 0.26 → 1 本以上かつ20m以内に1箇所

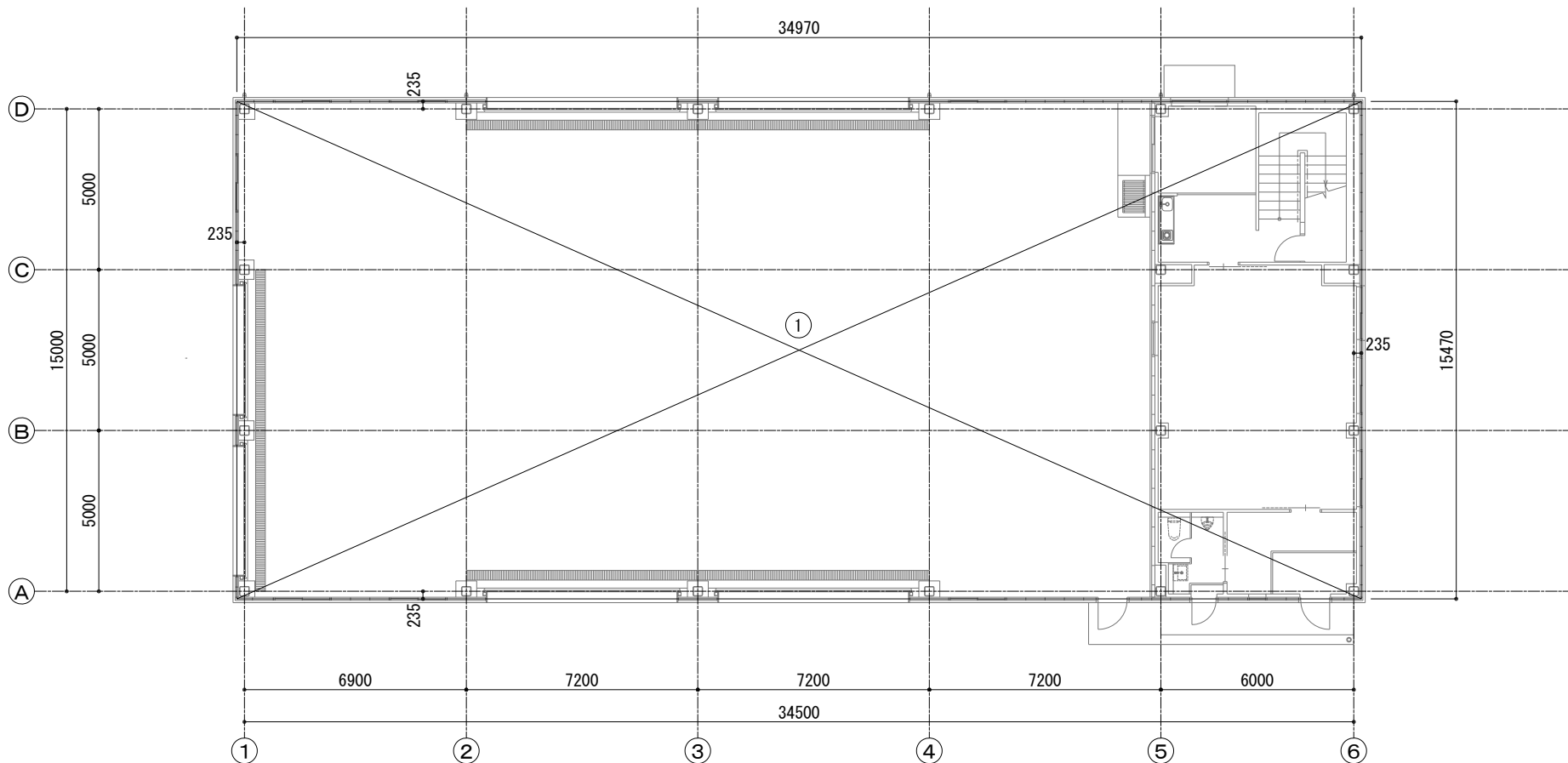
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-13
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 法規チェック図（１） 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



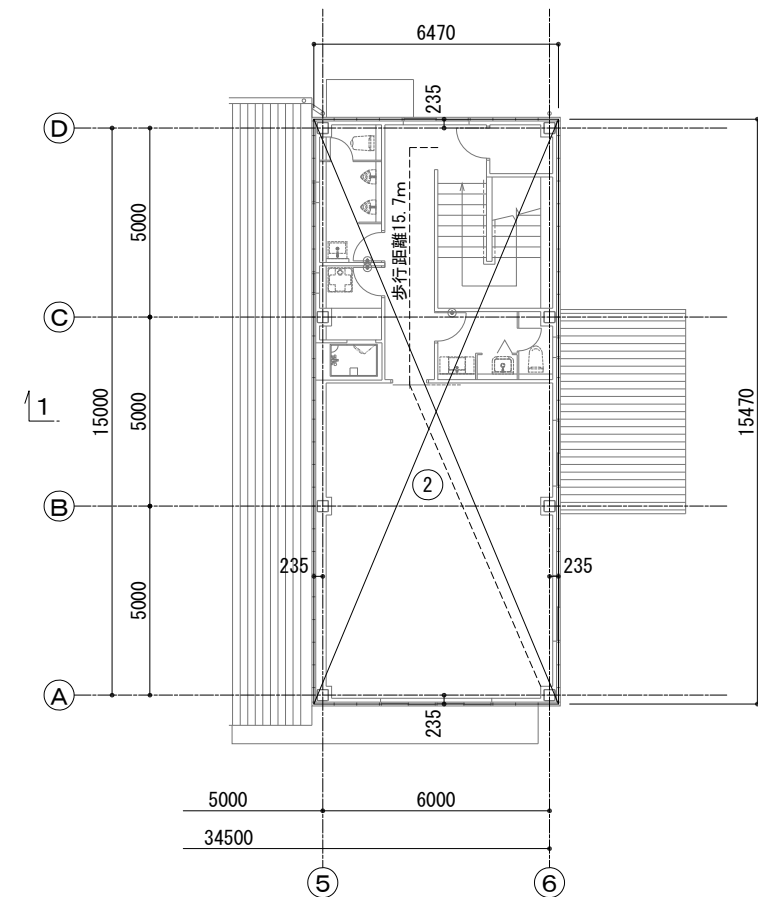
自己搬入棟 平均地盤面算定図 1/100

平均地盤面算定表					
方 位	標高①	標高②	平均標高	長 さ	平均標高×長さ
南 面	27. 550	27. 400	27. 475	7, 255	199, 331
	27. 400	27. 400	27. 400	14, 400	394, 560
	27. 400	27. 700	27. 550	13, 555	373, 440
東 面	27. 700	27. 900	27. 800	4, 290	119, 262
	27. 900	27. 900	27. 900	7, 130	198, 927
	27. 900	27. 850	27. 875	4, 290	119, 584
北 面	27. 850	27. 750	27. 800	6, 355	176, 669
	27. 750	27. 700	27. 725	7, 200	199, 620
	27. 700	27. 700	27. 700	14, 400	398, 880
	27. 700	27. 550	27. 625	7, 255	200, 419
西 面	27. 550	27. 550	27. 550	15, 710	432, 811
合 計				101, 840	2, 813, 503
平均地盤面 $\Sigma$ (平均標高×長さ) / $\Sigma$ (長さ)					27. 63

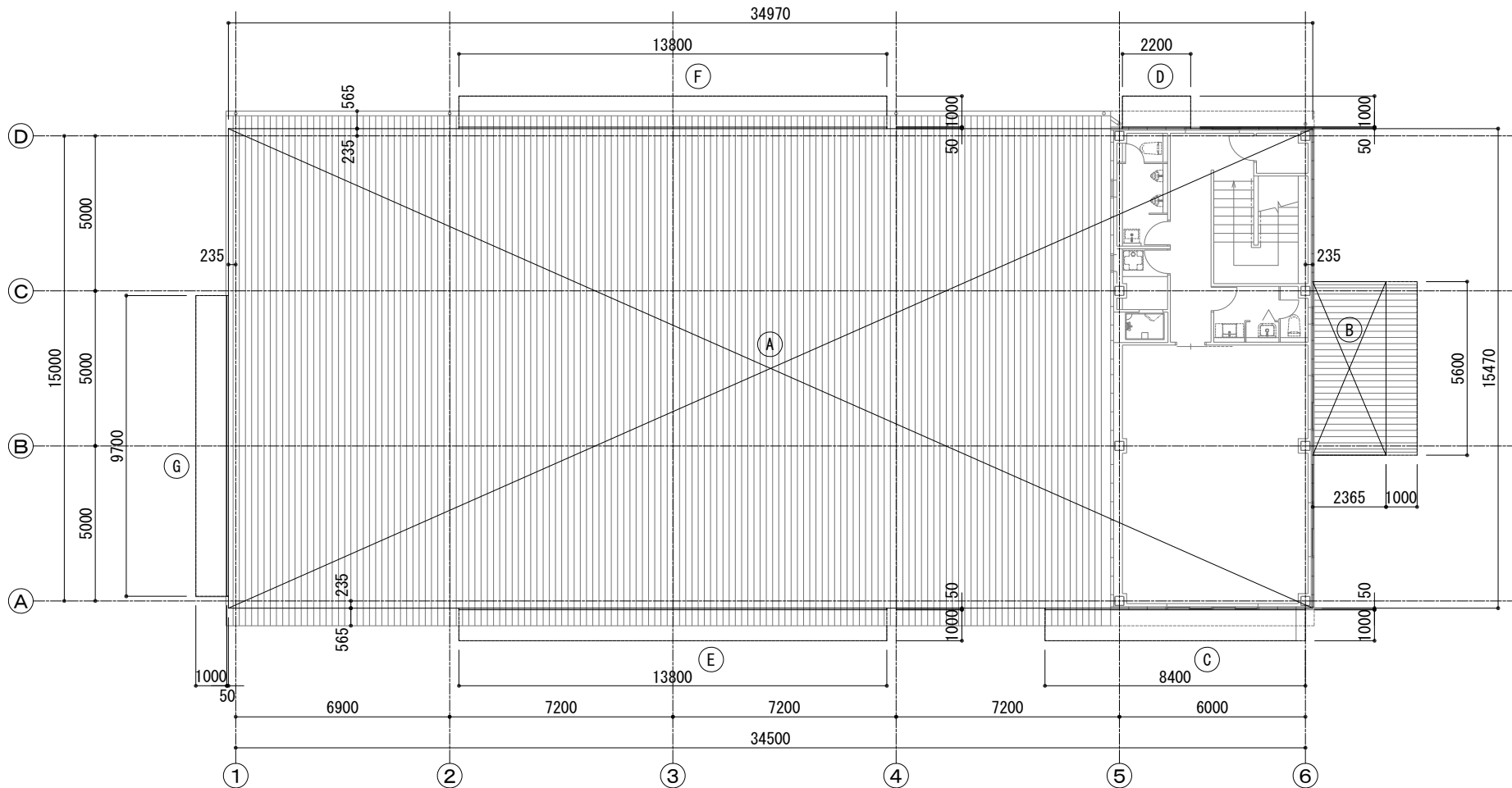
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-14
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 法規チェック図（2） 縮尺 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 1階面積算定図 1/100



自己搬入棟 2階面積算定図 1/100



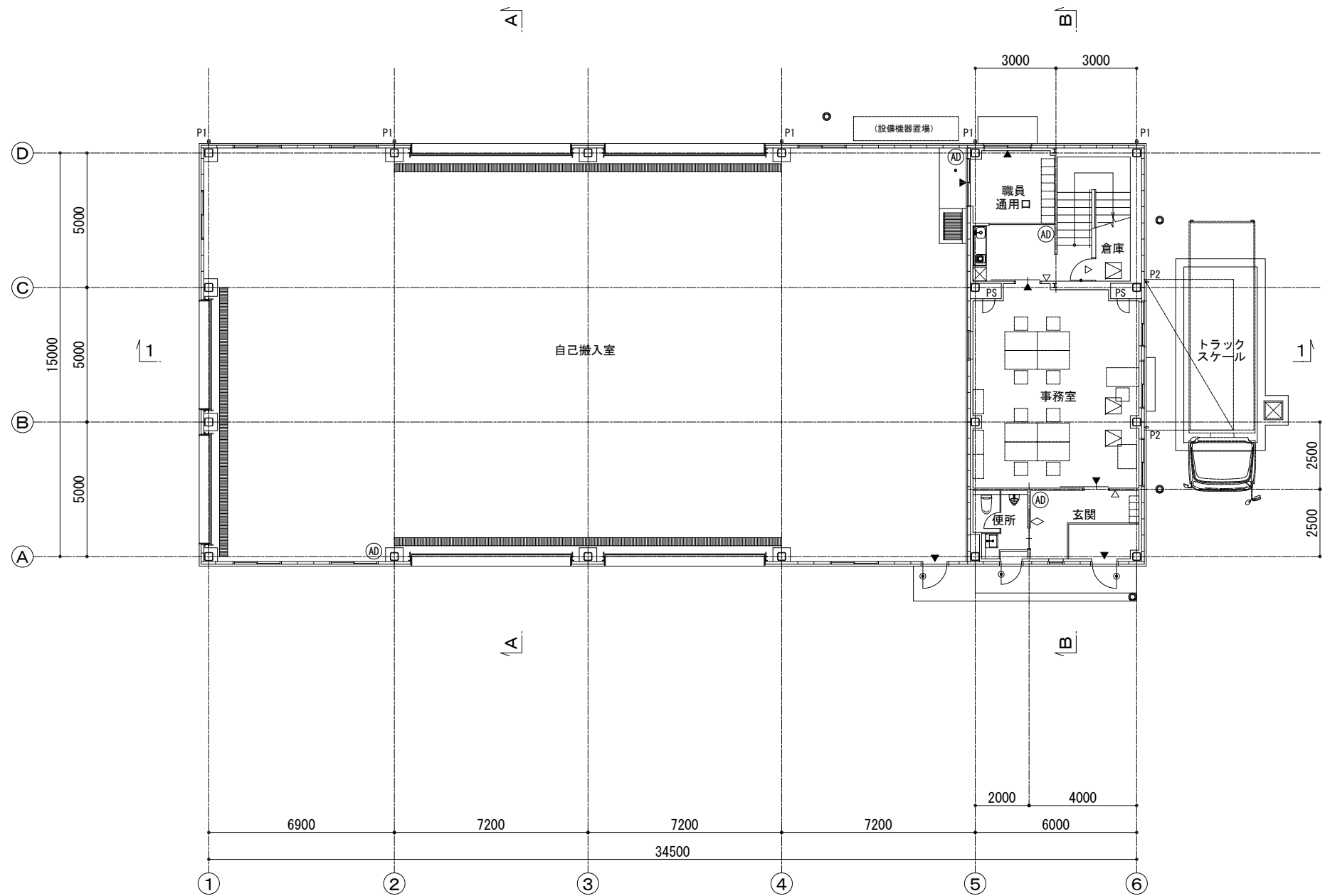
自己搬入棟 建築面積算定図 1/100

延床面積 (㎡)				
階	符 号	計 算		計
1 階	①	34. 970 X 15. 470	=	540. 986
2 階	②	6. 470 X 15. 470	=	100. 091
延 床 面 積		641. 07 ㎡		

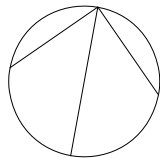
建築面積 (㎡)				
	符 号	計 算		計
	Ⓐ	34. 970 X 15. 470	=	540. 986
	Ⓑ	5. 600 X 2. 365	=	12. 771
	Ⓒ	8. 400 X 0. 050	=	0. 405
	Ⓓ	2. 200 X 0. 050	=	0. 110
	Ⓔ	13. 800 X 0. 050	=	0. 690
	Ⓕ	13. 800 X 0. 050	=	0. 690
	Ⓖ	9. 700 X 0. 050	=	0. 485
建 築 面 積		566. 62 ㎡		

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-15
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 面積算定図 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

自己搬入棟 仕上表						
共 通 事 項	略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号	
1. 外廊仕上表及び内、外廊付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。 2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例) 1ー0 2ー3 は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。 3. 特記以外の木、鉄部の塗装は S O P とする。但し、和室回りは除く。 4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ピクトグラム、階段表示板等は、平面図による。 5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 6. P F 板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 7. 内壁の見え掛りとなる P F 板打込み部分は、G B 厚 1 2 . 5 直張り（縦目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。 8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。 9. 天井仕上ボード張りのうち、G B - N C ( N T ) 及び D R （下地 G B 共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 10. 直接地業工事に接する内廊部のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚 0 . 1 5 の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。 11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。 12. 打放し仕上げの梁型は、側面を B 種、底面を C 種とする。	C C B W  L G S G B - R G B - N C ( N ) G B - N C ( N T ) G B - D ( W ) G B - S G B - F ケイカル板 D R D R ( 凹凸 ) D R ( 軒天 ) D R ( 軒天凹凸 ) P F 板 木毛板 T B 外装薄塗材 ( E ) 内装薄塗材 ( S i ) 内装薄塗材 ( E ) C ( B ) C ( C ) M 軽量吹付 合成塗床	コンクリート コンクリートブロック 木造 軽量鉄骨 せつこうボード 不燃積層せつこうボード（化粧無し：下地張り用） 不燃積層せつこうボード（化粧有り：トラバーチン模様） 木目化粧せつこうボード シーリングせつこうボード 強化せつこうボード けい酸カルシウム板（タイプ 2） ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様 凹凸模様 軒天井用：トラバーチン模様 凹凸模様 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木質系セメント板 テラゾーブロック 内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 内装けい酸質系薄付け仕上塗材 内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 コンクリート打放し（B） コンクリート打放し（C） モルタル 軽量骨材仕上塗材 合成樹脂塗床	複層塗材（GE） ポリマーセメント系複層仕上塗材 複層塗材（E） 合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（RE） 反応硬化形成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（Si） けい酸質系複層仕上塗材 CL クリヤラッカー塗り AE アクリル樹脂エナメル塗り DP 耐水性塗料塗り EP-G つや有合成樹脂エマルションペイント塗り EP 合成樹脂エマルションペイント塗り UC ウレタン樹脂ワニス塗り OS オイルステイン塗り SOP 合成樹脂調合ペイント塗り NAD アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り LE ラッカーエナメル塗り WP 木材保護塗料塗り 防水形複層塗材 E 防水形成樹脂エマルション系複層仕上塗材	・ 屋上点検口 ・ 5-21-1 ・ 屋上管類取り出し口 ・ 5-22-1 ・ 図 示 ・ ケーブル切基礎 ・ 5-22-2 ・ 5-22-3 テレビアンテナ基礎 ・ 屋上換気塔 ・ 5-21-2 ・ 図 示 ・ 煙 突 ・ 図 示 ・ タラップ ・ 8-31-1 ・ 8-31-2 ・ 8-31-3 ○ と い ○ 5-31, 32, 33 ・ ルーフドレン ・ 5-32-1 ・ 図 示 ・ 5-33-1 ・ 図 示 ・ トップライト ・ EX P . J 金物 ・ 笠木兼用避雷導体 ・ アルミ（図示） ・ ステンレス（図示） ・ ステール（図示） ・ 図 示 ・ 旗 竿 ・ くつきマット ・ 8-21-1（ｽﾃｰﾝに製） ・ 8-21-2 ・ 8-21-3	・ くつ洗流し ・ グレーチング ・ 電気用ﾊﾞｯﾃﾘｰ蓋 ・ 文字板 ・ 庁名板 ・ 郵便受 ○ 目地 ○ 2-02-8～12 ・ 図 示 ・ 8-22-1 ・ 8-22-2 ・ 図 示 ・ 図 示（土木工事） ・ 図 示 ・ 図 示 ○ 天井点検口 ○ 3-42-2 ・ 床点検口 ・ 既製品 ・ 一般便所 ・ 既製品 ・ 6-22 ・ 車椅子使用者用 ・ 6-23-1～3 簡易型便所 ・ オストメイト用便所 ・ 6-24-1～4 ・ 車椅子使用者用 ・ 6-25-1 便所 ・ 6-26-1～3 ・ 便所手すり ・ 6-22-5・6 6-28-1～5 ・ トライフ ・ 1-21-1 ・ くつきマット ・ 8-21-1 ・ 足掛金物 ・ 図 示（土木工事） ・ タラップ ・ 8-31-1 ・ 図 示 ・ 8-32-2 ・ 8-32-3 ・ U型 ○ グレーチング受枠 ○ 図 示 ・ 浴室まわり ・ 6-31-1・2	○ 流し台 ・ フード ・ コンロ台 ・ 流し上部水切り ・ つり戸棚 ・ 水切り棚 ・ 脱衣箱 ○ 天井点検口 ○ 3-42-2 ・ 床点検口 ・ 既製品 ・ 断熱材打込み ・ 車椅子使用者用 ・ 6-23-1～3 簡易型便所 ・ オストメイト用便所 ・ 6-24-1～4 ・ 車椅子使用者用 ・ 6-25-1 便所 ・ 6-26-1～3 ・ 便所手すり ・ 6-22-5・6 6-28-1～5 ・ トライフ ・ 1-21-1 ・ くつきマット ・ 8-21-1 ・ 足掛金物 ・ 図 示（土木工事） ・ タラップ ・ 8-31-1 ・ 図 示 ・ 8-32-2 ・ 8-32-3 ・ U型 ○ グレーチング受枠 ○ 図 示 ・ 浴室まわり ・ 6-31-1・2 ・ カーテンボックス ・ 鋼 製 ・ 3-31-1・2 ○ ブラインドボックス○ 図示 ・ アルミ製 ・ 3-31-3に準ずる ・ 室内掲示板 ・ 既製品 ・ 手すり ・ アルミ ・ 図 示 ○ 階段手すり ○ 図 示 ・ 7-12- ・ 2-02-13 ・ 断熱材打込み ・ 7-01-1 ・ 7-01-2 ・ 押 入 ・ 6-46-1 ・ ホイストレール ・ 図 示 ・ クレンジーター ・ 図 示 ・ 搬入口 ・ 図 示（土木工事） ・ マンホール蓋 FRP製既製品（土木工事） ○ 室名札 ○ 8-43-1（250×50） ○ ピクトグラム ○ 8-44-1（250×200） ・ 庁舎案内板、各階案内板 ・ 図 示 ・ 下足箱 ・ 図 示 ・ EX P - J 金物 既製品 ○ 誘導標識（平付け型 アクリル板 厚 5 360×120 シルクスクリーン印刷）



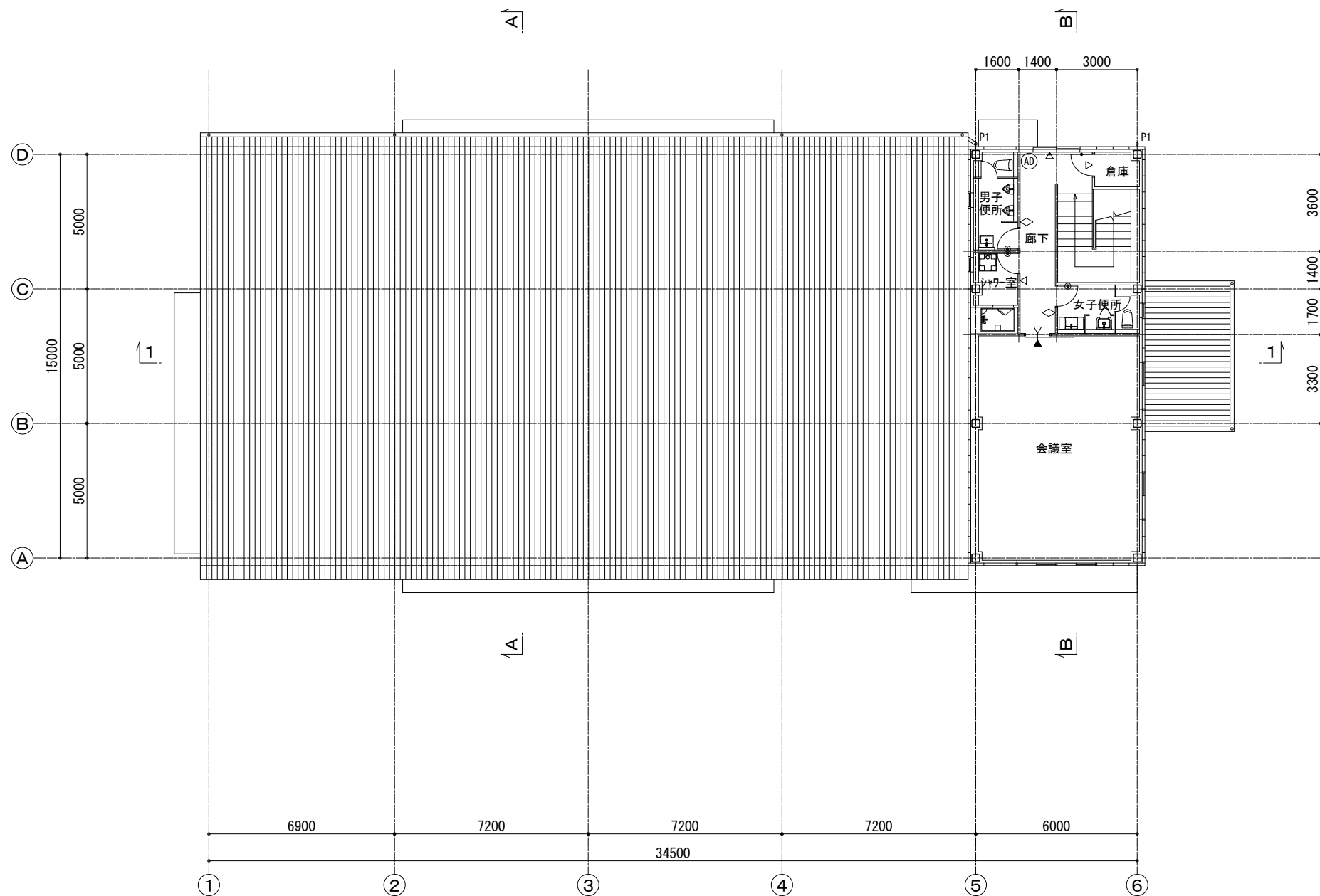
自己搬入棟 1階平面図 1/100



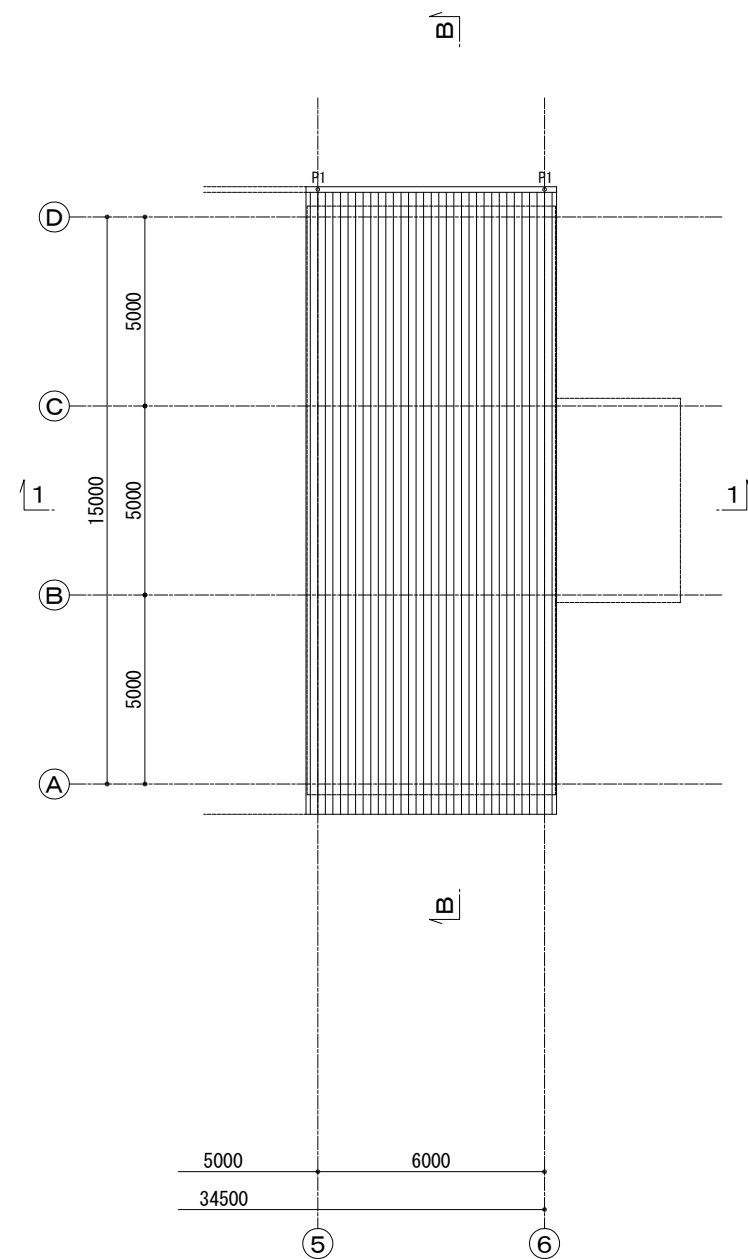
凡 例			
○-P1	たてどい カラーVP 100A		ドアクローザー付き（ストップなし）開き扉を示す
△	室名札（面付き）（8-43-1）		ドアクローザー付き開き扉を示す
◇	ピクトグラム（面付き）（8-44-1）		小型粉末消火器（第5種ABC10型）
△	通路誘導標識（面付き） 360×120		床用点検口 600角
▲	避難口誘導標識（面付き） 360×120		衝突防止用ラバーボール H=800

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  A-17
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/100	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	

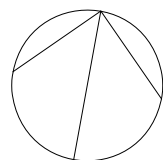




自己搬入棟 2階平面図 1/100

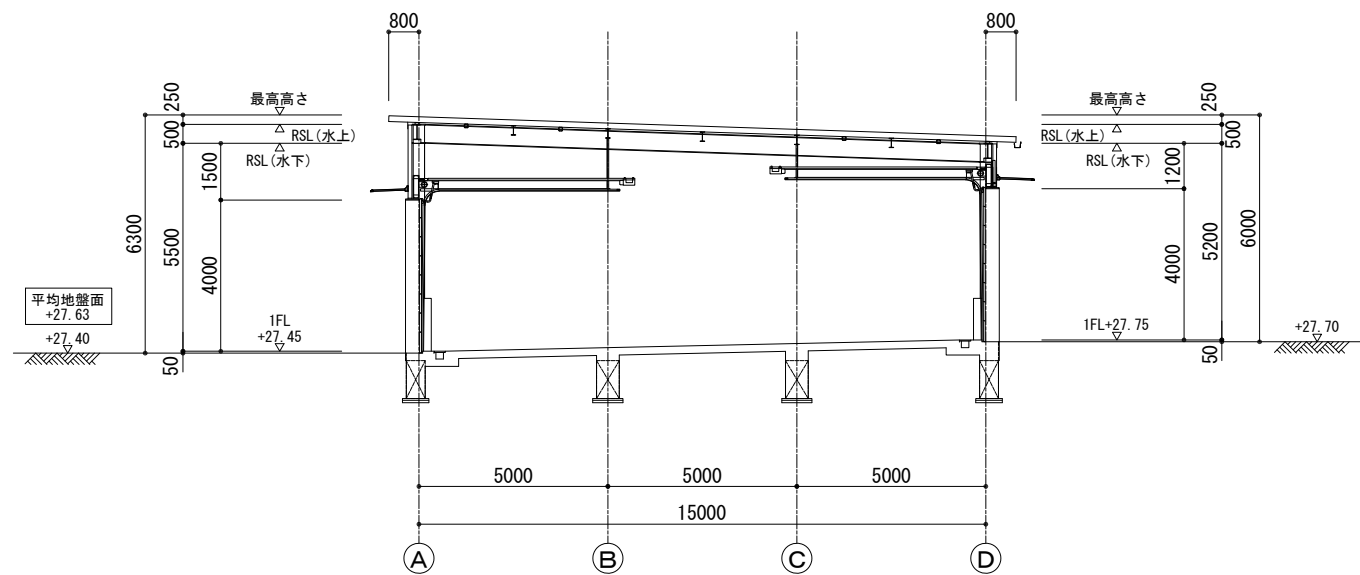


自己搬入棟 屋根伏図 1/100

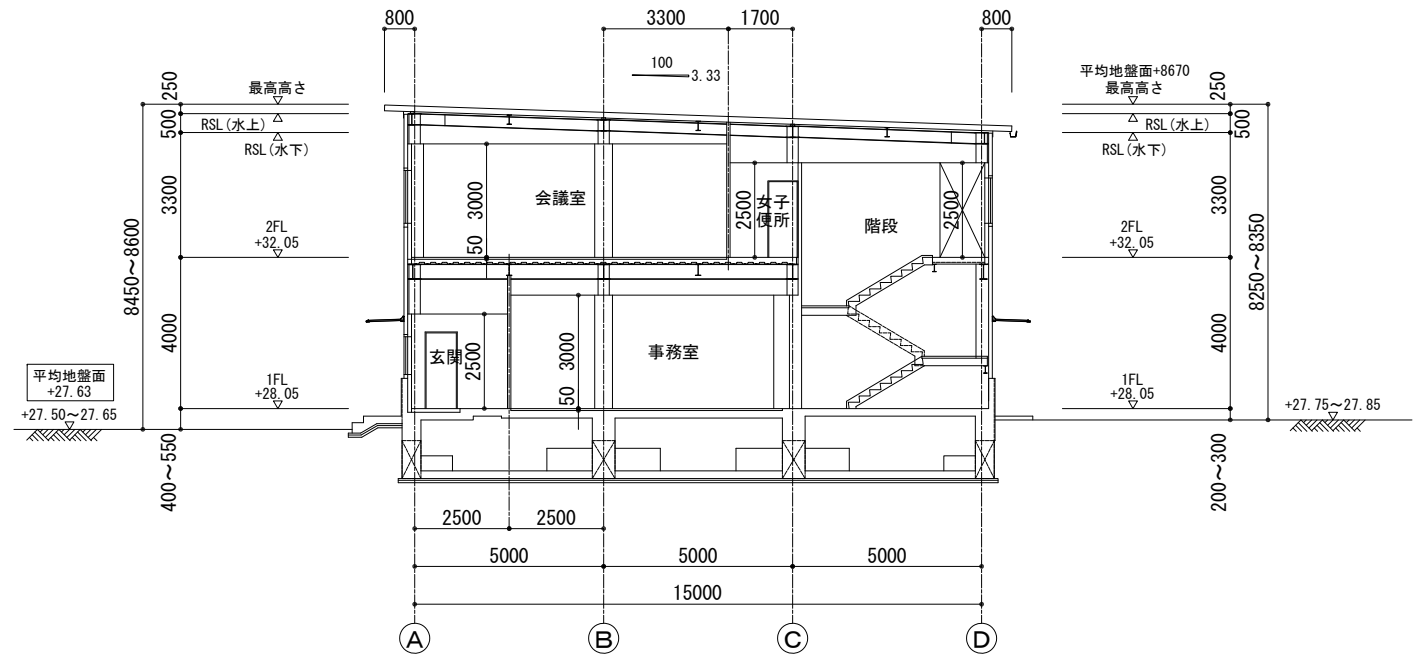


凡 例			
○-P1	たてどい カラーVP 100A		ドアクローザー付き（ストップなし）開き扉を示す
△	室名札（面付き）（8-43-1）		ドアクローザー付き開き扉を示す
◇	ピクトグラム（面付き）（8-44-1）		小型粉末消火器（第5種ABC10型）
▲	通路誘導標識（面付き） 360×120		
▲	避難口誘導標識（面付き） 360×120		

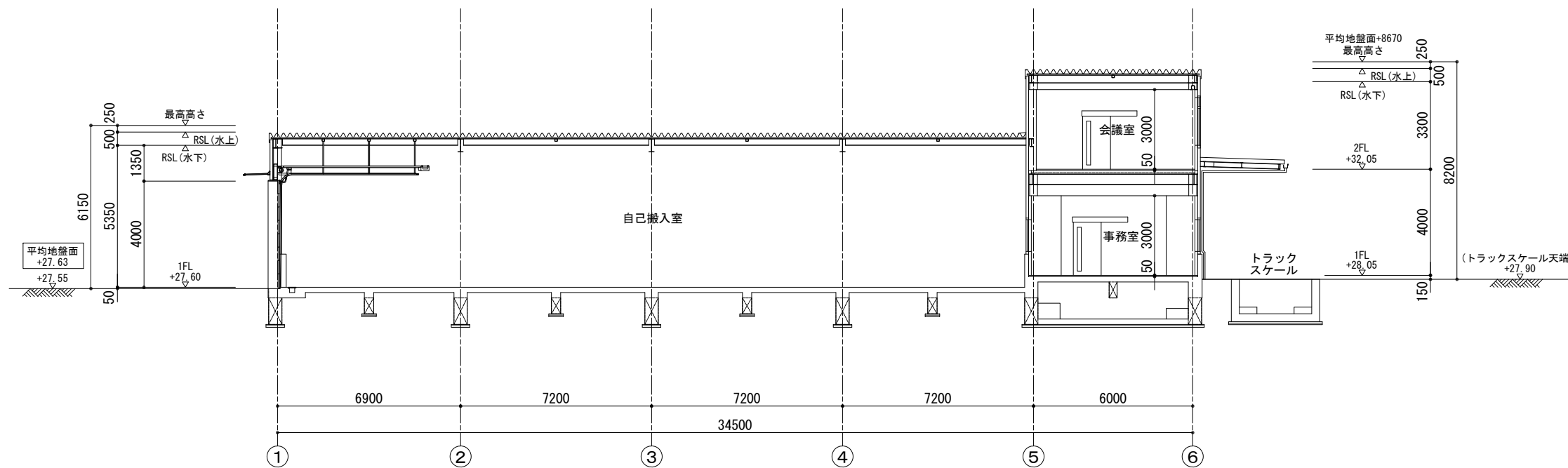
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-18
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 2階平面図、屋根伏図 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 A-A断面図 1/100

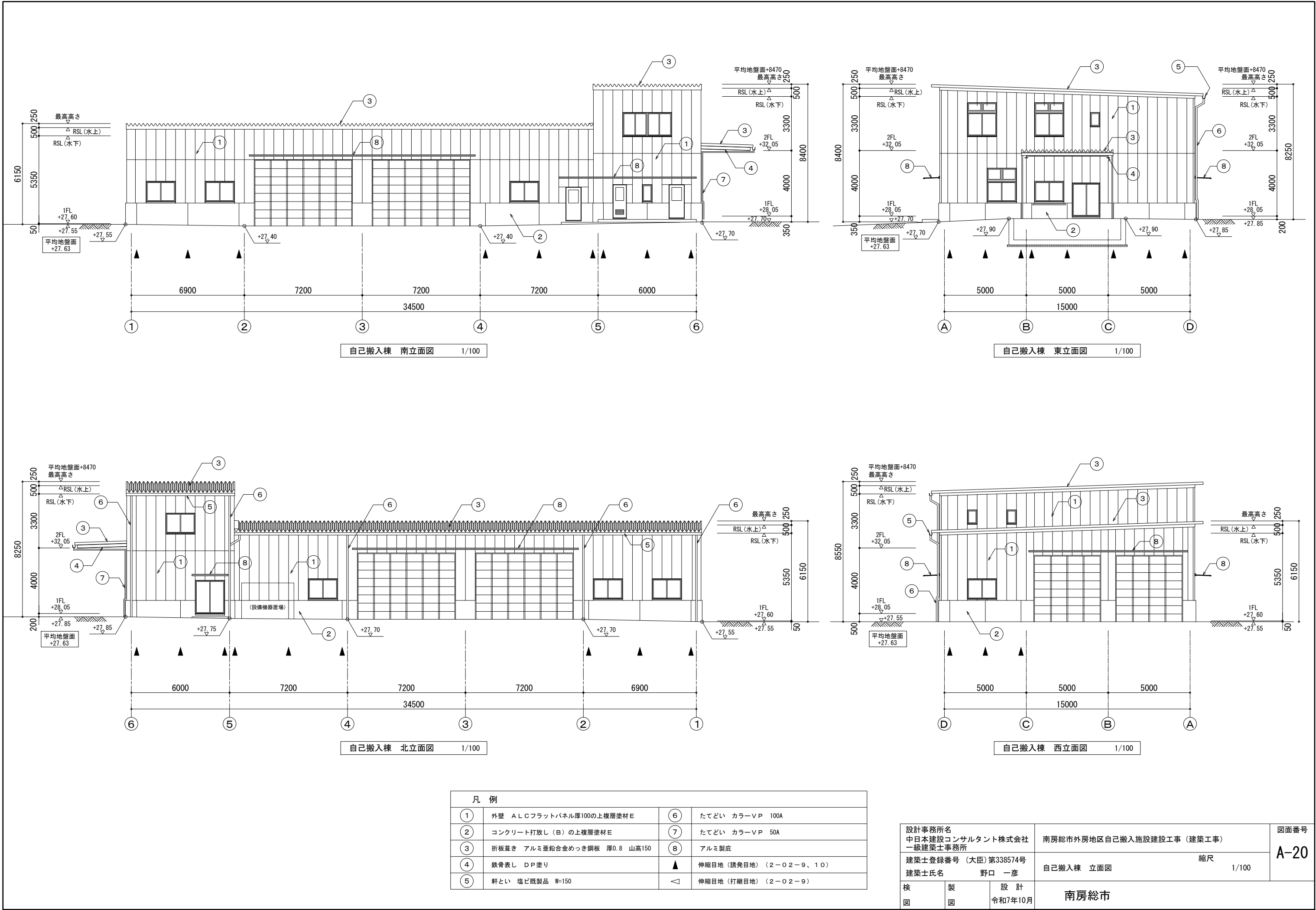


自己搬入棟 B-B断面図 1/100

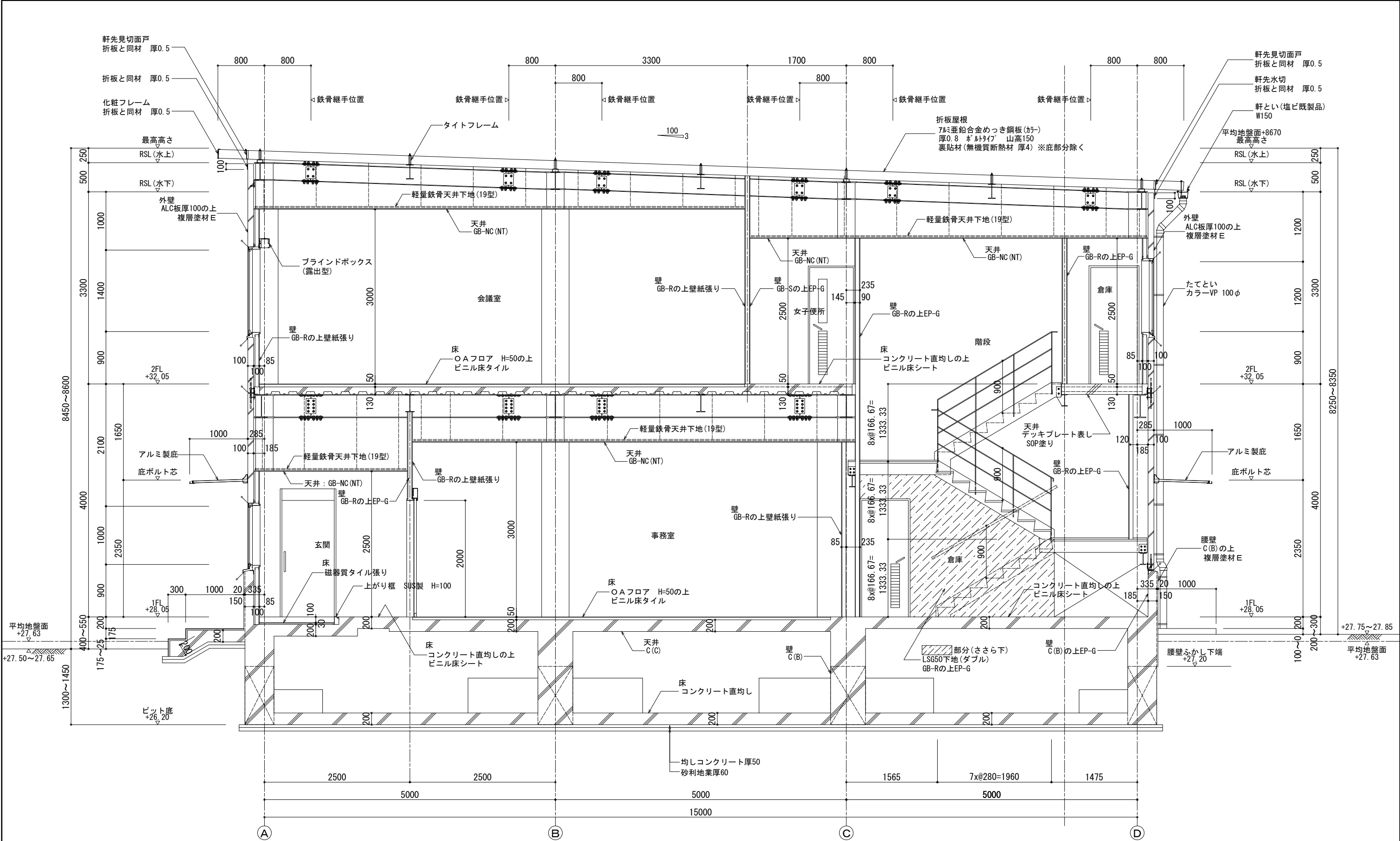


自己搬入棟 1-1断面図 1/100

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-19
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 断面図 縮尺 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		





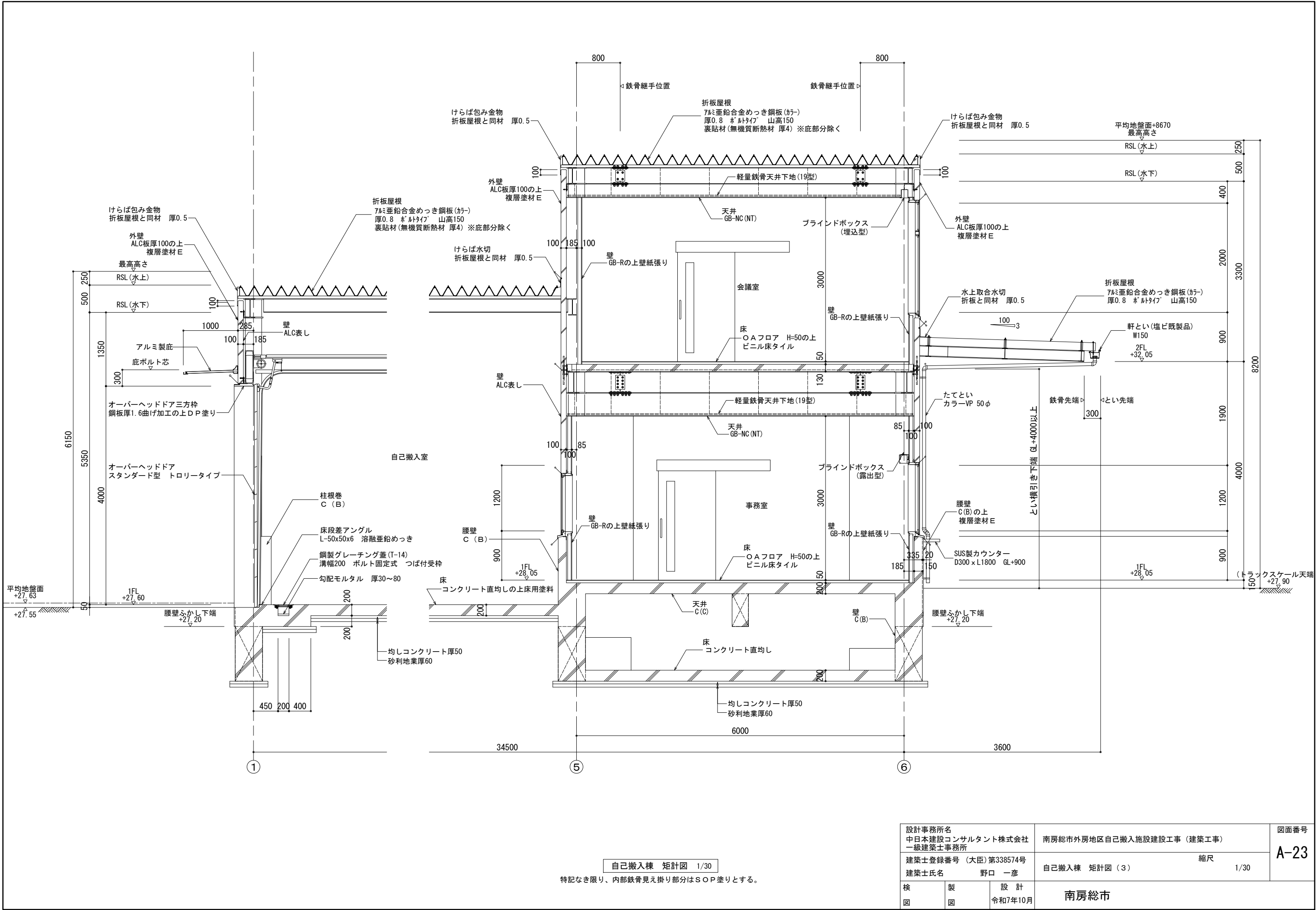


自己搬入棟 矩計図 1/30

特記なき限り、内部鉄骨見え掛り部分はSOP塗りとする。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-22
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 矩計図（2） 1/30		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

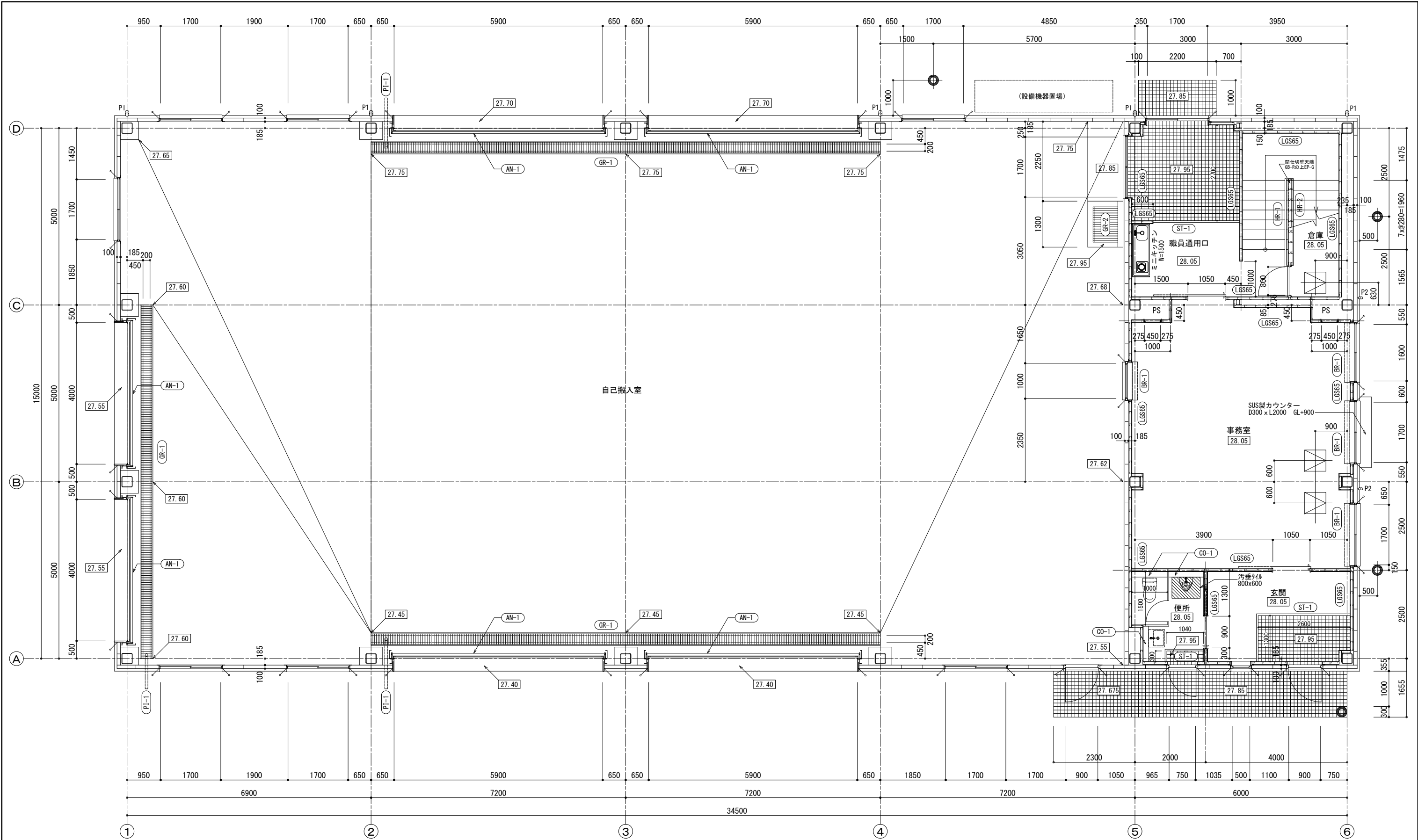




自己搬入棟 矩計図 1/30

特記なき限り、内部鉄骨見え掛り部分はSOP塗りとする。

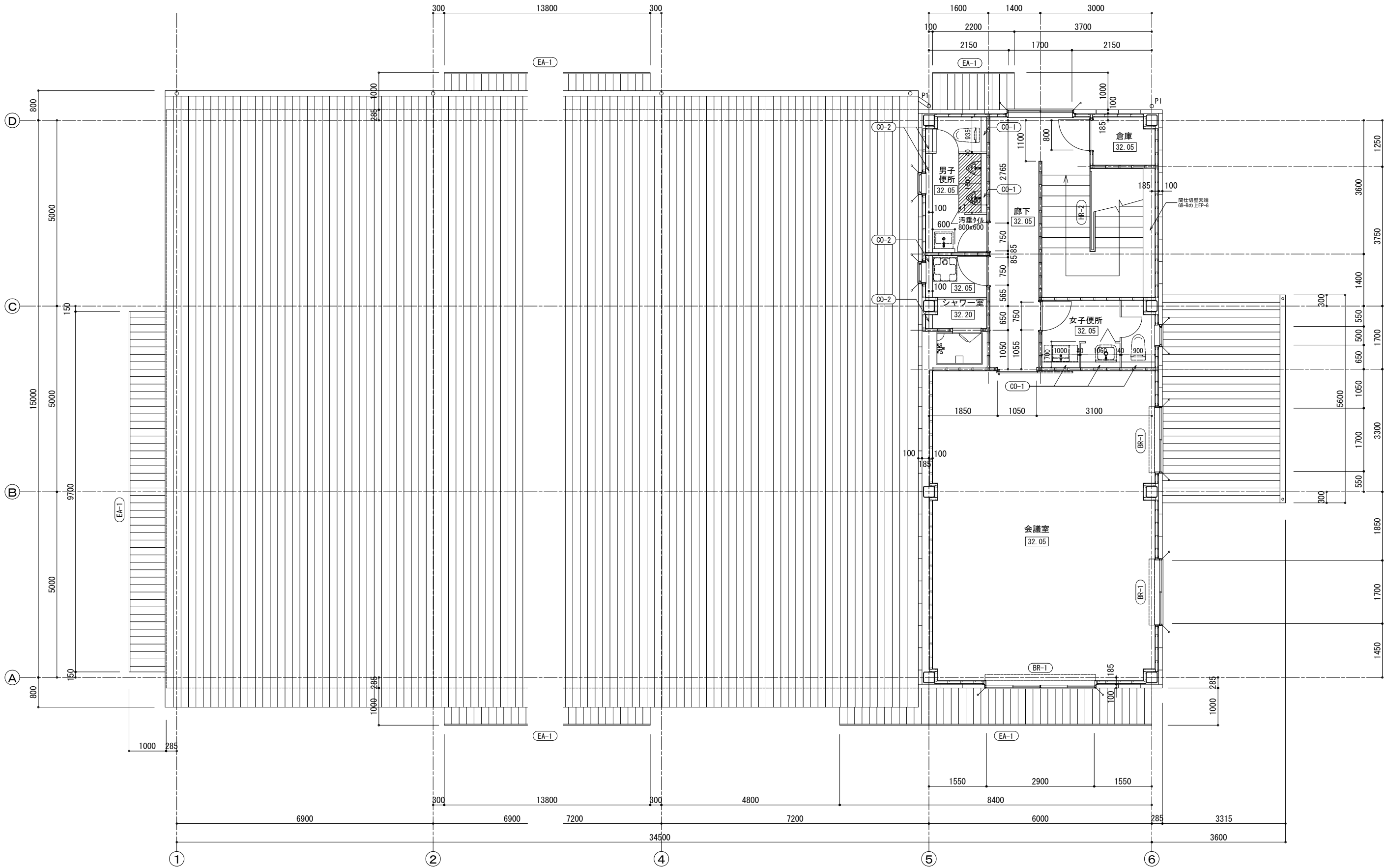
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-23
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 矩計図（3） 1/30		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 1階平面詳細図 1/50

凡 例							
符 号	名 称	符 号	名 称	符 号	名 称	符 号	名 称
LGS65	軽量鉄骨壁下地 (65型)	CO-1	ライニング面台 W=175	BR-1	ブラインドボックス (アルミ製) 120×150	○ P1	たてどい カラーVP100A
GR-1	鋼製グレーチング蓋 (T-14) 溝幅200 つば付受枠	AN-1	床段差アングル L-50×50×6 溶融亜鉛めっき		ベネシアンブラインド (横型ギア式) スラット幅25	○ P2	たてどい カラーVP50A
GR-2	グレーチング蓋 1000×700 鋼製	HR-1	壁付手すり (ビニル被覆) 40φ	PI-1	排水管 (VP75)、SUS製排水目皿	** **	床仕上げ高さ (TP+) を示す
ST-1	上がり框 SUS製 H=100	HR-2	鉄骨階段手摺	●	衝突防止用ラバーボール H=800	/	シーリングを示す

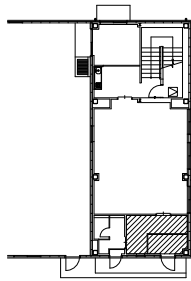
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-24
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 1階平面詳細図 1/50		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 2階平面詳細図 1/50

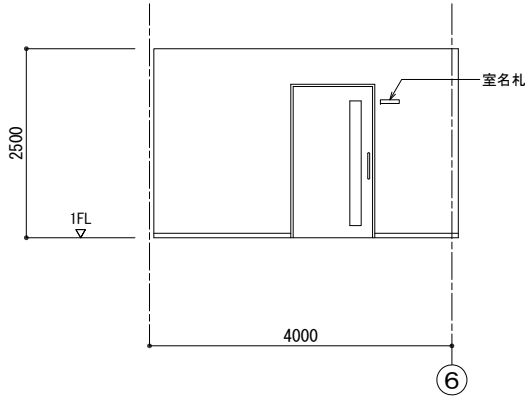
凡 例					
符 号	名 称	符 号	名 称	符 号	名 称
(LGS65)	軽量鉄骨壁下地 (65型)	○ P1	たてどい カラーVP100A	*** **	床仕上げ高さ (TP+) を示す
(CO-1)	ライニング面台 W=175	(BR-1)	ブラインドボックス (アルミ製) 120 x 150	／	シーリングを示す
(CO-2)	ライニング面台 W=210		ベネシアンブラインド (横型ギア式) スラット幅25		
(EA-1)	アルミ製庇				

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-25
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 2階平面詳細図 縮尺 1/50		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

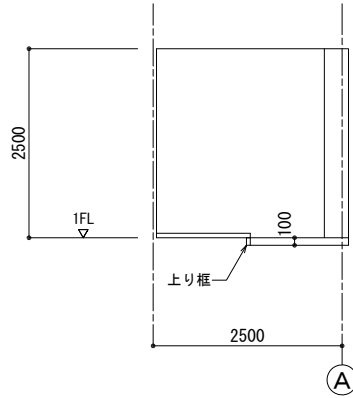


1階 キープラン

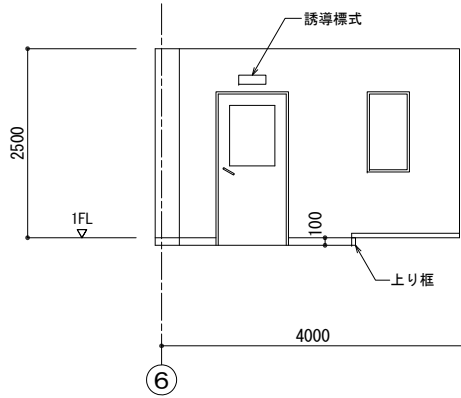
室 名	1階 玄関
床	磁器質タイル張り100角、ビニル床シート厚2.0
幅 木	磁器質タイル張り100角、ビニル幅木H=60
壁	GB-Rの上EP-G
天 井	GB-NC (NT)
備 考	消火器 SUS製上り框 室名札 ピクトグラム 廻縁 誘導標識



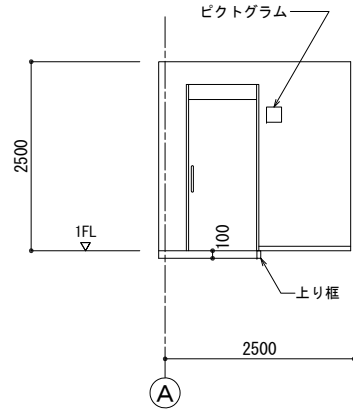
① 玄関展開図 1/50



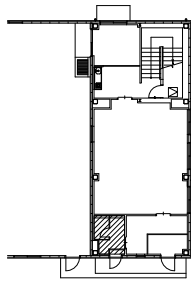
② 玄関展開図 1/50



③ 玄関展開図 1/50

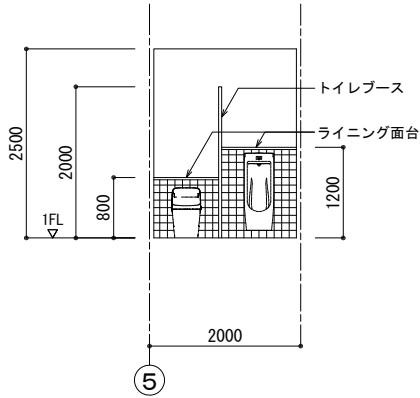


④ 玄関展開図 1/50

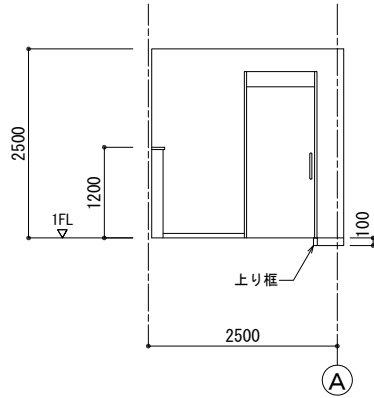


1階 キープラン

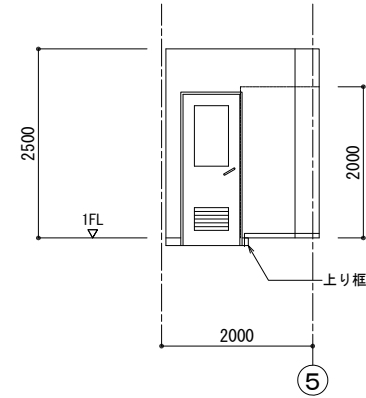
室 名	1階 便所
床	磁器質タイル張り100角、ビニル床シート厚2.0
幅 木	磁器質タイル張り100角、ビニル幅木H=60
壁	GB-Sの上EP-G GB-Sの上陶器質タイル張り100角
天 井	GB-NC (NT)
備 考	SUS製上り框 トイレブース ライニング面台 汚垂れ 廻縁 <手洗い器 化粧鏡 小便器 大便器 紙巻器>(AM)



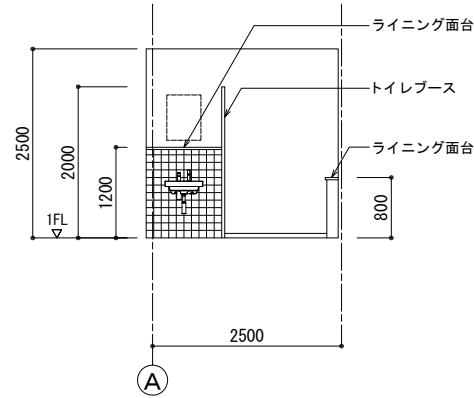
① 便所展開図 1/50



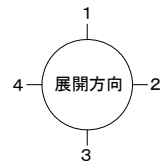
② 便所展開図 1/50



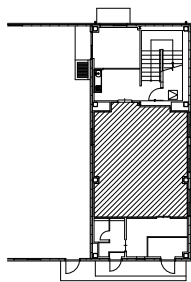
③ 便所展開図 1/50



④ 便所展開図 1/50

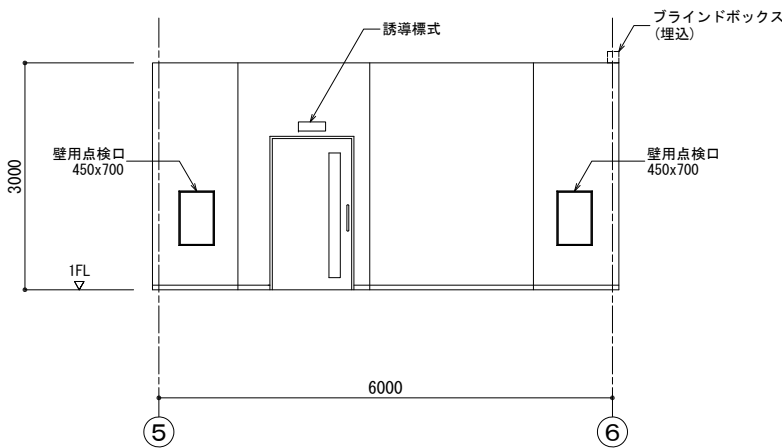


設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-26
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 展開図（1） 1/50		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

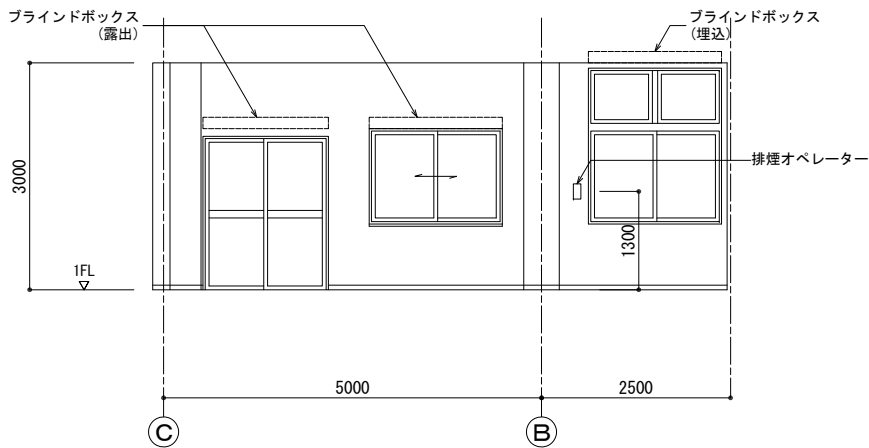


1階 キープラン

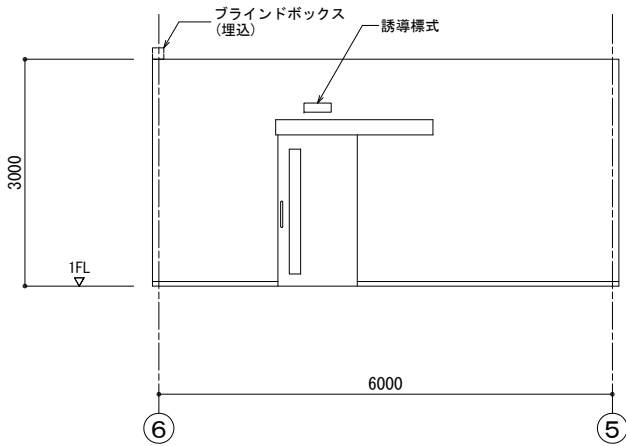
室 名	1階 事務室
床	OAフロアH=50の上ビニル床タイル厚2.5
幅 木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Rの上壁紙張り
天 井	GB-NC (NT)
備 考	ブラインドボックス プラインド 床下点検口 天井点検口 壁用点検口 廻縁 誘導標識



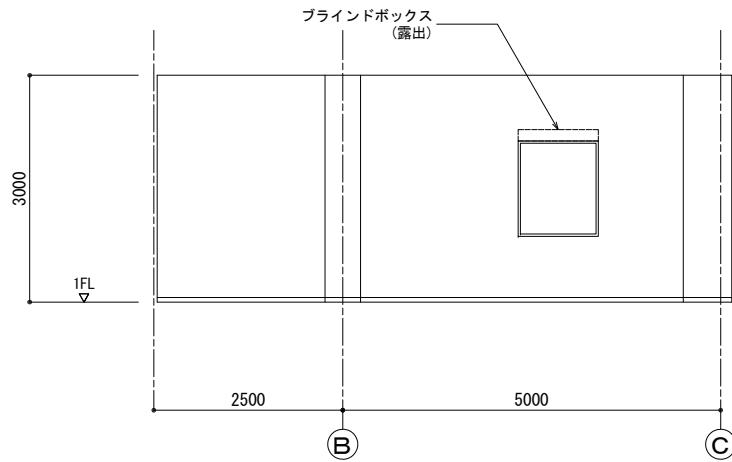
① 事務室展開図 1/50



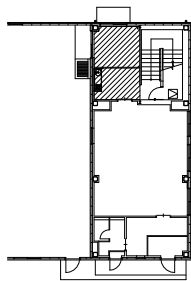
① 事務室展開図 1/50



① 事務室展開図 1/50

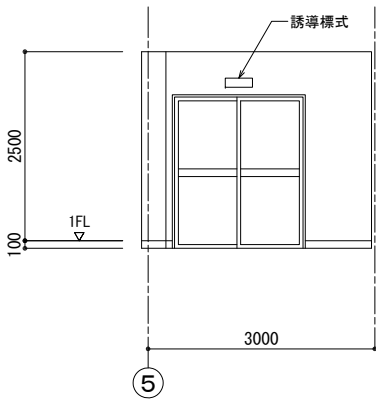


① 事務室展開図 1/50

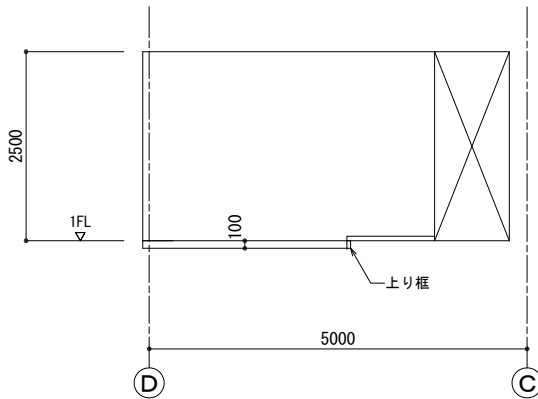


1階 キープラン

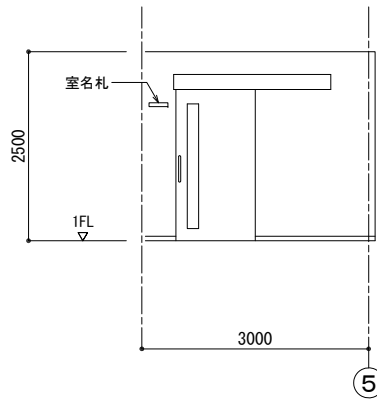
室 名	1階 職員通用口
床	磁器質タイル張り100角、ビニル床シート厚2.0
幅 木	磁器質タイル張り100角、ビニル幅木H=60
壁	GB-Rの上EP-G
天 井	GB-NC (NT)
備 考	消火器 SUS製上り框 室名札 ミニキッチン 廻縁 誘導標識



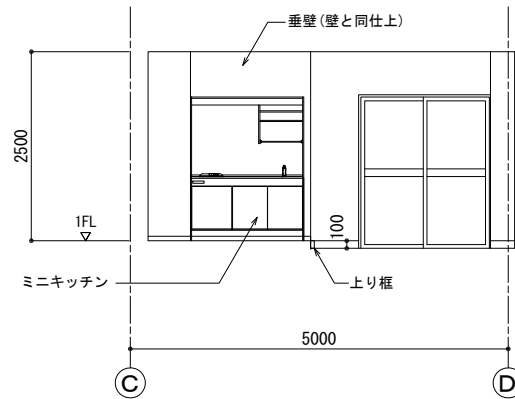
① 職員通用口展開図 1/50



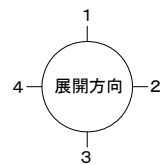
② 職員通用口展開図 1/50



③ 職員通用口展開図 1/50

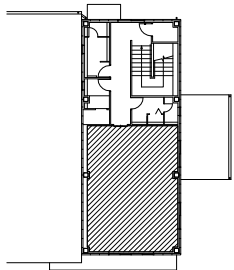


④ 職員通用口展開図 1/50



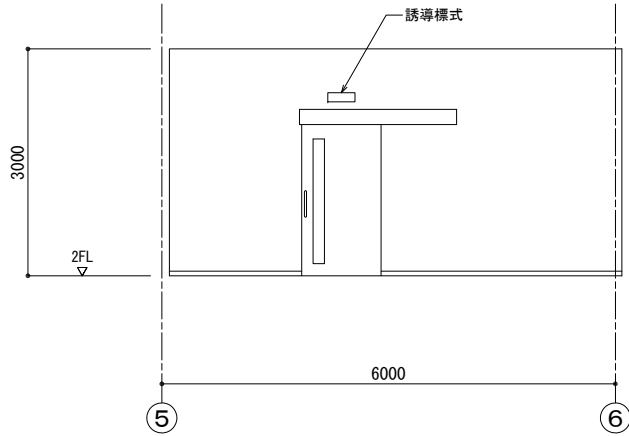
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所 建築士登録番号 (大臣)第338574号 建築士氏名 野口 一彦			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事 (建築工事)	図面番号 <b>A-27</b>
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	自己搬入棟 展開図 (2) 縮尺 1/50	
			南房総市	



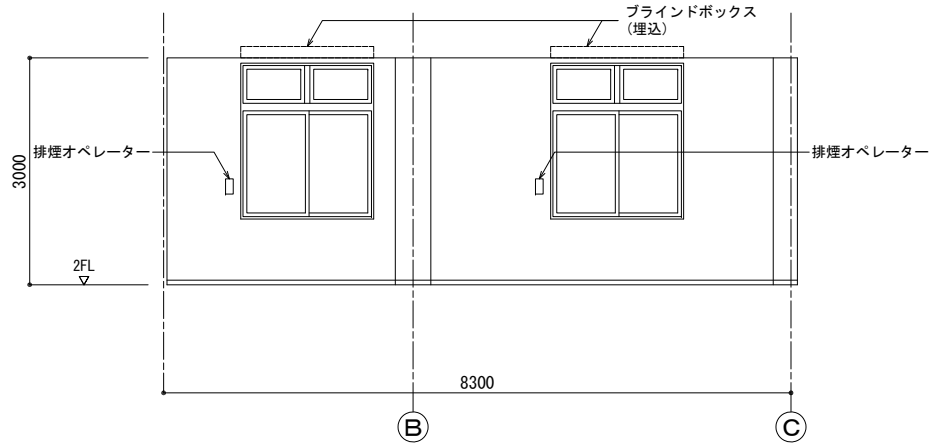


2階 キープラン

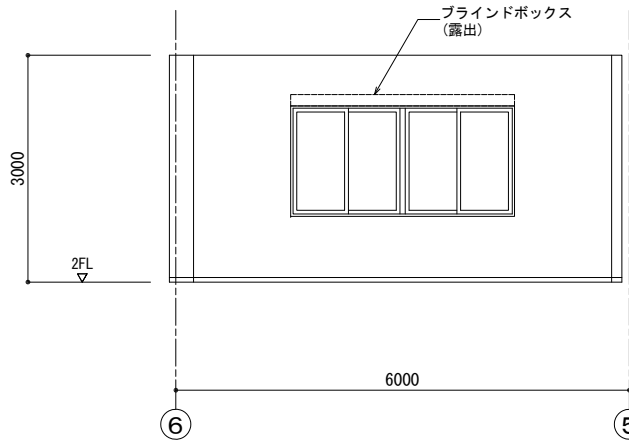
室名	2階 会議室
床	OAフロアH=50の上ビニル床タイル厚2.5
幅木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Rの上壁紙張り
天井	GB-NC (NT)
備考	ブラインドボックス プラインド 天井点検口 廻縁 誘導標識



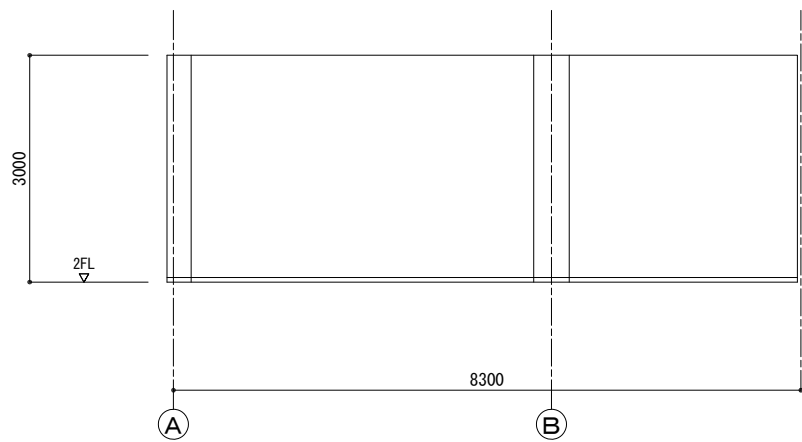
① 会議室展開図 1/50



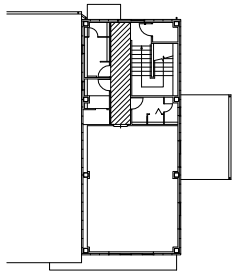
② 会議室展開図 1/50



③ 会議室展開図 1/50

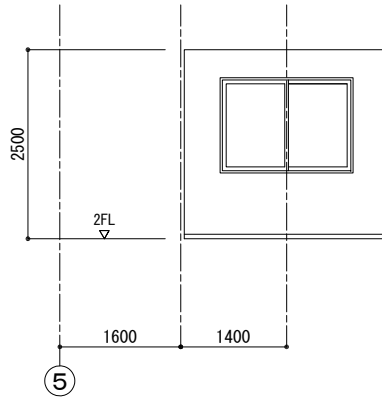


④ 会議室展開図 1/50

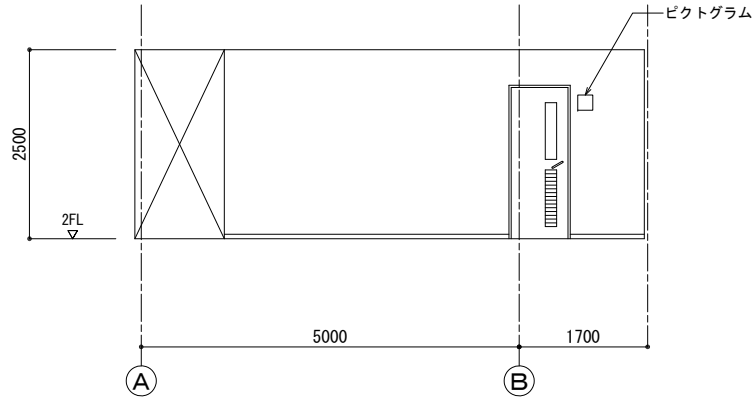


2階 キープラン

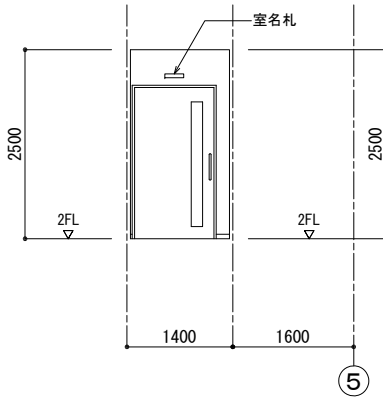
室名	2階 廊下
床	ビニル床シート厚2.0
幅木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Rの上EP-G
天井	GB-NC (NT)
備考	消火器 室名札 ピクトグラム 廻縁



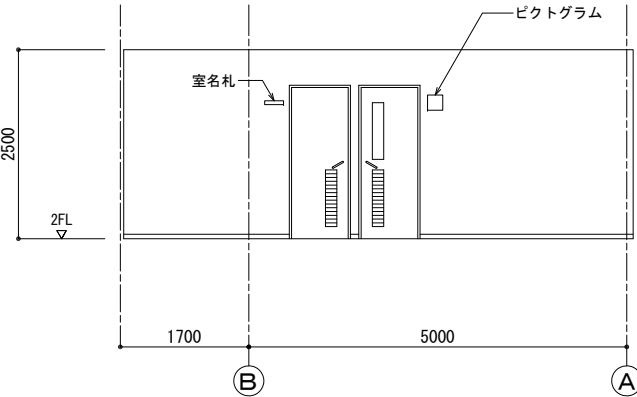
① 廊下展開図 1/50



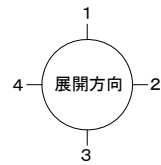
② 廊下展開図 1/50



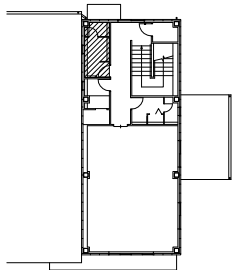
③ 廊下展開図 1/50



④ 廊下展開図 1/50

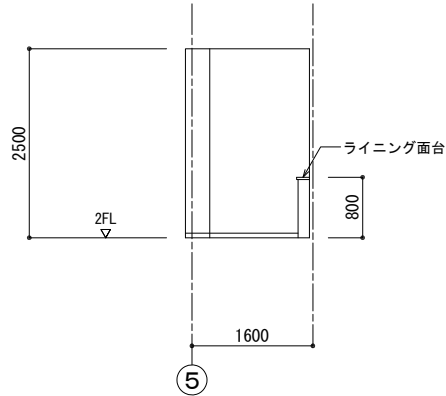


設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-28
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/50 自己搬入棟 展開図（3）		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

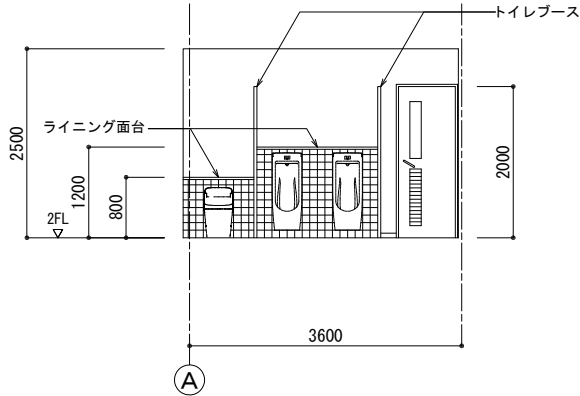


2階 キープラン

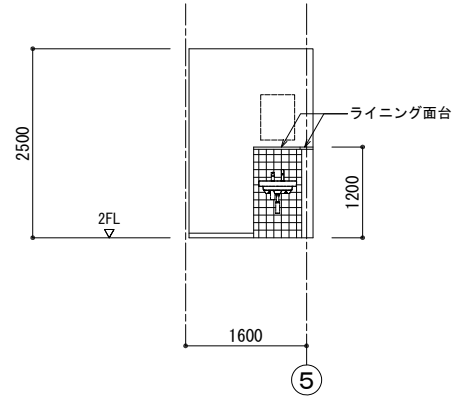
室 名	2階 男子便所
床	ビニル床シート厚2.0
幅 木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Sの上EP-G GB-Sの上陶器質タイル張り100角
天 井	GB-NC (NT)
備 考	トイレブース ライニング面台 汚垂タイル 廻縁 <手洗い器 化粧鏡 小便器 大便器 紙巻器> (AM)



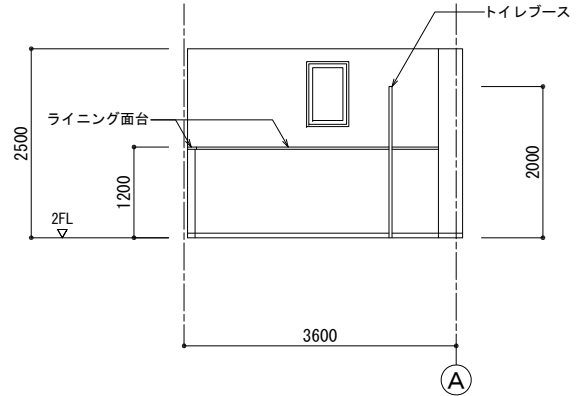
① 男子便所展開図 1/50



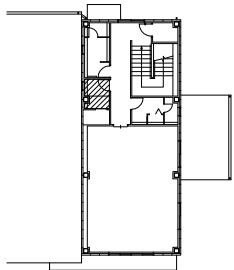
② 男子便所展開図 1/50



③ 男子便所展開図 1/50

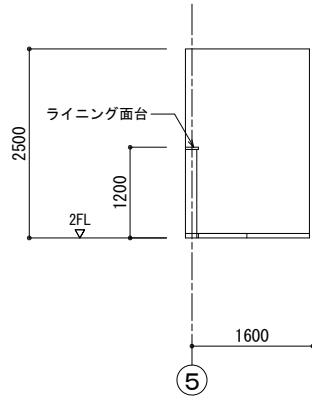


④ 男子便所展開図 1/50

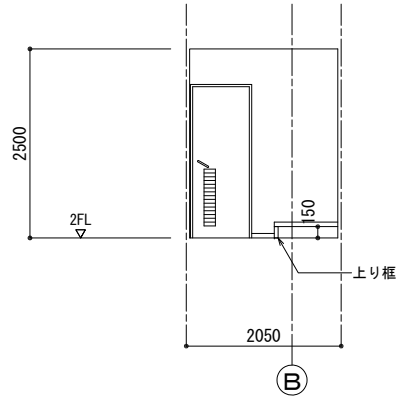


2階 キープラン

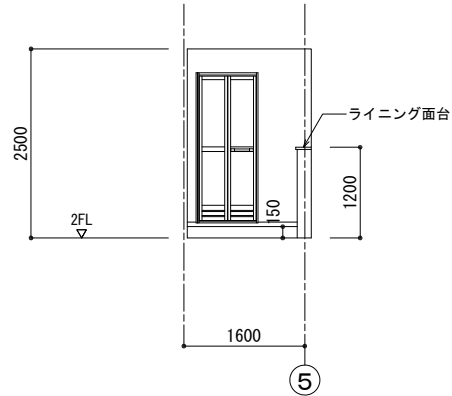
室 名	2階 シャワー室
床	ビニル床シート厚2.0
幅 木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Sの上EP-G
天 井	GB-NC (NT)
備 考	SUS製上り框 ライニング面台 シャワーユニット 廻縁 <洗濯パン> (AM)



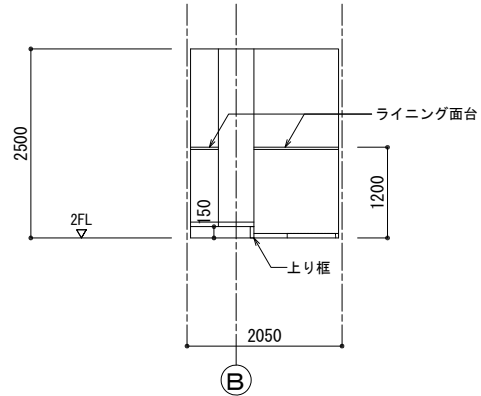
① シャワー室展開図 1/50



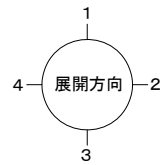
② シャワー室展開図 1/50



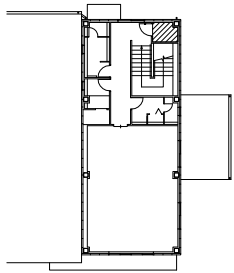
③ シャワー室展開図 1/50



④ シャワー室展開図 1/50

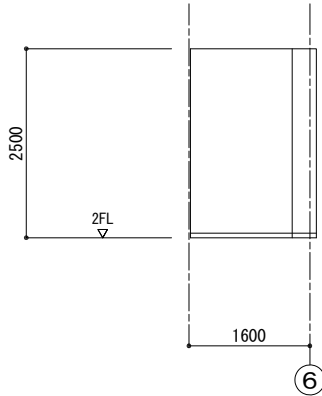


設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-29
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 展開図（4） 1/50		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

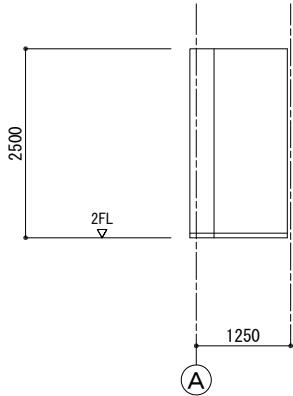


2階 キープラン

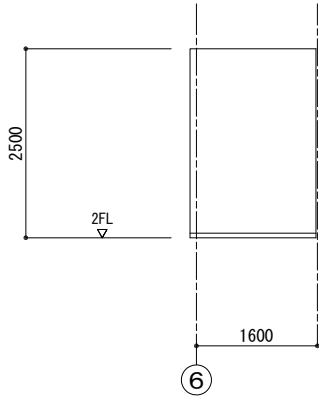
室 名	2階 倉庫
床	ビニル床シート厚2.0
幅 木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Rの上EP-G
天 井	GB-NC (NT)
備 考	



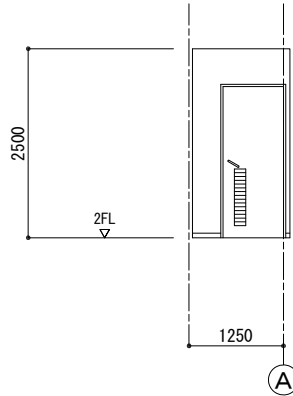
① 倉庫展開図 1/50



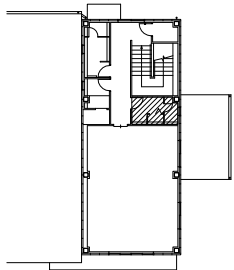
① 倉庫展開図 1/50



③ 倉庫展開図 1/50

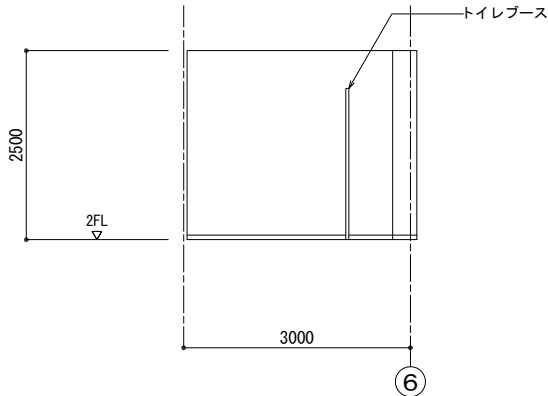


④ 倉庫展開図 1/50

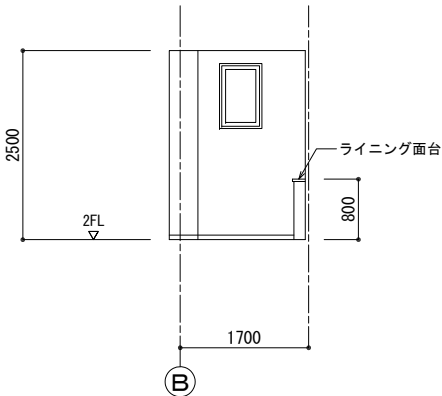


2階 キープラン

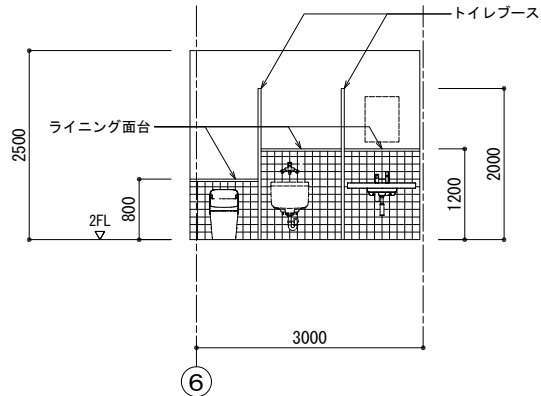
室 名	2階 シャワー室
床	ビニル床シート厚2.0
幅 木	ビニル幅木H=60
壁	GB-Sの上EP-G GB-Sの上陶器質タイル張り100角
天 井	GB-NC (NT)
備 考	トイレブース ライニング面台 廻縁 <手洗い器 掃除用流し 化粧鏡 大便器 紙巻器> (AM)



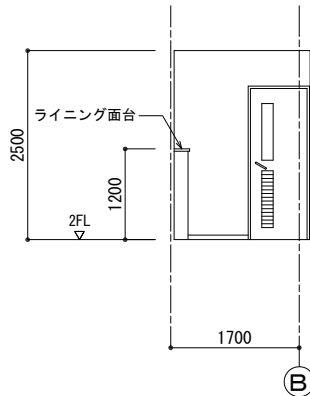
① 女子便所展開図 1/50



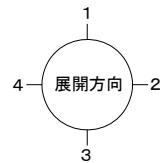
① 女子便所展開図 1/50



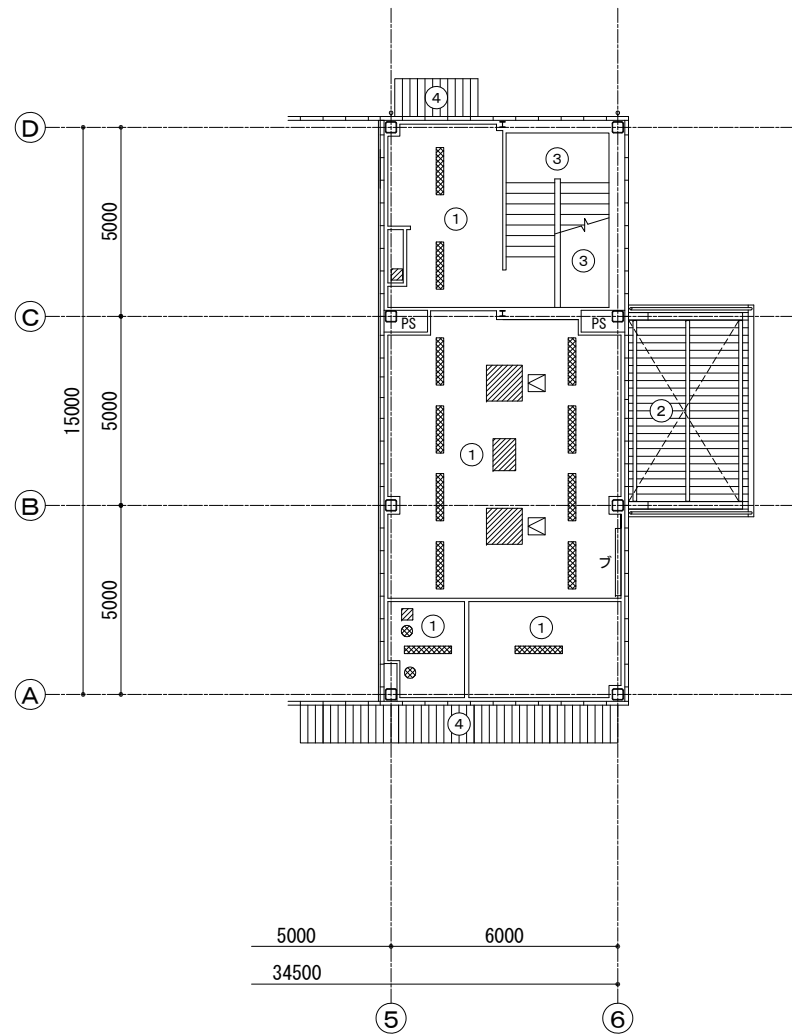
① 女子便所展開図 1/50



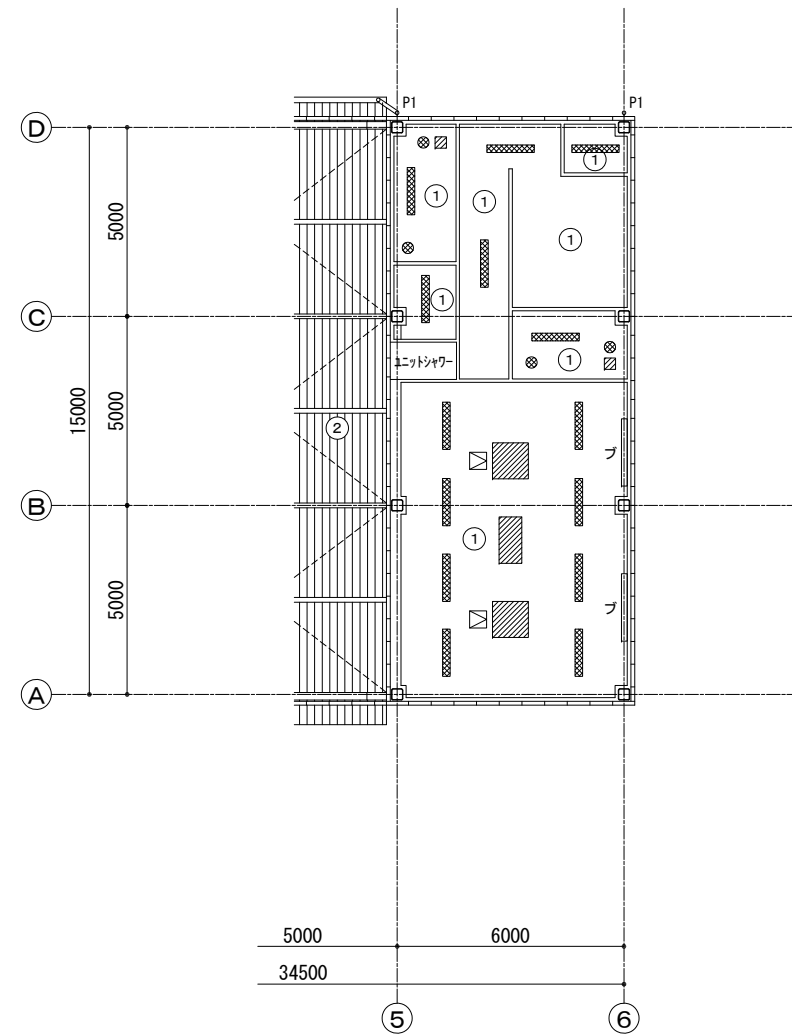
④ 女子便所展開図 1/50



設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-30
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 展開図（5） 1/50		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



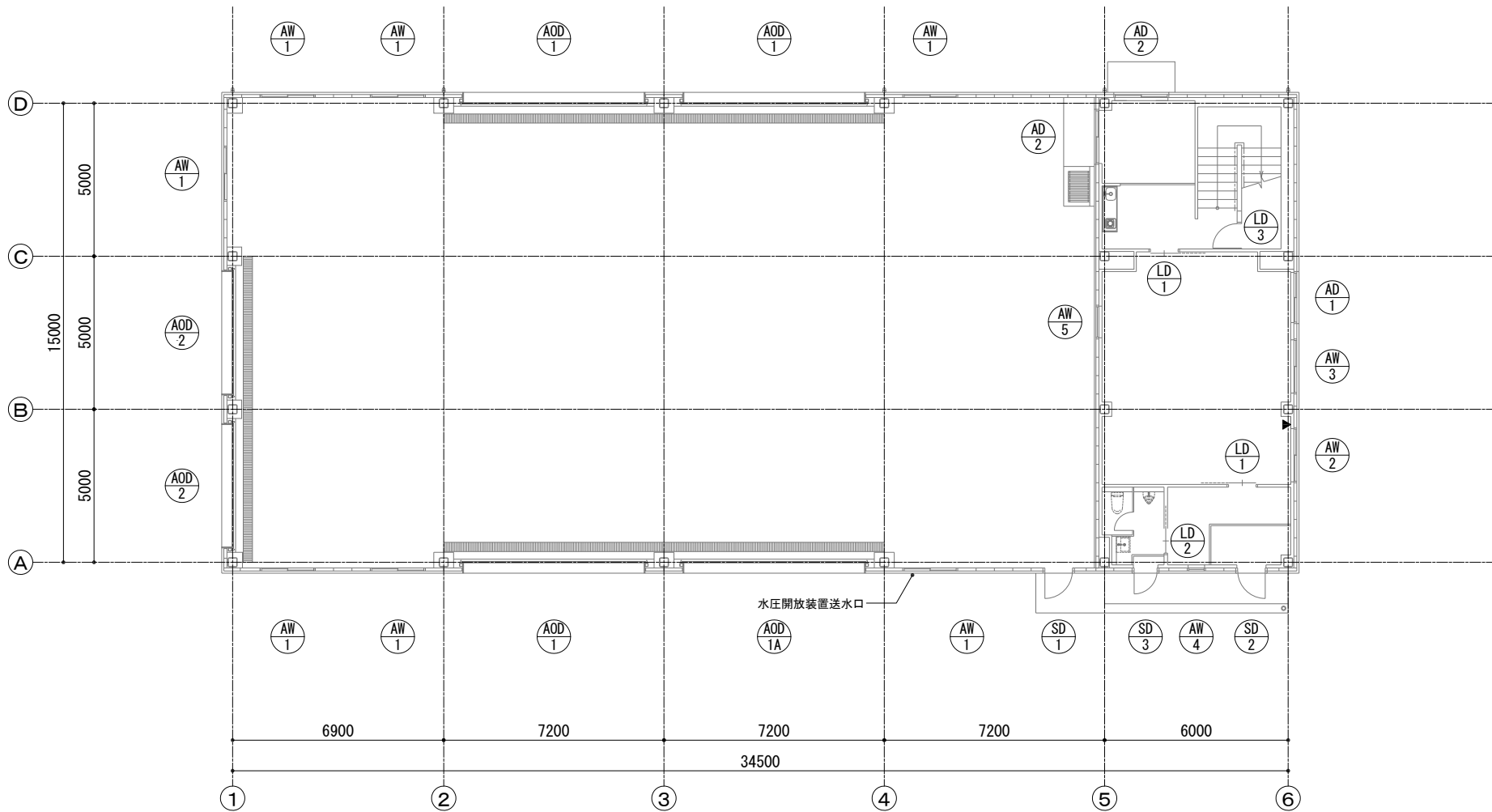
自己搬入棟 1階天井伏図 1/100



自己搬入棟 2階天井伏図 1/100

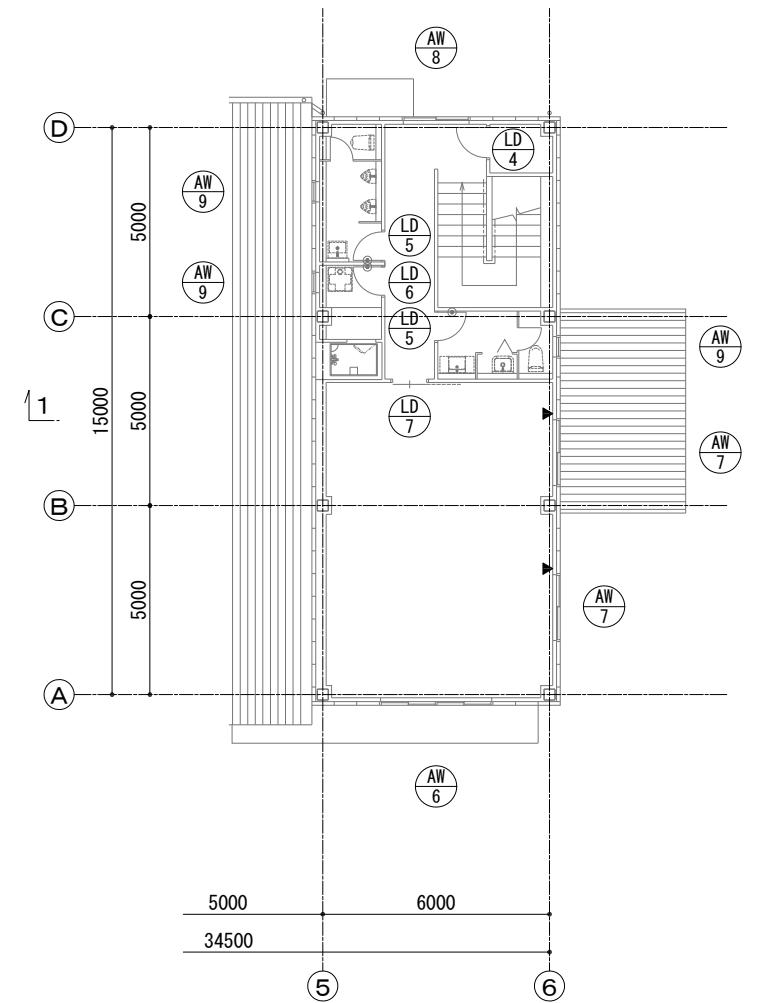
天井仕上凡例	
①	GB-NC (NT)
②	折板及び鉄骨表し
③	鉄骨階段表し
④	アルミニウム製庇
ブ	ブラインドボックス (天井埋込型) を示す
▽	天井点検口 450角
斜線	空調・換気設備開口
点検口	照明設備開口

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-31
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/100 自己搬入棟 天井伏図		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 1階建具配置図 1/100

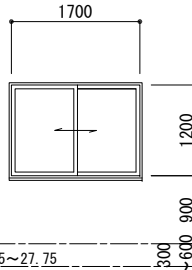
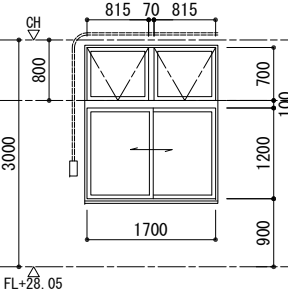
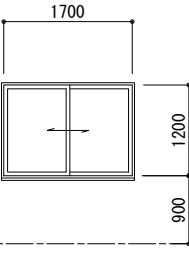
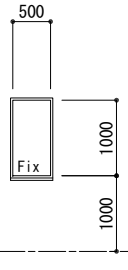
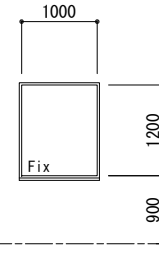
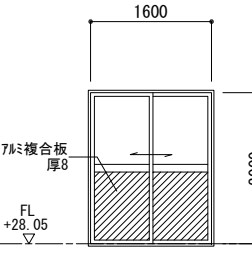
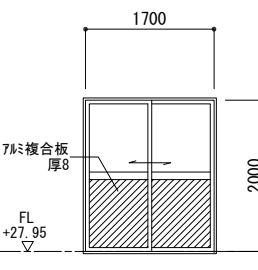
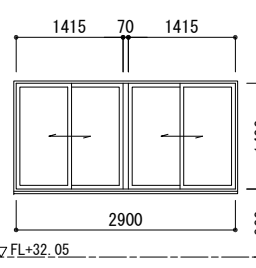
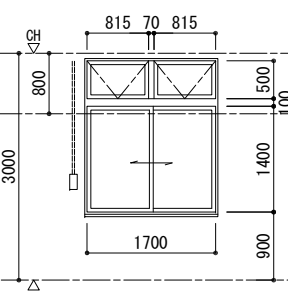
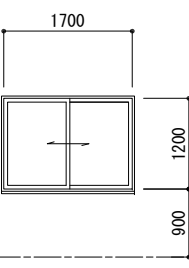
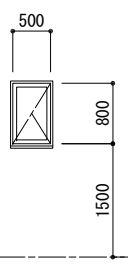
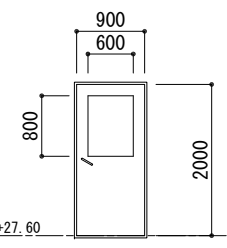
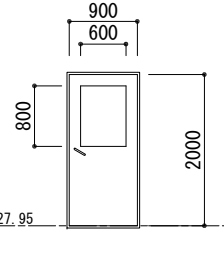
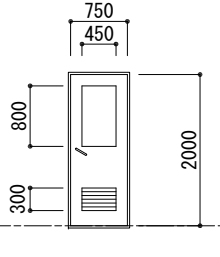
◀ 排煙窓オペレーター位置 (FL+1300) を示す。

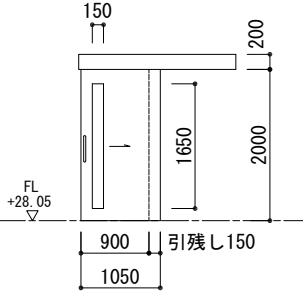
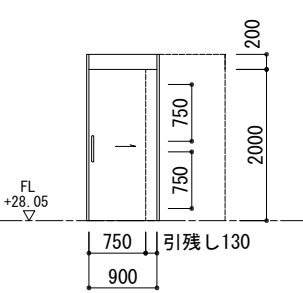
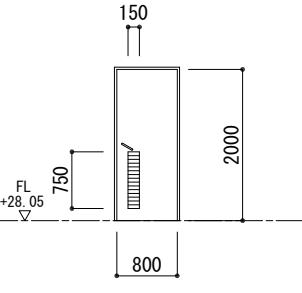
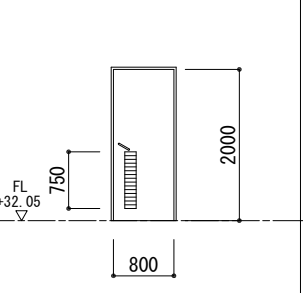
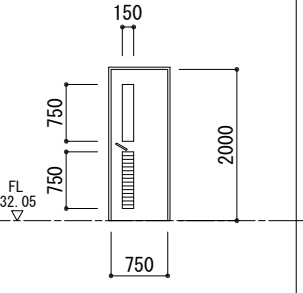
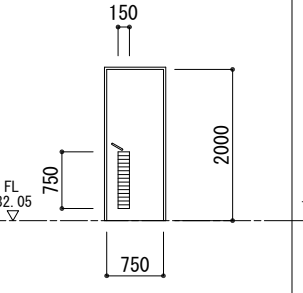
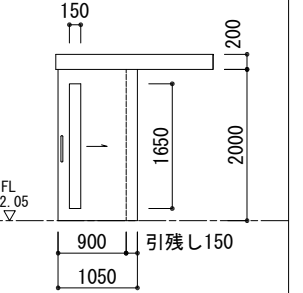
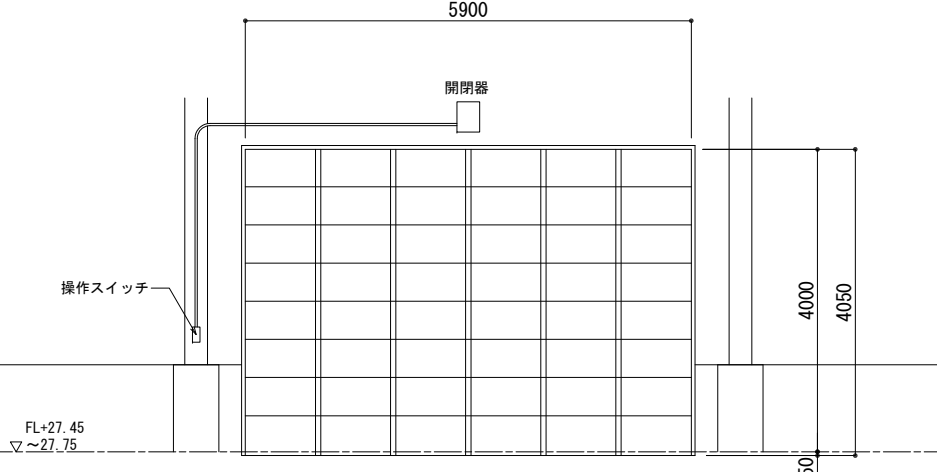
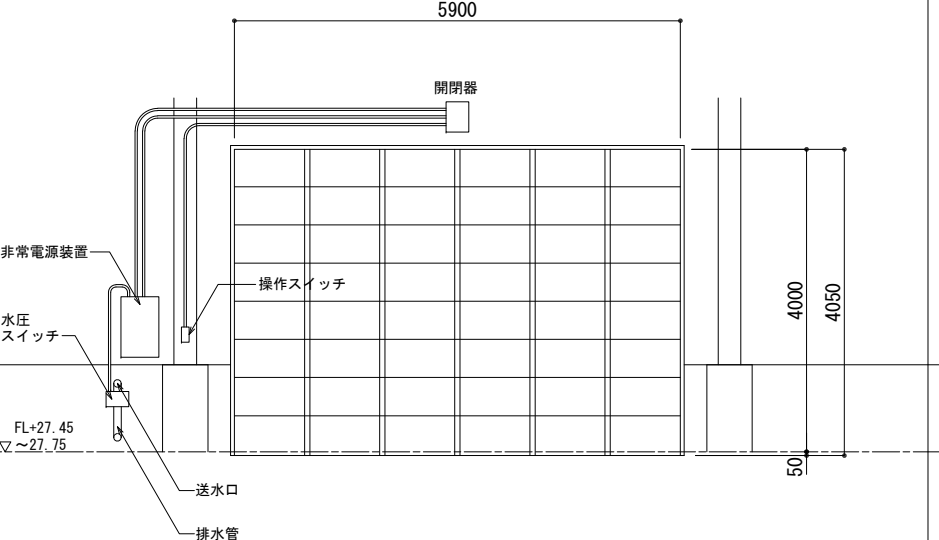
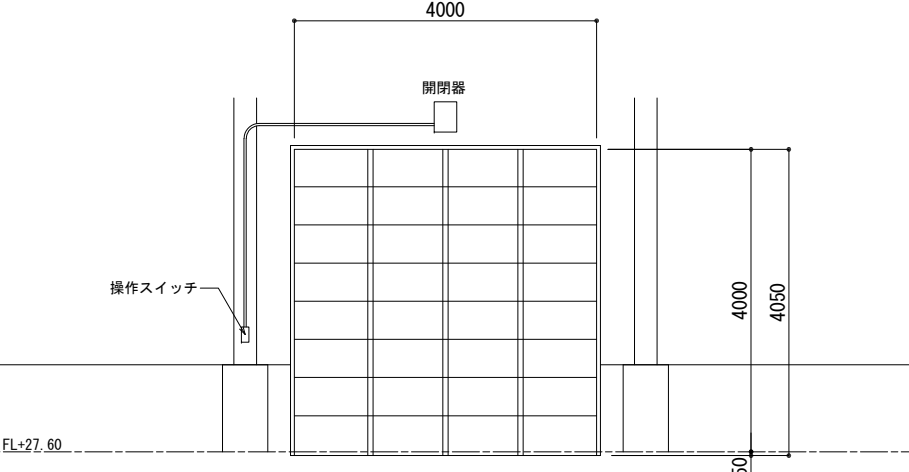


自己搬入棟 2階建具配置図 1/100

◀ 排煙窓オペレーター位置 (FL+1300) を示す。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-32
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 建具配置図 縮尺 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

自己搬入棟 建具表																											
符号・名称・個数		AW1	引違い窓	7	AW2	外倒し窓付引違い窓	1	AW3	引違い窓	1	AW4	はめ殺し窓	1	AW5	はめ殺し窓	1	AD1	引違い戸	1	AD2	引違い戸	2					
場所		1階 自己搬入室			1階 事務室			1階 事務室			1階 玄関			1階 事務室			1階 事務室			1階 職員通用口							
仕上（枠共）		ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種							
建具	見込（ランマ）																NP 6. 8（上段のみ）			NP 6. 8（上段のみ）							
	硝子（ランマ）	N 6. 8			NP 6. 8			NP 6. 8			NP 6. 8			P 5. 0													
建具枠	見込取合 吝摺	7 0			7 0			7 0			7 0			7 0			7 0			7 0							
	吝摺（水切）記号	図 示			図 示			図 示			図 示			図 示			図 示			図 示							
建具金物		SUS製網戸 クレセント 付属金物一式			SUS製網戸（排煙窓除く） クレセント 排煙オペレーター（FL+1300芯） 付属金物一式			SUS製網戸 クレセント 付属金物一式			付属金物一式			付属金物一式			引戸錠 付属金物一式			引戸錠 付属金物一式							
その他					排煙窓開き角度：45° 以上																						
形状・寸法																											
		▽+28.05 ▽FL+27.45~27.75			FL+28.05			▽FL+28.05			▽FL+27.95			▽FL+27.95			FL+28.05 ▽			FL+27.95 ▽							
		300 600			815 70 815 700 1200 900			1700 1200 900			500 1000 1000			1000 1200 900			1600 2000			1700 2000							
符号・名称・個数		AW6	引違い連窓	1	AW7	外倒し窓付引違い窓	2	AW8	引違い窓	1	AW9	縦すべり出し窓	3														
場所		2階 会議室			2階 会議室			2階 廊下			2階 男子便所、女子便所、シャワー室																
仕上（枠共）		ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種			ＢＢ－１種																
建具	見込（ランマ）																										
	硝子（ランマ）	N 6. 8			NP 6. 8			N 6. 8			N 6. 8																
建具枠	見込取合 吝摺	7 0			7 0			7 0			7 0																
	吝摺（水切）記号	図 示			図 示			図 示			図 示																
建具金物		SUS製網戸 クレセント 付属金物一式			SUS製網戸（排煙窓除く） クレセント 排煙オペレーター（FL+1300芯） 付属金物一式			SUS製網戸 クレセント 付属金物一式			付属金物一式																
その他					排煙窓開き角度：45° 以上																						
形状・寸法																											
		▽FL+32.05			FL+32.05			▽FL+32.05			▽FL+32.05																
		1415 70 1415 1400 900			815 70 815 500 1400 900			1700 1200 900			500 800 1500																
符号・名称・個数		SD1	片開きフラッシュ戸	1	SD2	片開きフラッシュ戸	1	SD3	片開きフラッシュ戸	1																	
場所		1階 自己搬入室			1階 玄関			1階 便所																			
仕上（枠共）		D P			D P			D P																			
建具	見込（ランマ）	4 0			4 0			4 0																			
	硝子（ランマ）	N 6. 8			NP 6. 8			N 6. 8																			
建具枠	見込取合 吝摺	1 2 0			1 2 0			1 2 0																			
	吝摺（水切）記号	図 示			図 示			図 示																			
建具金物		丁番（3枚） レバーハンドル 戸当り ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締り錠（内部サムターン） DC（ｽﾄｯﾊﾟｰなし）			丁番（3枚） レバーハンドル 戸当り ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締り錠（内部サムターン） DC（ｽﾄｯﾊﾟｰなし）			丁番（3枚） レバーハンドル 戸当り ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締り錠（内部サムターン） DC（ｽﾄｯﾊﾟｰなし）																			
その他																											
形状・寸法																											
		▽FL+27.60			▽FL+27.95			FL+27.95 300 ▽																			
		900 600 800 2000			900 600 800 2000			750 450 800 2000																			
共通事項	1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、押板、押棒、レバーハンドルの場合はシリンダ本締りとする。 2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。 3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止めをつける。壁仕上げボード類等の場合は床付けとする。（但し、通行に支障のあるものは除く。） 5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網（SUS製1.5φ網目15×15）付きとする。																										
	6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から800以上1,500以下とする。 7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。 8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（枠廻り詳細による。） 9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは4.0mmとする。 10. 防火戸の位置は建具配置図による。 11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。 12. 気密扉・簡易気密扉のゴムパッキンは建具四隅では継がないものとする。 13. 外部に面する扉の丁番は、差込丁番の使用は不可とする。																										
	建具略号	種 別	戸	窓	ガラリ	紙障子	ふすま	シャッター	網 戸	※防火設備はH12建設省告示第1360号に規定する構造又は国土交通大臣が認定する認定番号を取得したものとする。 ※特定防火設備はH12建設省告示第1369号に規定する構造とする。 ※防火区画に用いる防火設備の構造方法は、S48建設省告示第2563号に規定する構造とする。 ※遮煙性能を有する防火設備の構造方法は、S48建設省告示第2564号に規定する構造とする。																	
		アルミニウム製	A	D	A	W	A	G	A	O	D				A	S	a	W									
		鋼 製	S	D	S	W	S	G	S	O	D				S	S											
		鋼 製 軽 量	L	D											L	S											
	ガラス略号	ステンレス製	S	S	D	S	S	W	S	S	G				S	S	S										
		木 製	W	D	W	W	W	G				P		H													
		F 型板ガラス				金物略号	D	C	ドアクローザー																		
	P フロート板ガラス				略号	A	H	オートヒンジ																			
N 網入型板ガラス				号	F	H	フロアヒンジ																				
N P 網入みがき板ガラス				号	P	H	ビボットヒンジ																				
設計事務所名		中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所																		図面番号							
建築士登録番号（大臣）第338574号		南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）																		A-33							
建築士氏名 野口 一彦		自己搬入棟 建具表（1） 縮尺 1/50																									
検 図		製 図		設 計		南房総市 令和7年10月																					

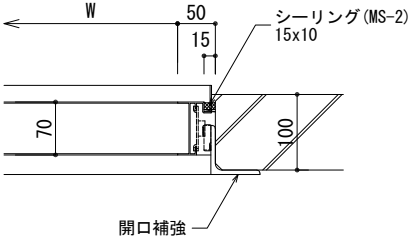
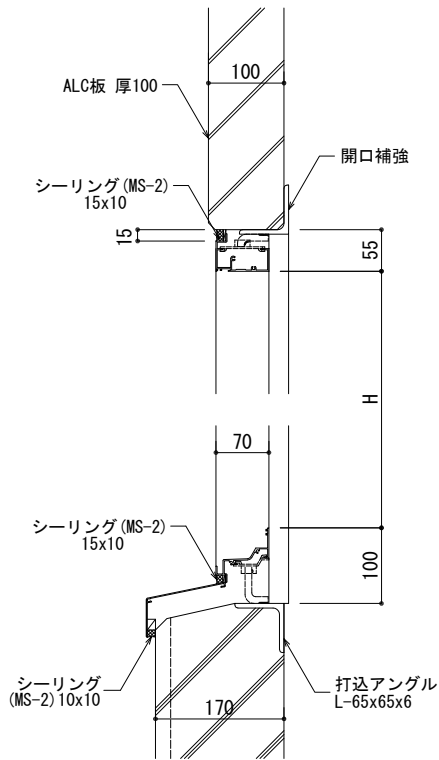
自己搬入棟 建具表																																														
符号・名称・個数		LD1	片引き戸 2		LD2	引込み戸 1		LD3	片開きフラッシュ戸 1		LD4	片開きフラッシュ戸 1		LD5	片開きフラッシュ戸 2		LD6	片開きフラッシュ戸 1		LD7	片引き戸 1																									
場所		1階 事務室		1階 便所		1階 倉庫		2階 倉庫		2階 男子便所、女子便所		2階 シャワー室		2階 会議室																																
仕上（枠共）		SOP		SOP		SOP		SOP		SOP		SOP		SOP		SOP																														
建具	見込（ランマ）	40		40		40		40		40		40		40		40																														
	硝子（ランマ）	F 4. 0								F 4. 0				F 4. 0																																
建具枠	見込取合 吝摺	110		135		110		110		110		110		110		110																														
	吝摺（水切）記号	図 示		図 示		図 示		図 示		図 示		図 示		図 示		図 示																														
建具金物		SUS製引手（25φL=400）ハンガーレール シリンダー本締り錠		SUS製引手（25φL=400）ハンガーレール 表示錠		丁番（3枚）レバーハンドル 戸当り シリンダー本締り錠 DC（ストッパー付）		丁番（3枚）レバーハンドル 戸当り シリンダー本締り錠（内部サムターン）		丁番（3枚）レバーハンドル 戸当り 空錠 DC（ストッパーなし）		丁番（3枚）レバーハンドル 戸当り 表示錠 DC（ストッパーなし）		SUS製引手（25φL=400）ハンガーレール シリンダー本締り錠																																
その他		引き残し寸法は製造所の仕様による		引き残し寸法は製造所の仕様による												引き残し寸法は製造所の仕様による																														
形状・寸法																																														
		引き残し150		引き残し130										引き残し150																																
符号・名称・個数		AOD1	電動トロリー式オーバーヘッドドア （アルミパネル スタンダード型）						3	AOD1A	電動トロリー式オーバーヘッドドア （アルミパネル スタンダード型）						1	AOD2	電動トロリー式オーバーヘッドドア （アルミパネル スタンダード型）						2																					
場所		自己搬入室															自己搬入室																													
仕上（枠共）		メーカー仕様による塗装															メーカー仕様による塗装																													
建具	見込（ランマ）	パネル厚50 アルミ板厚は耐風圧による必要な厚さとする															パネル厚50 アルミ板厚は耐風圧による必要な厚さとする																													
	硝子（ランマ）																																													
建具枠	見込取合 吝摺																																													
	吝摺（水切）記号	別図による															別図による																													
建具金物		見え掛け部鋼材は溶融亜鉛めっき															見え掛け部鋼材は溶融亜鉛めっき																													
その他		耐風圧：1250Pa 電源：三相200V－0.3kW（参考値） 障害物感知装置															耐風圧：1250Pa 電源：三相200V－0.3kW（参考値） 障害物感知装置 水圧開放装置																													
形状・寸法																																														
		FL+27.45 ▽～27.75															FL+27.45 ▽～27.75															▽FL+27.60														
共通事項	1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、押板、押棒、レバーハンドルの場合はシリンダ本締りとする。 2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。 3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止めをつける。壁仕上げボード類等の場合は床付けとする。（但し、通行に支障のあるものは除く。） 5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網（SUS製1.5φ網目15×15）付きとする。																																													
	6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から800以上1,500以下とする。 7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。 8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（枠廻り詳細による。） 9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは4.0mmとする。 10. 防火戸の位置は建具配置図による。 11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。 12. 気密扉・簡易気密扉のゴムパッキンは建具四隅では継がないものとする。 13. 外部に面する扉の丁番は、差込丁番の使用は不可とする。																																													
	建具略号	種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッド	紙障子	ふすま	シャッター	網戸	※防火設備はH12建設省告示第1360号に規定する構造又は国土交通大臣が認定する認定番号を取得したものとする。 ※特定防火設備はH12建設省告示第1369号に規定する構造とする。 ※防火区画に用いる防火設備の構造方法は、S48建設省告示第2563号に規定する構造とする。 ※遮煙性能を有する防火設備の構造方法は、S48建設省告示第2564号に規定する構造とする。																																			
		アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	AW																																				
		鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS																																					
		鋼製軽量	LD						LS																																					
	ガラス略号	ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS																																					
		木製	WD	WW	WG		P	H																																						
		F型板ガラス				金物略号	DC	ドアクローザー																																						
		Nフロート板ガラス					AH	オートヒンジ																																						
	ガラス略号	NP	網入型板ガラス				FH	フロアヒンジ																																						
						PH	ビポットヒンジ																																							
設計事務所名		中日本建設コンサルタント株式会社										南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）										図面番号																								
建築士登録番号（大臣）		第338574号										縮尺										A-34																								
建築士氏名		野口 一彦										自己搬入棟 建具表（2）															1/50																			
検図		製図		設計		南房総市																																								
				令和7年10月																																										



建具枠廻り詳細図（アルミ製建具）

本図は参考図とし、工事にあたっては施工図を作成の上監督員の承認を得るものとする。

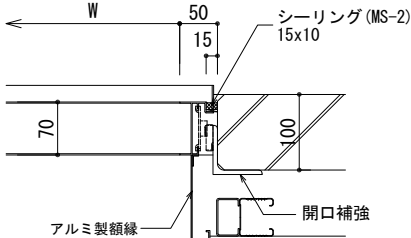
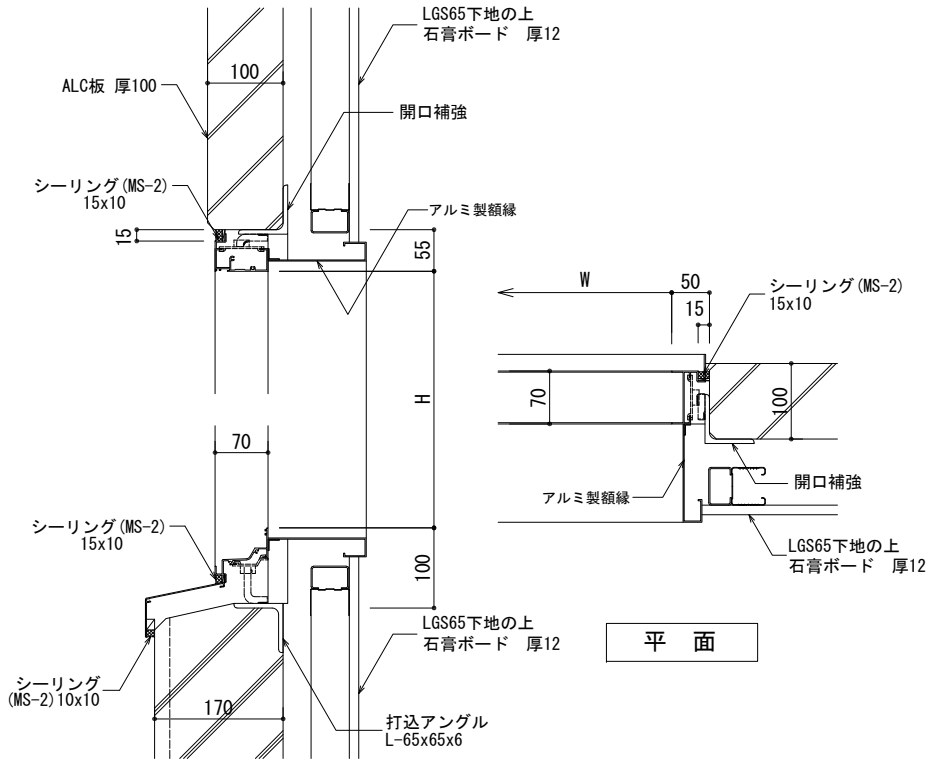
AW  
1



平面

断面

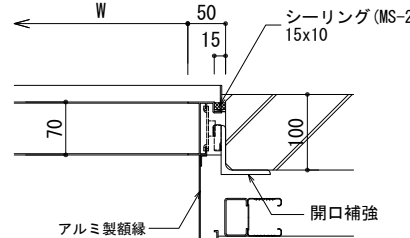
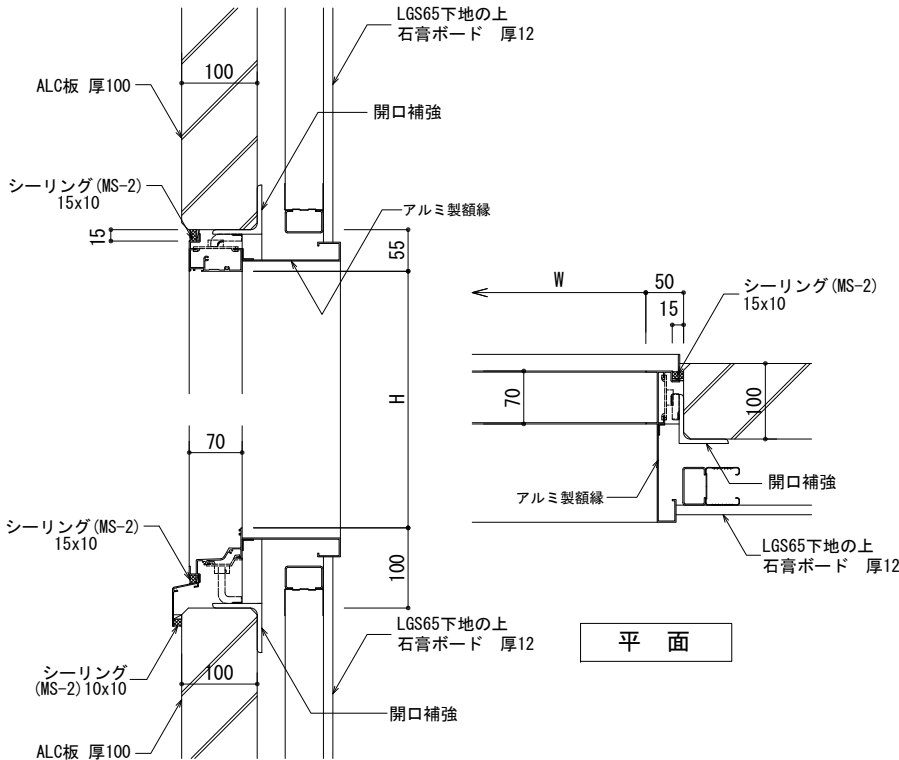
AW  
2  
AW  
3  
AW  
4  
AW  
5



平面

断面

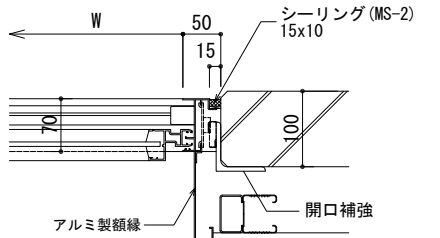
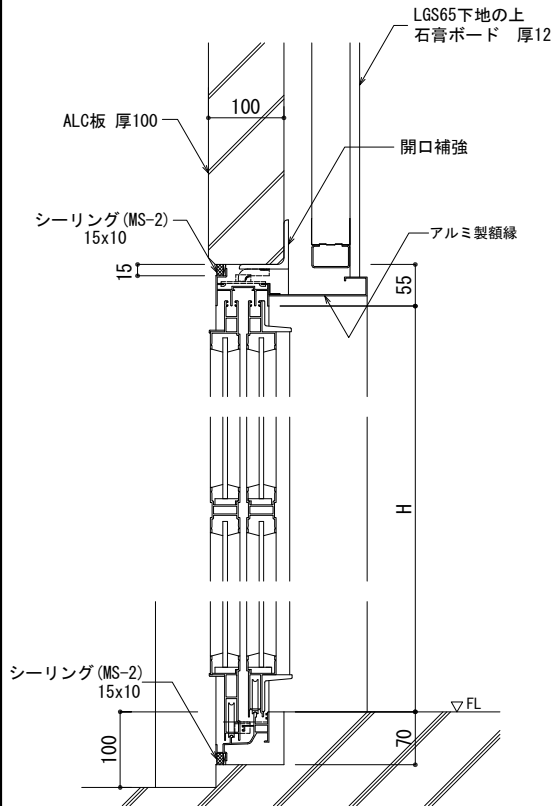
AW  
6  
AW  
7  
AW  
8  
AW  
9



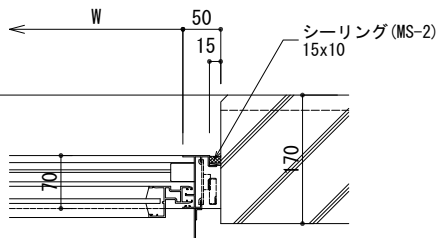
平面

断面

AD  
1  
AD  
2



(ALC外壁)



(RC腰壁)

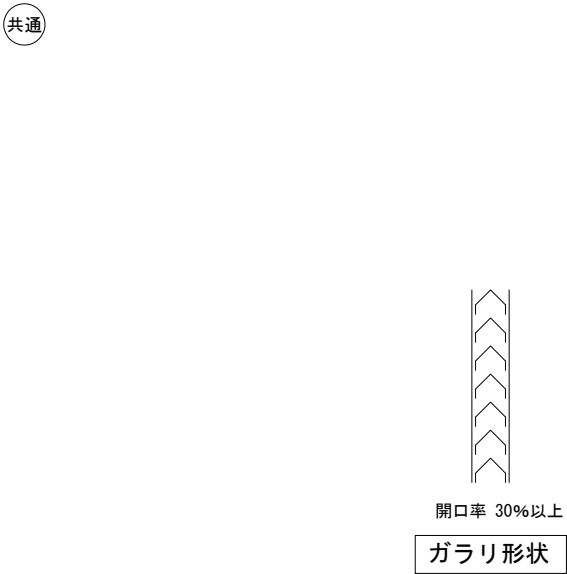
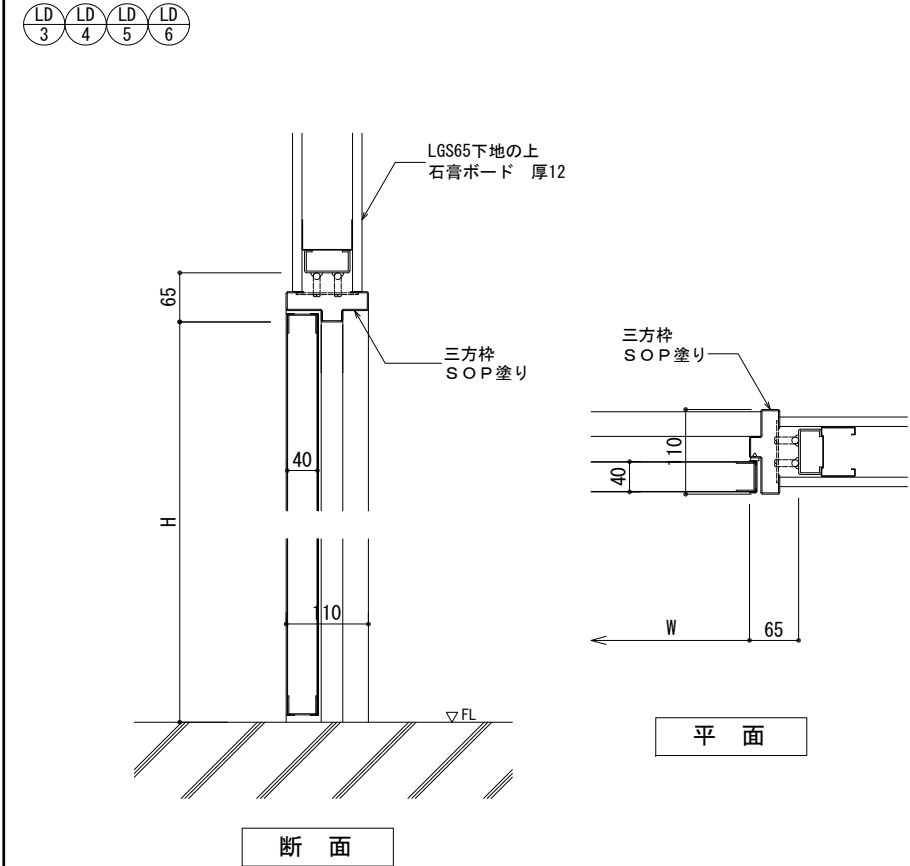
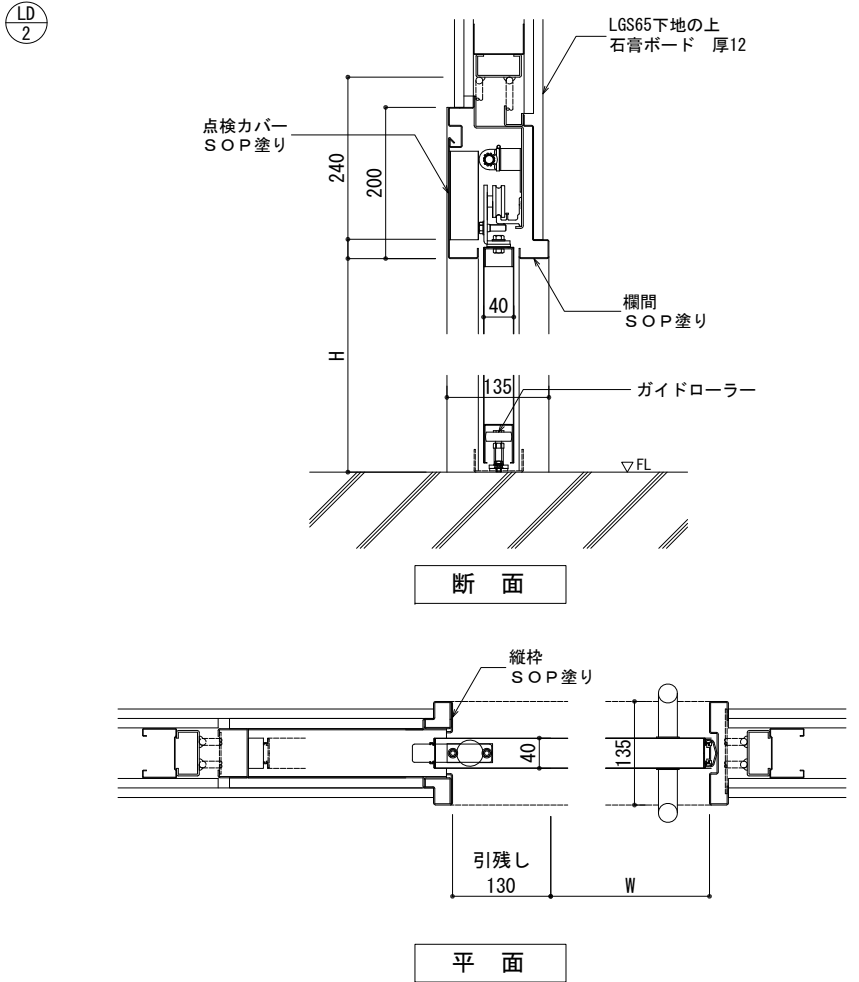
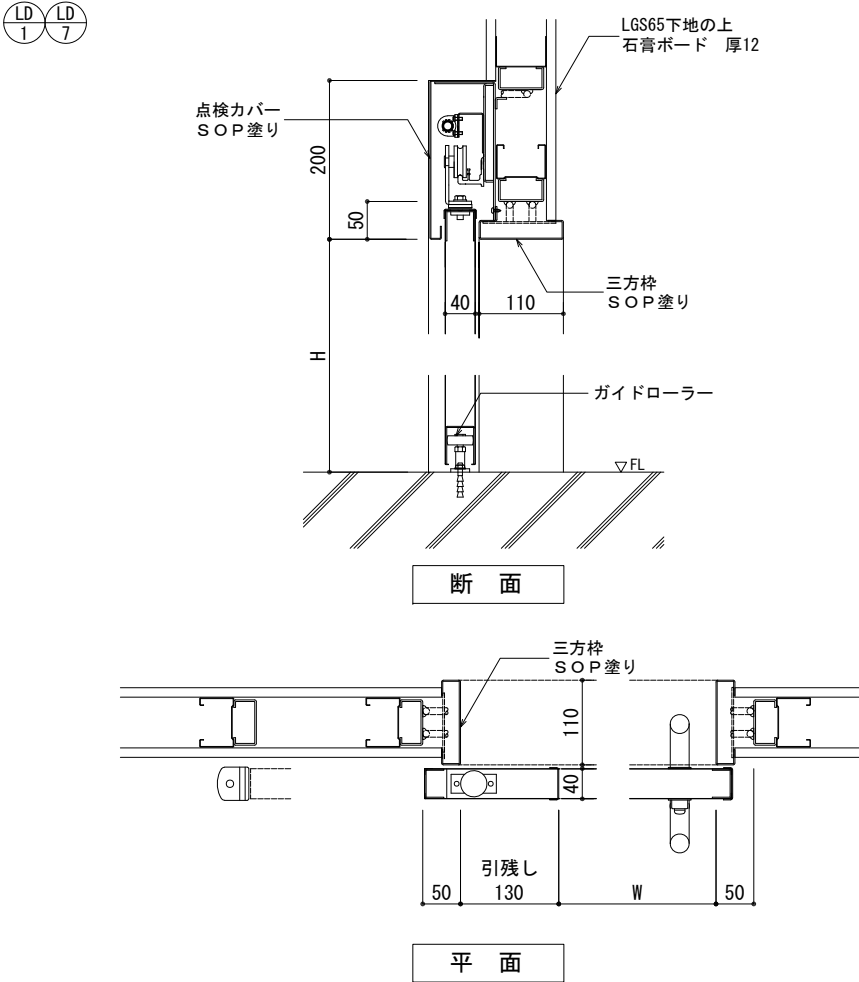
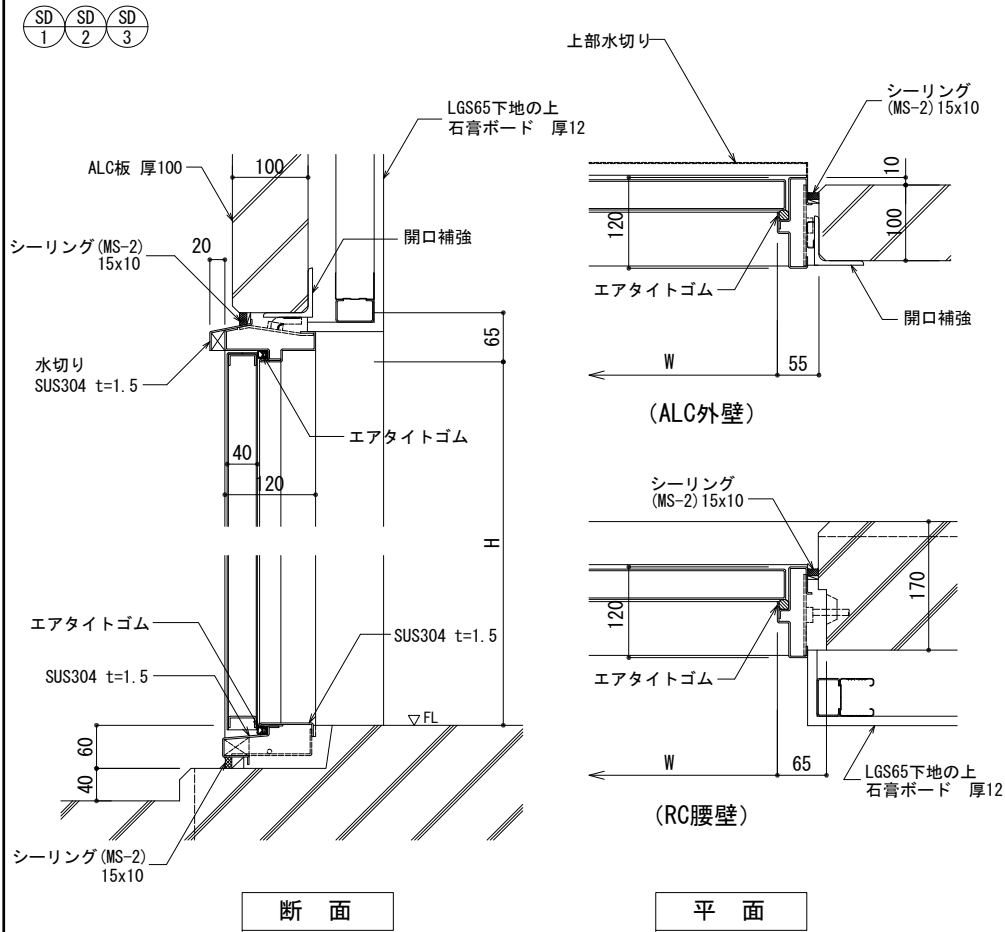
平面

断面

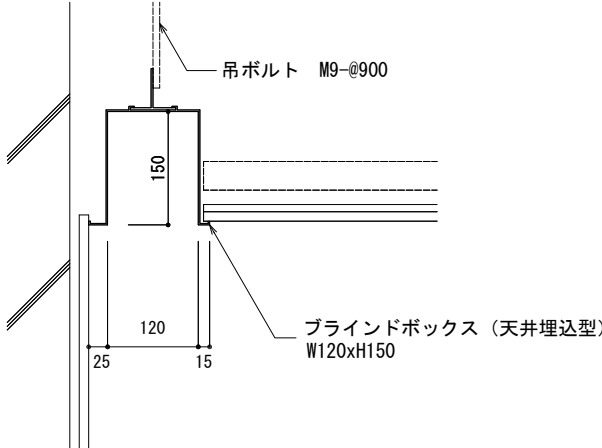
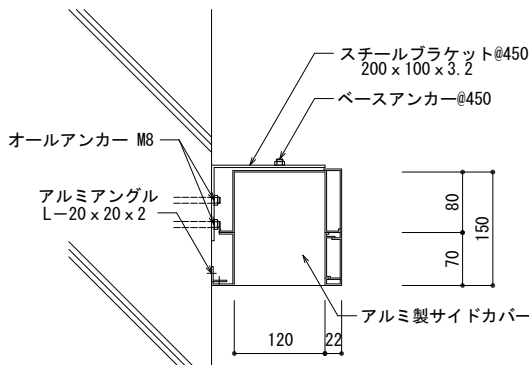
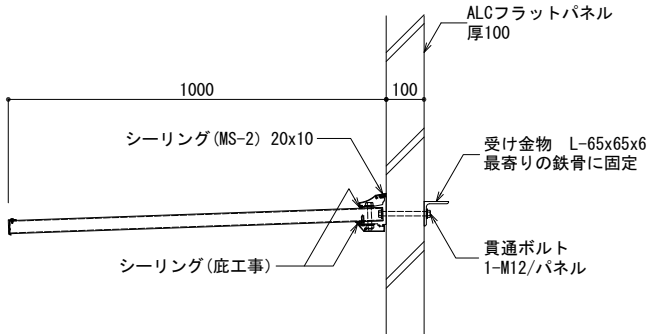
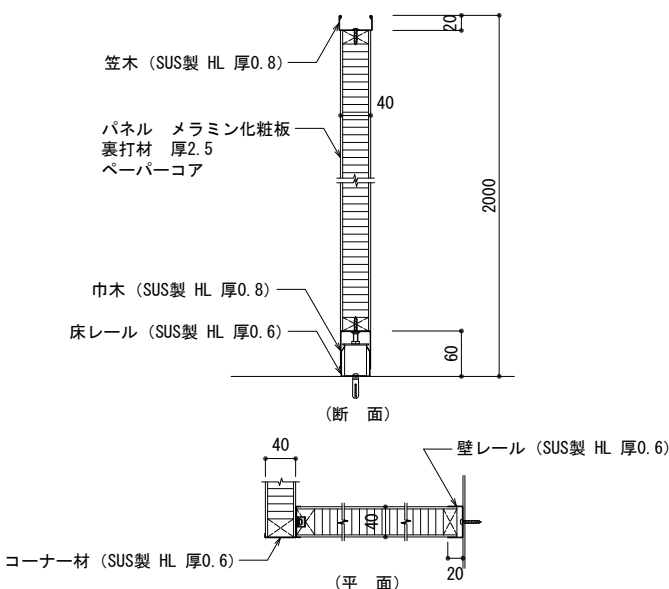
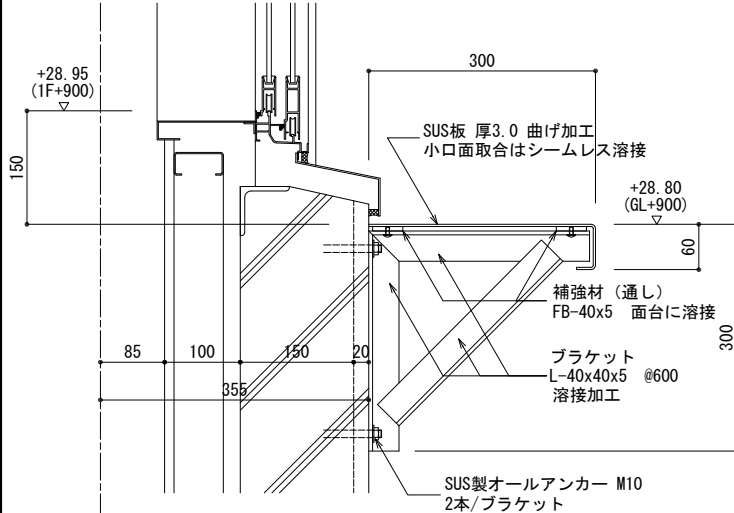
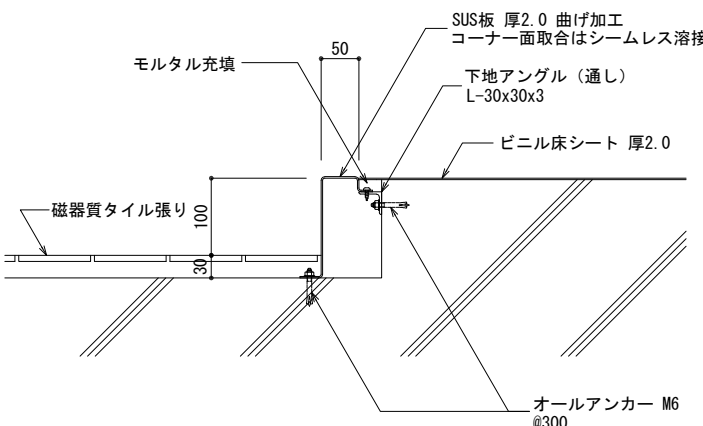
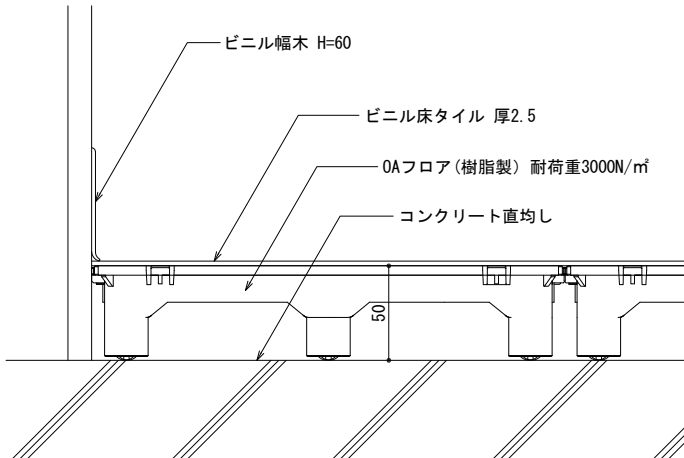
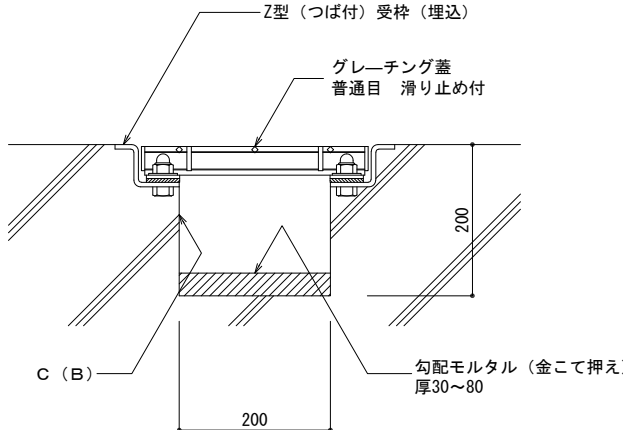
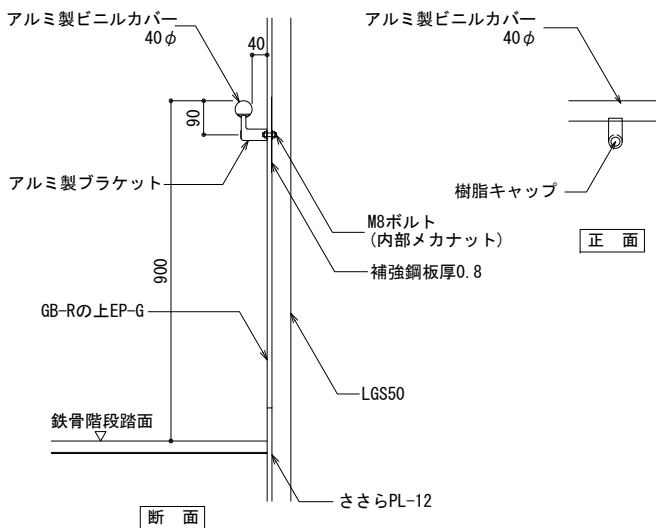
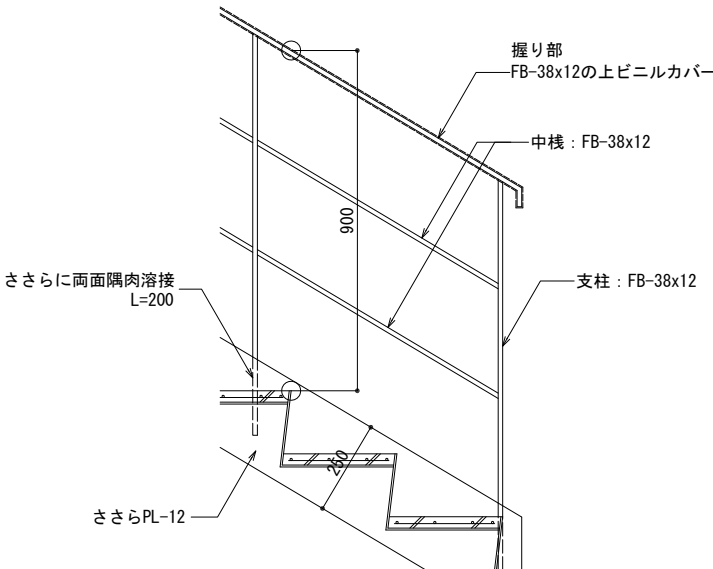
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-35
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 建具枠廻り詳細図（1） 1/5		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

建具枠廻り詳細図（鋼製建具、鋼製軽量建具）

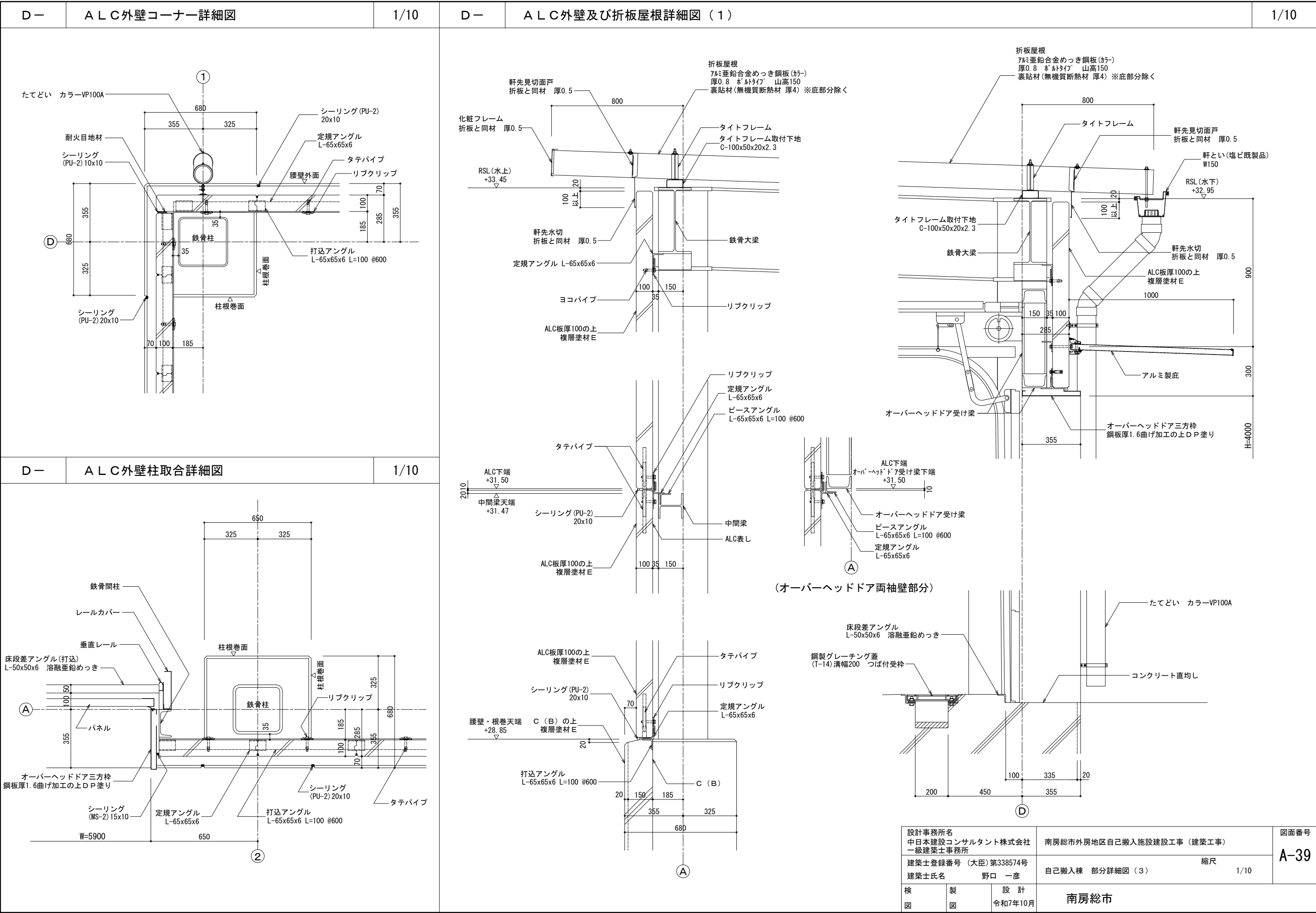
本図は参考図とし、工事にあたっては施工図を作成の上監督員の承認を得るものとする。

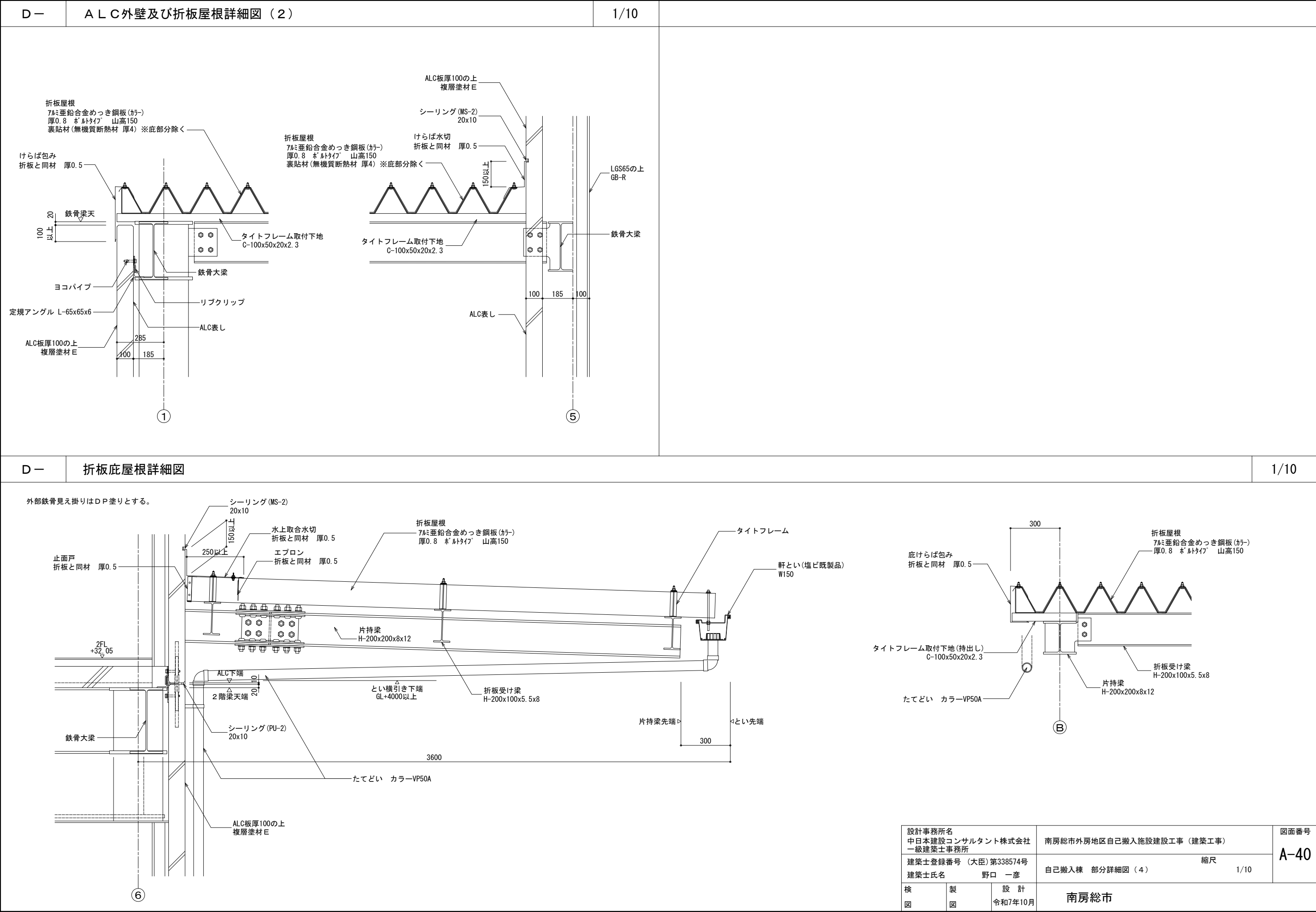


設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-36
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 建具枠廻り詳細図（2）  縮尺 1/5		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

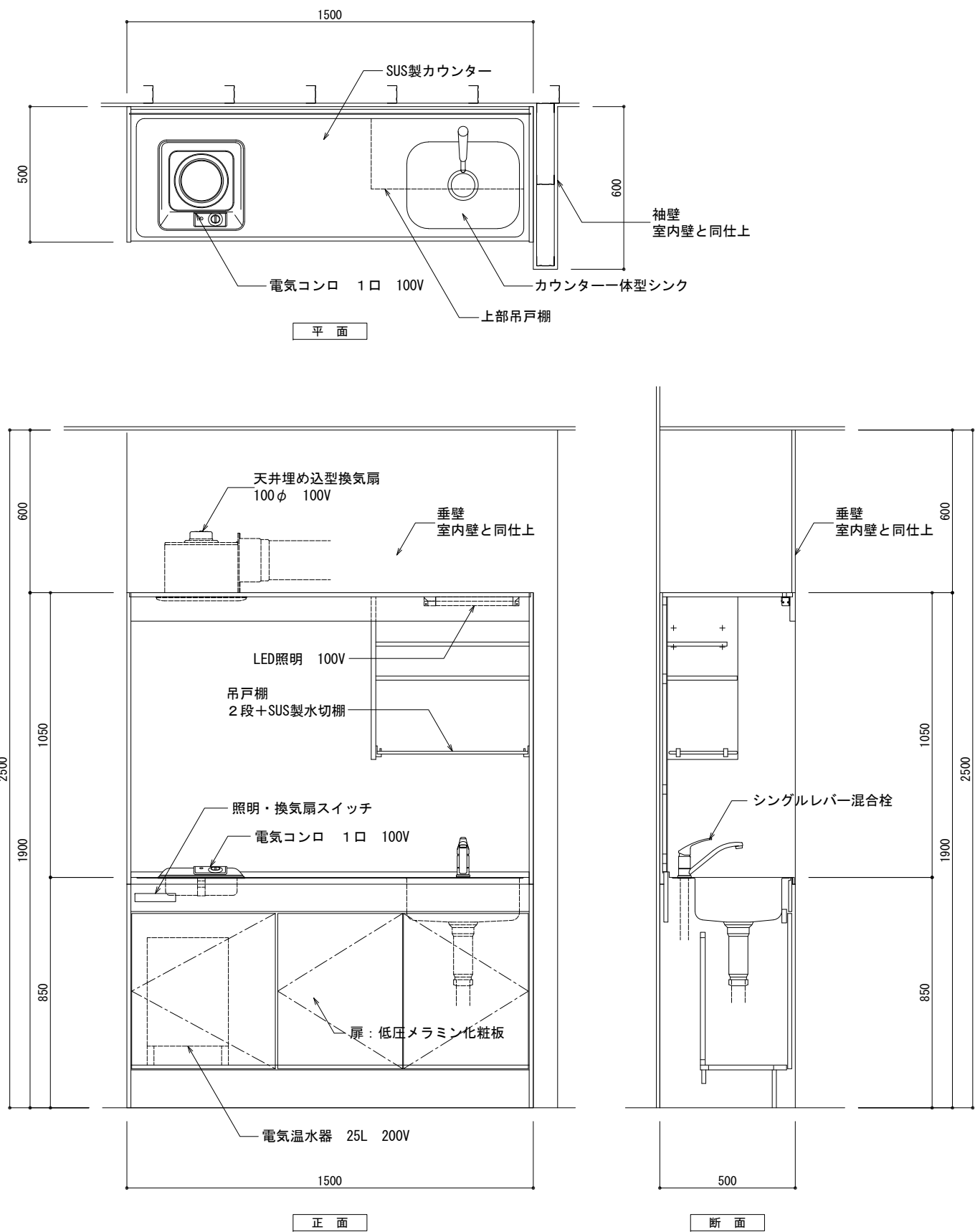
Dー	ブラインドボックス(天井埋込)詳細図	1/5	Dー	ブラインドボックス(露出)詳細図	1/5	Dー	アルミ製庇詳細図（参考）	1/10	Dー	トイレブース詳細参考図	1/5																												
 <p>仕 様</p> <p>1)材質：アルミ製押出し型材 表面処理：BC-1種 2)ビス：SUS304 リベット：アルミ製 3)下地金物：亜鉛メッキ仕上 4)ブラインド：横型アルミ製ブラインド</p>			 <p>仕 様</p> <p>1)材質：アルミ製押出し型材 表面処理：BC-1種 2)ビス：SUS304 リベット：アルミ製 3)下地金物：亜鉛メッキ仕上 4)ブラインド：横型アルミ製ブラインド</p>			 <p>本体：アルミ合金押出型材(JIS H4100 A6063S5-T5) エンドプレート付き 先端流し、アームレスタイプ、フラットタイプ カラー：ステンカラー 電解着色、JIS H 8602に規定される種類 A 2</p>			 <p>仕 様</p> <p>1)材質：鋼製 溶融亜鉛めっき仕上 2)耐荷重区分：T-14</p>																														
Dー	受付カウンター詳細図（参考）	1/5	Dー	上がり框詳細図（参考）	1/5	Dー	O Aフロア詳細図（参考）	1/2	Dー	グレーチング蓋詳細図 GR-1	1/5																												
 <p>⑥ 仕 様</p> <p>1)材質（仕上・下地共）：SUS304 ヘアライン仕上</p>			 <p>仕 様</p> <p>1)材質（仕上）：SUS304 ヘアライン仕上</p>						 <p>仕 様</p> <p>1)材質：鋼製 溶融亜鉛めっき仕上 2)耐荷重区分：T-14</p>																														
Dー	階段壁付き手すり詳細図	1/10	Dー	鉄骨階段手すり詳細図	1/10	<table><tr><td colspan="3">設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</td><td colspan="3">南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</td><td rowspan="2">図面番号 <b>A-37</b></td></tr><tr><td colspan="3">建築士登録番号（大臣）第338574号</td><td colspan="4">自己搬入棟 部分詳細図（1）</td></tr><tr><td colspan="3">建築士氏名 野口 一彦</td><td colspan="3">縮尺 1/10, 1/5</td><td rowspan="2">南房総市</td></tr><tr><td>検 図</td><td>製 図</td><td>設 計</td><td colspan="4">令和7年10月</td></tr></table>						設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）			図面番号 <b>A-37</b>	建築士登録番号（大臣）第338574号			自己搬入棟 部分詳細図（1）				建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/10, 1/5			南房総市	検 図	製 図	設 計	令和7年10月			
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）			図面番号 <b>A-37</b>																																	
建築士登録番号（大臣）第338574号			自己搬入棟 部分詳細図（1）																																				
建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/10, 1/5			南房総市																																	
検 図	製 図	設 計	令和7年10月																																				
 <p>正面</p> <p>断面</p>			<p>特記なき限り鉄部見え掛り部分はSOP塗りとする。</p> 																																				





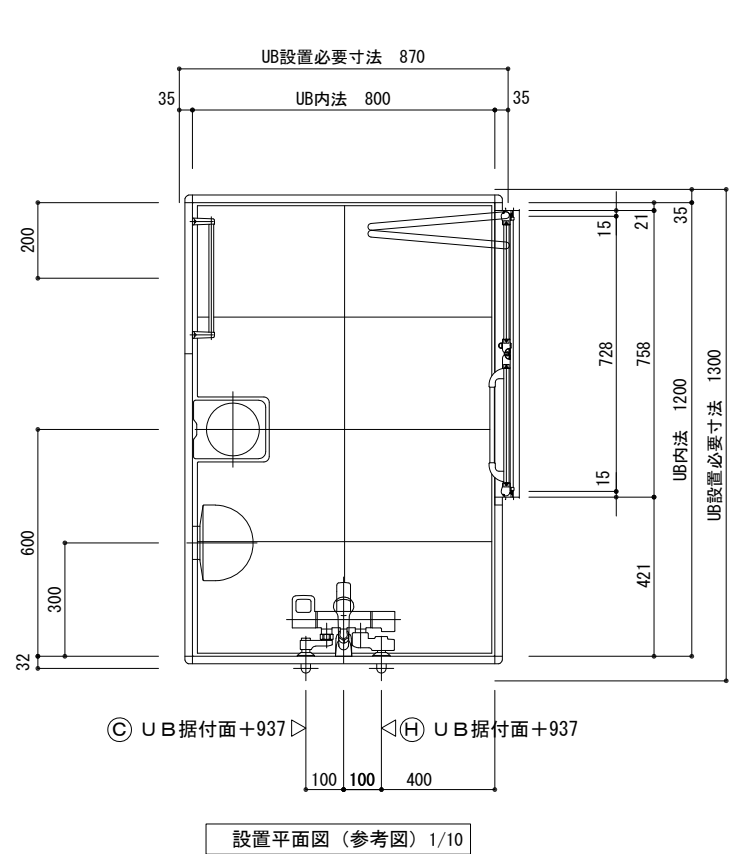
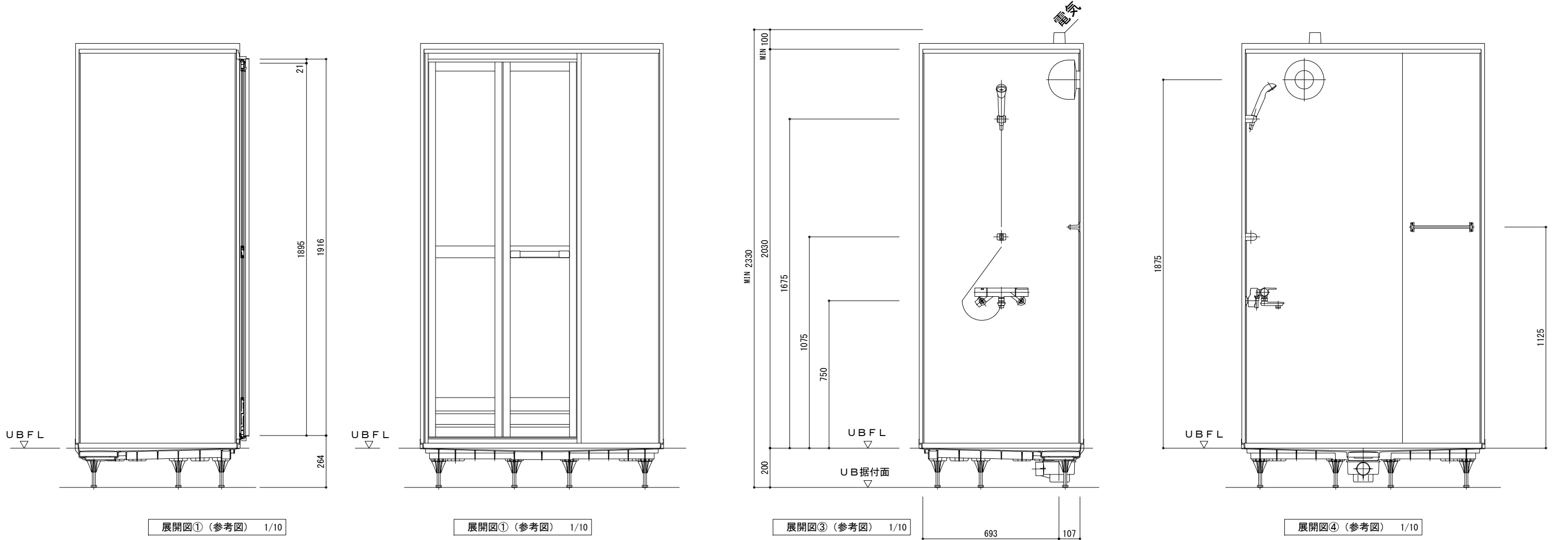


特記なき限り図示の機器類及び付属品はキッチン工事とし、電源及び給排水接続は設備工事とする。

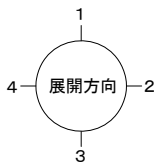


設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号
建築士登録番号（大臣）第338574号			縮尺		A-41
建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 部分詳細図（5） 1/10		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		





シャワーユニット仕様（参考表）				
名 称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備 考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル（モール式・ねじ固定可） 点検口φ450（絞り点検口・落下防止用紐付）	アイルホワイト		
壁パネル	HQパネル	キューブホワイト		
床パネル	FRP カラリ床（単色）	ミルトホワイト		
ド ア 枠	アルミアルマイト処理	アイボリー	（付枠用取付ネジUB支給、 ネジ取付および付枠別途）	
ドアパネル	折戸 ドア脱着機構付 面材：型板スチレン板 W＝800（有効開口幅 671mm）	アイボリー 面材：半透明		
シャワー水栓	TMHG40B5B サーモスタットシャワー金具 湯側断熱脚カバー付（スバウト短寸 L＝70）			SSGBS
シャワーヘッド	スプレーシャワー TN118CLL3B シャワーハンガー TH556F3R#NG2B			SSGBS
照明	防湿型半球形照明 電球型蛍光灯ランプ（EFA15EL形）樹脂製 VV F1.6φ×2C L＝2.0m付		（以降接続別途）	
ジョイントボックス	エコノミージョイント WJ3107相当品		（ジョイントボックスま での配線及びジョイント ボックス内の結線別途）	
換気グリル	ABS樹脂 接続部外径φ99	アイルホワイト	（以降接続別途）	
給水エルボ	シャワー用 青銅鋳物製 接続口 Rc1/2		（以降接続別途）	
給湯エルボ	シャワー用 青銅鋳物製 接続口 Rc1/2		（以降接続別途）	
排水トラップ	ABS樹脂 封水深50mm 接続口 VP50受口 ヘアーキャッチャー付 高圧洗浄管対応		（以降接続別途）	
タオル掛け	ステンレスパイプ φ13 L＝300	ホワイト		



設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-42
建築士登録番号（大臣）第338574号			縮尺		
建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 部分詳細図（6） 1/10		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

建 築 概 要

建 物 名	パッカー車棟
敷 地 面 積	5,797.12 ㎡
構造・規模	平屋建て
建 築 面 積	103.94 ㎡
延べ床面積	103.28 ㎡
耐火建築物	その他建築物
軒 高 さ	5.34 m
最高の高さ	5.59 m

地域・地区等

法令・条項	項 目	該当事項
都 計 法	都市計画区域	都市計画区域外
建基法43条	敷地等と道路との関係	市道丸山8号線 幅員 10 m
建基法48条	用途地域	指定なし
建基法52・53条	容積・建ぺい率（全施設）	容積率：制限なし 建ぺい率：制限なし
建基法56・56の2条	建築物の高さ □ 斜線 日影	制限なし
建基法22・61・62条	防火地域等	指定なし
その他の法令・条例	騒音規制、各種保全地域 宅地規制、公園法、その他	指定なし

その他確認事項

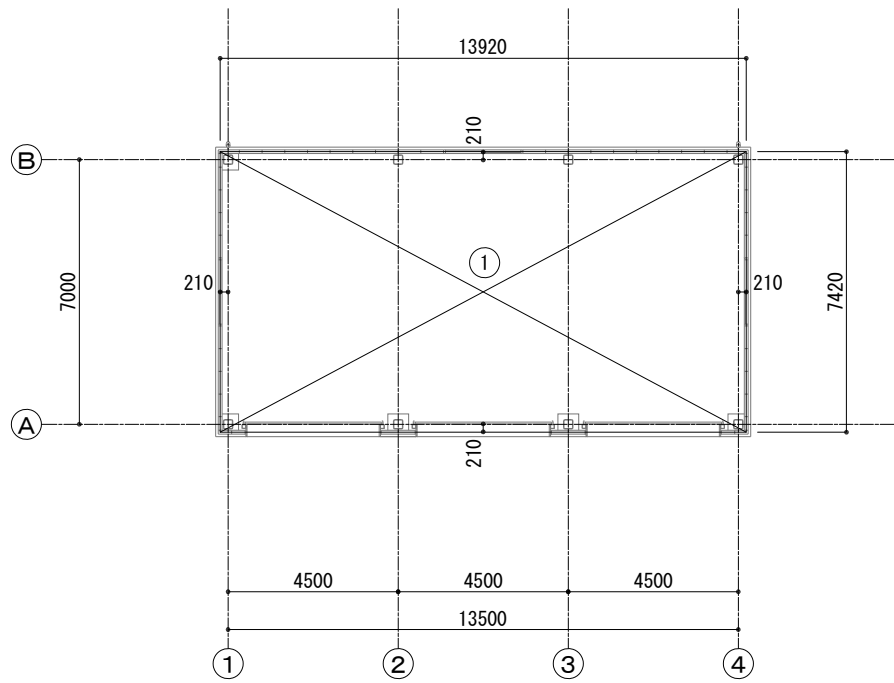
項 目	摘 要
防 火 対 象 物	⊙ 防火対象物 第 1 3 項 ・ 協議済

消 防 法（令）

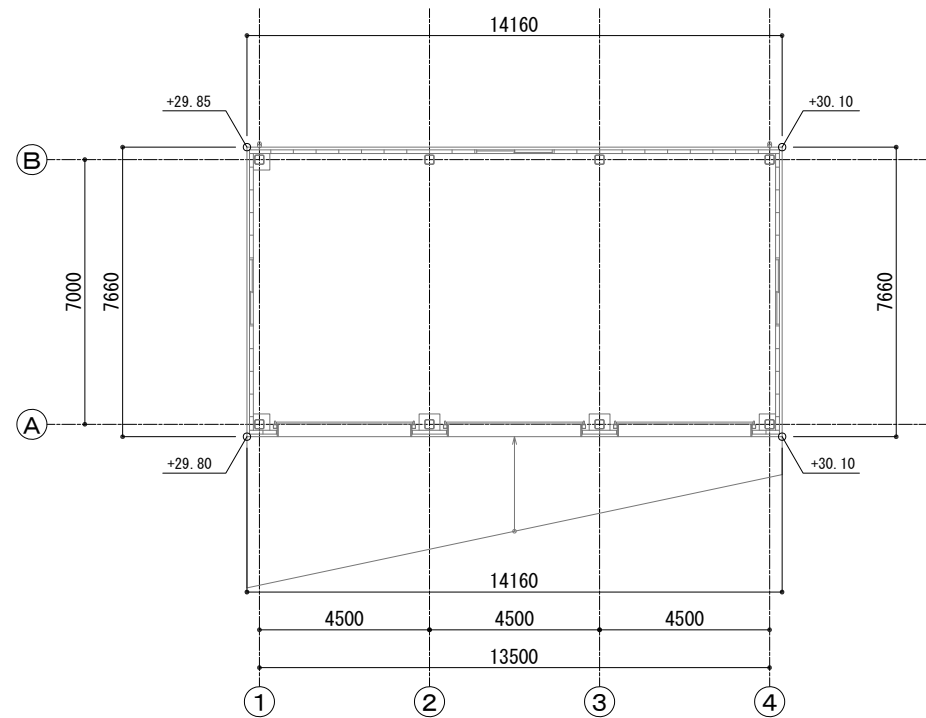
審 査 項 目		法令条項 法 令		チ ェ ッ ク	判 定
消 火 設 備	消 火 器 具	1 7	1 0	延べ面積（ 103.28 ㎡ ） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積（部分： 0 ㎡ ） ⊙ 設置 [延べ面積 150㎡ を超える又は地階等の部分で床面積 50㎡以上] ・ 不 要	○ K
	水噴霧消火設備等		1 3 ～ 1 8	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積（部分： 0 ㎡ ） ・ 設置 [発電機室等の部分で床面積 200㎡ 以上] ・ 緩和申請する ⊙ 不 要	○ K
	屋 外 消 火 栓 設 備		1 9	地上階の1階又は1＋2階の床面積（ 753.96 ㎡）構 造（ S 造 ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階 3m、 2階 5m は1の建築物とみなす ・ 設置 [耐火構造で 9,000㎡ 以上] ⊙ 不 要	○ K
警 報 設 備	自動火災報知設備		2 1	延べ面積（ 103.28 ㎡ ） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積（部分： 103.28 ㎡ ） ・ 設置 [延べ面積500㎡以上又は地階等の部分で床面積300㎡以上] ⊙ 不 要	○ K
	非 常 警 報 設 備		2 4	地階階数（ 0 ） ・ 設 置 [地階階数3以上但し自火放設備無し] ⊙ 不 要 [地階階数2以下又は自火放設備有り]	○ K
避 難 設 備	誘導灯・誘導標識		2 6	[避難口・通路誘導灯] 地 階 ・ 有 ⊙ 無 無窓階 ・ 有 ⊙ 無 ・ 設 置 ⊙ 不 要 [誘導標識] ⊙ 設 置 ・ 不 要 [誘導灯の有効範囲内]	○ K
そ の 他	消 防 用 水		2 7	敷地面積（ 5,797.12 ㎡ ）床面積（ 753.96 ㎡ ）構 造（ S 造 ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階 3 m、2階 5m かつ建築物の床面積を1,500㎡でそれぞれ除した商の和が1以上となるものは1の建築物とみなす ・ 設置 [敷地面積が 2万㎡ 以上かつ耐火構造で床面積が 1.5万㎡ 以上] ⊙ 不 要	○ K
	連 結 散 水 設 備		2 8の 2	・ 地階の床面積合計（ 0 ㎡ ） ・ 設置 [地階の床面積の合計 700㎡ 以上] ⊙ 不 要	○ K
無 窓 階	無 窓 階		規則・ 5－2	避難上消火活動上有効な開口部 ・各階共の床面積の 1/30 以上有り ⊙床面積の 1/30 未満の階有り（ 1 階 ）	○ K
	緩 和 適 用 条 項		3 2	・屋内消火栓設備 ・水噴霧消火栓設備 ・屋外消火栓設備 ・消防用水 ・連結散水設備 ・自動火災報知設備	
危 険 物	危 険 物 の 制 限 等		1 0	軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所	
				・少量危険物 室名（ ） ・一般取扱所 （ ） ・貯 蔵 所	
				危険物の量（ ） 構造及び仕上（ ）	

建 築 基 準 法（令）		防火区画・防火戸	防 火 区 画		排 煙	非常照明	非常用出入口	内 装 制 限	そ の 他
審 査 項 目	法令条項 法 令		チ ェ ッ ク	判 定					
耐火・難燃構造等	地域・規模による構造制限	6 1 6 2	防火地域→階数（ ） 延べ面積（ ㎡ <sup>2</sup> ） 構 造（ ） [階数3以上又は延べ面積100㎡を超えるもの 耐火、左記以外準耐火又は耐火] 準防火地域→階数（ ） 延べ面積（ ㎡ <sup>2</sup> ） 構 造（ ） [階数4以上又は延べ面積 1,500㎡ を超えるもの 耐火] [階数3又は延べ面積 500㎡ を超え、1,500㎡ 以下 準耐火又は耐火]		OK				
	屋 根 葺 材	2 2 1 0 9 の 5 1 3 5 の 2 2	構 造（ ） 屋根材（ ） ・ 法第22条の区域 [告示 1351 号] ・ 法第63条の区域 [告示 1365 号] ⊙ 区域外						
居室の採光・換気等	居室の採光及び換気	2 8	[法規チェック図（1）の計算書による]						
	換気設備の技術的基準	2 0の 2～4	・ 有 → 室名（ ） 火を使用する居室の有無 換気方法（ ） ・ 無						
	換気設備（自然給気）	129の 2の2	給気口高さ（ m ）／天井高さ（ ） ≤ 1/2 排気口位置天井面から（ cm ） ≤ 80 cm						
	窓その他開口部を有しない居室	3 5 1 1 6 の 2	無 窓 居 室 ・ 有 室名（ ） ・ 無						
	無窓居室の主要構造部	3 5 の 3	構 造（ ） [耐火構造又は不燃材料]						
階 ・ 廊 下	2以上の直通階段	1 2 1 3 5 1～3	居室の床面積 避難直上階（ ㎡ ）／400 ㎡ 1・2ヶ所 その他の階（ ㎡ ）／200 ㎡ 1・2ヶ所						
	避難階段の設置及構造	1 2 2 1 2 3	地上（ ）階、地下（ ）階 ・ 避難階段 [5階以上、地下2階以下] ・ 特別避難階段 [15階以上、地下3階以下] ・ 該当せず						
	直通階段・歩行距離	1 2 0 1 2 5	無窓居室 →歩行距離（ m ）≤30 ・ 10m を加えている その他の居室→歩行距離（ m ）≤50 [廊下・階段 準不燃]						
	階段・踊場の幅 け上げ・ふみ面寸法	3 6 2 3	直上階居室計（ ㎡ ） >200㎡ →（ m ）≥1.2m、（ ）≤20/≥24 上記外 →（ m ）≥0.75m、（ ）≤22/≥21						
	踊場の位置及び 直階段のふみ幅	2 4	階高（ ）m ・ 4mまで ・ 4m以上に付き踊場設ける（ ）ヶ所、ふみ幅1.2m以上（ m）						
	階段及び踊場の手すり	2 5	階段の幅・高さ（ m、 m） 一般手すり ・ 設置 中間手すり ・ 設置 [幅 3m、かつ高さ 1mを超える] ・ 不要						
	廊 下 幅	3 5 1 1 9	その階の居室の床面積の合計[A]（ ㎡ ）、廊下幅（ m） [ A > 200㎡は、両側居室 1.6m 以上、 片側居室 1.2m 以上]						
	屋 外 階 段	2 3 1 2 1 の 2	直通階段の幅（ cm ）≥90cm、その他の階段（ cm ）≥60cm 直通階段の構造（ ） [木造以外]						
路上広場・バルコニー等の 手摺	1 2 6	高さ（ m ） ≥ 1.1 m							

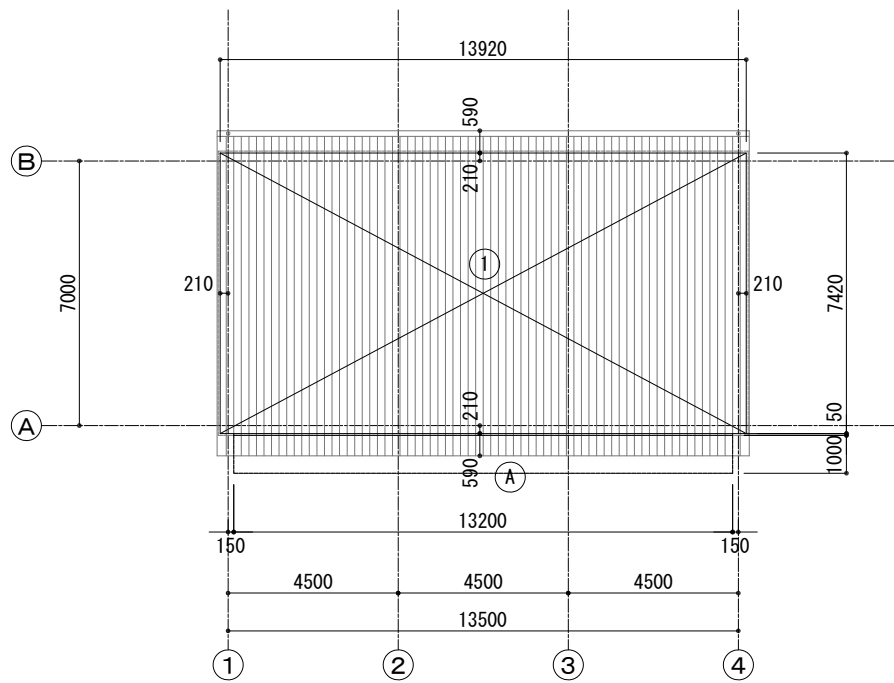
指定建築材料は法37条適合品とする。



パッカー車棟 床面積算定図 1/100



パッカー車棟 平均地盤面算定図 1/100



パッカー車棟 建築面積算定図 1/100

平均地盤面算定表					
方位	標高①	標高②	平均標高	長さ	平均標高×長さ
南 面	29.800	30.100	29.950	14,160	424,092
東 面	30.100	30.100	30.100	7,660	230,566
北 面	30.100	29.850	29.975	14,160	424,446
西 面	29.850	29.800	29.825	7,660	228,460
合 計				43,640	1,307,564
平均地盤面	Σ(平均標高×長さ) / Σ(長さ)				29.96

延床面積 (㎡)			
階	符 号	計 算	計
1 階	①	13.920 X 7.420 = 103.286	103.28
延床面積		103.28 ㎡	

建築面積 (㎡)			
階	符 号	計 算	計
1 階	①	13.920 X 7.420 = 103.286	103.28
	②	13.200 X 0.050 = 0.660	0.660
建築面積		103.94 ㎡	

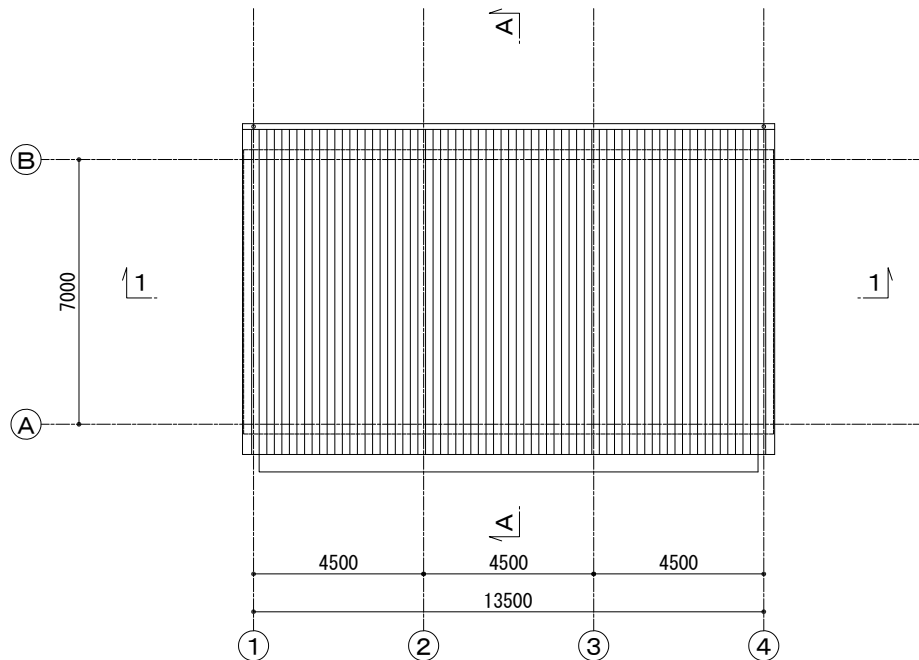
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-44
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 パッカー車棟 法規チェック図 ー		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

パッカー車棟 仕上表											
共 通 事 項		略 号		外部付属物及び詳細番号				内部付属物及び詳細番号			
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。 2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、（例）１－０２－３は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修）を示す。 3. 特記以外の木、鉄部の塗装はS O Pとする。但し、和室回りは除く。 4. 付属物のうち、室名札、床点検口、揭示板、案内板、ピクトグラム、階段表示板等は、平面図による。 5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 6. P F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 7. 内壁の見え掛りとなるP F板打込み部分は、G B厚1 2. 5直張り（縦目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。 8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。 9. 天井仕上ボード張りのうち、G B-N C（N T）及びD R（下地G B共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0. 1 5の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。 11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。 12. 打放し仕上げの梁型は、側面をB種、底面をC種とする。		C C B W L G S G B-R G B-N C（N） G B-N C（N T） G B-D（W） G B-S G B-F ケイカル板 D R D R（凹凸） D R（軒天） D R（軒天凹凸） P F板 木毛板 T B 外装薄塗材（E） 内装薄塗材（S i） 内装薄塗材（E） C（B） C（C） M 軽量吹付 合成塗床	コンクリート コンクリートブロック 木造 軽量鉄骨 せっこうボード 不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用） 不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様） 木目化粧せっこうボード シージングせっこうボード 強化せっこうボード けい酸カルシウム板（タイプ2） ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 凹凸模様 ロックウール化粧吸音板 軒天井用：トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 軒天井用：凹凸模様 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木質系セメント板 テラゾーブロック 外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 内装けい酸質系薄付け仕上塗材 内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 コンクリート打放し（B） コンクリート打放し（C） モルタル 軽量骨材仕上塗材 合成樹脂塗床	複層塗材（C E）ポリマーセメント系複層仕上塗材 複層塗材（E）合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（R E）反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（S i）けい酸質系複層仕上塗材 C L クリヤラッカー塗り A E アクリル樹脂エナメル塗り D P 耐候性塗料塗り E P-G つや有合成樹脂エマルションペイント塗り E P 合成樹脂エマルションペイント塗り U C ウレタン樹脂ワニス塗り O S オイルステイン塗り S O P 合成樹脂調合ペイント塗り N A D アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り L E ラッカーエナメル塗り W P 木材保護塗料塗り 防水形複層塗材E 防水形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材	・ 屋上点検口 ・ 屋上管類取り出し口 ・ ケーリング架基礎 ・ テレビアンテナ基礎 ・ 屋上換気塔 ・ 煙 突 ・ タラップ  ○ と い ・ ルーフドレン  ・ トップライト ・ E X P、J金物 ・ 笠木兼用避雷導体 ・ 手すり  ・ 旗 竿 ・ くつふきマット	・ 5-21-1 ・ 5-22-1 ・ 5-22-2 ・ 5-22-3  ・ 5-21-2 ・ 図 示 ・ 8-31-1 ・ 8-31-2 ・ 8-31-3  ○ 5-31, 32, 33 ・ 5-32-1 ・ 5-33-1 ・ 図 示 ・ 既製品 ・ アルミ（図示） ・ ステンレス（図示） ・ スチール（図示） ・ 図 示 ・ 8-21-1（ｽﾎﾟﾘｽ製） ・ 8-21-2 ・ 8-21-3	・ くつ洗い流し ・ グレーチング ・ 電気用ﾊﾝﾄﾞﾎﾙﾀﾞ ・ 文字板 ・ 庁名板 ・ 郵便受 ○ 目地  ○ 2-02-8～12 ・ 図 示	・ 流し台 ・ 6-11-1 ・ 図 示 ・ フード ・ 6-11-2 ・ 図 示 ・ コンロ台 ・ 6-11-1 ・ 図 示 ・ 流し上部水切り ・ 6-11-4 ・ 6-11-5 ・ 図 示 ・ つり戸棚 ・ 6-11-5 ・ 図 示 ・ 水切り棚 ・ 6-11-5 ・ 図 示 ・ 脱衣箱 ・ 6-32-1 ・ 3-42-2 ・ 7-12- ・ 天井点検口 ・ 3-42-2 ・ 既製品 ・ 断熱材打込み ・ 7-01-1 ・ 7-01-2 ・ 車椅子使用者用 ・ 6-23-1～3 ・ 簡易型便房 ・ オストメイト用便房 ・ 6-24-1～4 ・ 車椅子使用者用 ・ 6-25-1 ・ 便房 ・ 6-26-1～3 ・ 6-22-5・6 ・ 6-28-1～5 ・ トラフ ・ 1-21-1 ・ 8-21-1 ・ 図 示 ・ 足掛金物 ・ 図 示（土木工事） ・ 8-31-1 ・ 図 示 ・ 8-32-2 ・ 8-32-3 ・ U型 ・ 図 示 ・ E X P－J金物 ・ 既製品 ・ 誘導標識（平付け型 アクリル板 厚5 360×120 シルクスクリーン印刷）	・ カーテンボックス ・ 鋼 製 ・ 3-31-1・2 ・ ブラインドボックス ・ 図示 ・ アルミ製 ・ 3-31-3に準ずる ・ 室内揭示板 ・ 既製品 ・ 手すり ・ アルミ ・ 図 示 ・ 階段手すり ・ アルミ ・ 図 示 ・ 7-12- ・ 2-02-13 ・ 7-01-1 ・ 7-01-2 ・ 6-46-1 ・ 図 示 ・ ホイストレール ・ 図 示 ・ クレンガーター ・ 図 示 ・ 搬入口 ・ 図 示（土木工事） ・ マンホール蓋 ・ FRP製既製品（土木工事） ・ 室名札 ・ 8-43-1（250 x 50） ・ ピクトグラム ・ 8-44-1（200 x 200） ・ 庁舎案内板、各階案内板 ・ 図 示 ・ 図 示 ・ 下足箱 ・ 図 示 ・ E X P－J金物 ・ 既製品 ・ 誘導標識（平付け型 アクリル板 厚5 360×120 シルクスクリーン印刷）		

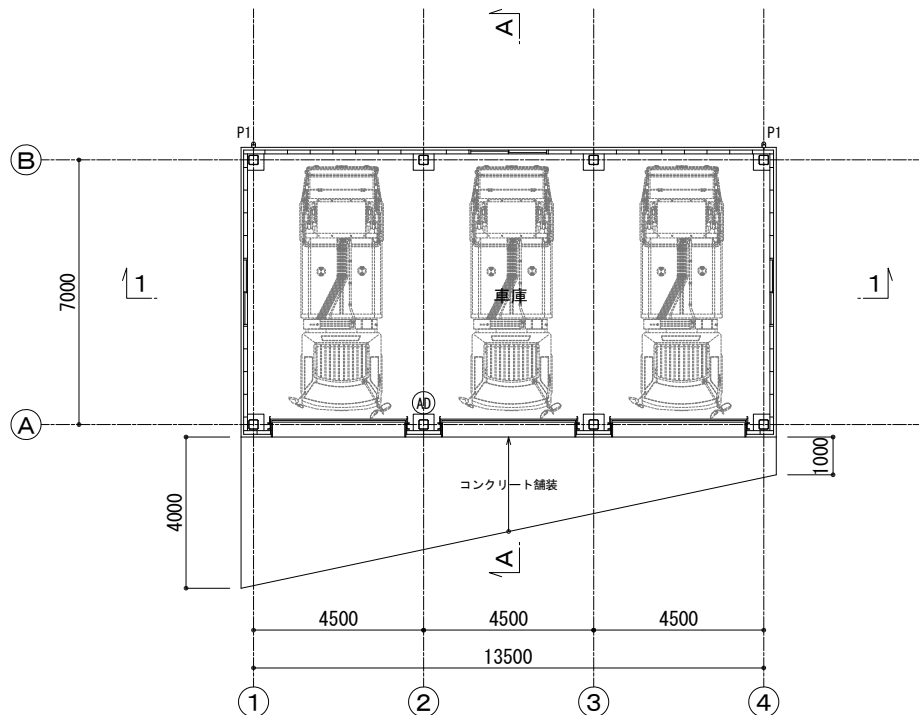
外 部 仕 上 表											
床	腰	外 壁	屋 根		パラベット	バルコニー		ひさし			備 考
			下地・防水層	押え・仕上		床	手すり	上 端	は な	軒 天	
コンクリート刷毛引き仕上（スロープ）	C（B）の上複層塗材E	ALCフラットパネル厚100の上複層塗材E		折板葺き 7㎔亜鉛合金めっき鋼板(ｸﾗｰ) 厚0.8 ｶﾞﾙﾄｲｸﾞ 山高150 裏貼材(無機質断熱材 厚4) (外部露出部分除く)						屋根折板表し	アルミニウム建具の仕上げ （無着色陽極酸化塗装複合皮膜 JISH8602のB）  たてどい 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) 100A

内 部 仕 上 表																								
階	室 名	床			幅 木				腰 壁				壁					天 井						備 考
		下地	仕 上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	詳細番号	柱型仕上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	梁型仕上	詳細番号	
1 階	車 庫	C	コンクリート直均し仕上	1-01-3					C	C（B）	2000	2-02-7	C	外壁材表し		鉄骨SOP		S	屋根折板表し	直天		鉄骨SOP		消火器

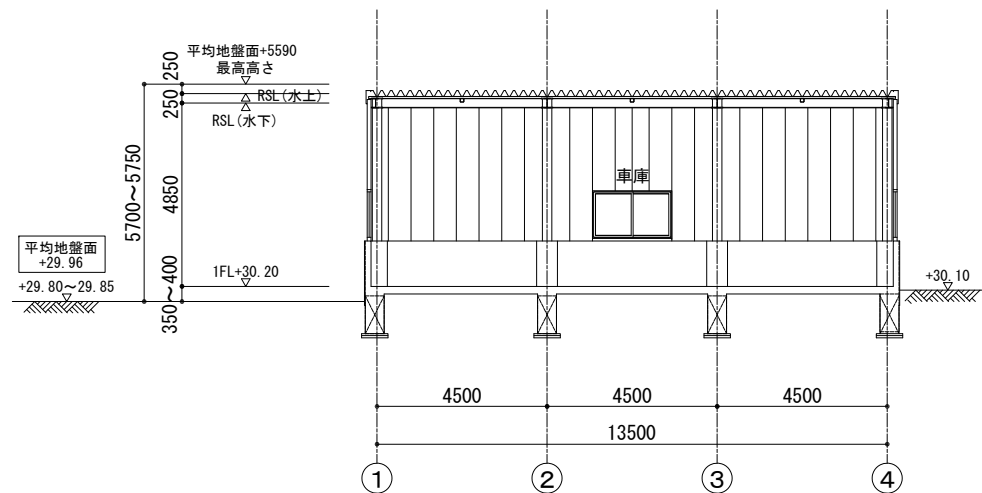
特記なき限り																		設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）			図面番号  <b>A-45</b>					
仕上材料の厚さ	材 料 名	種 別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	工事区分略号	< > (C) : 土木工事																	
	GB-R	仕 上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板（タイプ2）		12	10	NM-8578		< > (AM) : 建築機械設備工事																	
		下 地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温板		25	25			< > (AE) : 建築電気設備工事																	
	GB-NC (N)			9.5	NM-8613	壁紙（ビニールクロス）				NM-9754		< > (PM) : プラント機械設備工事																	
	GB-NC (NT)			9.5	又は同等	GB-S			12.5	QM-9826		< > (PE) : プラント電気設備工事																	
GB (W)			12.5	NM-8614	グラスウール吸音板		25	25	NM-8605																				
DR				12	NM-8599																								
																	検 図			製 図			設 計 令和7年10月			南房総市			



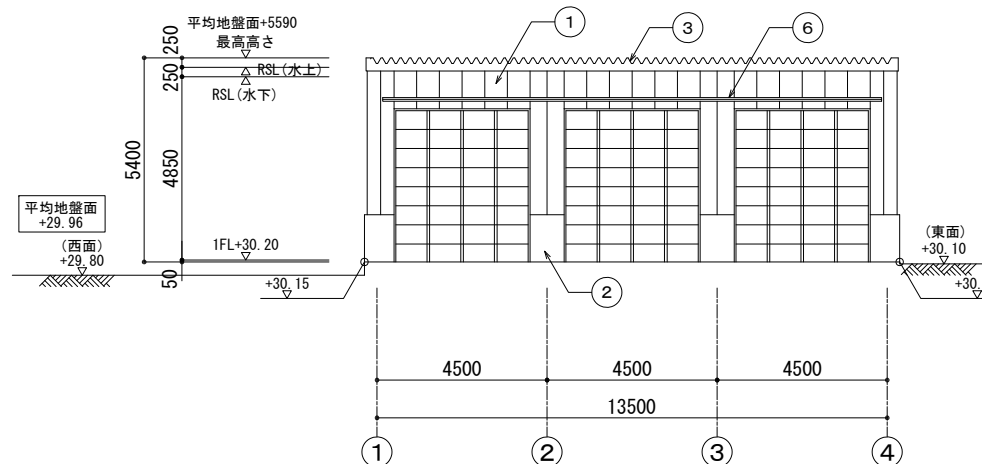
パッカー車棟 屋根伏図 1/100



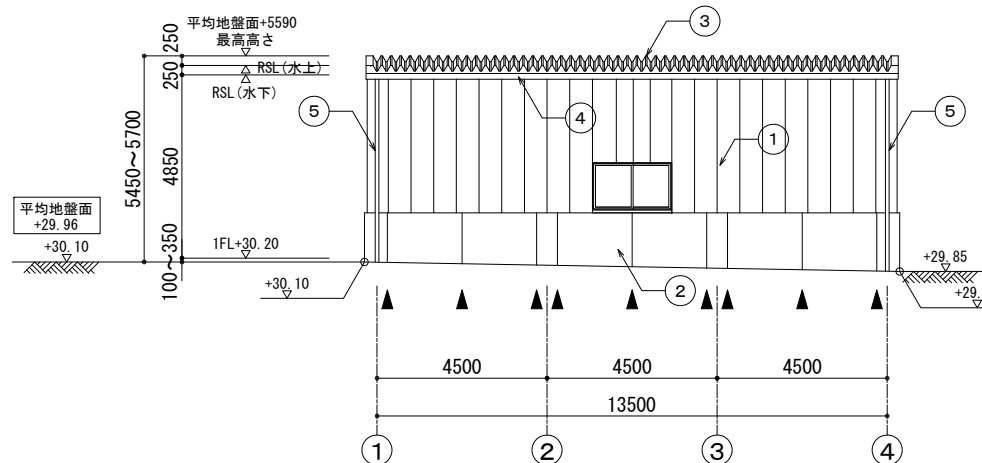
パッカー車棟 1階平面図 1/100



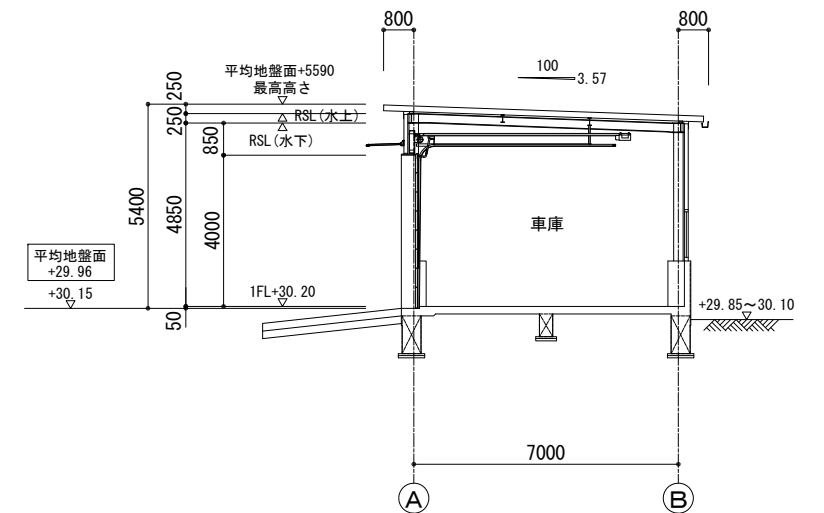
パッカー車棟 1-1断面図 1/100



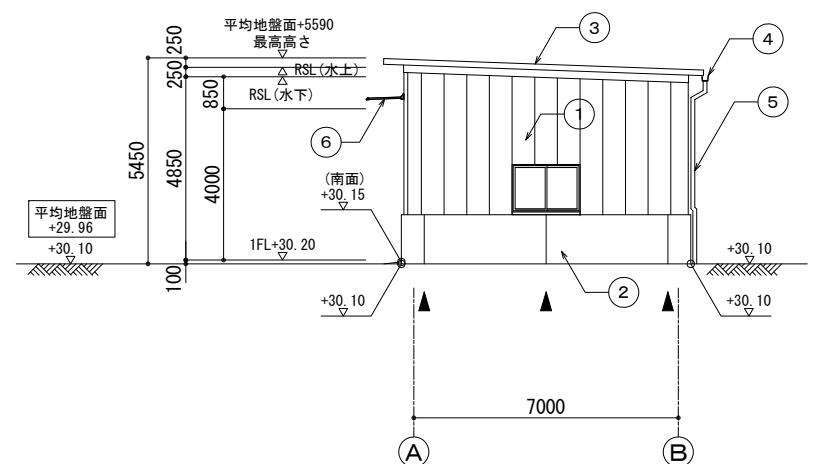
パッカー車棟 南立面図 1/100



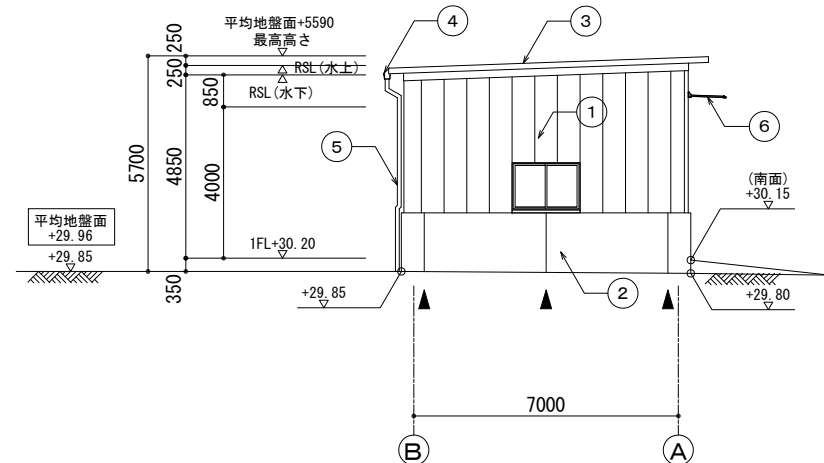
パッカー車棟 北立面図 1/100



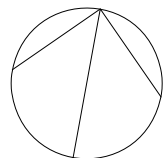
パッカー車棟 A-A断面図 1/100



パッカー車棟 東立面図 1/100



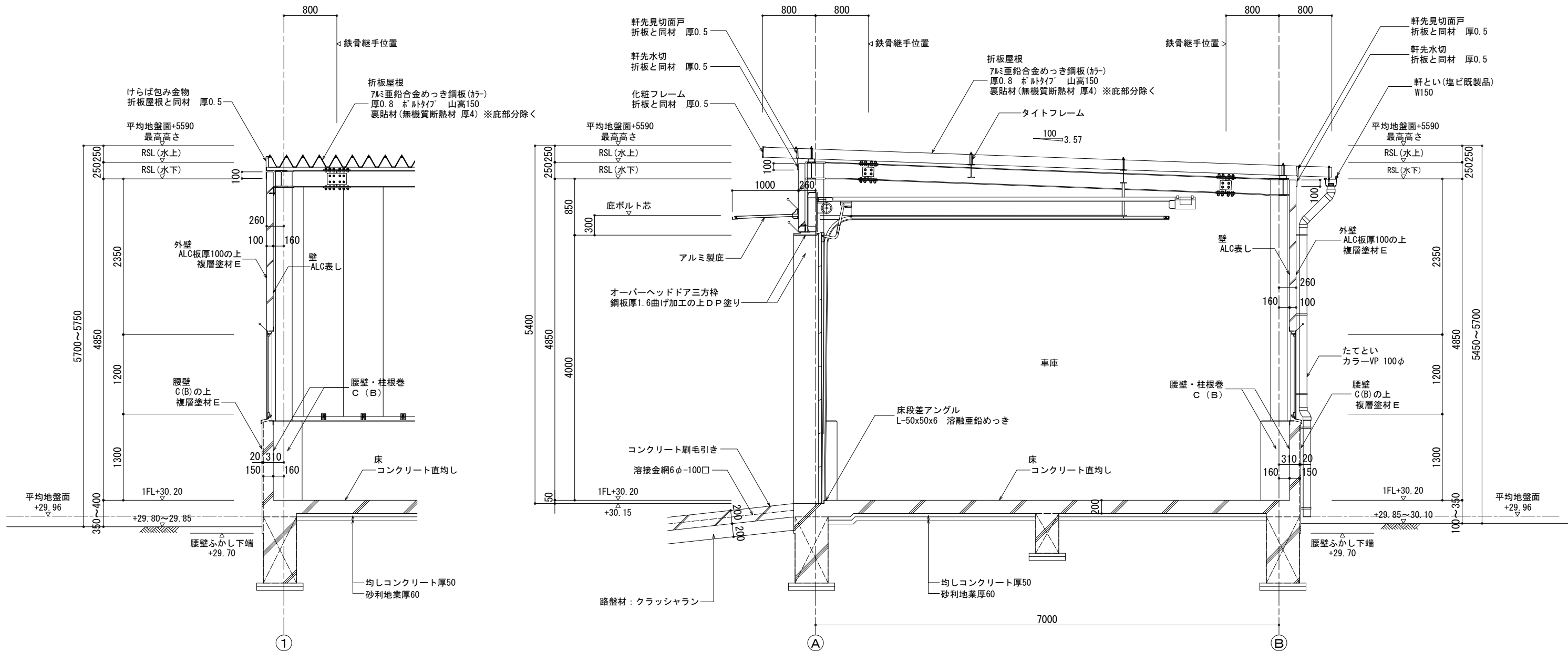
パッカー車棟 西立面図 1/100



平面図凡例	
○-P1	たてどい カラーVP 100A
ⒶD	小型粉末消火器 (第5種ABC10型)

立面図凡例		
①	外壁 ALCフラットパネル厚100の上複層塗材 E	⑤ たてどい カラーVP 100A
②	コンクリート打放し (B)の上複層塗材 E	⑥ アルミ製庇
③	折板葺き アルミ亜鉛合金めっき鋼板 厚0.8 山高150	▲ 伸縮目地 (誘発目地) (2-02-9、10)
④	軒とい 塩ビ既製品 W=150	△ 伸縮目地 (打継目地) (2-02-9)

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  A-46
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/100	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	

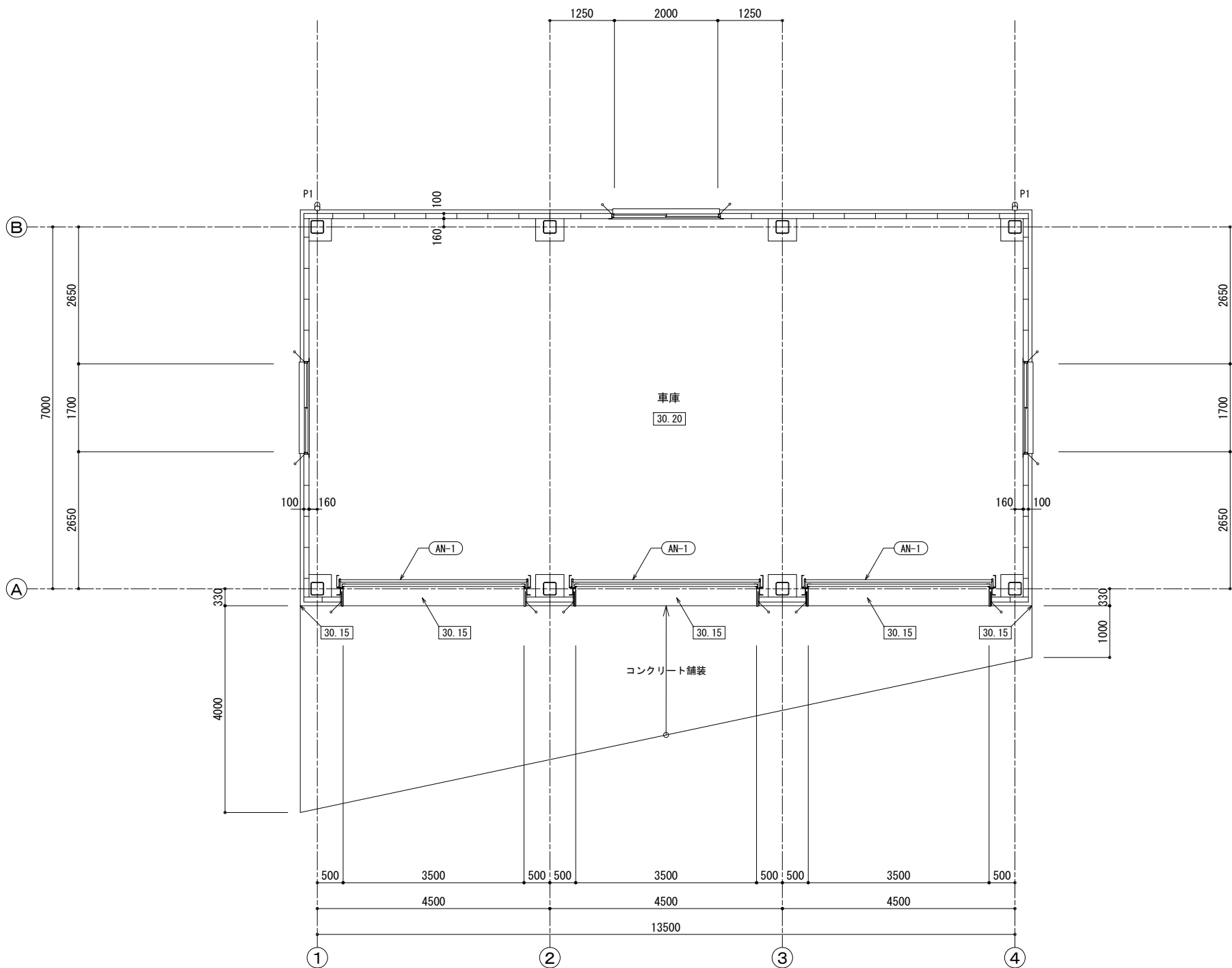


パッカー車棟 矩計図 1/30

特記なき限り、内部鉄骨見え掛り部分はSOP塗りとする。

凡 例
印はシーリングを示す

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  A-47
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/30	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	

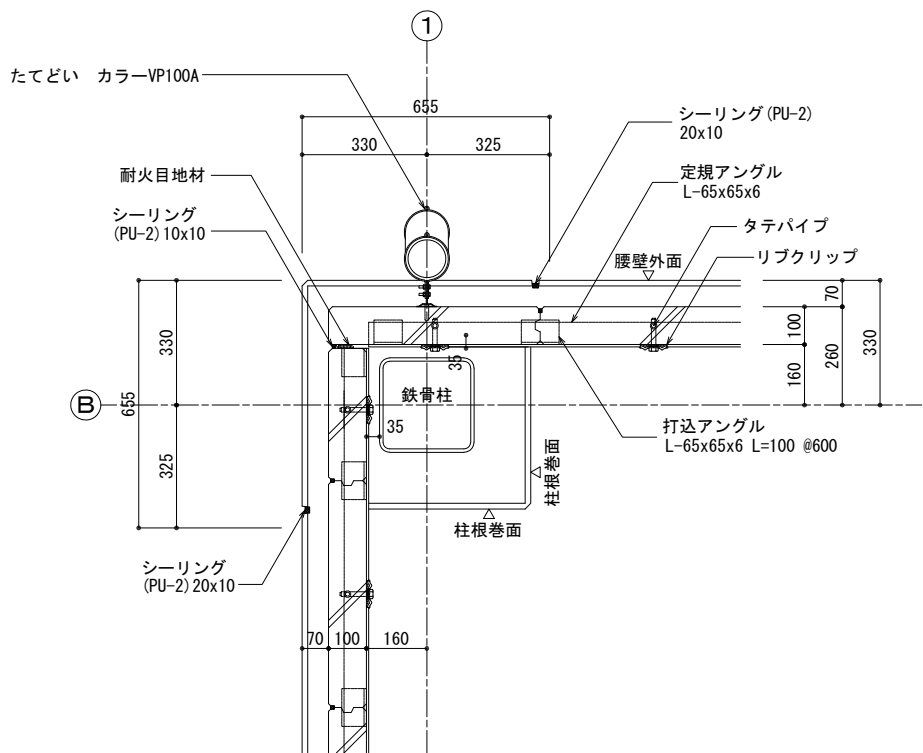


バックカー車棟 1階平面詳細図 1/50

凡 例	
AN-1	床段差アングル L-50x50x6 溶融亜鉛めっき
○ P1	たてどい カラーVP100A
**.*	床仕上げ高さ (TP+) を示す
/	シーリングを示す

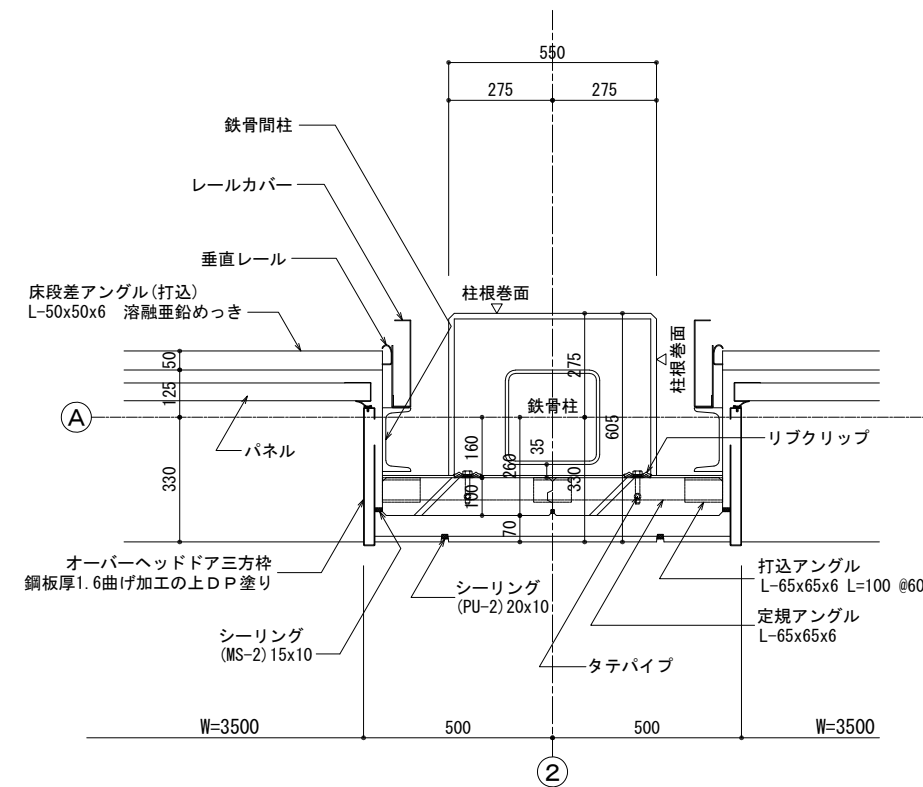
A L C外壁コーナー詳細図

1/10

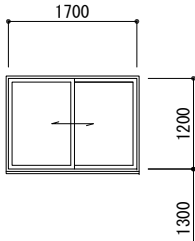
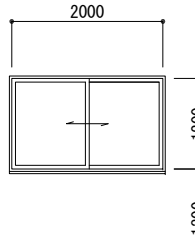


A L C外壁柱取合詳細図

1/10



設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-48
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/50, 1/10		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

パッカー車棟 建具表											
符号・名称・個数		AW P1	引違い窓	2	AW P2	引違い窓	1				
場所		車庫		車庫							
仕上（枠共）		ＢＢ－１種		ＢＢ－１種							
	見込（ランマ）										
	硝子（ランマ）	N 6. 8		N 6. 8							
	ガラリ										
	見込取合 沓摺	7 0		7 0							
	枠記号 沓摺（水切）記号	図 示		図 示							
建具金物		SUS製網戸 クレセント 付属金物一式		SUS製網戸 クレセント 付属金物一式							
その他											
形状・寸法											
	▽FL+30.20		▽FL+30.20								

符号・名称・個数		AOD P1	電動トロリー式オーバーヘッドドア (アルミパネル スタンダード型)	3	
場所		車庫			
仕上 (枠共)		メーカー仕様による塗装			
建具	見込 (ランマ)	パネル厚50 アルミ板厚は耐風圧による必要な厚さとする			
	硝子 (ランマ)				
	ガラリ				
建具枠	見込取合 沓摺				
枠記号	沓摺 (水切) 記号	別図による			
建具金物		見え掛り部鋼材は溶融亜鉛めっき			
その他		耐風圧:1250Pa 電源: 三相200V-0.3kW (参考値)			

形状・寸法					
-------	--	--	--	--	--

共通事項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。  
但し、押板、押棒、レバー・ハンドルの場合はシリンダ本締りとする。

2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。

3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。

4. A H、F Hを除きD Cの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止めをつける。壁仕上げボード類等の場合は床付けとする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網（SUS製1.5φ網目15×15）付きとする。

6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から800以上1,500以下とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（枠廻り詳細による。）

9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。

10. 防火戸の位置は建具配置図による。

11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。

12. 気密扉・簡易気密扉のゴムパッキンは建具四隅では継がないものとする。

13. 外部に面する扉の丁番は、差込丁番の使用は不可とする。

建具略号

種 別

戸

窓

ガラリ

紙障子

ふすま

シャッター

網 戸

アルミニウム製

A D

A W

A G

A O D

A S

a W

鋼 製

S D

S W

S G

S O D

S S

鋼 製 軽 量

L D

L S

ステンレス製

S S D

S S W

S S G

S S S

木 製

W D

W W

W G

P

H

ガラス略号

F

P

N

N P

型板ガラス

フロート板ガラス

網入型板ガラス

網入みがき板ガラス

金物略号

D C

A H

F H

P H

ドアクローザー

オートヒンジ

フロアヒンジ

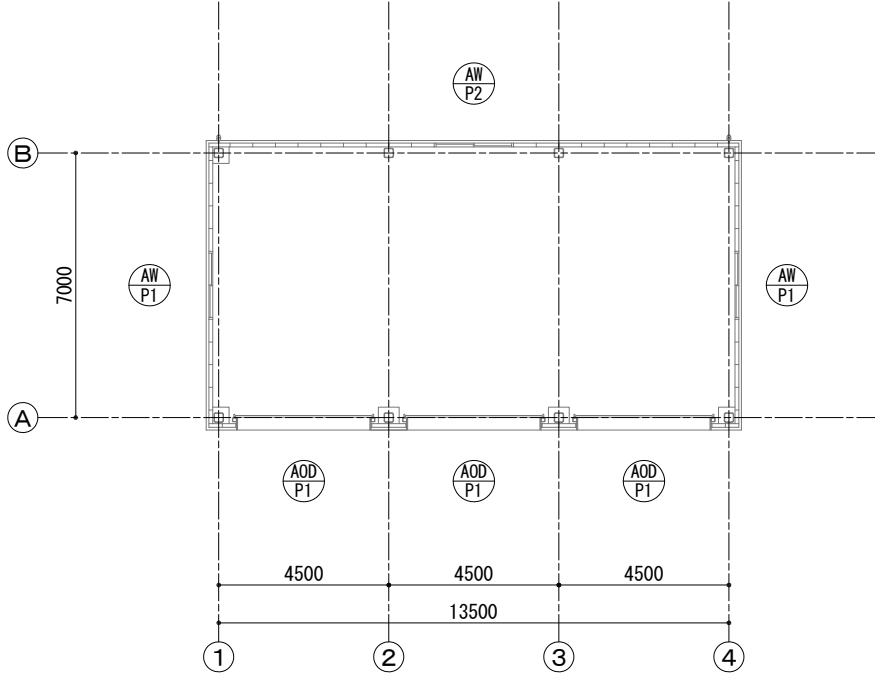
ビポットヒンジ

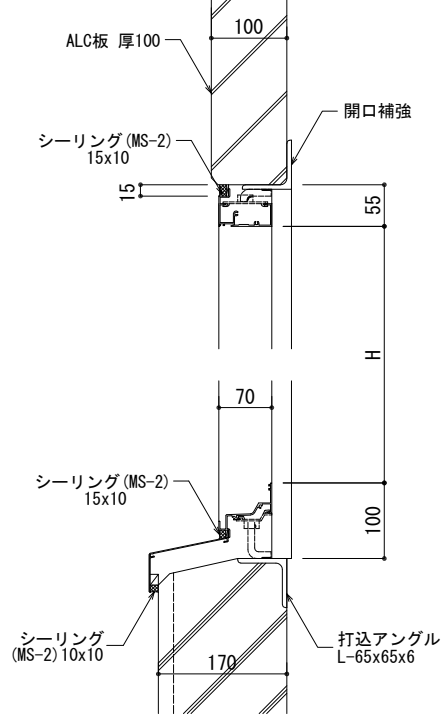
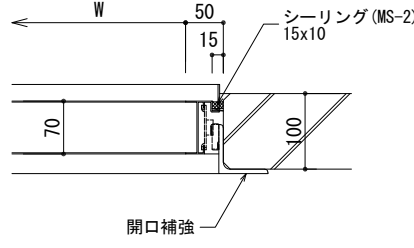
※防火設備はH12建設省告示第1360号に規定する構造又は国土交通大臣が認定する認定番号を取得したものとする。

※特定防火設備はH12建設省告示第1369号に規定する構造とする。

※防火区画に用いる防火設備の構造方法は、S48建設省告示第2563号に規定する構造とする。

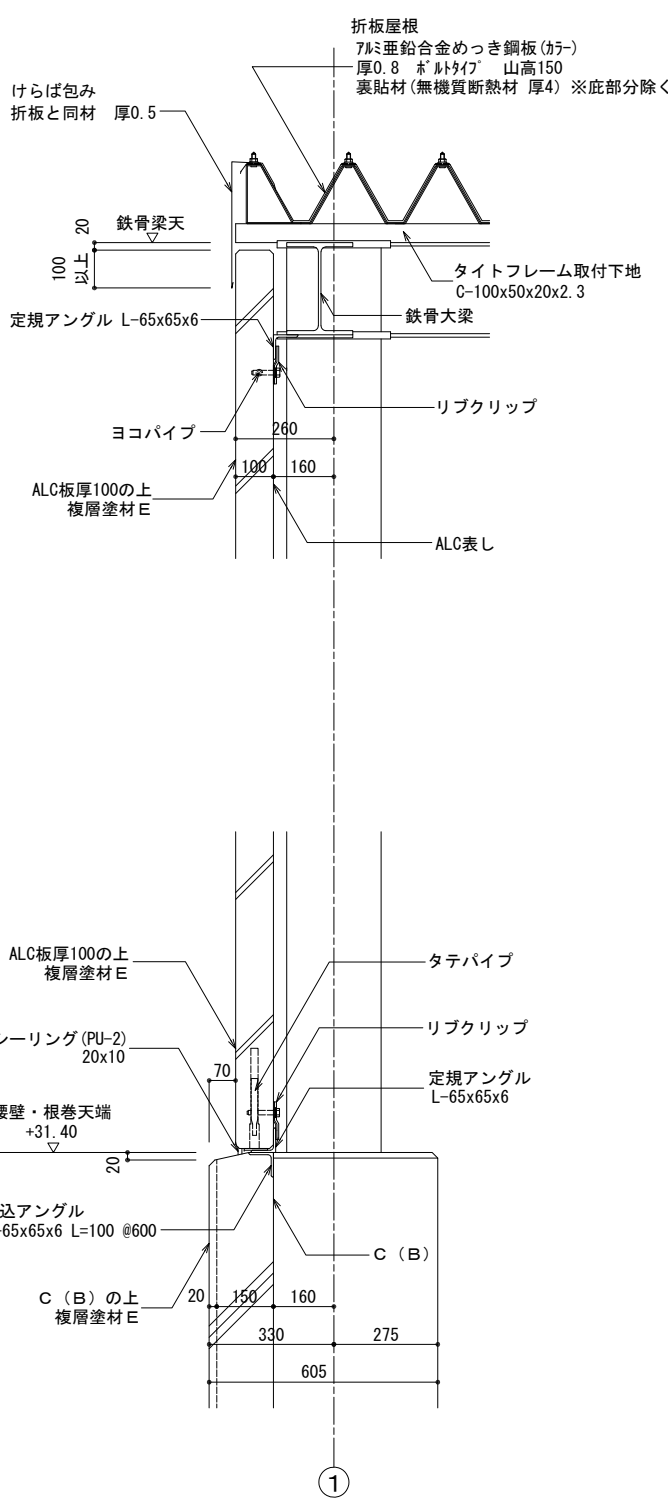
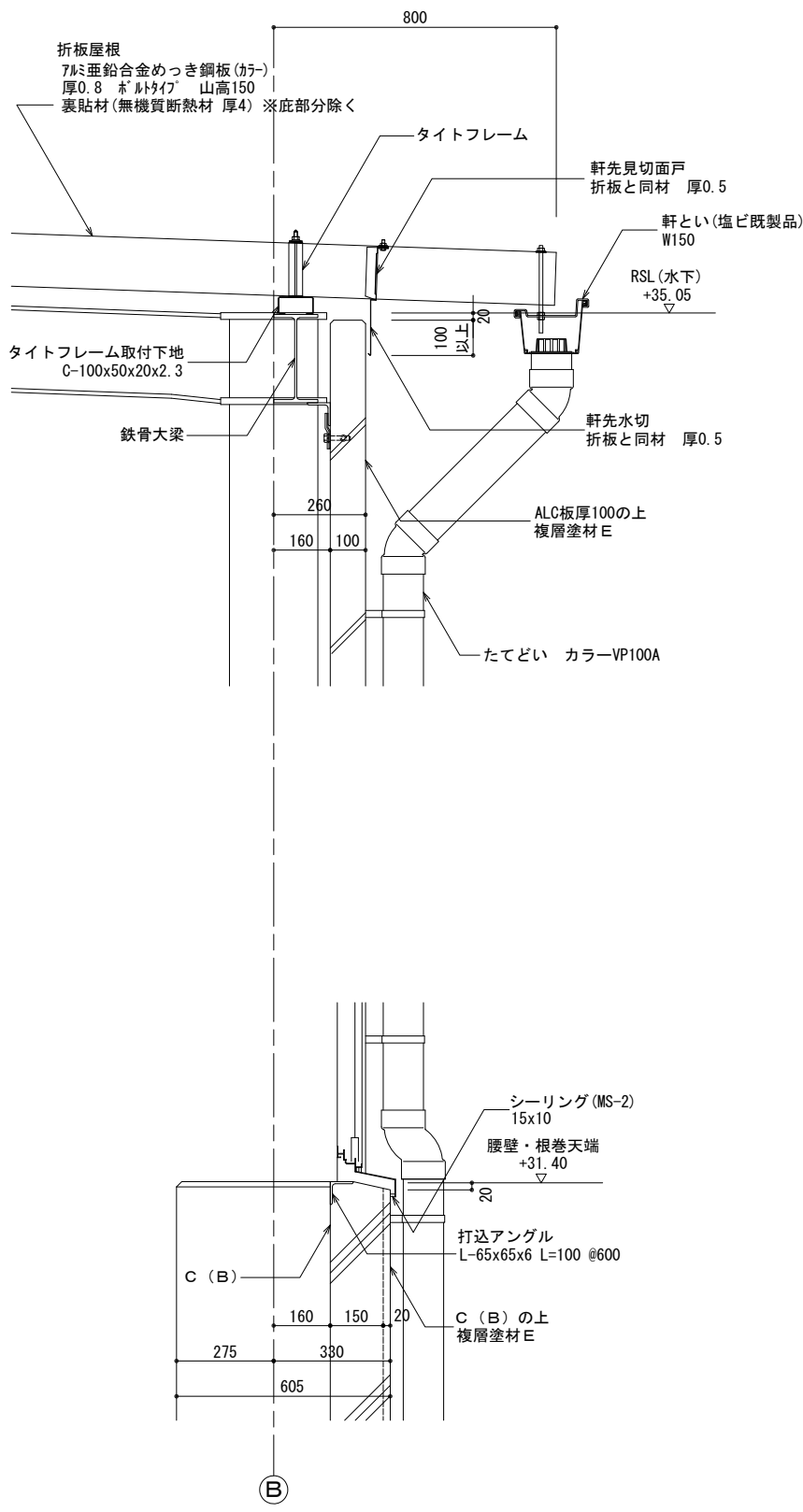
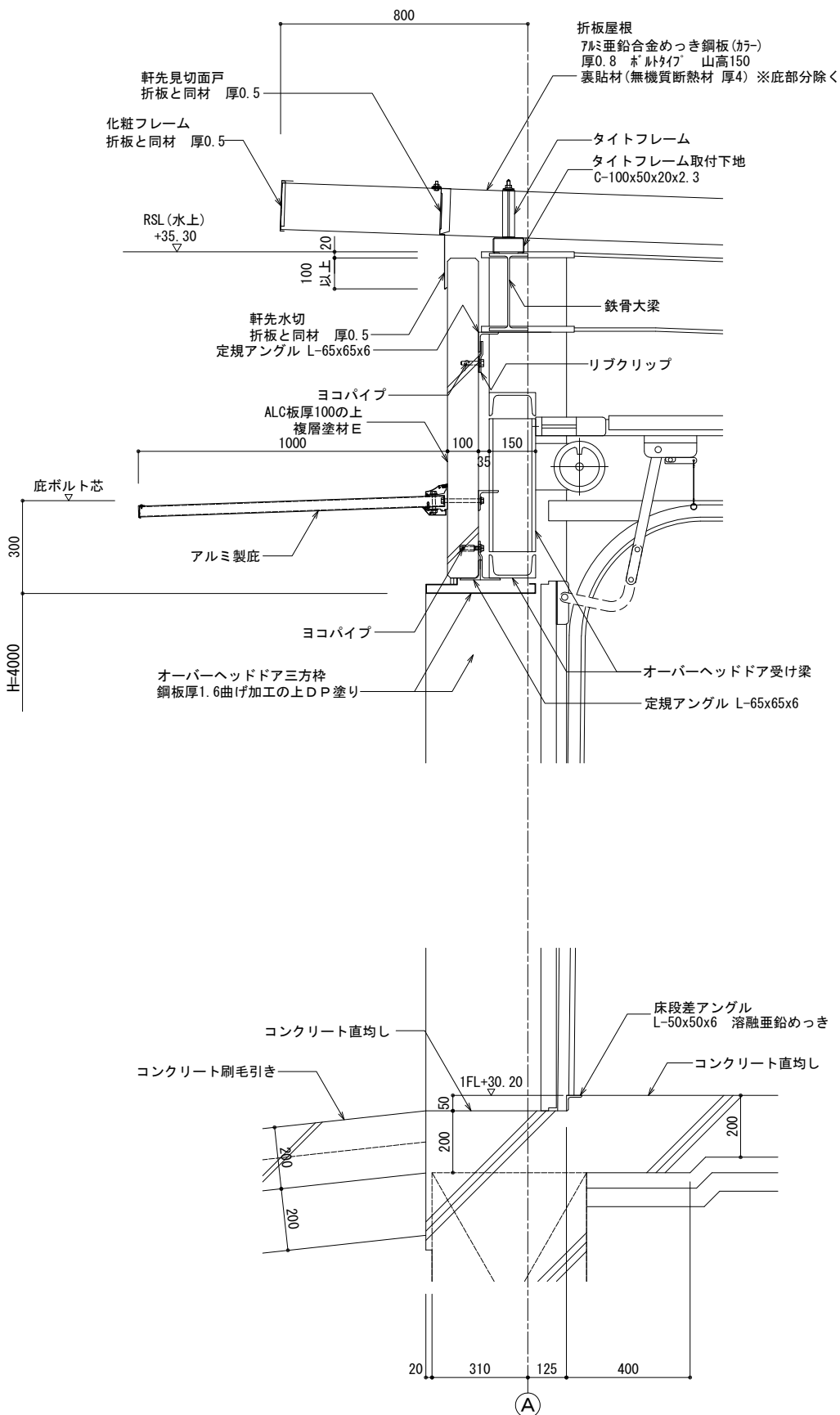
※遮煙性能を有する防火設備の構造方法は、S48建設省告示第2564号に規定する構造とする。

形状・寸法					

建具枠廻り詳細図（アルミ製建具）		<div>AW P1</div> <div>AW P2</div>		本図は参考図とし、工事にあたっては施工図を作成の上監督員の承認を得るものとする。	
形状・寸法					
		断面		平面	

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  A-49
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			パッカー車棟 建具配置図、建具表、 建具枠廻り詳細図	
検 図	製 図	設 計  令和7年10月	縮尺 1/100、1/50 1/5	
			南房総市	





設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-50
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名           野口 一彦			縮尺 パッカー車棟 部分詳細図           1/10		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

建 築 概 要				地域・地区等				その他確認事項					
建 物 名		物置		法令・条項		項 目		該当事項		項 目		摘 要	
敷 地 面 積		5,797.12 m <sup>2</sup>		都 計 法		都市計画区域		都市計画区域外		防 火 対 象 物		Ⓐ 防火対象物 第 1 3 項 ・ 協議済	
構造・規模		平屋建て		建基法43条		敷地等と道路との関係		市道丸山 8 号線 幅員 10 m					
建 築 面 積		9.61 m <sup>2</sup>		建基法48条		用途地域		指定なし					
延べ床面積		9.61 m <sup>2</sup>		建基法52・53条		容積・建ぺい率（全施設）		容積率：制限なし 建ぺい率：制限なし					
耐火建築物		その他建築物		建基法56・56の2条		建築物の高さ □ 斜線 日影		制限なし					
軒 高 さ		2.60 m		建基法22・61・62条		防火地域等		指定なし					
最高の高さ		2.70 m		その他の法令・条例		騒音規制、各種保全地域 宅地規制、公園法、その他		指定なし					
建 築 基 準 法 （令）				防火区画・防火戸		防 火 区 画		3 6	1 1 2	【すべて 1,500m <sup>2</sup> 以内】			
審 査 項 目		法令条項 法 令				チェ ッ ク		判 定					
耐火・簡耐構造等	地域・規模による構造制限	6 1 6 2		防火地域一階数（ ） 延べ面積（ m <sup>2</sup> ） 構 造（ ） [階数 3 以上又は延べ面積100m <sup>2</sup> を超えるもの 耐火、左記以外準耐火又は耐火] 準防火地域一階数（ ） 延べ面積（ m <sup>2</sup> ） 構 造（ ） [階数 4 以上又は延べ面積 1,500m <sup>2</sup> を超えるもの 耐火] [階数 3 又は延べ面積 500m <sup>2</sup> を超え、1,500m <sup>2</sup> 以下 準耐火又は耐火]									
	屋 根 葺 材	2 2 1 3 5 の2の2		構 造（ ） 屋根材（ ） ・ 法第 2 2 条の区域 [告示 1351 号] ・ 法第 6 3 条の区域 [告示 1365 号] ○ 区域外		○ OK							
居室の採光・換気等	居室の採光及び換気	2 8		[法規チェック図（1）の計算書による]									
	換気設備の技術的基準	2 0 の 2～4		・ 有 一 室名（ ） 火を使用する居室の有無 換気方法（ ） ・ 無									
	換気設備（自然給気）	129の 2の2		給気口高さ（ m ）／天井高さ（ ） ≤ 1/2 排気口位置天井面から（ c m） ≤ 80 c m									
	窓その他開口部を有しない居室	3 5 1 1 6 の 2		無 窓 居 室 ・ 有 室名（ ） ・ 無									
	無窓居室の主要構造部	3 5 の 3		構 造（ ） [耐火構造又は不燃材料]									
階・廊・下	2 以上の直通階段	3 5 1 2 1 1～3		居室の床面積 避難直上階（ m <sup>2</sup> ）／400 m <sup>2</sup> 1・2ヶ所 その他の階（ m <sup>2</sup> ）／200 m <sup>2</sup> 1・2ヶ所									
	避難階段の設置及構造	1 2 2 1 2 3		地上（ ）階、地下（ ）階 ・ 避難階段 [5 階以上、地下 2 階以下] ・ 特別避難階段 [ 1 5 階以上、地下 3 階以下] ・ 該当せず									
	直通階段・歩行距離	1 2 0 1 2 5		無窓居室 一歩行距離（ m）≤30 ・ 10m を加えている その他の居室一歩行距離（ m）≤50 [廊下・階段 準不燃]									
	階段・踊場の幅 け上げ・ふみ面寸法	3 6 2 3		直上階居室計（ m <sup>2</sup> ） >200m <sup>2</sup> →（ m）≥1.2m、（ ） ≤20/≥24 上記外 →（ m）≥0.75m、（ ） ≤22/≥21									
	踊場の位置及び 直階段のふみ幅	2 4		階高（ ）m ・ 4mまで ・ 4m以上に付き踊場設ける（ ）ヶ所、ふみ幅1.2m以上（ m）									
	階段及び踊場の手すり	2 5		階段の幅・高さ（ m、m） 一般手すり ・ 設置 中間手すり ・ 設置 [幅 3m、かつ高さ 1mを超える] ・ 不要									
	廊 下 幅	3 5 1 1 9		その階の居室の床面積の合計[A]（ m <sup>2</sup> ）、廊下幅（ m） [ A > 200m <sup>2</sup> は、両側居室 1.6m 以上、 片側居室 1.2m 以上]									
	屋 外 階 段	2 3 1 2 1 の 2		直通階段の幅（ c m）≥90cm、その他の階段（ c m）≥60cm 直通階段の構造（ ） [木造以外]									
	路上広場・バルコニー等の 手摺	1 2 6		高さ（ m） ≥ 1.1 m									
消 防 法 （令）	審 査 項 目		法令条項 法 令		チェ ッ ク		判 定						
	消 火 設 備	消 火 器 具	1 7	1 0	延べ面積（ 9.61 m <sup>2</sup> ） 地階・無窓階・3 階以上の階の床面積（部分： 9.61 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [延べ面積 150m <sup>2</sup> を超える又は地階等の部分で床面積 50m <sup>2</sup> 以上] ○ 不 要		○ OK						
		屋 内 消 火 栓 設 備		1 1	延べ面積（ 9.61 m <sup>2</sup> ） 構造（ S 造） 地階・無窓階又は 4 階以上の階の床面積（部分： 9.61 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [耐火構造で延べ面積3,000m <sup>2</sup> 以上又は地階等の部分で床面積600m <sup>2</sup> 以上]（耐火構造かつ壁・天井の仕上材難燃材料） ○ 不 要		○ OK						
		水噴霧消火設備等		1 3 ～ 1 8	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積（部分： 0 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [発電機室等の部分で床面積 200m <sup>2</sup> 以上] ・ 緩和申請する ○ 不 要		○ OK						
		屋 外 消 火 栓 設 備		1 9	地上階の 1 階又は 1 + 2 階の床面積（ 753.96 m <sup>2</sup> ） 構 造（ S 造） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が 1 階 3m、 2 階 5m は 1 の建築物とみなす ・ 設置 [耐火構造で 9,000m <sup>2</sup> 以上] ○ 不 要		○ OK						
	警 報 設 備	自動火災報知設備		2 1	延べ面積（ 9.61 m <sup>2</sup> ） 地階・無窓階・3 階以上の階の床面積（部分： 9.61 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [延べ面積500m <sup>2</sup> 以上又は地階等の部分で床面積300m <sup>2</sup> 以上] ○ 不 要		○ OK						
		非 常 警 報 設 備		2 4	地階階数（ 0 ） ・ 設 置 [地階階数 3 以上但し自火放設備無し] ○ 不 要 [地階階数 2 以下又は自火放設備有り]		○ OK						
	避難設備	誘導灯・誘導標識		2 6	[避難口・通路誘導灯] 地 階 ・ 有 ○ 無 無窓階 ・ 有 ○ 無 ・ 設 置 ○ 不 要 [誘導標識] ○ 設 置 ・ 不 要 [誘導灯の有効範囲内]		○ OK						
	その他	消 防 用 水		2 7	敷地面積（ 5,797.12 m <sup>2</sup> ） 床面積（ 753.96 m <sup>2</sup> ） 構造（ S 造） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が 1 階 3 m、2 階 5m かつ建築物の床面積を 1,500m <sup>2</sup> でそれぞれ除した商の和が 1 以上となるものは 1 の建築物とみなす ・ 設置 [敷地面積が 2万m <sup>2</sup> 以上かつ耐火構造で床面積が 1.5万m <sup>2</sup> 以上] ○ 不 要		○ OK						
		連 結 散 水 設 備		2 8 の 2	・ 地階の床面積合計（ 0 m <sup>2</sup> ） ・ 設置 [地階の床面積の合計 700m <sup>2</sup> 以上] ○ 不 要		○ OK						
無 窓 階	無 窓 階	規則・ 5－2		避難上消火活動上有効な開口部 ・ 各階共の床面積の 1/30 以上有り ○床面積の 1/30 未満の階有り（ 1 階 ）		○ OK							
	緩 和 適 用 条 項		3 2	・ 屋内消火栓設備 ・ 水噴霧消火栓設備 ・ 屋外消火栓設備 ・ 消防用水 ・ 連結散水設備 ・ 自動火災報知設備									
危 険 物	危 険 物 の 制 限 等		1 0	軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所									
				・ 少量危険物 室名（ ） ・ 一般取扱所（ ） ・ 貯 蔵 所									
				危険物の量（ ） 構造及び仕上（ ）									

指定建築材料は法37条適合品とする。

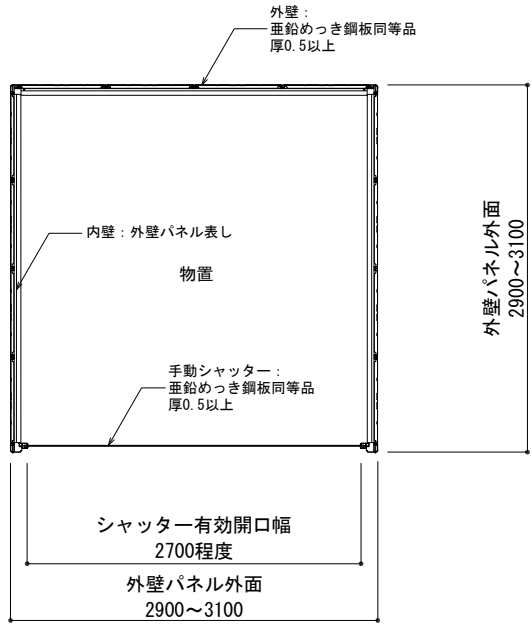
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  <b>A-51</b>
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 物置 法規チェックリスト ー	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	

物 置 仕 上 表		略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号				
共 通 事 項										
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。 2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、（例）１－０２－３は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修）を示す。 3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室回りは除く。 4. 付属物のうち、室名札、床点検口、揭示板、案内板、ピクトグラム、階段表示板等は、平面図による。 5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 6. P F 板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 7. 内壁の見え掛りとなるP F 板打込み部分は、G B 厚1 2. 5 直張り（縦目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。 8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。 9. 天井仕上ボード張りのうち、G B-N C（N T）及びD R（下地G B 共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0. 1 5 の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。 11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。 12. 打放し仕上げの梁型は、側面をB 種、底面をC 種とする。		C C B W L G S G B-R G B-N C（N） G B-N C（N T） G B-D（W） G B-S G B-F ケイカル板 D R D R（凹凸） D R（軒天） D R（軒天凹凸） P F 板 木毛板 T B 外装薄塗材（E） 内装薄塗材（S i） 内装薄塗材（E） C（B） C（C） M 軽量吹付 合成塗床	コンクリート コンクリートブロック 木造 軽量鉄骨 せっこうボード 不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用） 不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様） 木目化粧せっこうボード シージングせっこうボード 強化せっこうボード けい酸カルシウム板（タイプ2） ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 凹凸模様 ロックウール化粧吸音板 軒天井用：トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板 軒天井用：凹凸模様 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木質系セメント板 テラゾーブロック 外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 内装けい酸質系薄付け仕上塗材 内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 コンクリート打放し（B） コンクリート打放し（C） モルタル 軽量骨材仕上塗材 合成樹脂塗床	複層塗材（C E）ポリマーセメント系複層仕上塗材 複層塗材（E）合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（R E）反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（S i）けい酸質系複層仕上塗材 C L クリヤラッカー塗り A E アクリル樹脂エナメル塗り D P 耐候性塗料塗り E P-G つや有合成樹脂エマルションペイント塗り E P 合成樹脂エマルションペイント塗り U C ウレタン樹脂ワニス塗り O S オイルステイン塗り S O P 合成樹脂調合ペイント塗り N A D アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り L E ラッカーエナメル塗り W P 木材保護塗料塗り 防水形複層塗材 E 防水形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材	・ 屋上点検口 ・ 屋上管類取り出し口 ・ ケーリングの基礎 ・ テレビアンテナ基礎 ・ 屋上換気塔 ・ 煙 突 ・ タラップ  ・ と い ・ ルーフドレン  ・ トップライト ・ E X P、J 金物 ・ 笠木兼用避雷導体 ・ 手すり  ・ 旗 竿 ・ くつふきマット	・ 5-21-1 ・ 5-22-1 ・ 図 示 ・ 5-22-2 ・ 5-22-3  ・ 5-21-2 ・ 図 示 ・ 図 示 ・ 8-31-1 ・ 8-31-2 ・ 8-31-3 ・ 5-31、32、33 ・ 5-32-1 ・ 図 示 ・ 5-33-1 ・ 図 示 ・ 既製品 ・ 図 示 ・ アルミ（図示） ・ ステンレス（図示） ・ スチール（図示） ・ 図 示 ・ 8-21-1（ｽﾎﾟﾘｽ製） ・ 8-21-2 ・ 8-21-3	・ くつ洗い流し ・ グレーチング ・ 電気用ﾊﾝﾄﾞﾙ蓋 ・ 文字板 ・ 庁名板 ・ 郵便受 ・ 目地  ・ 8-22-1 ・ 8-22-2 ・ 図 示 ・ 図 示（土木工事） ・ 図 示 ・ 図 示 ・ 2-02-8～12 ・ 図 示	・ 流し台 ・ フード ・ コンロ台 ・ 流し上部水切り ・ つり戸棚 ・ 水切り棚 ・ 脱衣箱 ・ 天井点検口 ・ 床点検口 ・ 一般便房 ・ 車椅子使用者用簡易型便房 ・ オストメイト用便房 ・ 車椅子使用者用便房 ・ 便所手すり ・ トラフ ・ くつつきマット ・ 足掛金物 ・ タラップ  ・ 吊りフック ・ グレーチング受枠 ・ 浴室まわり	・ 6-11-1 ・ 図 示 ・ 6-11-2 ・ 図 示 ・ 6-11-1 ・ 図 示 ・ 6-11-4 ・ 6-11-5 ・ 図 示 ・ 6-11-5 ・ 図 示 ・ 6-32-1 ・ 3-42-2 ・ 既製品 ・ 既製品 ・ 6-22 ・ 6-23-1～3 ・ 6-24-1～4 ・ 6-25-1 ・ 6-26-1～3 ・ 6-22-5・6 6-28-1～5 ・ 1-21-1 ・ 8-21-1 ・ 8-31-1 ・ 図 示 ・ 8-32-2 ・ 8-32-3 ・ U型 ・ 図 示 ・ 6-31-1・2	・ カーテンボックス ・ 鋼 製 ・ 3-31-1・2 ・ ブラインドボックス ・ 図示 ・ アルミ製 ・ 3-31-3に準ずる  ・ 室内揭示板 ・ 既製品 ・ 手すり ・ アルミ ・ 図 示 ・ 階段手すり ・ アルミ ・ 図 示 ・ 7-12- ・ 2-02-13 ・ 7-01-1 ・ 7-01-2 ・ 6-46-1 ・ 図 示 ・ クレンジング剤 ・ 図 示 ・ マンホール蓋 ・ FRP製既製品（土木工事） ・ 室名札 ・ 8-43-1 ・ ピクトグラム ・ 8-44-1 ・ 庁舎案内板、各階案内板 ・ 図 示 ・ 図 示 ・ E X P-J 金物 ・ 既製品 ・ 誘導標識（平付け型 アクリル板 厚5 360×120 シルクスクリーン印刷）

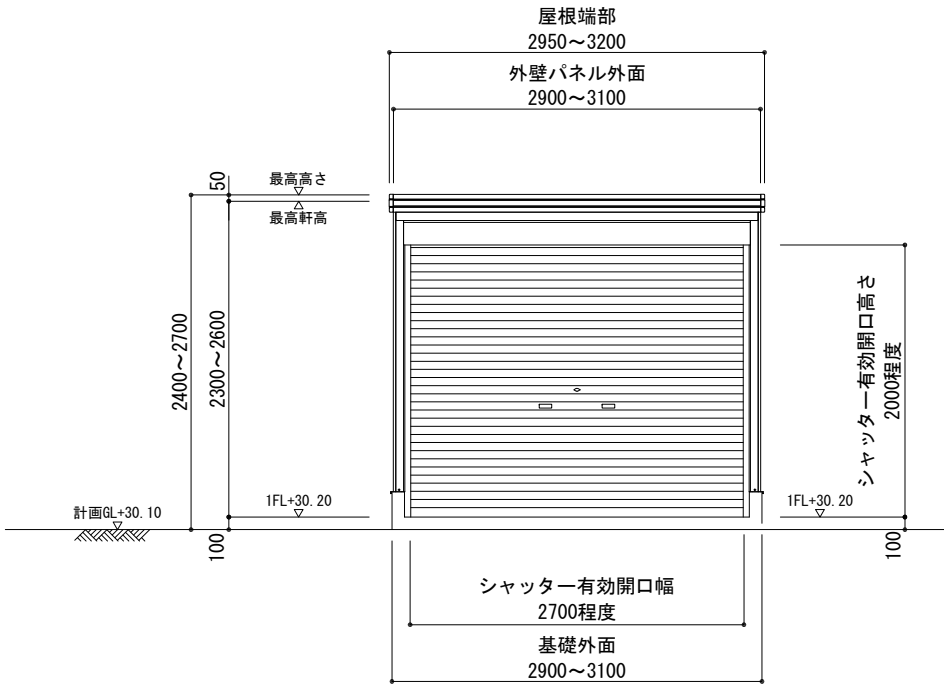
外 部 仕 上 表											
床	腰	外 壁	屋 根		パラペット	バルコニー		ひさし			備 考
			下地・防水層	押え・仕上		床	手 す り	上 端	は な	軒 天	
		亜鉛めっき鋼板同等品 厚0.5以上		7㎔亜鉛合金めっき鋼板同等品 厚0.4以上							外部役物 ：アルミ亜鉛合金めっき鋼板(ｸﾅｰ) 同等品 厚さはメーカー仕様による シャッター：亜鉛めっき鋼板同等品 厚0.5以上

内 部 仕 上 表																								
階	室 名	床			幅 木				腰 壁				壁					天 井						備 考
		下地	仕 上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	詳細番号	柱型仕上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	梁型仕上	詳細番号	
1 階	物 置	C	コンクリート直均し仕上	1-01-3	C	C（B）	200	2-02-7					S	外壁材表し				S	屋根材表し	直天				消火器

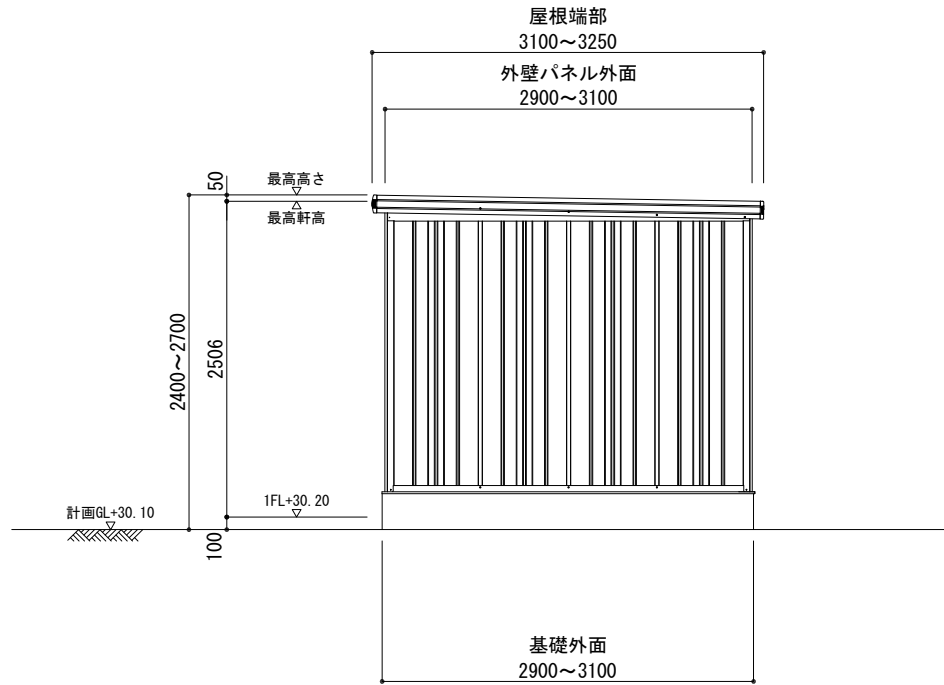
特記なき限り																		設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）			図面番号					
仕上材料の厚さ	材 料 名	種 別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	工事区分略号	< > (C) : 土木工事							A-52										
	GB-R	仕 上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板（タイプ2）		12	10	NM-8578		< > (AM) : 建築機械設備工事																	
		下 地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温板		25	25			< > (AE) : 建築電気設備工事																	
	GB-NC (N)			9.5	NM-8613	壁紙（ビニールクロス）				NM-9754		< > (PM) : プラント機械設備工事																	
	GB-NC (NT)			9.5	又は同等	GB-S			12.5	QM-9826		< > (PE) : プラント電気設備工事																	
	GB (W)			12.5	NM-8614	グラスウール吸音板		25	25	NM-8605																			
	DR			12	NM-8599																								
																	検 図			製 図			設 計 令和7年10月			南房総市			



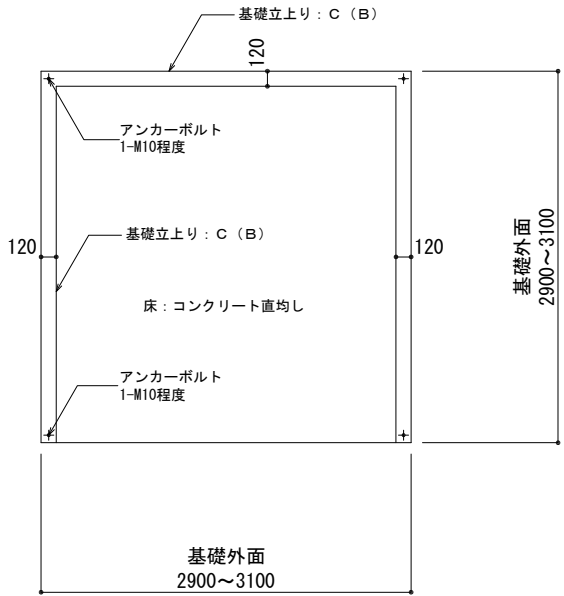
物置 1階平面図 1/30



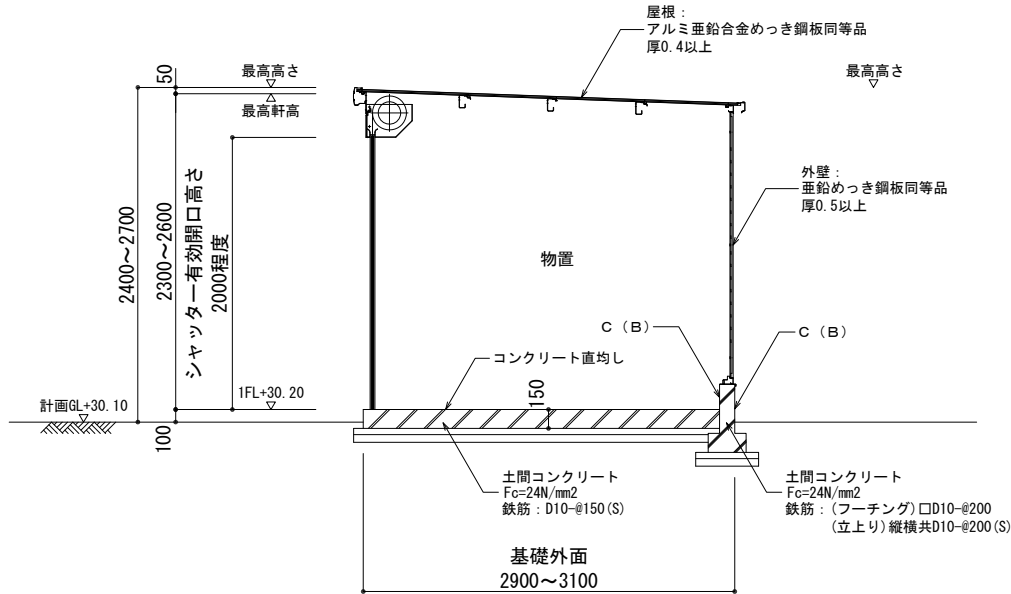
物置 正面立面図 1/30



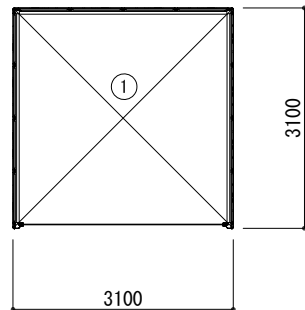
物置 側面立面図 1/30



物置 基礎伏図 1/30

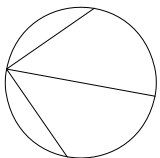


物置 側面立面図 1/30



延床面積、建築面積 (㎡)				
階	符 号	計 算		計
1 階	①	3.100 X 3.100	=	9.610
				9.61
延床・建築面積		9.61 ㎡		

物置 面積算定図 1/50



特記事項  
本建築物は金属製のプレハブ構造とし、本図は参考図とする。  
製作にあたってはメーカー施工図を作成の上、監督員の承認を得るものとする。  
基礎構造についてはメーカー施工図を作成の上、監督員の承認を得るものとする。  
基礎及び土間の床付面は切土又は埋戻し土締固めとし、地耐力50kN/㎡を確保する事。  
製品選定にあたっては、本図よりも延床面積・建築面積及び高さの小さいものとする。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  A-53
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 物置 平面図、断面図、立面図、面積算定図 1/30, 1/50		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

工事名称：

I. 建物構造概要等

1. 建物概要

工事名称	南房総市外房地区自己搬入施設建設工事		
工事場所	千葉県南房総市千倉町宇田地先		
主要用途	ごみ処理（受入）施設		
延べ面積	自己搬入棟：641.07㎡、	バッカー車棟：103.28㎡	
階数	自己搬入棟：地上2階、	バッカー車棟：地上1階	
建物高さ	自己搬入棟：8.47m、	バッカー車棟：5.59m	
軒高	自己搬入棟：8.22m、	バッカー車棟：5.34m	
工事種別	●新築、○増築、○改築、○移転		
増築計画	○有り、●無し		
構造種別	鉄骨造		
架構形式	X方向：耐震壁付きラレーン構造	Y方向：耐震壁付きラレーン構造	
耐震構造方式	●耐震構造、○免震構造、○制震構造、○（ ）		
耐震安全性の分類	○Ⅰ類（Ⅰ=1.50）、○Ⅱ類（Ⅰ=1.25）、●Ⅲ類（Ⅰ=1.00）		

2. 構造計算条件

a. 耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期	秒
地盤種別	第Ⅰ種地盤	
地域係数	Z=	
計算ルート	X方向	☒許容応力度計算（ルート）
	Y方向	○許容応力度計算（ルート）
設計層間変形角	X方向	一次設計
	Y方向	二次設計

b. 耐風設計条件

基準風速（V <sub>0</sub> ）	38m/秒
地表面粗度区分	○Ⅰ、○Ⅱ、●Ⅲ、○Ⅳ

c. 耐積雪設計条件

建設地の標高	TP+23.2～36.8
多雪区域の指定	○有り、●無し
設計垂直積雪量	30cm

II. 建築工事仕様（構造関係）

1. 共通仕様書

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下、「標準仕様書」という）による。

2. 特記仕様

1）項目は、●のついたものを適用する。（☒及び○は適用しない。）

2）特記事項は、●のついたものを適用する。（☒及び○は適用しない。）

3）特記事項に記載の（ ）内表示番号は標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

4）[G]印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和3年2月19日変更閣議決定）」に定める判断の基準を満たすものとする。

章

項

目

特記事項

4

地業工事

○4. 既製コンクリート杭地業

・種類：（4.3.3）  
○遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）  
○プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）  
○外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）  
SC杭の鋼管材料 ○SKK400、○SKK490  
○（ ）  
・寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）：（4.2.2）（4.3.3）

種類	コンクリート強度(N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚(mm)	杭径(mm)	杭長(mm)	継手数	セッ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
○試験杭	上杭 中杭 下杭							
○本杭	上杭 中杭 下杭							
○								

・杭先端部形状：（4.4.3）  
○開放形、○半開放形、○閉そく形、○（ ）  
・施工方法（4.3.1）  
○セメントミルク工法（4.2.2）（4.3.4）  
試験杭の位置 ○図示による、○（ ）  
掘削深さ ○図示による、○（ ）  
杭の支持地盤への根入れ深さ ○図示による、○（ ）  
杭の精度 水平方向の位置ずれ ○杭径の1/4かつ100mm以下、○（ ）  
杭の傾斜 ○1/100以内、○（ ）  
○特定埋込杭工法（4.2.2）（4.3.5）  
○H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を  
採用できる工法  
○H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが  
下記の値を採用できる工法  
α=（ ）、β=（ ）、γ=（ ）  
工法  
○プレボーリング拡大根固め工法  
○中堀り拡大根固め工法  
○（ ）  
杭周固定液 ○使用する、○使用しない  
試験杭の位置 ○図示による、○（ ）  
杭の支持地盤への根入れ深さ ○図示による、○（ ）  
杭の精度 水平方向の位置ずれ ☒評定等による、○（ ）  
杭の傾斜 ☒評定等による、○（ ）  
・杭の継手の工法：（4.3.3）（4.3.6）（7.2.5）  
○アーク溶接継手  
溶接材料 標準仕様書 7.2.5(1)(2)による、○（ ）  
○無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）  
工法 ☒評定等を受けた工法  
検査 ☒評定等により定められた項目  
施工 ☒評定等をされた施工管理基準による  
・杭頭の処理等：（4.3.8）  
○処理しない  
○処理する  
処理方法（切断にともなう補強方法含む）  
○図示による、○（ ）  
・杭頭の中詰め材料：（4.3.8）  
○基礎のコンクリートと同調合のもの、○（ ）  
・材料、寸法、継手等：（4.2.2）（4.4.3）（4.4.5）

	種類	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(mm)	継手数	セッ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
○試験杭	上杭 中杭 下杭							
○本杭	上杭 中杭 下杭							
○								

・施工方法：（4.4.1）  
○特定埋込杭工法（4.2.2）（4.3.5）  
○H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を  
採用できる工法  
○H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが  
下記の値を採用できる工法  
α=（ ）、β=（ ）、γ=（ ）  
工法  
○中堀り拡大根固め工法  
○（ ）  
試験杭の位置 ○図示による、○（ ）  
杭の精度 水平方向の位置ずれ ☒評定等による、○（ ）  
杭の傾斜 ☒評定等による、○（ ）  
・杭の継手の工法：（4.3.3）（4.4.5）（7.2.5）  
○溶接継手  
形状 ○JIS A 5525による、○（ ）  
溶接材料 ○標準仕様書 7.2.5(1)(2)による、○（ ）  
○無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）  
工法 ☒評定等を受けた工法  
検査 ☒評定等により定められた項目  
施工 ☒評定等をされた施工管理基準による  
・杭頭の処理：（4.3.8）（4.4.6）  
○処理しない  
○処理する  
処理方法（切断にともなう補強方法含む）  
○図示による、○（ ）  
・杭頭の中詰め材料：（4.3.8）  
○基礎のコンクリートと同調合のもの、○（ ）

章

項

目

特記事項

4

地業工事

○6. 場所打ちコンクリート杭地業

・工法：（4.5.1）（4.5.5）  
○アースドリル工法（安定液 ○使用する、○使用しない）  
○リバース工法  
○オールケーシング工法（孔内の水張り ○行う、○行わない）  
・併用する工法：（4.5.1）（4.5.6）  
○場所打ち鋼管コンクリート杭工法（鋼管の種類 ○SKK400、○SKK490、○  
○  
○  
○  
○  
○  
・寸法等：（4.2.2）

鋼管厚(mm)	鋼管径(mm)	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(mm)	セッ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
○試験杭							
○本杭							

・試験杭の位置：○図示による、○（ ）  
・孔壁の保持状況の測定箇所：○試験杭（ ）箇所及び本杭（ ）箇所  
○（ ）  
・杭の支持層への根入れ深さ：○図示による、○（ ）  
・杭の精度：水平方向の位置ずれ ○杭径の1/4かつ100mm以下、○（ ）  
○評定等の内容による  
杭の傾斜 ○1/100以内、○  
○評定等による  
・鉄筋の種類：（4.5.4）

種類の記号	呼び径(mm)	備考
○SD295		
○SD345		
○		

・帯筋：（4.5.4）  
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）6.2帯筋(2)(㌥)⑥(ロ)）  
○（ ）  
・鉄筋の最小かぶり厚さ：（4.5.4）  
○100mm、○（ ）  
・鉄筋かごの補強：（4.5.4）  
○図示による  
○杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋の接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。  
・組み立てた鉄筋の節ごとの継手：（4.5.4）（5.3.4）  
☒重ね継手（重ね継手の長さ ○図示による、○  
・主筋の基礎定着への定着長さ：（4.5.4）（5.3.4）  
○図示による、○（ ）  
・セメントの種類：（4.5.4）  
☒高炉セメントB種Ⅱ、○（ ）  
・コンクリートの設計基準強度：（4.5.4）  
○図示による、○（ ）  
・コンクリートの種別：（4.5.4）  
○A種、○B種、○評定等による  
・スランプ：（4.5.4）  
☒18cm、○（ ）  
・構造体強度補正值：（4.5.4）  
☒3N/mm<sup>2</sup>、○図示による、○評定等による  
・材料：（4.6.2）  
●○再生クラッシュランⅡ、○切込砂利又は切込碎石  
・砂利厚さ：（4.6.3）  
●60mm、○（ ）  
・施工範囲：（4.6.3）  
○基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
●図示による  
・捨コンクリートの厚さ：（4.6.4）  
●50mm、○（ ）  
・施工範囲：（4.6.4）（6.14.1）  
○基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
○図示による  
・設計基準強度：（4.6.4）（6.14.1）  
●18N/mm<sup>2</sup>、○（ ）  
・スランプ：（4.6.4）（6.14.1）  
●15cm又は18cm、○（ ）  
・材料：（4.6.2）  
○ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、○（ ）  
・施工範囲：（4.6.5）  
○建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ビット下を除く）  
○（ ）  
・種類及び施工方法等：（ ）  
●図示による、○（ ）  
・穴留クロム溶出試験：（ ）  
☒図示による、○（ ）

章

項

目

特記事項

5

鉄筋工事

●1. 鉄筋

○2. 溶接金網

●3. 鉄筋の継手及び定着

●4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

●5. 各部配筋

●6. 圧接完了後の試験

○7. 機械式継手

○8. 溶接継手

・鉄筋の種類等：（5.2.1）

種類の記号	呼び径(mm)	備考
●SD295	●D16以下、○	
●SD345	●D19以上、○	
○		
○		

・鉄線の形状等：（5.2.2）

種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
○溶接金網			
○鉄筋格子			

・継手方法等：（5.3.4）（5.5.2）（5.6.3）

部位	継手方法	呼び径(mm)
●柱、梁の主筋	●ガス圧接、○機械式継手	●D19以上 ○
○耐力壁の鉄筋	○溶接継手、○	
●基礎、耐圧スラブ、土圧壁	●重ね継手、○ガス圧接	
○上記以外（ ）	○重ね継手、○	

・継手位置：（5.3.4）  
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）  
基礎梁主筋の継手位置図 ○図5.2、○図5.3、○図5.4  
○図示による（ ）  
・柱及び梁主筋の重ね継手の長さ：（5.3.4）  
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）  
・耐力壁の重ね継手の長さ：（5.3.4）  
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3(1)(イ)表3.1）  
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3(1)(㌥）  
○図示による（ ）  
・鉄筋の定着長さ（5.3.4）  
●図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3(2)）  
○図示による（ ）  
・最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う）：（5.3.5）  
●図示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）  
○図示による（ ）  
・柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無：（ ）  
○あり（主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する）  
使用箇所（ ）  
・耐久性上不利な箇所（塩害等を受けるおそれのある部分等）：（ ）  
○あり  
適用箇所（ ）  
最小かぶり厚さに加える厚さ（ ）mm  
・各部配筋：（5.3.7）  
●図示による  
・外観試験：（5.4.10）（5.4.11）  
●行う（全ての圧接部）  
・抜取試験：（ ）  
●超音波探傷試験  
試験ロット 1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする  
試験の箇所数 1ロットに対して30箇所とし、ロットから無作為に抜き取る  
○引張試験  
試験ロット 1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする  
なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする  
試験の箇所数 1ロットに対して（○3本、○5本）とする。  
・適用箇所：（5.5.2）  
○図示による、○（ ）  
・H12建告第1463号に適合する性能：（5.5.2）  
○A級、○（ ）  
・機械式継手の種類：（5.5.2）  
○図示による、○（ ）  
・鉄筋相互のあき：（5.3.5）（5.5.2）  
○図示による、○（ ）  
・施工完了後の継手部の試験：（5.5.2）  
○図示による、○（ ）  
・不合格となった継手部への措置：（5.5.2）  
○図示による、○（ ）  
・適用箇所：（5.6.3）  
○図示による、○（ ）  
・H12建告第1463号に適合する性能：（5.6.3）  
○A級、○（ ）  
・溶接継手の工法：（5.6.3）  
○図示による、○（ ）  
・鉄筋相互のあき：（5.6.3）  
○図示による、○（ ）  
・溶接完了後の継手部の試験：（5.6.3）  
○図示による、○（ ）  
・不合格となった継手部への措置：（5.6.3）  
○図示による、○（ ）

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所		南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-01
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦		縮尺 構造関係特記仕様書（1） —		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	

章

項

目

特記事項

項目

6

コンクリート工事

● 1. コンクリートの種類等

(6. 2. 1)

● 1 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)  
○ Ⅱ 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

(6. 2. 1～6. 2. 4)

● 普通コンクリート

設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)

スランプ質量 (cm)

気乾単位容積 (t/m<sup>3</sup>)

適用箇所

● 24

● 15又は18

● 2. 3程度

すべての構造体

○

○

○

○

● 構造体強度補正值

(6. 3. 2)

● 別表「コンクリートの構造体強度補正值 (S) 一覧」による

○ ( )

● 2. セメント

(6. 3. 1)

● 種類

● 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

適用箇所 ( ● 下記以外全て、○ )

● 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の地、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で 402J/g以下のものとする

○ 高炉セメントB種 [G]

適用箇所 ( ○ 1FLより下部 (立上り部含む) )、○

○ フライアッシュセメントB種 [G]

適用箇所 ( )

○ ( )

○ 適用箇所 ( )

● 3. 骨材

(6. 3. 1)

● アルカリシリカ反応性による区分

● A、○ B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3. 0kg/m<sup>5</sup>3 以下)

● 4. 混和材料

(6. 3. 1)

● 混和剤の種類

● 標準仕様書 6. 3. 1(4) (a)による

○ ( )

● 混和材の種類

● 標準仕様書 6. 3. 1(4) (b)による

○ ( )

● 5. 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

(6. 6. 4)

● 打継の位置

梁及びスラブ

● スパンの中央又は端から1/4の付近、○ 図示による

○ ( )

柱及び壁

● スラブ、壁梁又は基礎の上端、○ 図示による

○ ( )

● 目地寸法

(6. 6. 4) (6. 8. 1) (9. 7. 3)

● 標準仕様書 9. 7. 3(1) (7)による

(ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打ち増し厚さで処理する)

○ 図示による ( )

○ ( )

● ひび割れ誘発目地の位置

(6. 8. 1)

● 図示による ( )

○ ( )

● 6. コンクリートの仕上り

(6. 2. 5) (6. 8. 2)

● 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

(6. 2. 5) (6. 8. 2)

○ A種

○ 図示による ( )、○

○ B種

○ 図示による ( )、● 見え掛り面、床下ピット

○ C種

○ 図示による ( )、○

● コンクリートの仕上りの平坦さ

(6. 2. 5) (6. 8. 2)

○ a種

○ 図示による ( )、○

● b種

○ 図示による ( )、● 見え掛り面

○ c種

○ 図示による ( )、● その他の面

● 7. 打増し厚さ (打放し仕上げ部)

(6. 8. 1)

● 打増し厚さ

打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る)

● 20mm、○ ( )

打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)

○ 10mm、○ 20mm、○ ( )

外装タイル後張り面の打増し処理

○ 20mm、○ ( )

● 打増し範囲

● 図示による ( )、○ ( )

● 8. 型枠

(6. 8. 2)

● せき板の材料及び厚さ

● 合板 [G] ( ● 12mm、○ )、○ ( )

● 断熱材を兼用した型枠

使用箇所 ○ 図示による ( )、○ ( )

● MCR工法用シート

使用箇所 ○ 図示による ( )、○ ( )

打増し厚さ ○ 20mm、○ ( )

打増し範囲 ○ 図示による ( )、○ ( )

● スリーブの材質、規格等

○ 図示による ( )、○ ( )

○ 9. 無筋コンクリート

(6. 2. 1) (6. 14. 1)

● コンクリートの種類

○ 普通コンクリート、○ ( )

● セメントの種類

○ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

○ 高炉セメントB種 [G]

○ フライアッシュセメントB種 [G]

● 設計基準強度

(6. 14. 1)

○ 18N/mm<sup>2</sup>、○ ( )

● スランプ

(6. 14. 1)

○ 15cm又は18cm、○ ( )

● 適用箇所

(6. 14. 1)

○ 標準仕様書 6. 14. 1(4) (7)～(h)による箇所

○ 図示による ( )

6

コンクリート工事

● 10. コンクリートの単位水量測定

● 実施要領

(1) 単位水量の測定は、150mに1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。

(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6. 3. 2(4) (c)による。

(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。

1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/mの範囲にある場合はそのまま施工する。

2) 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/mの範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。

3) 設計値±20kg/mを超える場合は、生コンを打込みずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。

4) 「3)」の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。

(4) 単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。

(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7

鉄骨工事

● 1. 鉄骨製作工場

(7. 1. 3)

● 鉄骨製作工場の加工能力

建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している

鉄骨製作工場、または、同等以上の能力のある工場

評価の区分 ○ ( ) グレード、○ グレードの指定はしない

● 2. 鉄骨製作工場における施工管理技術者

(7. 1. 3) (7. 1. 4)

● 施工管理技術者

図 配置する

● 3. 鋼材

(7. 2. 1)

● 種類等

種類の記号

適用箇所 (主要な部分)

規格

● BCR295

柱

● JIS規格による、○

● SN400B

大梁

● JIS規格による、○

● SN400A

小梁

● JIS規格による、○

● SN400A、SS400

間柱

● JIS規格による、○

● SN490C、SN490B

ダイヤフラム

● JIS規格による、○

● 溶融亜鉛めっき工法の適用箇所

( )

○ ( )

● 4. 高力ボルト

(7. 2. 2)

● 高力ボルトの種類

● トルシヤ形高力ボルト

○ JIS形高力ボルト

○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

( )

● ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

(7. 3. 2)

● 図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1 縁端距離及びボルト間隔)

○ ( )

● 摩擦面の処理方法等

(7. 4. 2)

溶融亜鉛めっき面以外

● 標準仕様書7. 4. 2(1)による、○ ( )

溶融亜鉛めっき面

(7. 12. 5)

○ プラスト処理 (表面粗度50 μmRz以上)

○ プラスト処理以外の特別な処理方法 ○ 図示による、○ ( )

● すべり試験

(7. 4. 2)

● すべり係数試験、○ すべり耐力試験

試験の方法等

○ 図示による、○ ( )

● 5. 普通ボルト

(7. 2. 3)

● ボルト及びナットの種類

● 標準仕様書 表7. 2. 3 (JIS附属書品) 又は次による

ボルトの規格はJIS B 1180とする

(ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4. 6又は4. 8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。)

ナットの規格はJIS B 1181とする

(ナットの規格を六角ナット-0の鋼製とする。)

○ ( )

● 座金

(7. 2. 3)

● JIS B 1256による、○ ( )

● 戻り止め

(7. 5. 2)

● 二重ナット、○ ( )

● ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

(7. 3. 2)

● 図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1 縁端距離及びボルト間隔)

○ ( )

● 6. アンカーボルト

(7. 2. 4) (7. 10. 3)

● 構造用アンカーボルトの種類

● ABR400、○ ABR490、○ ( )

● 建方 (及び付属鉄骨) 用アンカーボルトの種類

● SS400、○ ( )

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度

● 標準仕様書 表7. 2. 3による、○ ( )

● ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

(7. 3. 2)

● 図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1 縁端距離及びボルト間隔)

○ ( )

● 7. 溶接材料

(7. 2. 5)

● 溶接材料

● 標準仕様書 7. 2. 5(1) (2)による

○ 標準仕様書 7. 2. 5(1) (2) 以外による

材料及び使用箇所 ○ 図示による、○ ( )

● 8. ターンバックル

(7. 2. 6)

● 種類

建築用ターンバックルボルト

○ 羽子板ボルト、○ ( )

建築用ターンバックル鋼

● 割棒式、○ ( )

● ねじの呼び

(7. 2. 6)

○ 図示による、○ ( )

● 9. 床構造用のデッキプレート



構造関係共通事項

1. 総 則

- 1.1 適用範囲
- (1)構造関係共通事項は、総則、構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）から構成される。
- (2)構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (3)構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
- (4)構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外について、図面及び監督職員の指示による。
- 1.2 優先順位
- (1)設計図書間で配筋方法等に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 特記仕様書
2. 設計図
3. 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）
4. 標準仕様書及び改修標準仕様書
- 1.3 用語の定義
- (1)設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書、構造関係共通図以外の図面をいう。
- (2)異形鉄筋の径(本文、図、表において「d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
- (3)長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。
- 1.4 記号等
- 図面で使用する記号等は、表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表 1.1 異形鉄筋の断面表示記号								
区分 \ 径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊕

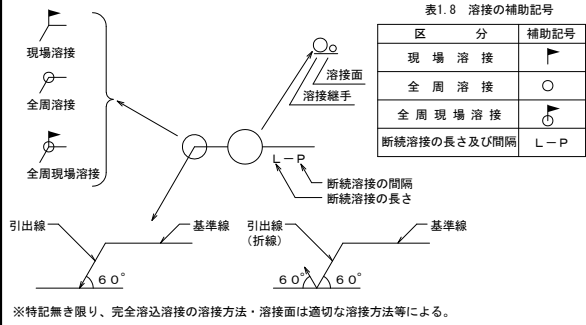
表1.2 各階伏図における記号			
記号	説明	記号	説明
S*	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	⊕	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
DO	土間コンクリート	⊠	スラブ開口
▤	コンクリートブロック壁（CＢ壁）	⊕	ボーリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がり	(±)	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁の種別 片持ちスラブを受け、かつ耐力壁の種別土圧を受け、かつ耐力壁の種別	W○○ KW○○	一般壁の種別 片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別

表1.3 梁貫通孔記号															
区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	400
建築		⊖	✕	+	✕	⊕	✕	+	✕	⊕	✕	+	✕	⊕	✕

表1.4 スリーブ材質の凡例				
管 名	銅 管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き銅管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

表1.5 高力ボルト径の記号						表1.6 普通ボルト径の記号							
区分	径	M12	M16	M20	M22	M24	区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト (F10T、S10T)		●	◆	◆	◆	◆	普通ボルト		○	◇	◇	◇	◆
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)					+	✕							✕

表1.7 溶接継手及び溶接面の分類別記号		
分 類		記 号
溶 接 継 手	完全溶込み溶接	突合わせ継手 T型継手 L かど継手
	隅肉溶接	F
	部分溶込み溶接	P
	重ねアーク溶接（フレア溶接）	F L
	片面溶接	1
溶 接 面	片面溶接	1
	両面溶接	2



2. 構造関係共通図(配筋標準図)

1 鉄筋の加工

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径					
折曲げ角 度	折曲げ図(余長)	鉄筋の種類	折曲げ内法直径(D)		
			SD295、SD345		SD390
			呼び名	D16 以下	D19 ～ D38
180°					
135°					
90°					
135°及び90°(幅止め筋)					

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2 異形鉄筋の末端部

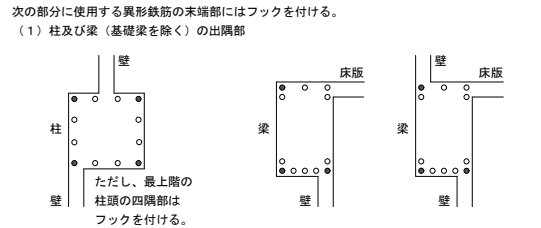


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

3 継手及び定着

- (1) 鉄筋の重ね継手
- (7) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (4) 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ			
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>1</sub> （フックなし）	L <sub>1h</sub> （フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注) 1. L<sub>1</sub>、L<sub>1h</sub>：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合のL<sub>1h</sub>は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

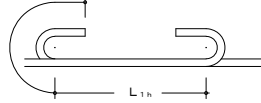
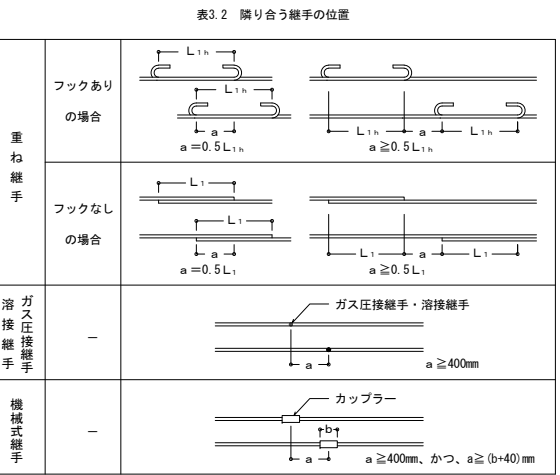


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (9) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d）又は表3.1の重ね継手の長さのうち、いずれか大きい値とする。
- (2) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
- ただし、スラブ筋で D16 以下の場合及び壁筋の場合は除く。



- (2) 鉄筋の定着
- (7) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ		直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>1</sub>		L <sub>2</sub>	スラブ	L <sub>1h</sub>		L <sub>2h</sub>	スラブ
		小梁	スラブ			小梁	スラブ		
SD295	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d			25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d	25d	片持ち小梁(片持ちスラブの場合は25d)	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d			30d	25d		
	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d	25d	片持ち小梁(片持ちスラブの場合は25d)	35d	30d	10d	—
	24, 27	45d	40d			30d	25d		
	30, 33, 36	40d	35d			35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d			35d	30d		

- (注) 1. L<sub>1</sub>、L<sub>1h</sub>：2から4以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L<sub>2</sub>、L<sub>2h</sub>：割裂破壊のおそれない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L<sub>2</sub>：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L<sub>2h</sub>：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

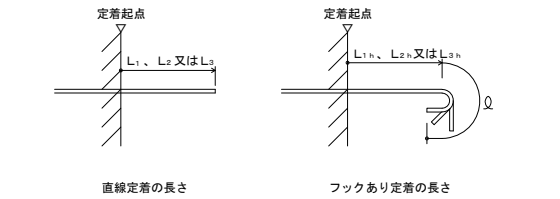


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (4) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
- (a) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
- (b) 余長は 8d 以上
- (c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さL<sub>a</sub>及びL<sub>b</sub>は表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

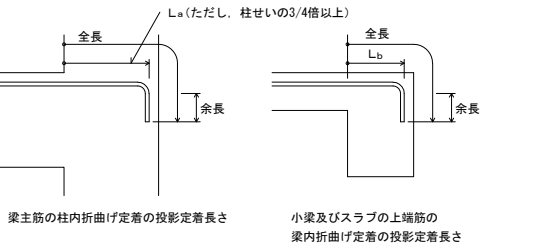


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ			
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L<sub>a</sub>：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L<sub>b</sub>：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5 d を加えたものとする。

- (9) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
- なお、L<sub>1</sub>は表3.1に、L<sub>2</sub>及びL<sub>3</sub>は表3.3による。

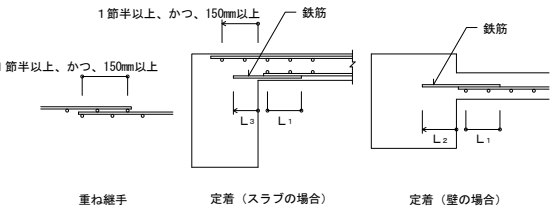


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

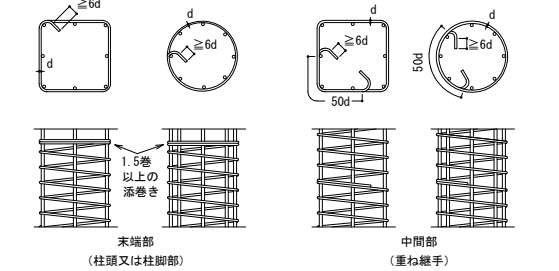


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- (1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
- ただし、柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位：mm)		
構造部分の種類		最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり 20 仕上げなし 30
	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上げあり 30 仕上げなし 30
		屋外 仕上げあり 30 仕上げなし 40
		擁壁、耐圧スラブ 40
	柱、梁、スラブ、壁	40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
土に接する部分	煙突等高熱を受ける部分	60

- (注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
- また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- (2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- (3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- (4) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
- (7) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (4) 25mm
- (9) 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所		商
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦		相
検 図	製 図	設 計 令和7年10月

- 図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔
- D は、鉄筋の最大外径
- (5) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(4)による。
- (6) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

- (1) 一般事項
- (7) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
- (4) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)による。

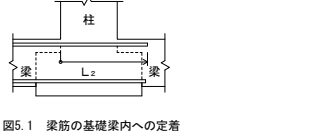
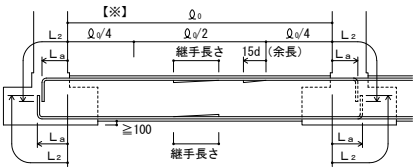
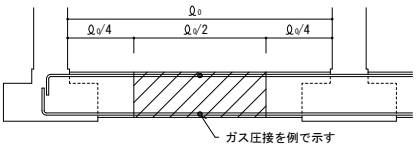


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- (2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



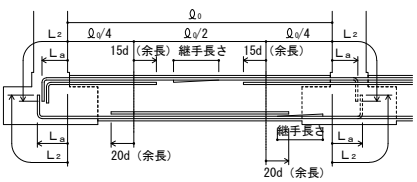
- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）



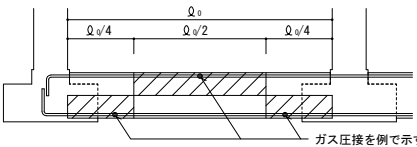
ガス圧接を例で示す

図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- (3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐圧スラブが付く場合は、（4）による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

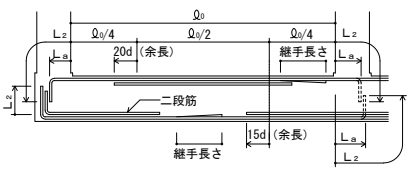
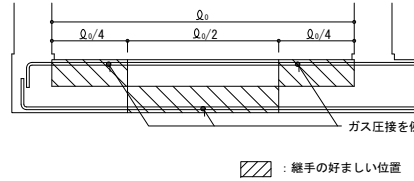
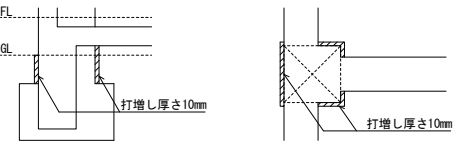
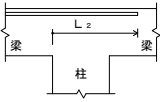
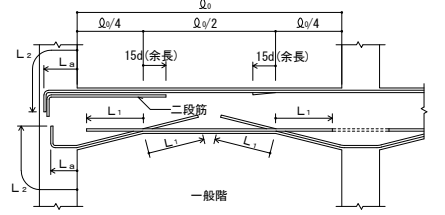
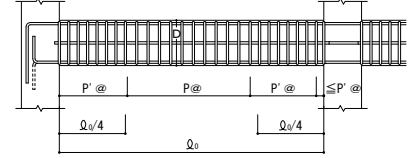
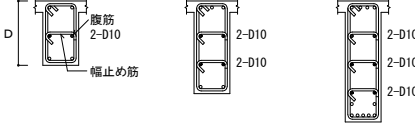
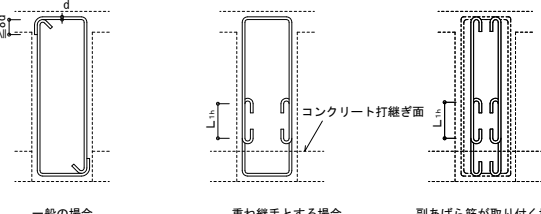
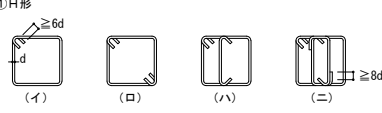
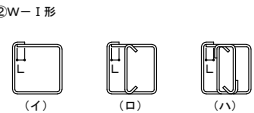
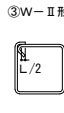

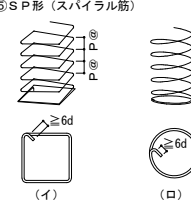
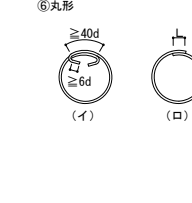
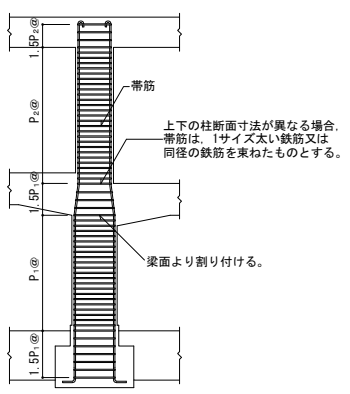
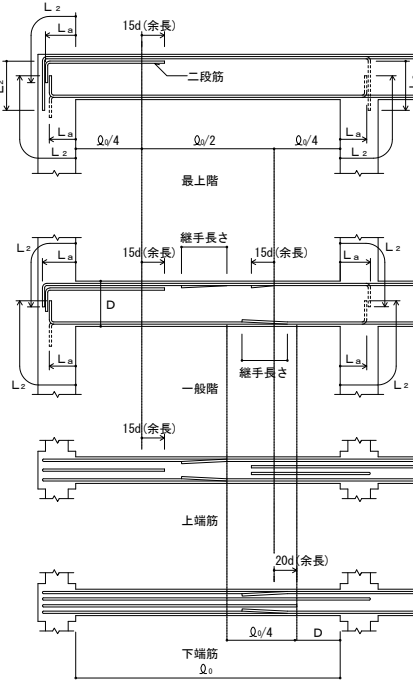
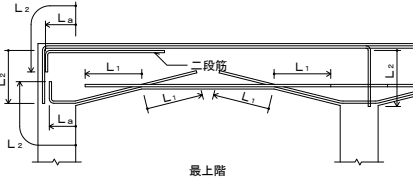
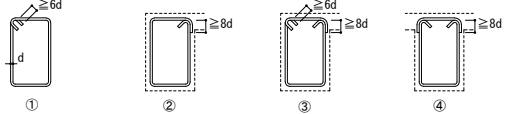
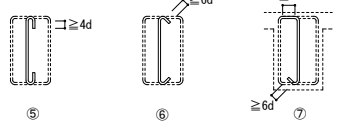
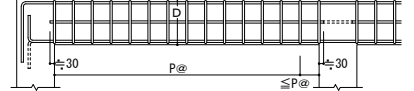
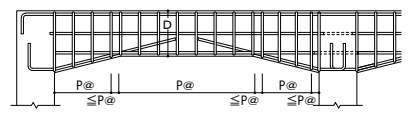
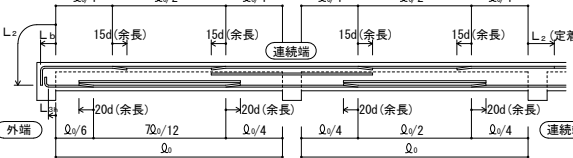
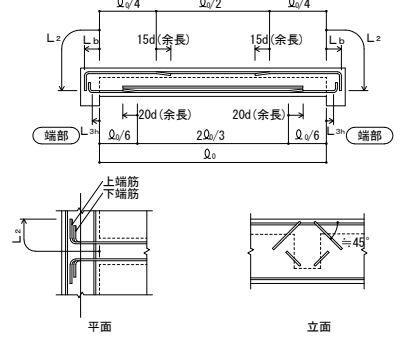
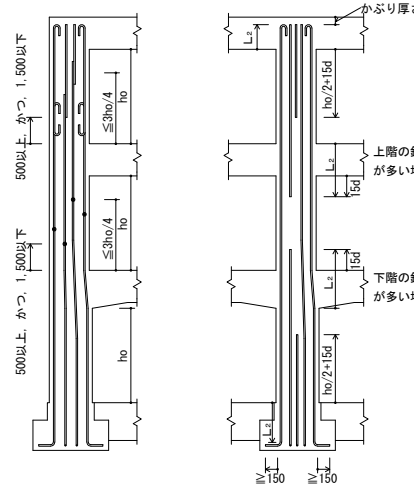
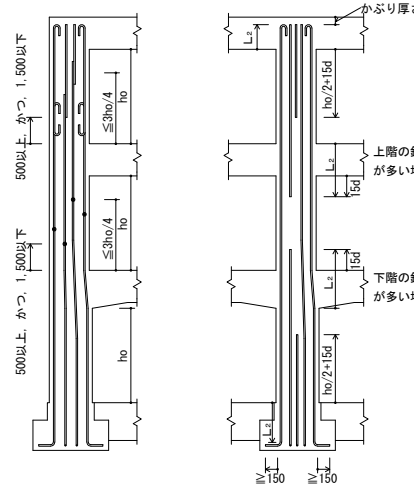
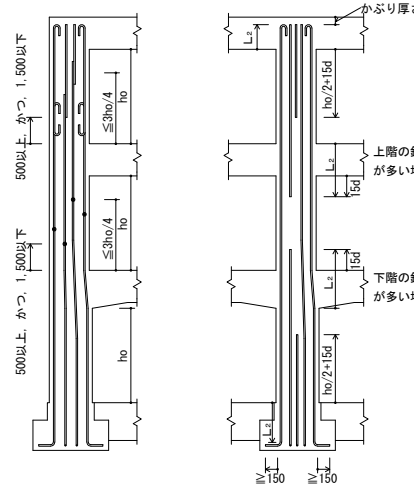


ガス圧接を例で示す

図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号 <b>S-04</b>
縮尺		
構造関係共通事項（１）		
南房総市		

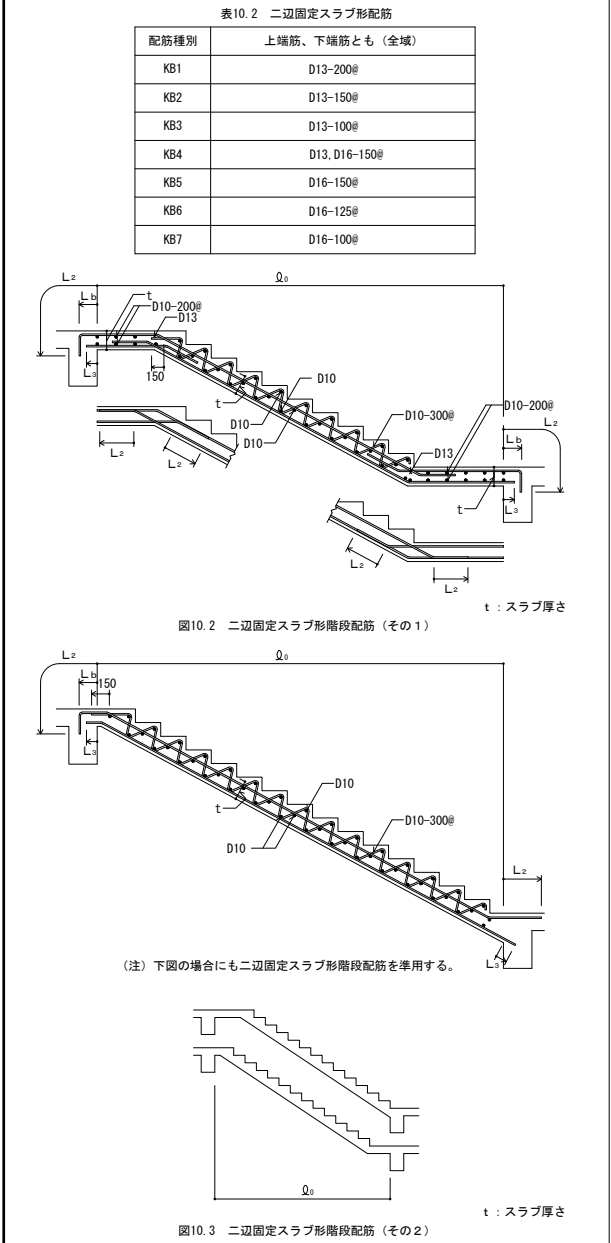


<p>(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5. 4による。（耐圧スラブがつく場合を含む）</p>  <p>(注) 1. 図示のない事項は、7. 1による。 2. ≡印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）</p>  <p>図5. 4 主筋の継手、定着及び余長（その3）</p>	<p>(2) 柱打増し部</p> <p>(7) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。</p> <p>(イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6. 2による。</p>  <p>図6. 2 柱打増し部</p>	<p>7.1 大梁</p> <p>(1) 一般事項</p> <p>(7) 梁の上がり下がりは FLを基準とした寸法値とする。</p> <p>(イ) 地中梁下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は設計図による。</p> <p>(ウ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。</p> <p>(2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項</p> <p>(7) 継手中心位置は、次による。</p> <p>上端筋：中央 <math>Q_0/2</math> 以内</p> <p>下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、<math>Q_0/4</math>を加えた範囲以内</p> <p>(イ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7. 3及び図7. 4による。</p> <p>(ウ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7. 1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。</p>  <p>図7. 1 梁主筋の梁内定着</p>	 <p>(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。</p> <p>2. ≡印は、継手及び余長を示す。</p> <p>3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、………のように引き通すことができる。</p> <p>4. 破線は、柱内定着を示す。</p> <p>5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）</p> <p>図7. 4 ハンチのある大梁の定着及び余長</p>	<p>(7) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7. 8による。</p>  <p>(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@、P' @は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</p> <p>図7. 8 あばら筋の割付け（その3）</p> <p>(2) 腹筋及び幅止め筋</p> <p>一般の梁は、図7. 9による。</p>  <p>600≦D&lt;900 900≦D&lt;1,200 1,200≦D&lt;1,500</p> <p>1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。 2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。</p> <p>図7. 9 腹筋および幅止め筋</p>		
<p>5. 2 基礎梁のあばら筋等</p> <p>(1) 一般事項</p> <p>(7) あばら筋の径および間隔は、設計図による。</p> <p>(イ) あばら筋組立の形及びフックは7. 2(2)、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7. 2(3)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1. 5m以上の場合は、図5. 5によることができる。</p>  <p>図5. 5 あばら筋組立の形及びフックの位置</p> <p>(2) 腹筋及び幅止め筋は、7. 2による。ただし、梁せいが1. 5m以上の場合は設計図による。</p> <p>(3) あばら筋の割付けは、7. 2(4)による。</p>	<p>6. 2 帯筋</p> <p>(1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。</p> <p>(2) 帯筋組立の形は図6. 3により、適用は設計図による。</p> <p>(7) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W－I 形とする。</p> <p>(イ) 溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は 5d 以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d 以上とする。</p> <p>(ウ) S P 形において、柱頭及び柱脚の端部は1. 5倍以上の添巻き行う。</p> <p>①H形</p>  <p>(イ) (ロ) (ハ) (ニ) <math>\geq 8d</math></p> <p>②W－I 形</p>  <p>(イ) (ロ) (ハ) <math>L/2</math></p> <p>③W－II形</p>  <p>④W－III形</p>  <p>⑤S P 形（スパイラル筋）</p>  <p>(イ) (ロ) <math>\geq 40d</math> <math>\geq 6d</math></p> <p>⑥丸形</p>  <p>(イ) (ロ) <math>\geq 6d</math></p> <p>(注) 溶接は、鉄筋の組立前に行う。</p> <p>(3) フック及び継手の位置は交互とする。</p> <p>(4) 帯筋の割付けは図6. 4とし、それ以外の場合は設計図による。</p>  <p>図6. 3 帯筋組立の形</p>	<p>(3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7. 3による。</p>  <p>(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。</p> <p>2. ≡印は、継手及び余長を示す。</p> <p>3. 破線は、柱内定着の場合を示す。</p> <p>4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）</p> <p>図7. 3 大梁の重ね継手、定着及び余長</p> <p>(4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7. 4による。</p>  <p>図7. 2 段違い梁</p>	<p>7. 2 あばら筋等</p> <p>(1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項</p> <p>(7) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。</p> <p>(イ) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7. 6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。</p> <p>(ウ) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。</p> <p>(2) あばら筋組立の形及びフックの位置</p> <p>(7) 形は、図7. 5. 1①とする。</p> <p>ただし、L形梁の場合は②または③、T形梁の場合は②～④とすることができる。</p> <p>(イ) フックの位置</p> <p>(a). ①の場合は交互とする。</p> <p>(b). ②の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。</p> <p>(c). ③の場合は床版の付く側を 90° 折曲げとする。</p>  <p>図7. 5. 1 あばら筋組立の形</p> <p>(3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置</p> <p>形は、図7. 5. 2⑤または⑦とする。</p> <p>ただし、L形梁またはT形梁の場合は⑦とすることができる。</p>  <p>図7. 5. 2 副あばら筋組立の形</p> <p>(4) あばら筋の割付け</p> <p>(7) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7. 6による。</p>  <p>(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。</p> <p>2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</p> <p>図7. 6 あばら筋の割付け（その1）</p> <p>(イ) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7. 7による。</p>  <p>図7. 7 あばら筋の割付け（その2）</p>	<p>7. 3 小梁</p> <p>(1) 小梁主筋の継手、定着及び余長</p> <p>連続小梁の場合は、図7. 10による。</p>  <p>(注) 1. 図示のない事項は、5. 1及び7. 1に準ずる。 2. ≡印は、余長位置を示す。</p> <p>図7. 10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）</p> <p>(2) 単独小梁の場合は、図7. 11による。</p>  <p>(注) 1. 図示のない事項は、5. 1及び7. 1に準ずる。 2. ≡印は、余長位置を示す。</p> <p>図7. 11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）</p> <p>(3) あばら筋は、7. 2による。</p>		
<table><tr><td data-bbox="68 1638 638 2030"><p>6. 1 柱</p><p>(1) 一般事項</p><p>(7) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。</p><p>(イ) 継手、定着及び余長は、図6. 1による。</p><p>ただし、柱頭定着長さL<sub>2</sub>が確保できない場合は、設計図による。</p><p>図6. 1 柱主筋の継手、定着及び余長</p></td><td data-bbox="638 1638 2899 2030"><table><tr><td data-bbox="638 1638 1202 2030"><p>設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</p><p>建築士登録番号（大臣）第338574号</p><p>建築士氏名 野口 一彦</p></td><td data-bbox="1202 1638 1765 2030"><p>検 図</p><p>製 図</p><p>設 計 令和7年10月</p></td><td data-bbox="1765 1638 2329 2030"><p>南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</p><p>縮尺</p><p>南房総市</p></td><td data-bbox="2329 1638 2899 2030"><p>図面番号 S-05</p></td></tr></table></td></tr></table>	<p>6. 1 柱</p> <p>(1) 一般事項</p> <p>(7) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。</p> <p>(イ) 継手、定着及び余長は、図6. 1による。</p> <p>ただし、柱頭定着長さL<sub>2</sub>が確保できない場合は、設計図による。</p>  <p>図6. 1 柱主筋の継手、定着及び余長</p>	<table><tr><td data-bbox="638 1638 1202 2030"><p>設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</p><p>建築士登録番号（大臣）第338574号</p><p>建築士氏名 野口 一彦</p></td><td data-bbox="1202 1638 1765 2030"><p>検 図</p><p>製 図</p><p>設 計 令和7年10月</p></td><td data-bbox="1765 1638 2329 2030"><p>南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</p><p>縮尺</p><p>南房総市</p></td><td data-bbox="2329 1638 2899 2030"><p>図面番号 S-05</p></td></tr></table>	<p>設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</p> <p>建築士登録番号（大臣）第338574号</p> <p>建築士氏名 野口 一彦</p>	<p>検 図</p> <p>製 図</p> <p>設 計 令和7年10月</p>	<p>南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</p> <p>縮尺</p> <p>南房総市</p>	<p>図面番号 S-05</p>
<p>6. 1 柱</p> <p>(1) 一般事項</p> <p>(7) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。</p> <p>(イ) 継手、定着及び余長は、図6. 1による。</p> <p>ただし、柱頭定着長さL<sub>2</sub>が確保できない場合は、設計図による。</p>  <p>図6. 1 柱主筋の継手、定着及び余長</p>	<table><tr><td data-bbox="638 1638 1202 2030"><p>設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</p><p>建築士登録番号（大臣）第338574号</p><p>建築士氏名 野口 一彦</p></td><td data-bbox="1202 1638 1765 2030"><p>検 図</p><p>製 図</p><p>設 計 令和7年10月</p></td><td data-bbox="1765 1638 2329 2030"><p>南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</p><p>縮尺</p><p>南房総市</p></td><td data-bbox="2329 1638 2899 2030"><p>図面番号 S-05</p></td></tr></table>	<p>設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</p> <p>建築士登録番号（大臣）第338574号</p> <p>建築士氏名 野口 一彦</p>	<p>検 図</p> <p>製 図</p> <p>設 計 令和7年10月</p>	<p>南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</p> <p>縮尺</p> <p>南房総市</p>	<p>図面番号 S-05</p>	
<p>設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所</p> <p>建築士登録番号（大臣）第338574号</p> <p>建築士氏名 野口 一彦</p>	<p>検 図</p> <p>製 図</p> <p>設 計 令和7年10月</p>	<p>南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）</p> <p>縮尺</p> <p>南房総市</p>	<p>図面番号 S-05</p>			



10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。  
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は構造図による。  
二辺固定スラブ形階段の配筋は表10. 2並びに図10. 2及び図10. 3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。



- 11.1 梁貫通孔
- (1) 梁貫通孔は、次による。
- (7) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11. 1による。
- (4) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
- (9) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
- (2) 孔は、柱面から原則として、1. 5D 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (6) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3倍以上とする。
- (8) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (5) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11. 2による。
- (9) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋でき、補強を省略することができる。
- (7) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (3) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φ のリング筋を取り付ける。  
なお、リング筋は、溶接金網に 4面所以上溶接する。
- (9) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (9) 他の開孔を設けない範囲は、図11. 3による。

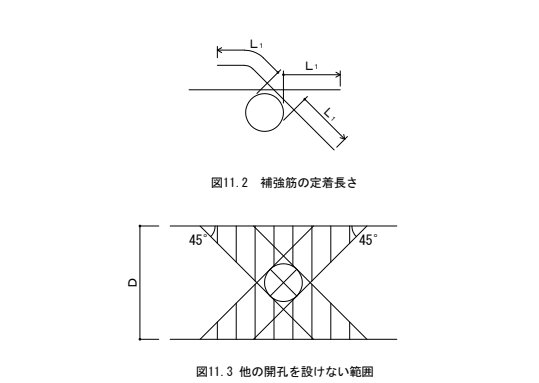
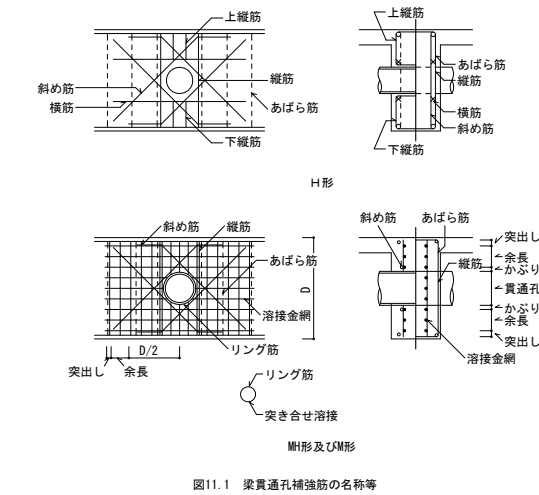


表11. 1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11. 2 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

- 11.2 コンクリートブロック帳壁との取合い
- (1) 控壁は、次による。
- (7) 控壁の配置は、設計図による。
- (4) 配筋は、図11. 4による。
- 
- 図11. 4 控壁の配筋（水平、垂直とも）
- (2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11. 5による。
- 
- 図11. 5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

- 11.3 バラベット
- バラベットの先端補強筋は図11. 6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。
- 
- 図11. 6 バラベットの先端補強筋

- 12.1 擁壁
- 宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12. 1により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。
- 
- 図12. 1 擁壁の鉄筋の定着長さ

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-07
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 —		
検 図			南房総市		

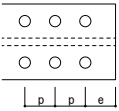
3. 構造関係共通図(鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

- (1) 縁端距離及びボルト間隔  
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。  
また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位mm)

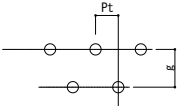
ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70



- (2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔  
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt ねじの呼び		
	M12, M16, M20, M22	M24	
35	50	65	
40	45	60	
45	40	55	
50	35	50	
55	25	45	
60	-	40	



- (3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径  
形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位mm)

A又はB	g1		g2	最大軸径	B			最大軸径	g3		最大軸径
	g1	g2			B	g1	g2		B	g3	
45	25		12	100	56		16	50	30	12	
50	28		16	125	75		16	65	35	20	
60	35		16	150	90		22	70	40	20	
65	35		20	175	105		22	75	40	22	
70	40		20	200	120		24	80	45	22	
75	40		22	250	150		24	90	50	24	
80	45		22	300	150	405※1	24	100	55	24	
90	50		24	350	140	70	24				
100	55		24	400	140	90	24				
125	50	35	24								
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

※1 千鳥打ちとした場合

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合わせ継手(B)の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$G = t$			
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$
		$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

T型継手(T)の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$1/4 t \leq S \leq 10$		$1/4 t \leq S \leq 10$	
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$	$12 < t \leq 22$
$1/4 t \leq S \leq 10$		$1/4 t \leq S \leq 10$	
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$
$1/4 t \leq S \leq 10$		$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

部材が直交しない場合の開先標準

(単位: mm)		
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		2 (両面溶接)
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	19 < t ≤ 40
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$	$19 < t \leq 40$
$1/4 t \leq S \leq 10$	$1/4 t \leq S \leq 10$	$1/4 t \leq S \leq 10$

かど継手(L)の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$S = t$			
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 19$	$12 < t \leq 19$
$1/4 t \leq S \leq 10$		$1/4 t \leq S \leq 10$	
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$
$1/4 t \leq S \leq 10$		$D1 = 2(t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

隅肉溶接(F)の開先標準

(単位: mm)		
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		2 (両面溶接)
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	16 < t ≤ 40
$t \leq 16$	$t \leq 16$	$16 < t \leq 40$

隅肉溶接のサイズ

(単位: mm)											
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10

部分溶込み溶接(P)の開先標準

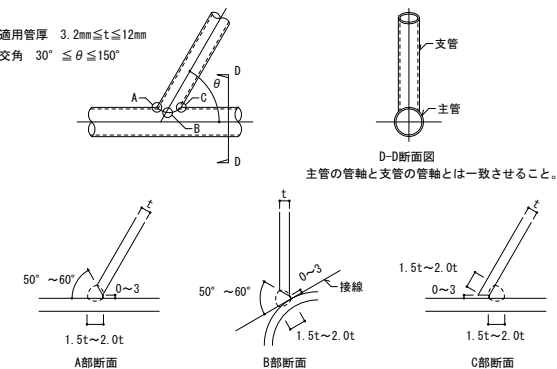
(単位: mm)	
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	$16 \leq t \leq 40$
$1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = (t-2)/2$ $D2 = (t-2)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$

重ねアーク溶接(フレア溶接)(FL)の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼シ形溶接)
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼シ形溶接)
$d' \geq 2$	$d' \geq 2$	$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$	$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$

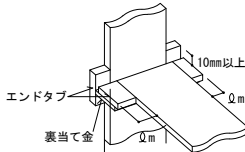
1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。



1-4 鉄骨溶接施工

- (1) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。  
(2) エンドタブ  
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



溶接方法	Qm
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

- (3) 裏当て金

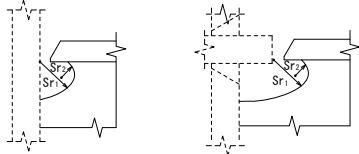
- (7) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。  
(4) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

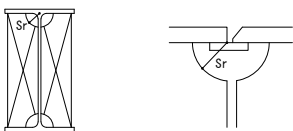
- (4) スクラップ

- 改良型スクラップ  
(7) スクラップ半径Srは35mmとする。Srは10mmとする。  
(4) スクラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スクラップ

- (1) スクラップ半径Srは35mmとする。



設計事務所名  
中日本建設コンサルタント株式会社  
一級建築士事務所  
建築士登録番号 (大臣)第338574号  
建築士氏名 野口 一彦

検 製 設 計  
図 図 令和7年10月

南房総市外房地区自己搬入施設建設工事 (建築工事)  
縮尺  
構造関係共通事項 (5)

南房総市

図面番号

S-08



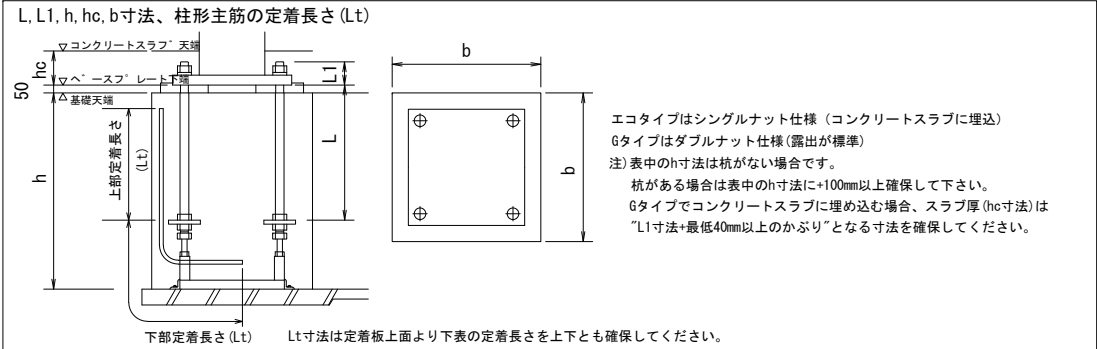
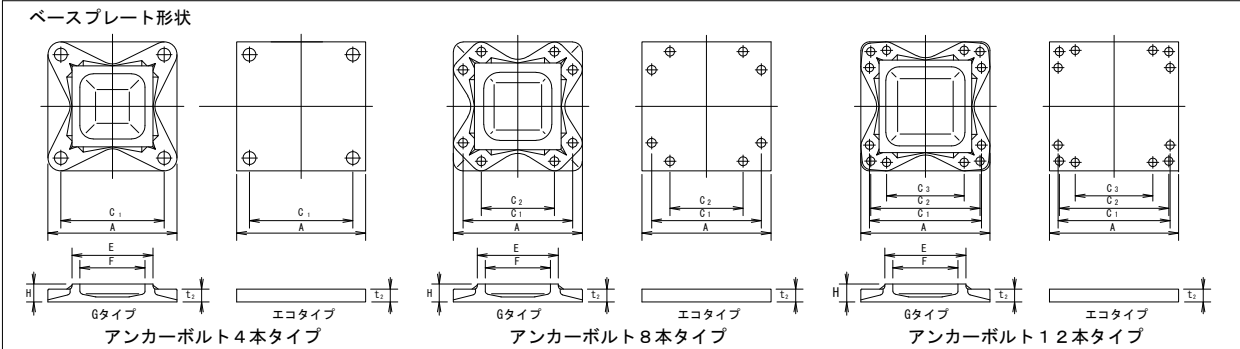
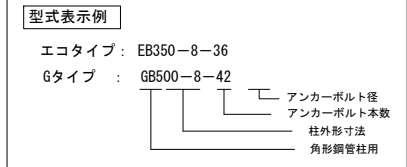
ハイベースNE0工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合)  
〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

(ハイベースNE0工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)  
(ハイベースNE0工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定  
BCJ評価

MSTL-0566, 0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)  
MBLT-0042～0044, 0046, 0231 (アンカーボルト)  
BCJ評定-S70058 (Gタイプ)  
BCJ評定-S70059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNE0工法設計ハンドブックに準拠する。



採用		通 用 柱		ハイベースNE0型式		アンカー ボルト	回転バネ 定数 X10 <sup>4</sup> kN・m/rad	寸法 (mm)											質量 (kg)				L (mm)	L1 (mm)	基礎天端～ 捨てコン天端		ベースプレート～ コンクリートスラブ面		基礎柱形の設計例 (Fc24) < 側・隅柱用 >					基礎柱形の設計例 (Fc24) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。) >						
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C 1	C 2	C3	E	F	H	t <sub>2</sub>	ベースプレート	部品	セット質量	h (mm)	hc (mm)	柱形 b (mm)	主筋量			帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	鉄筋の定着長さ Lt (mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	鉄筋の定着長さ Lt (mm)				
		□150	4.5～12	EB150-4-24		4-M24	14.0	290	210	—	—	—	—	25	17	14	31	400	80	550以上	120	500	8-D16	D13#150	500	16-D16	D13#150	200	500	8-D16	D13#150	500	16-D16	D13#150	200					
		□175	4.5～12	EB175-4-24		4-M24	17.9	310	230	—	—	—	—	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13#150	520	16-D16	D13#150	190	520	8-D16	D13#150	520	16-D16	D13#150	190					
		□200	6～12	EB200-4	-24	4-M24	21.9	340	260	—	—	—	—	25	23	14	37	400	80	600以上	120	550	8-D16	D13#150	550	16-D16	D13#150	190	550	8-D16	D13#150	550	16-D16	D13#150	190					
					-30	4-M30	35.4	360	270					32	33	23	56	400	102	600以上	150	570	8-D19	D13#150	570	16-D19	D13#150	290	570	8-D19	D13#150	570	16-D19	D13#150	290					
					-36	4-M36	41.4	360	270					40	41	36	77	480	117	700以上	160	580	12-D19	D13#150	580	20-D19	D13#100	330	580	12-D19	D13#150	580	20-D19	D13#100	330					
					-24	4-M24	32.2	390	310					25	30	15	45	400	80	600以上	120	600	8-D19	D13#150	600	12-D19	D13#150	190	600	8-D19	D13#150	600	12-D19	D13#150	190					
		□250	6～16	EB250-4	-30	4-M30	51.3	410	320	—	—	—	—	32	43	23	66	400	102	600以上	150	610	8-D19	D13#150	610	16-D19	D13#150	280	610	8-D19	D13#150	610	16-D19	D13#150	280					
					-36	4-M36	59.7	410	320					40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13#150	610	20-D19	D13#100	330	610	12-D19	D13#150	610	20-D19	D13#100	330					
						8-M30	51.1	450	360	190				40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13#150	640	20-D22	D13#100	430	640	12-D22	D13#150	640	20-D22	D13#100	430					
					-30	4-M30	70.1	460	370					32	54	24	78	400	102	600以上	150	660	8-D19	D13#150	660	16-D19	D13#150	270	660	8-D19	D13#150	660	16-D19	D13#150	270					
C2	8	□300	6～22	EB300-4	-36	4-M36	82.9	460	370	—	—	—	—	40	67	37	104	480	117	700以上	160	660	12-D19	D13#100	660	20-D19	D13#100	330	660	12-D19	D13#100	660	20-D19	D13#100	330					
					-30	8-M30	69.4	500	410	240				36	71	51	122	600	106	800以上	150	700	16-D22	D13#150	700	20-D22	D13#100	410	700	16-D22	D13#150	700	20-D22	D13#100	410					
					-36	8-M36	84.0	510	420	220				44	90	82	172	720	121	900以上	170	720	16-D25	D13#150	720	24-D25	D13#100	570	720	16-D25	D13#150	720	24-D25	D13#100	570					
						EB350-4-30								32	66	24	90	400	102	600以上	150	710	8-D19	D13#100	710	16-D19	D13#100	240	710	8-D19	D13#100	710	16-D19	D13#100	240					
					-30	8-M30	89.5	550	460	290	—	—	—	36	86	52	138	600	106	800以上	150	750	16-D22	D13#150	750	20-D22	D13#150	460	750	16-D22	D13#150	750	20-D22	D13#150	460					
					-36	8-M36	105	560	470	270				40	99	83	182	720	117	900以上	160	770	16-D25	D13#150	770	24-D25	D13#100	540	770	16-D25	D13#150	770	24-D25	D13#100	540					
					-42	8-M42	133	590	480	260				48	132	131	263	840	138	1100以上	180	790	20-D25	D13#150	790	32-D25	D13#100	710	790	20-D25	D13#150	790	32-D25	D13#100	710					
						GB350-4	-42	4-M42	128	550	440	—		75	50	107	72	179	840	145	1100以上	—	750	12-D25	D13#150	750	16-D25	D13#150	480	750	12-D25	D13#150	750	16-D25	D13#150	480				
						4-M48	156	590	460					90	61	142	113	255	960	168	1200以上	—	790	12-D25	D13#150	790	20-D25	D13#150	580	790	12-D25	D13#150	790	20-D25	D13#150	580				
						8-M30	150	540	450	280	—	356	280	55	28	77	52	129	600	95	800以上	—	740	16-D22	D13#150	740	20-D22	D13#150	470	740	16-D22	D13#150	740	20-D22	D13#150	470				
						8-M36	188	560	470	270				65	36	95	83	178	720	116	900以上	—	770	16-D25	D13#150	770	24-D25	D13#100	560	770	16-D25	D13#150	770	24-D25	D13#100	560				
						8-M42	216	590	480	260				70	45	118	131	249	840	140	1100以上	—	790	20-D25	D13#100	800	32-D25	D16#100	610	790	20-D25	D13#100	800	32-D25	D16#100	610				
					-30	8-M30	111	600	510	340				36	102	52	154	600	106	800以上	150	800	16-D22	D13#150	800	20-D22	D13#150	450	800	12-D22	D13#150	800	20-D22	D13#150	450					
					-36	8-M36	127	610	520	320	—	—	—	40	117	83	200	720	117	900以上	160	820	16-D25	D13#100	820	24-D25	D13#100	530	820	12-D25	D13#100	820	24-D25	D13#100	530					
					-42	8-M42	175	640	530	310				48	155	131	286	840	138	1100以上	180	840	20-D25	D13#100	840	32-D25	D13#100	680	840	20-D25	D13#100	840	32-D25	D13#100	680					
						4-M42	163	600	490	—				75	49	129	73	202	840	144	1100以上	—	810	12-D25	D13#100	810	16-D25	D13#100	400	810	12-D25	D13#100	810	16-D25	D13#100	400				
						4-M48	194	640	510	—				85	59	165	114	279	960	166	1200以上	—	840	12-D25	D13#100	840	20-D25	D13#100	500	840	12-D25	D13#100	840	20-D25	D13#100	500				
						8-M36	234	610	520	320	—			60	34	110	83	193	720	114	900以上	—	820	16-D25	D13#100	820	24-D25	D13#100	540	820	16-D25	D13#100	820	24-D25	D13#100	540				
						8-M42	282	640	530	310				70	42	136	131	267	840	137	1100以上	—	840	20-D25	D13#100	850	32-D25	D16#100	600	840	20-D25	D13#100	850	32-D25	D16#100	600				
						8-M48	321	680	550	300				80	52	176	211	387	960	159	1300以上	—	880	20-D29	D13#100	890	28-D29	D16#100	790	880	20-D29	D13#100	890	28-D29	D16#100	790				
						8-M36	169	660	570	370	—	—	—	44	150	84	234	720	121	900以上	170	870	16-D25	D13#100	870	24-D25	D13#100	520	870	16-D25	D13#100	870	24-D25	D13#100	520					
					-42	8-M42	199	690	580	360				48	180	132	312	840	138	1100以上	180	890	24-D25	D13#100	890	32-D25	D13#100	670	890	20-D25	D13#100	890	32-D25	D13#100	670					
						4-M42	199	650	540	—				75	48	153	73	226	840	143	1100以上	—	860	12-D25	D13#100	860	16-D25	D13#100	390	860	12-D25	D13#100	860	16-D25	D13#100	390				
						4-M48	236	690	560					85	58	192	116	308	960	165	1200以上	—	890	12-D25	D13#100	890	20-D25	D13#100	480	890	12-D25	D13#100	890	20-D25	D13#100	480				
						8-M36																																		





アスコラム工法地業特記仕様書

1 工事概要

本地業は、セメントミルクを用いた機械式攪拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。  
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって地盤改良を行うものである。

2 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針（財）日本建築センター、以下指針という による。

3 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（改良長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントミルクの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度は  $F_c=1100\text{kN/m}^2$ （ $1.10\text{N/mm}^2$ ）、造成後の改良体強度に対し F 検定結果による変動係数 25％以下、不良率 10％を確保するものとする。  
F 検定：各施工業者で既往の調査結果から下記の品質項目を確認したもの。  
① 改良体強度の分布に関する正規分布の適合度の判定。  
② 土質毎の変動係数の信頼性の確認。  
（指針（P617～624）の算定方法による。）
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (4) セメントミルクを用いた機械式攪拌深層混合処理工法の専門工事会社（エスミコラム協会所属会員）を本工事施工業者とする。
- (5) 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、共回り現象を防止する攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- (6) 工法の選定においては、（財）日本建築総合試験所等 公的機関における性能証明を取得した工法とし、施工会社は上記工法を自社で取得している会社に限るものとする。

4 施工計画

- 工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。
- ① 工法概要  
② 工事概要（工事名称・工事場所）  
③ 施工内容  
（工法・使用材料・設計基準強度・合格判定強度・室内目標強度・コラム径・コラム数量等）  
④ 施工機器および仮設設備と配置  
⑤ 工事期間及び工程  
⑥ 施工仕様（固化材配合・スラリー注入量等）  
⑦ 施工要領（注入液の製造・コラム施工フロー等）  
⑧ 施工管理の方法  
⑨ 品質検査の方法  
⑩ 施工管理体制  
（本工事施工業者名及び責任者名・各種作業の主たる従事者の組織表等）  
⑪ 安全対策

5 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように養生する。
- (2) 必要に応じ監督員の立ち会いのもとで試験打ちを行う。ボーリングデータ等地盤の状況が把握できる地点の近くで試験打ちを行い、所定の下部地盤に到達した時に次の事項を確認し管理指標値を決定する。  
① 深さ  
② オーガの抵抗値（電動オーガーは 電流値、油圧オーガーは トルク値）  
③ 貫入速度の変化
- (3) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が判明した場合は別途検討する。  
① 攪拌装置をコラム芯にセットする。  
② 所定の空掘深度まで掘削する。  
③ ミルクを吐出しながら混合攪拌する。  
④ 所定深度に到達したら、ミルクの吐出を停止し、先端処理を行う。  
⑤ 攪拌装置を回転させながら引き上げる。  
⑥ 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6 施工機械

- (1) 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、共廻り現象を防止する攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いる。
- (3) 改良機本体は、本地業の施工仕様を満足できる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7 配合管理

- (1) セメントミルクに使用する固化材は、セメント系固化材とする。
- (2) 配合強度  
配合管理目標変動係数を想定し、「9 品質検査」に規定する抜き取り箇所数 N から表1を用いて  $\alpha_c$  を決め、配合強度 X を設定する。  
 $X_c = F_c \cdot \alpha_c$   
 $X_c$ ：配合強度  
 $F_c$ ：設計基準強度  
 $\alpha_c$ ：割り増し係数

表 1 割り増し係数（ $L_{50}=80\%$ 、 $V_d=25\%$ の場合）

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
配合管理目標変動係数 $V_c$						
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

(3) W/Cと固化材料

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。  
 $X_c = X_t / \alpha_n$   
 $X_t$ ：室内配合強度  
 $X_t$ ：配合強度  
 $\alpha_n$ ：現場/室内強度比（強度比 粘性土0.64、砂質土0.84）

(4) 注入固化ミルクの配合及び使用量は、下記を原則とする。

（事前に現状土による室内配合試験を実施し、配合量を決定する。）

- ① 固化材料：セメント系固化材（TL-3E 同等品）  
水（飲料水・工業用水等）  
② 配合：W/C=70～100%  
③ 使用量：添加量は300kg/m<sup>3</sup> とする。（推定量）

8 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するために下記に示す項目について施工管理する。
- ① 形状・寸法  
鉛直性：改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。  
コラム芯：事前にコラム芯にマークを設ける。  
掘削深度：深度計で計測し記録する。  
改良径：攪拌装置の形状・寸法を記録する。
- ② セメントミルク  
材料：水、固化材を計量する。  
ミルク比重：比重計（マッドバランス等）で計測する。  
ミルク吐出量：流量計で計測し記録する。
- ③ 攪拌混合度  
貫入・引き上げ速度：速度計で計測し記録する。  
攪拌装置：掘削翼、攪拌翼の枚数を確認する。
- ④ 下部地盤  
掘進速度、オーガー抵抗値（電流値またはトルク値）  
：掘削深度は深度計で管理する。  
：支持地盤確認は掘削中のオーガーの抵抗値、試掘調査等総合判断により管理する。
- ⑤ 改良先端処理  
コラム頭部の位置を所定の仕上がり高さにするため、施工後適切な時期にバックホー等でコラム頭部を削り取って天端処理を行う。ただし、深基礎等、現場状況により改良天端処理が不可能な場合は、根切り工掘削時に改良体を損傷しないようにコラム頭部を削り取ること。
- (2) 施工の立会い  
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数  
① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。  
② 検査対象層は砂質土・粘性土層であり設計対象層を粘性土層とする。  
調査箇所数は全コラムに対し100コラムに1箇所以上かつ、1検査対象群に1箇所以上とする。  
③ 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。  
④ 調査ヶ所数

表 2 調査ヶ所数

検査手法A	頭部37供試体	1ヶ所×3本（材令28日）
	全長37供試体	1ヶ所 上・中・下 各3本（材令28日）

※改良長3m未満の場合は1mに3本

- (3) 合否の判定  
① 設計対象層についての抜き取り1ヶ所に対し3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。  
② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。  
③ 検査手法Aによる品質検査  
合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（採取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。  
 $X_0 \geq X_t = F_c + k_s \cdot \sigma_s = F_c + k_s \cdot \{F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d)\}$   
 $X_0$ ：Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値  
 $X_t$ ：合格判定値  
 $F_c$ ：設計基準強度  
 $k_s$ ：合格判定係数  
 $\sigma_s$ ：標準偏差  $\sigma_s = V_d \cdot q_{90}$   
 $V_d$ ：変動係数、性能証明による

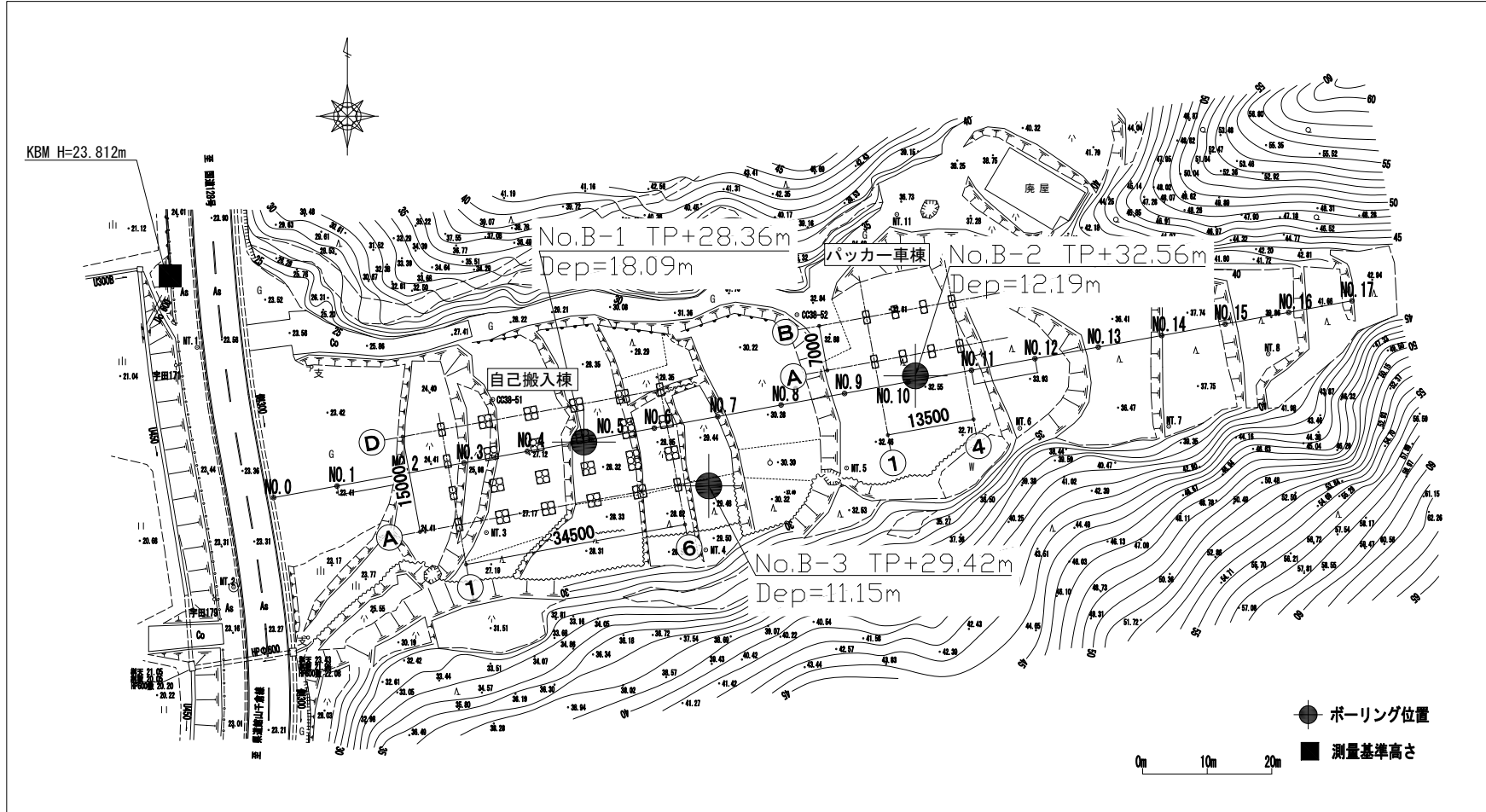
表 3 合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 $k_s$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

- (4) 六価クロム溶出試験  
国土交通省 国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日） 「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による六価クロム溶出試験を実施し、試験結果を提出するものとする。  
事前配合試験段階 1検体

10 報告

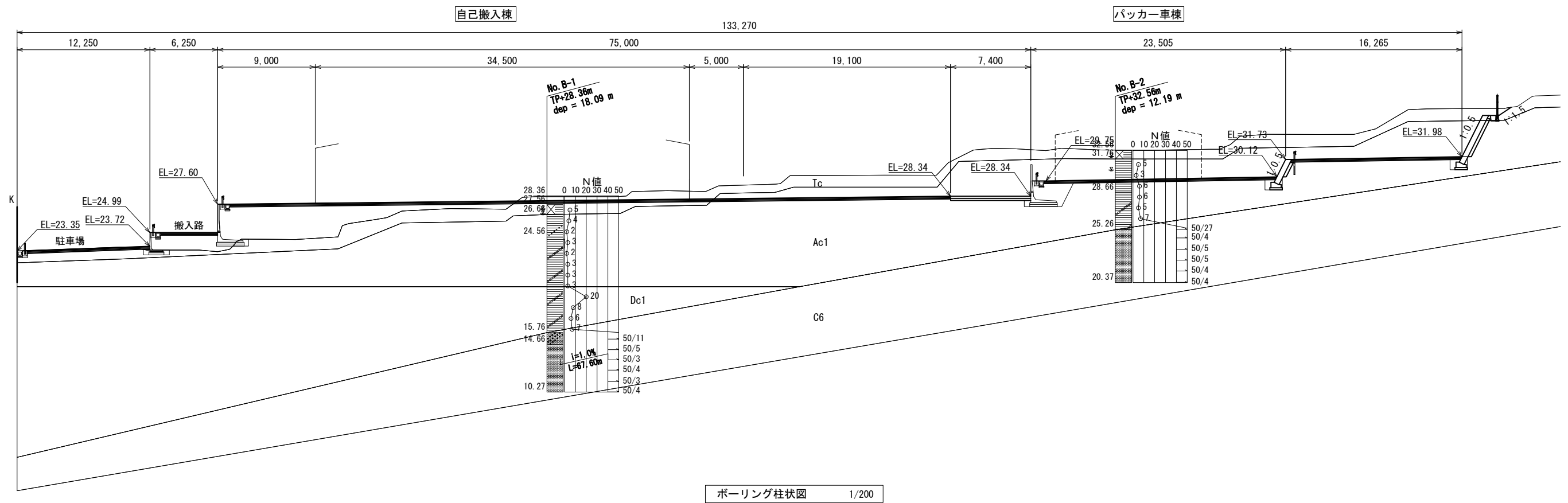
- 工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。
- ① コラムの施工数量  
② コラム番号及び施工進捗図  
③ コラムの施工日・径・長さ・掘削深度  
④ スラリー比重値  
⑤ 固化材の使用量  
⑥ コアの強度管理試験・合格判定結果



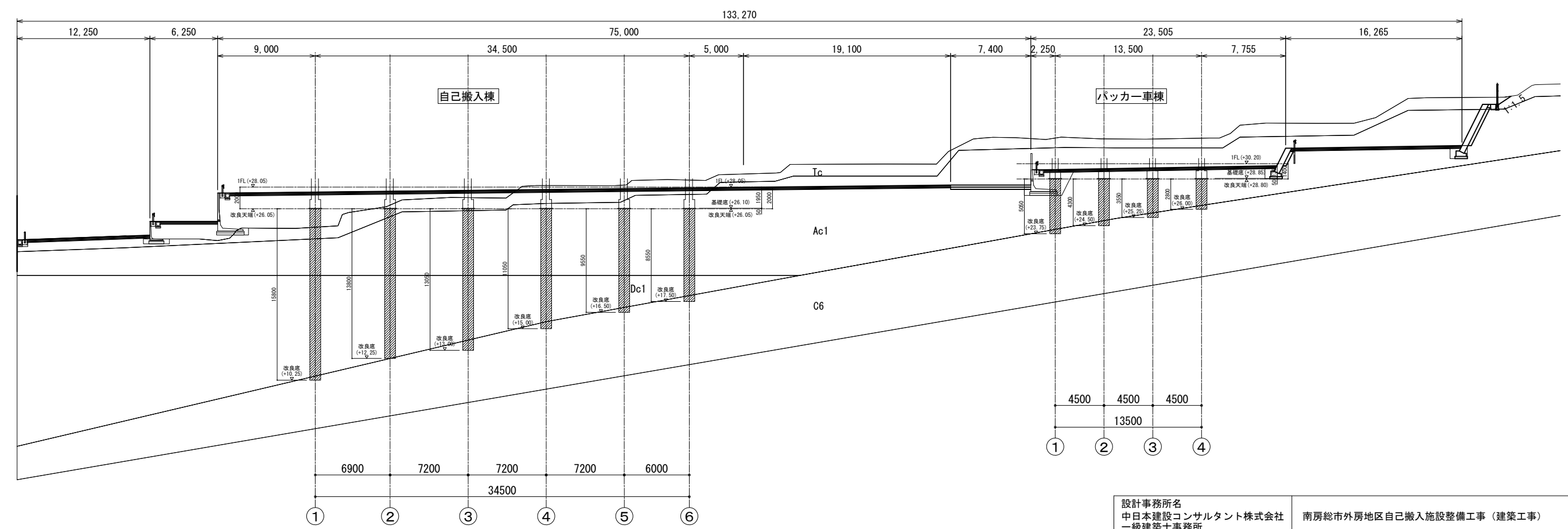
ボーリング調査位置図 1/500

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  S-12
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/500	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	



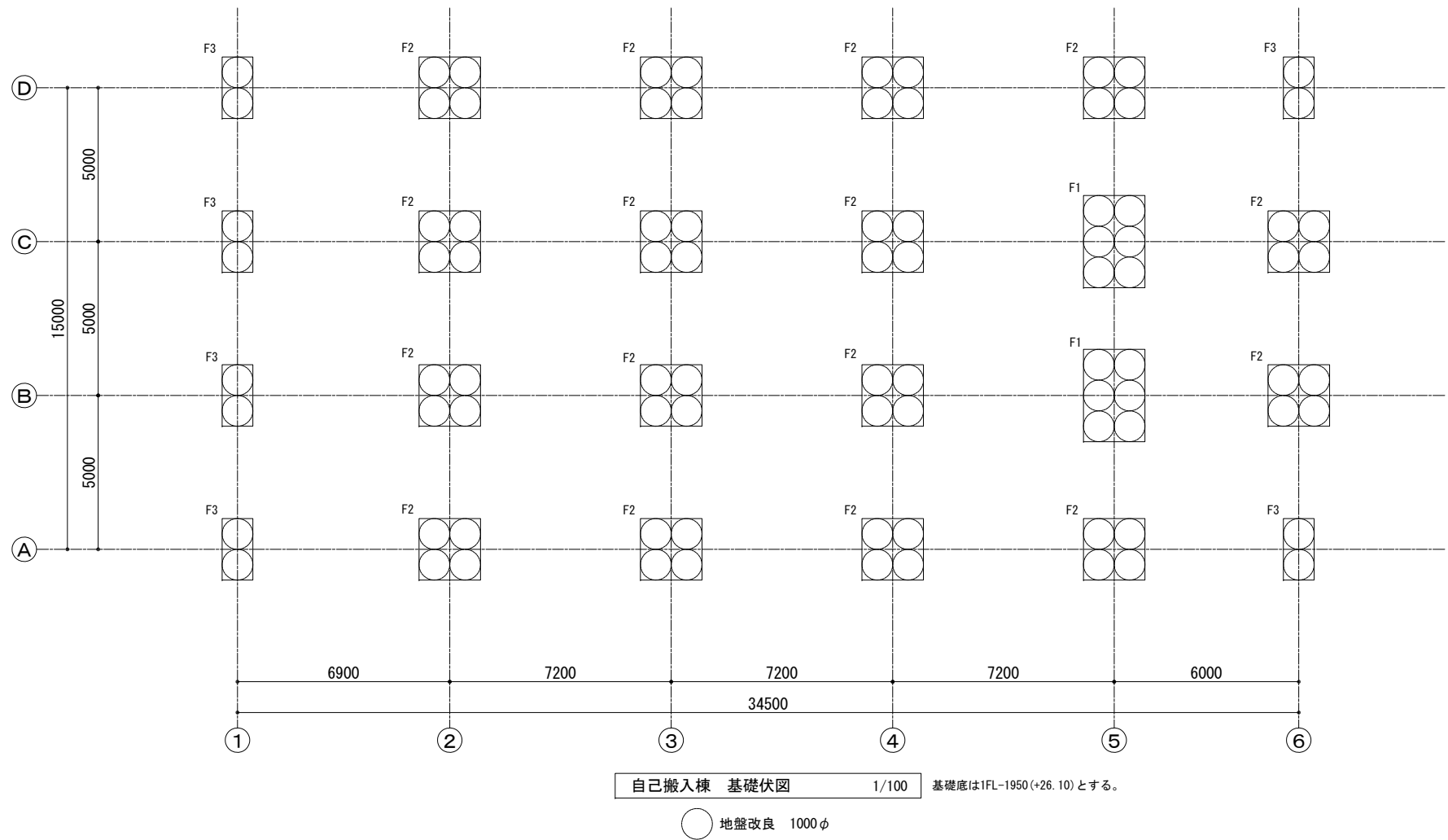


ボーリング柱状図 1/200



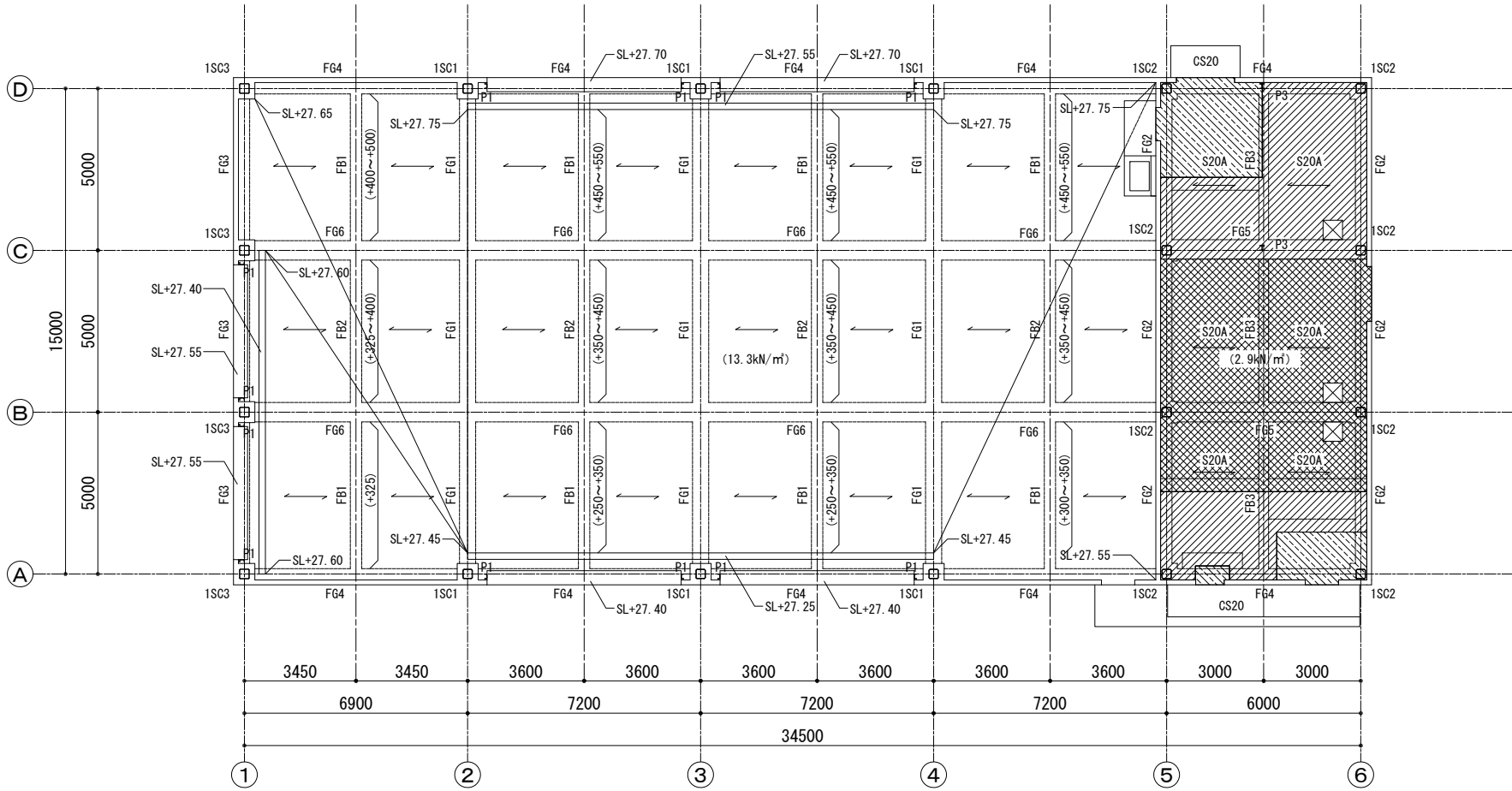
地盤改良断面図 1/200

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設整備工事（建築工事）		図面番号  S-13
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 ボーリング柱状図、地盤改良断面図 1/200		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

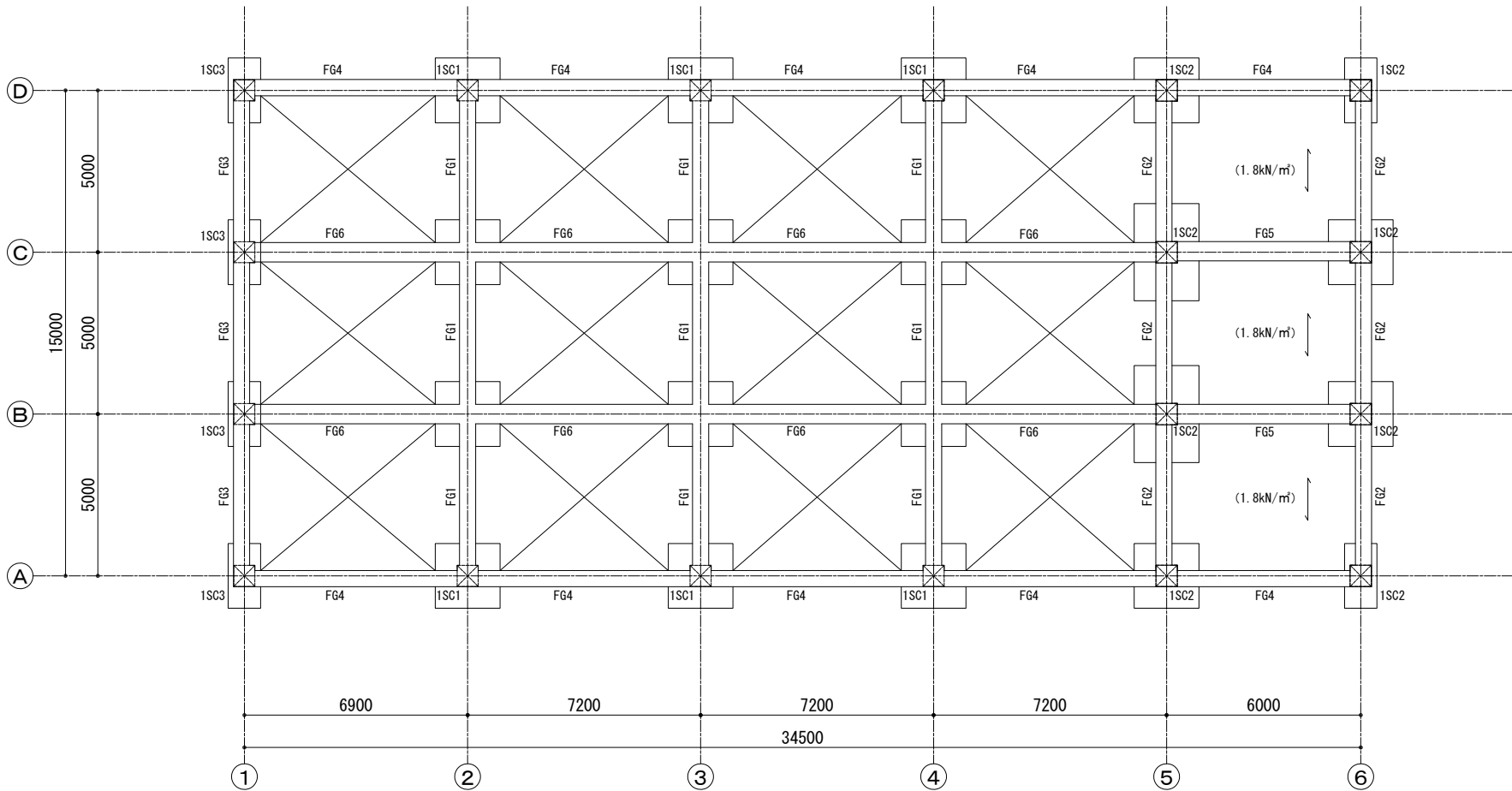


地盤改良工法	深層混合処理工法（アスコラム工法同等品）
改良径	1000φ
改良長さ	8550～15800
設計基準強度	$F_c = 1200 \text{ kN/m}^2$
施工本数	88

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-14
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/100 自己搬入棟 基礎伏図		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 1階床梁伏図 1/100



自己搬入棟 床下ピット伏図 1/100

1階共通事項（特記なき限り下記による）	
	鉄筋コンクリート壁を示す
	SL=1FL-300(+27.75)~-600(+27.45)
	SL=1FL±0(+28.05)
	SL=1FL-50(+28.00)
	SL=1FL-130(+27.92)
	( ) 内数字は小梁増打厚を表す。+は上部-は下部
( kN / m² )	床用長期積載荷重を示す
	スラブの主筋方向を示す。
1FL+28.05とする。	
床板は S20 とする。	
腰壁はW15、天端1FL+800(+28.85)とする。	

鉄骨の仕様	
柱	BCR295
大梁	SN400B
小梁	SN400A
間柱	SN400A, SS400
通しダイヤフラム	SN490C
内ダイヤフラム	SN400B
高力ボルト	S10T
普通ボルト	4T

コンクリートの仕様				
分 類	コンクリート種別	設計強度 (N/mm²)	スラブ (c m)	セメントの種類
1SLより上	普通コンクリート	24	18	普通ポルトランドセメント
1SLまで	普通コンクリート	24	15	普通ポルトランドセメント

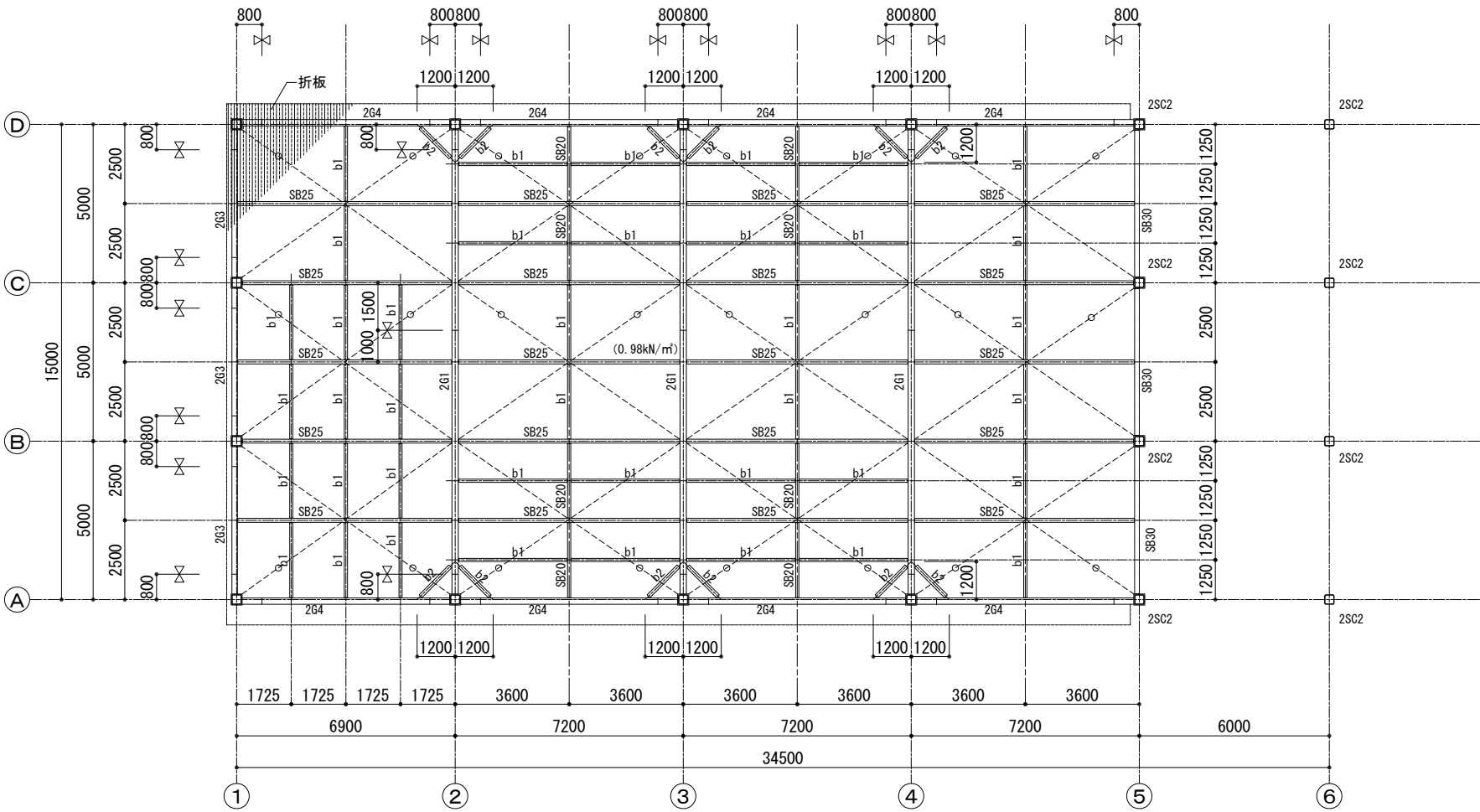
鉄筋の仕様		
鉄筋の種類	種 別	鉄筋径
	SD295	D16以下
鉄筋の継手	SD345	D19以上
	ガス圧接	D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	重ね継手	上記以外

鉄筋の最小かぶり厚さ（mm）				
（建築工事）			一般地域	
土に接しない 部分	スラブ・非耐力壁	仕上あり		20
		仕上なし		30
	柱・梁・耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
土に接する 部分	柱・梁・スラブ・壁		40	
	基礎・擁壁・耐圧スラブ		60	

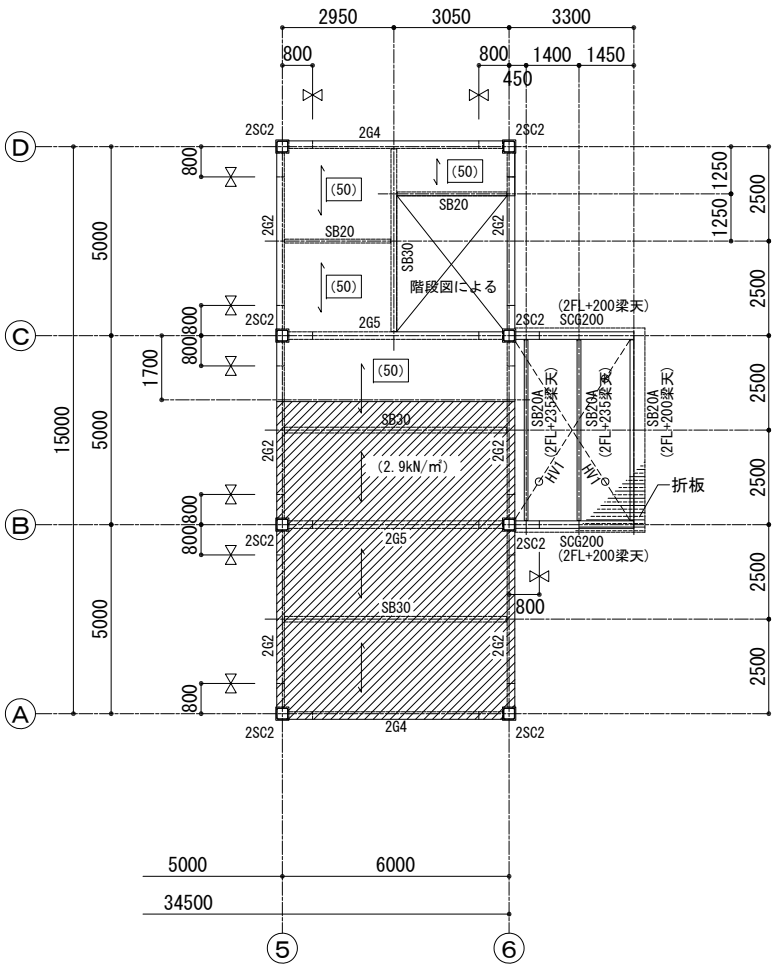
※打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。

床下ピット階共通事項（特記なき限り下記による）	
	SL=B1FL-1650(+26.40)
( kN / m² )	床用長期積載荷重を示す
	スラブの主筋方向を示す。
1FL+28.05とする。	
床板は FS20 とする。	
基礎梁天端は1FL-850(+27.20)とする。	

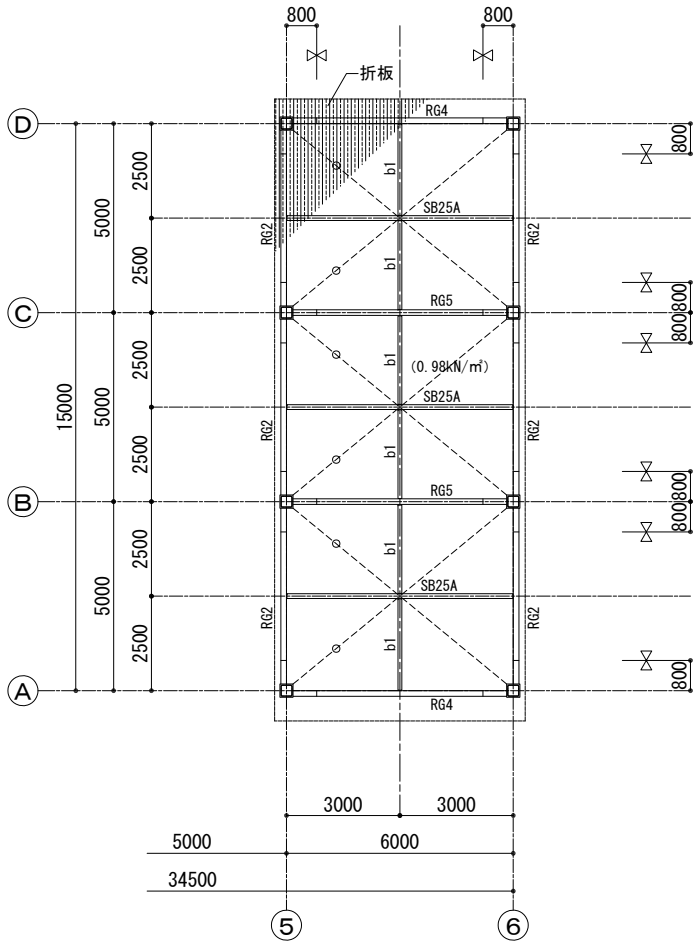
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-15
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 床梁伏図 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 1階屋根伏図 1/100 オーバースライダーの下地鉄骨は、建具施工図によるものとする。



自己搬入棟 2階床梁伏図 1/100



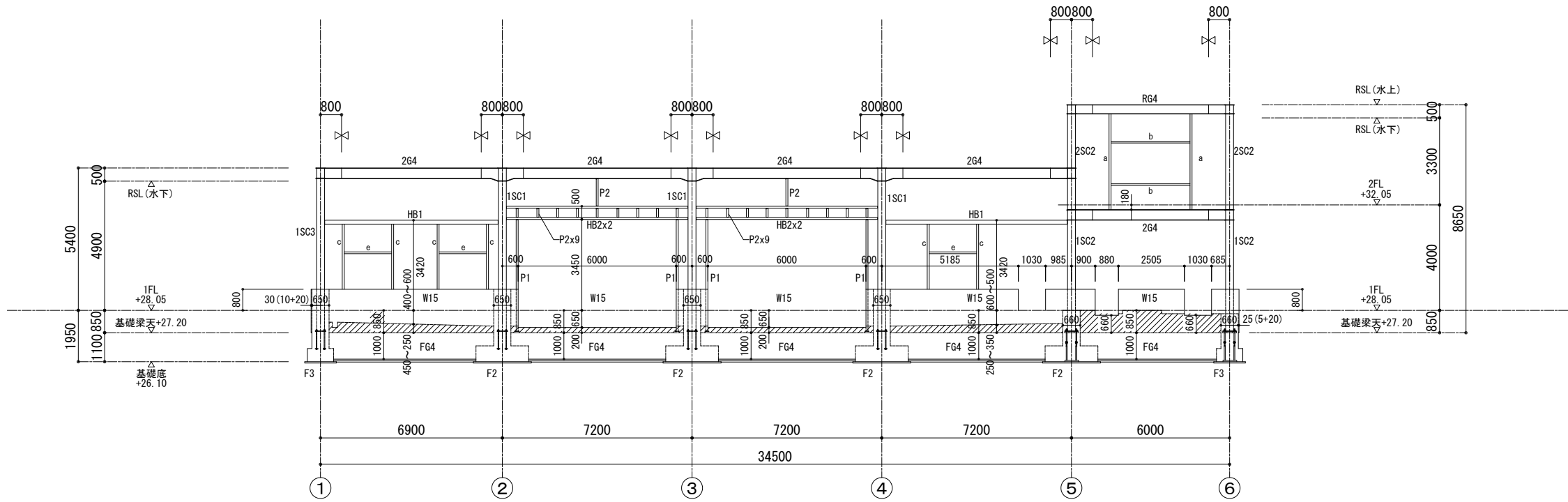
自己搬入棟 2階屋根伏図 1/100

2階屋根共通事項（特記なき限り下記による）	
( kN / m² )	床用長期積載荷重を示す
✕	鉄骨梁現場継手位置を示す
---e---	鉄骨ブレース用ターンバックルを示す
水平ブレースはHV1とする。	
RSL (鉄骨梁天高さ) は水上+35.85 (A通)、水下+35.35 (D通) とする。	

1階屋根共通事項（特記なき限り下記による）	
( kN / m² )	床用長期積載荷重を示す
✕	鉄骨梁現場継手位置を示す
---e---	鉄骨ブレース用ターンバックルを示す
水平ブレースはHV2とする。	
RSL (鉄骨梁天高さ) は水上+33.45 (A通)、水下+32.95 (D通) とする。	

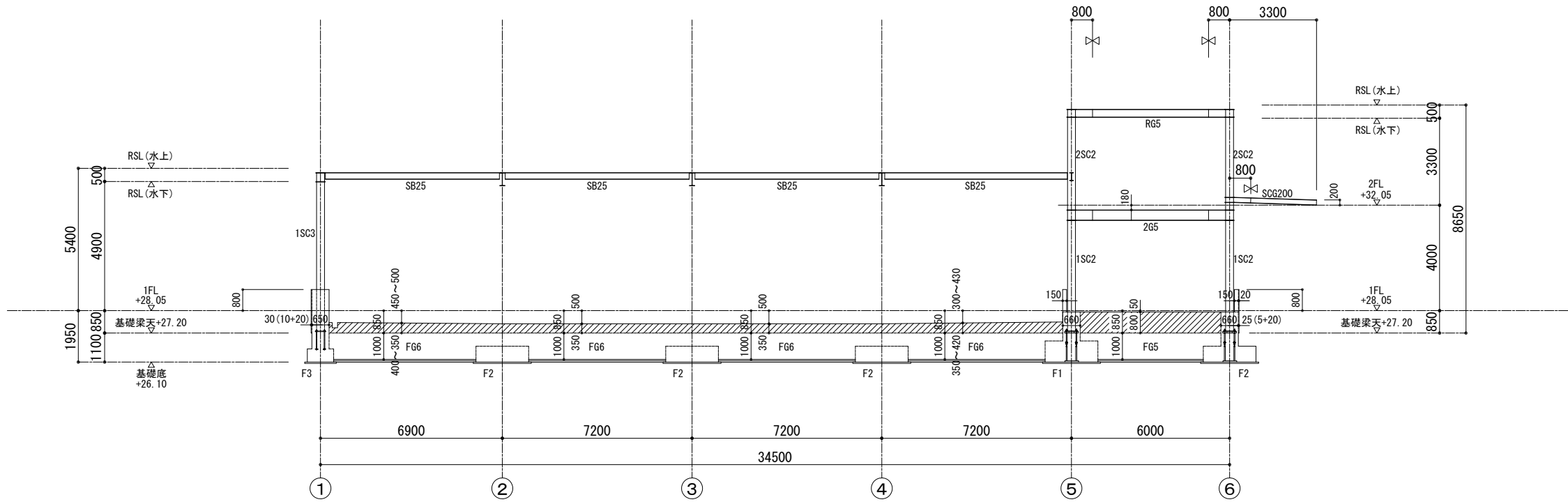
2階共通事項（特記なき限り下記による）	
	SL=2FL±0 (+32.05) スラブ上部増打50
	SL=2FL-50 (+32.00)
( kN / m² )	床用長期積載荷重を示す
←	スラブの主筋方向を示す。
✕	鉄骨梁現場継手位置を示す
( )	( ) 内数字は無筋コンクリート打設厚を表す
2FL+32.05とする。	
鉄骨梁天高さは2FL-180 (+31.87) とする。	
床板は DS1 とする。	

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-16
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			自己搬入棟 床梁伏図、屋根伏図 縮尺 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 A通 軸組図 1/100

オーバースライダーの開口廻り鉄骨位置は、建具施工図によるものとする。  
P1は基礎梁天端までとする。

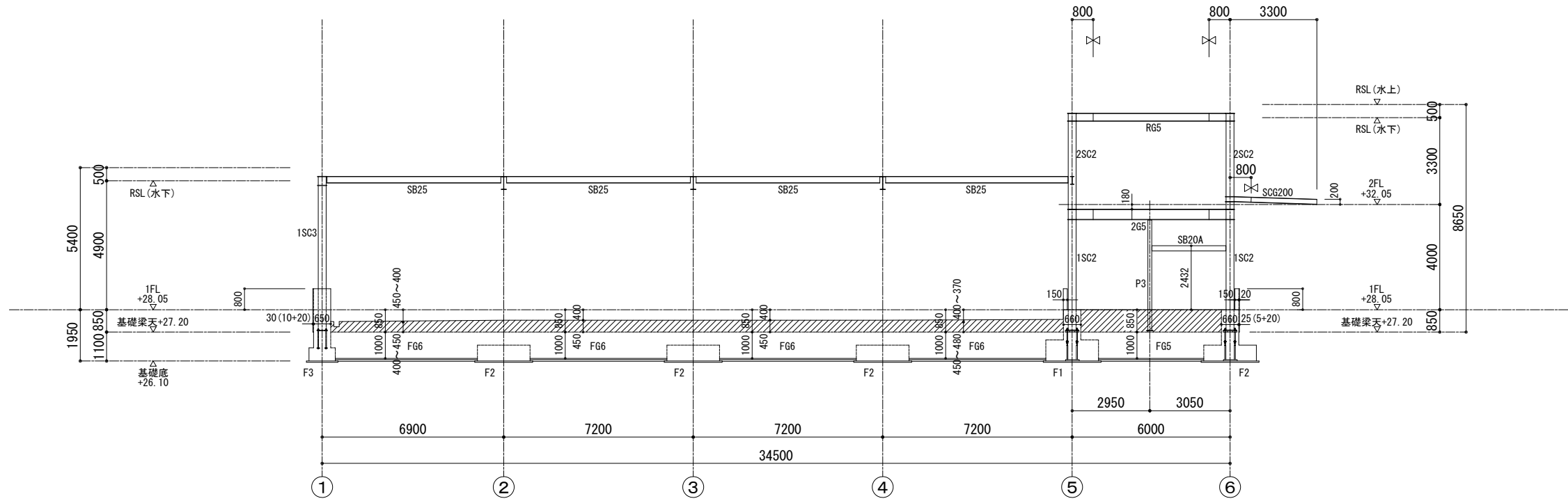


自己搬入棟 B通 軸組図 1/100

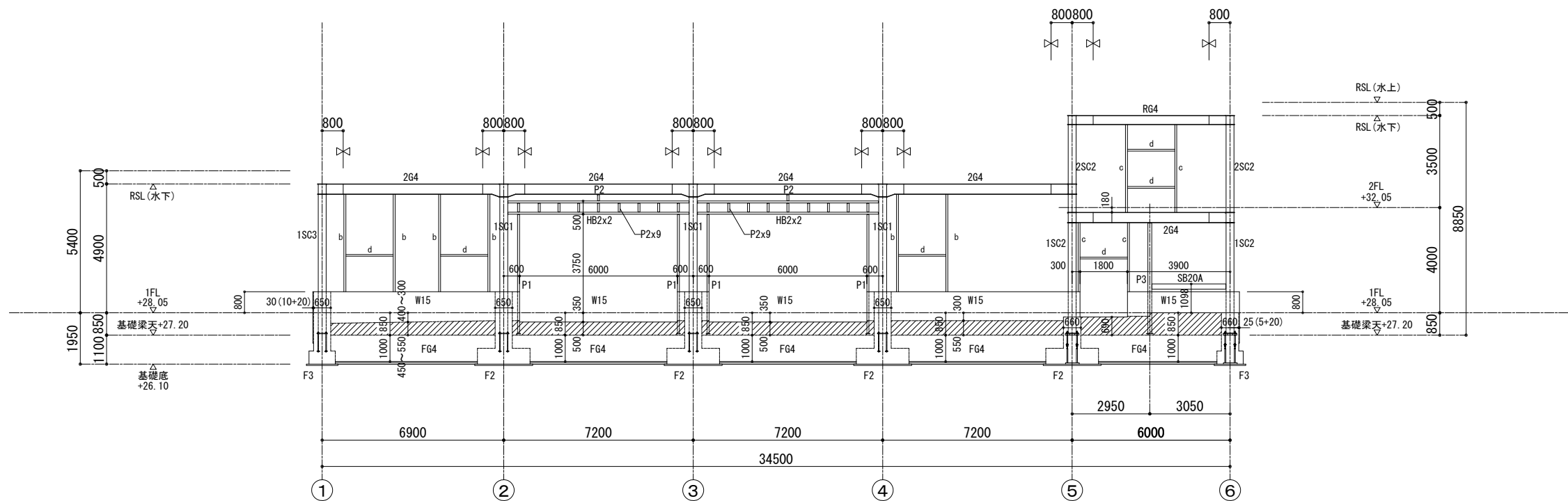
P3は基礎梁天端までとする。

凡 例	
	梁の増打ちを示す。
a	ALC開口補強 (L-90x90x10) を示す。
b	ALC開口補強 (L-90x90x7) を示す。
c	ALC開口補強 (L-75x75x9) を示す。
d	ALC開口補強 (L-65x65x6) を示す。
e	ALC開口補強 (L-50x50x6) を示す。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-17
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 軸組図（1） 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



自己搬入棟 C通 軸組図 1/100

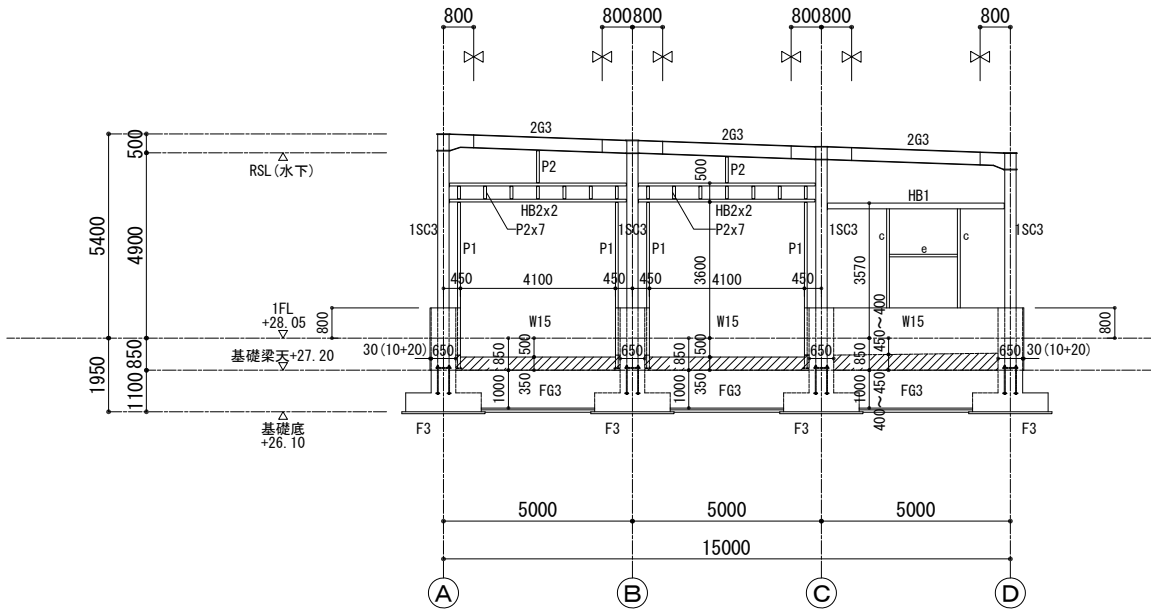


自己搬入棟 D通 軸組図 1/100

オーバースライダーの開口廻り鉄骨位置は、建具施工図によるものとする。  
P1は基礎梁天端までとする。

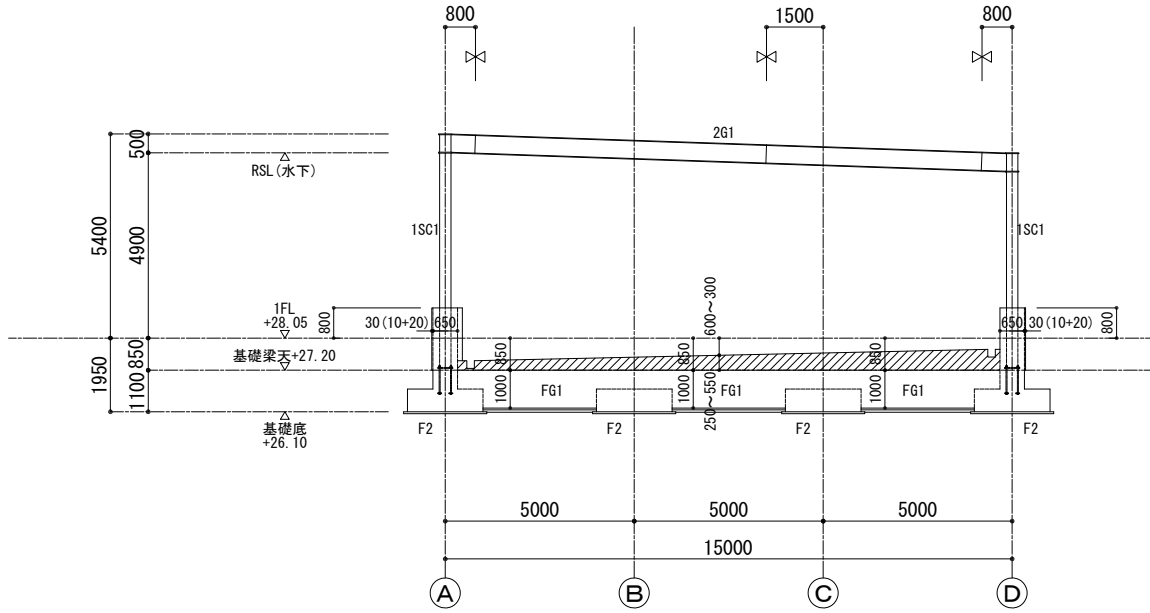
凡 例	
	梁の増打ちを示す。
a	ALC開口補強 (L-90x90x10) を示す。
b	ALC開口補強 (L-90x90x7) を示す。
c	ALC開口補強 (L-75x75x9) を示す。
d	ALC開口補強 (L-65x65x6) を示す。
e	ALC開口補強 (L-50x50x6) を示す。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-18
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 軸組図（2） 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

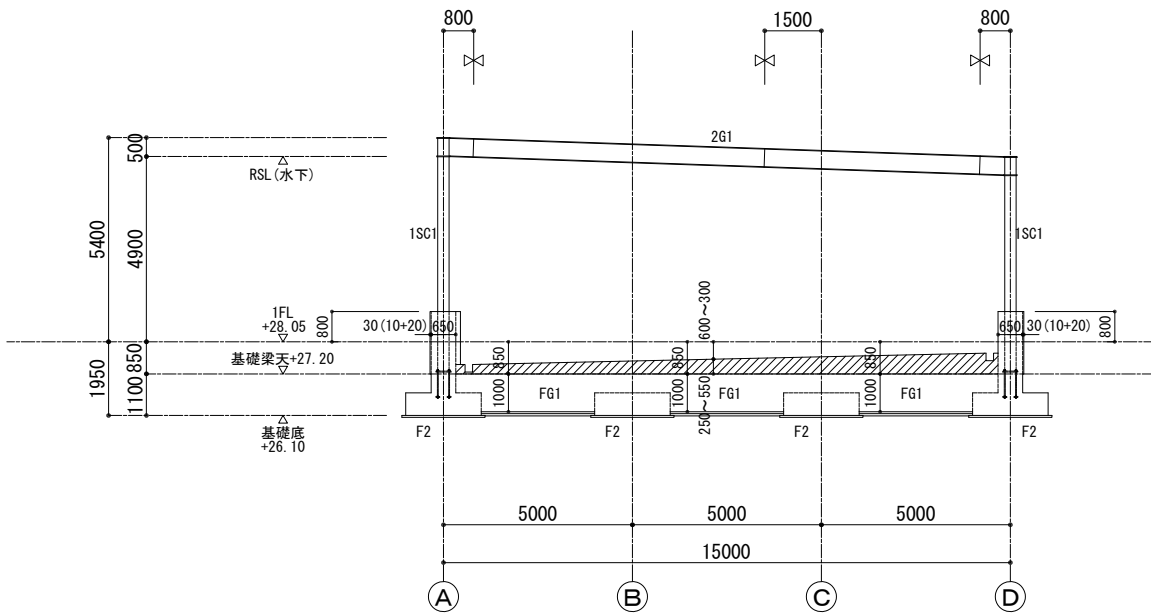


自己搬入棟 1通 軸組図 1/100

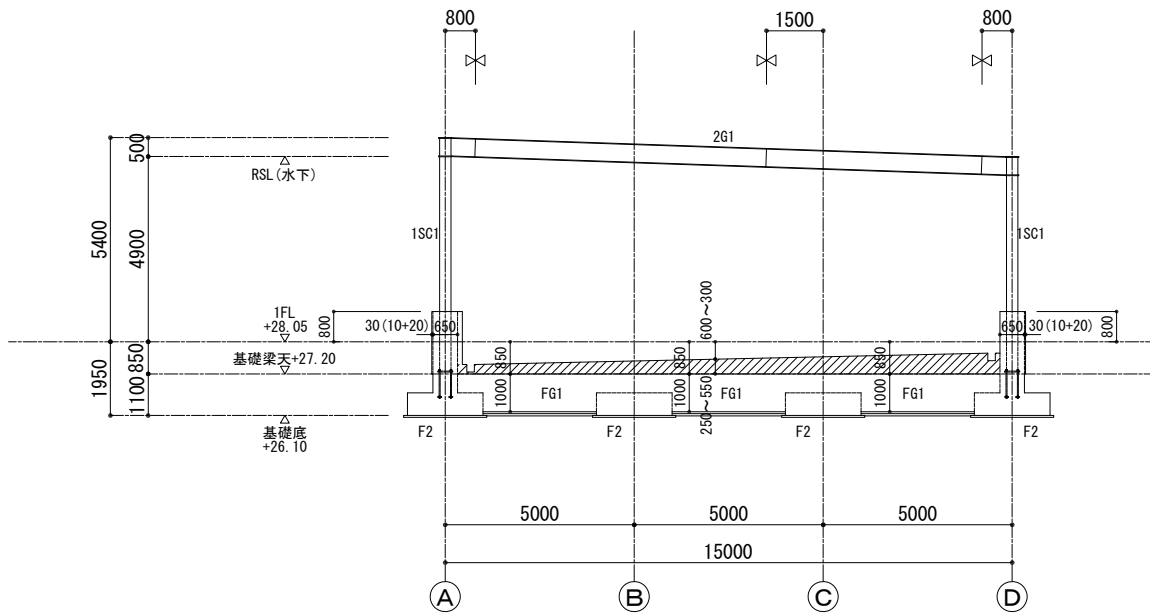
オーバースライダーの開口廻り鉄骨位置は、建具施工図によるものとする。  
P1は基礎梁天端までとする。



自己搬入棟 2通 軸組図



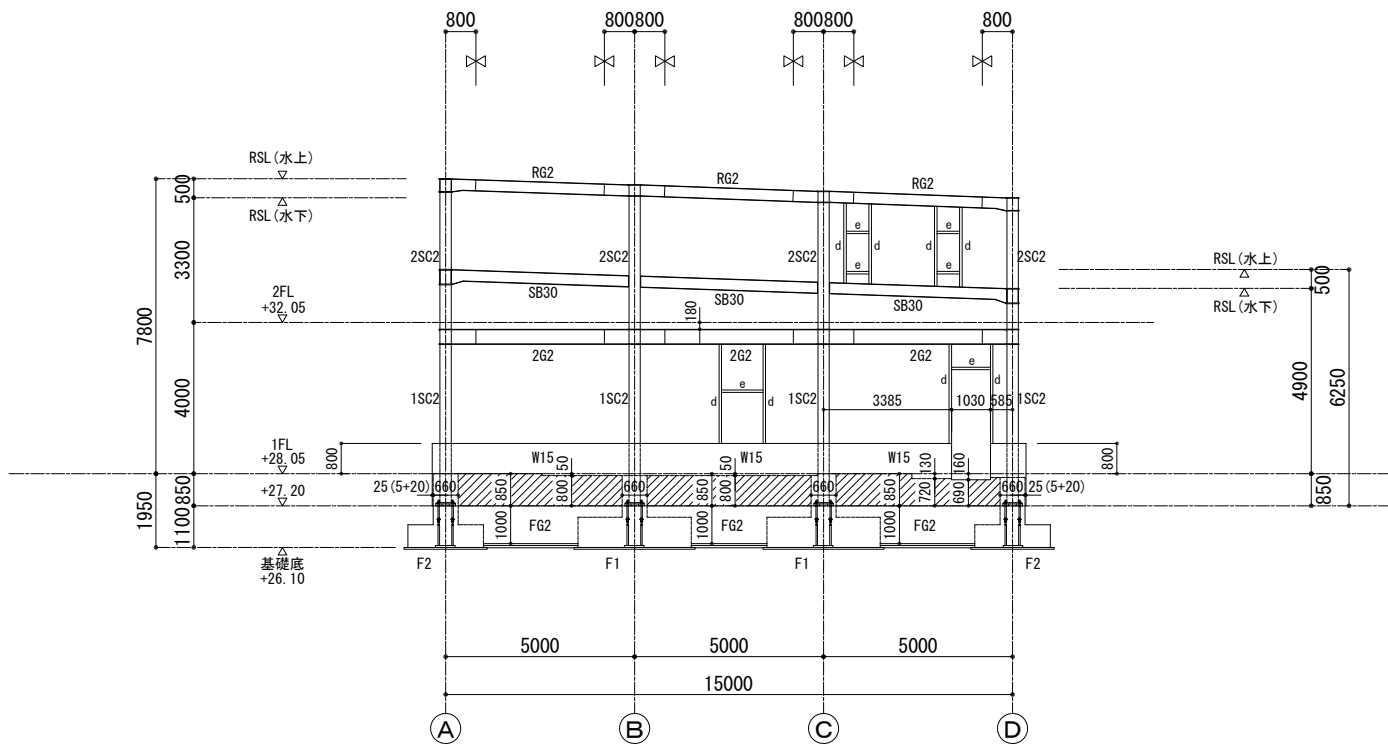
自己搬入棟 3通 軸組図 1/100



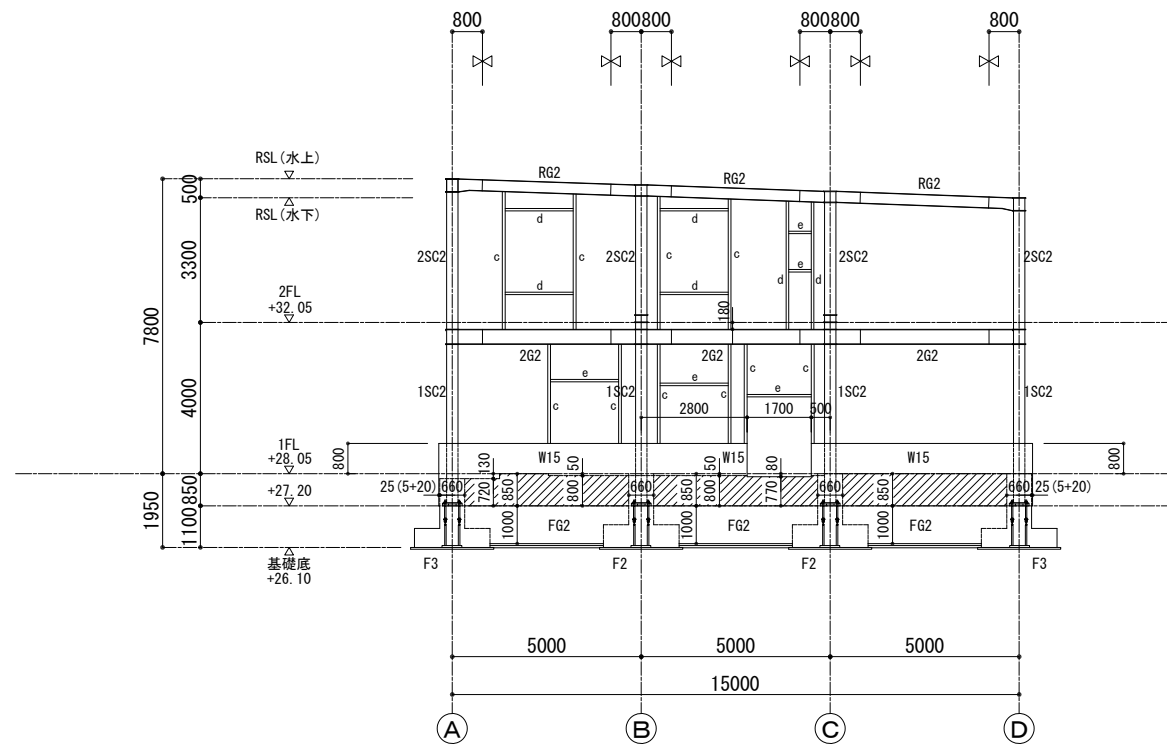
自己搬入棟 4通 軸組図 1/100

凡 例	
	梁の増打ちを示す。
a	ALC開口補強 (L-90x90x10) を示す。
b	ALC開口補強 (L-90x90x7) を示す。
c	ALC開口補強 (L-75x75x9) を示す。
d	ALC開口補強 (L-65x65x6) を示す。
e	ALC開口補強 (L-50x50x6) を示す。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  S-19
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 軸組図（3） 1/100	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	



自己搬入棟 5通 軸組図 1/100



自己搬入棟 6通 軸組図 1/100

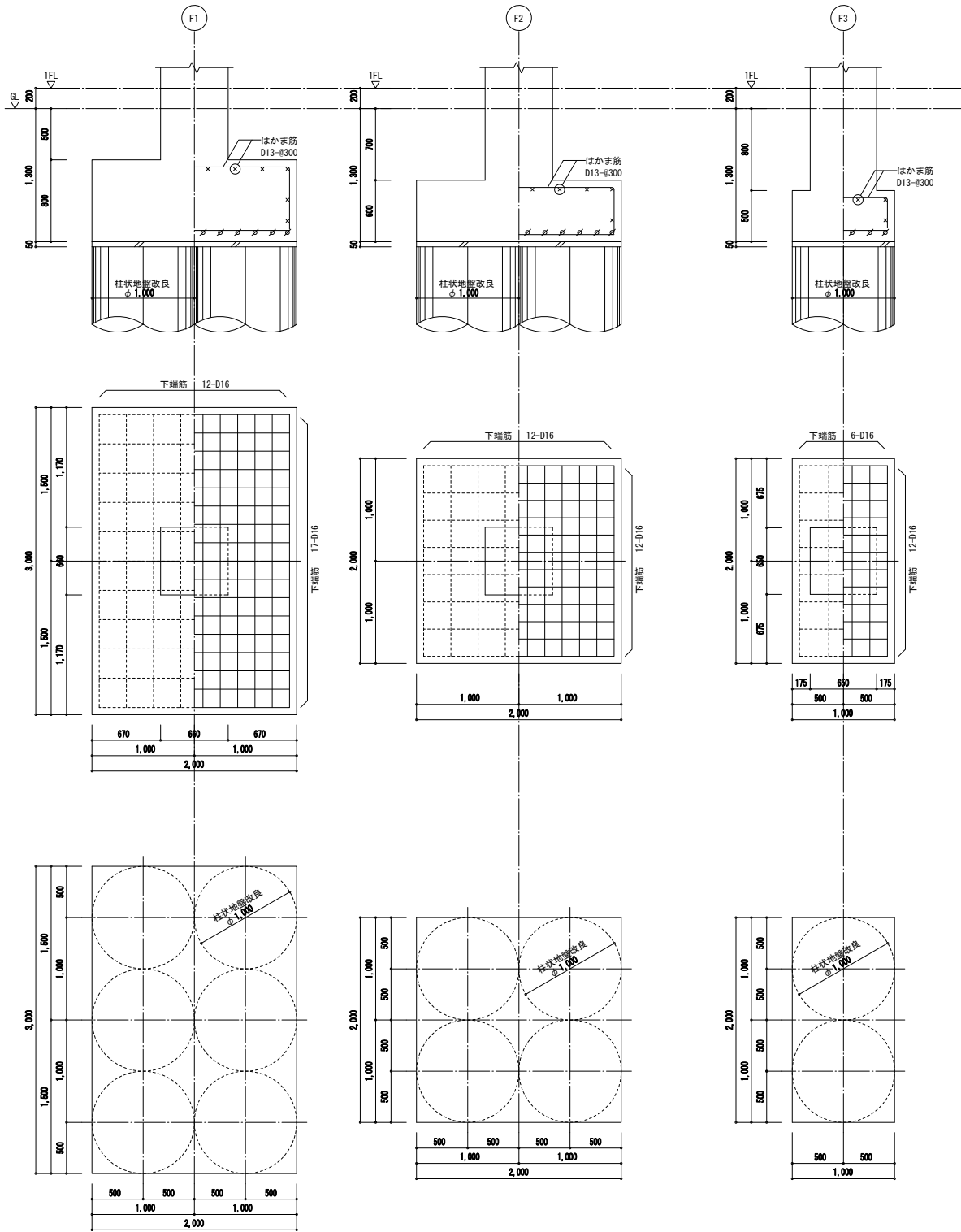
凡 例	
	梁の増打ちを示す。
a	ALC開口補強 (L-90x90x10) を示す。
b	ALC開口補強 (L-90x90x7) を示す。
c	ALC開口補強 (L-75x75x9) を示す。
d	ALC開口補強 (L-65x65x6) を示す。
e	ALC開口補強 (L-50x50x6) を示す。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  S-20
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 軸組図（４） 1/100	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	



基礎リスト 1/30

柱状地盤改良を行う基礎下は捨てコン(t=50)を打設する事とする。  
改良体の設計基準強度は Fc=1200kN/m<sup>2</sup> とする。



基礎大梁断面リスト 1/30

特記なき限り 幅止メ筋・受け筋は、 D10- ー @1,000とする。

符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6	梁主筋の配筋要領
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面							
B x D	500 x 1000	500 x 1000	500 x 1000	500 x 1000	600 x 1000	600 x 1000	
上 端 筋	4 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25	5/2 - D25	5/2 - D25	
下 端 筋	4 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25	5 - D25	5/2 - D25	
スターラップ	D13- □ @200	D13- □ @200	D13- □ @200	D13- □ @200	D13- □ @200	D13- □ @200	
腹 筋	4 -D10	4 -D10	4 -D10	4 -D10	4 -D10	4 -D10	

基礎小梁断面リスト 1/30

特記なき限り  
巾止筋はD10-@1,000以内とする。

符 号	FB1		FB2		FB3
位 置	中央・他端	B・C端	B・C端	中央	全断面
断 面					
B x D	350 x 650		350 x 650		300 x 600
上 端 筋	4 - D19	4/2 - D19	4/2 - D19	4 - D19	3 - D19
下 端 筋	4 - D19	4 - D19	4 - D19	4 - D19	3 - D19
スターラップ	D10- □ @200		D10- □ @200		D10- □ @200
腹 筋	2 -D10		2 -D10		2 -D10

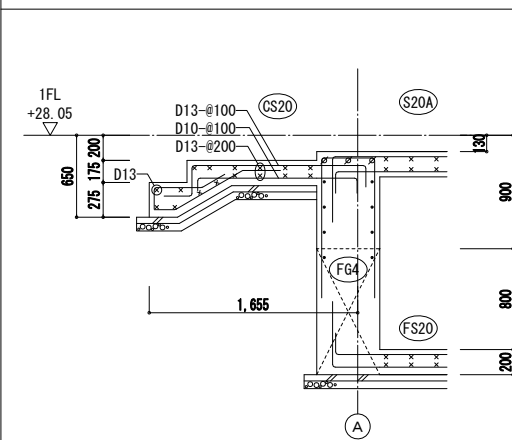
スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	短 辺		長 辺		備 考
			端 部	中 央 隅 部	端 部	中 央 隅 部	
DS1	80-130	上端筋	溶接金網6φ-100x100				合成デッキスラブ(EZ50) t=1.2
S20	200	上端筋	D13-@200		D10-D13-@200		
		下端筋	D13-@200		D10-D13-@200		
S20A	200	上端筋	D10-D13-@200		D10-@200		
		下端筋	D10-D13-@200		D10-@200		
CS20	200	上端筋	D13-@100		D10-@200		片持ち
		下端筋	D10-@100		D10-@200		
FS20	200	上端筋	D10-D13-@200		D10-D13-@200		ビット底板
		下端筋	D10-D13-@200		D10-D13-@200		

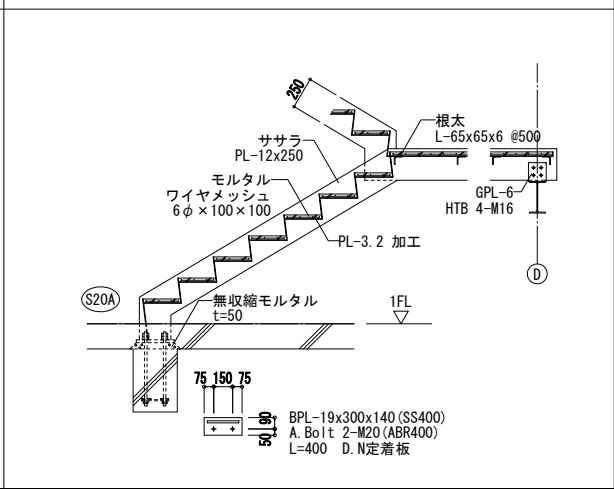
壁リスト 1/30

符 号	W15
壁 厚	150
断 面	
タテ筋	D10 -@150 (S)
ヨコ筋	D10 -@200 (S)
せん断補強筋	ー
巾止筋	ー
開口補強筋	ー
タテ筋	2 -D13
ヨコ筋	ー
斜 筋	ー

玄関及び床下ビット 1/30



鉄骨階段 1/30



符 号	SC1	SC3
1 階	□-300x300x16	□-300x300x9
根巻 B. PL形状		
BASE. PL	B. PL-400x400x25 (SN400B)	B. PL-400x400x25 (SN400B)
A. BOLT	4-M22 (ABR400)	4-M22 (ABR400)
符 号	SC2	柱梁接合部
2 階	□-300x300x12	
1 階	□-300x300x16	
根巻 B. PL形状		
BASE. PL	ハイベースNEO EB30-4-36	
A. BOLT	4-M36 (HAB)	

符 号	部 材	FLANGE			WEB		備 考
		外 S. PLATE	内 S. PLATE	HT-BOLT	S. PLATE	HT-BOLT	
RG2, RG4, RG5	H -300x150x6. 5x 9	9x150x290	9x 60x290	4-M16	6x200x170	3-M16	
2G1	H -500x200x 10x 16	12x200x410	12x 80x410	6-M20	9x320x170	5-M20	
2G2, 2G4, 2G5	H -400x200x 8x 13	9x200x410	9x 80x410	6-M20	9x260x170	4-M20	
2G3	H -350x175x 7x 11	9x175x290	9x 70x290	4-M20	6x260x170	3-M20	
SB25	H -250x125x 6x 9	12x125x410	-	6-M16	6x170x290	4-M16	
SB30	H -300x150x6. 5x 9	9x150x290	9x 60x290	4-M16	6x200x170	3-M16	
SCG200	H -200x200x 8x 12	9x200x290	9x 80x290	4-M20	6x170x140	2-M20	

出展：建築鉄骨設計基準及び同解説平成10年版（SCSS-H97準拠） 継手PLの材質は母材に同じとする。

大梁接合部凡例		フランジ		ウェブ	
型式		型式		型式	
1 列		1 列		2 列	

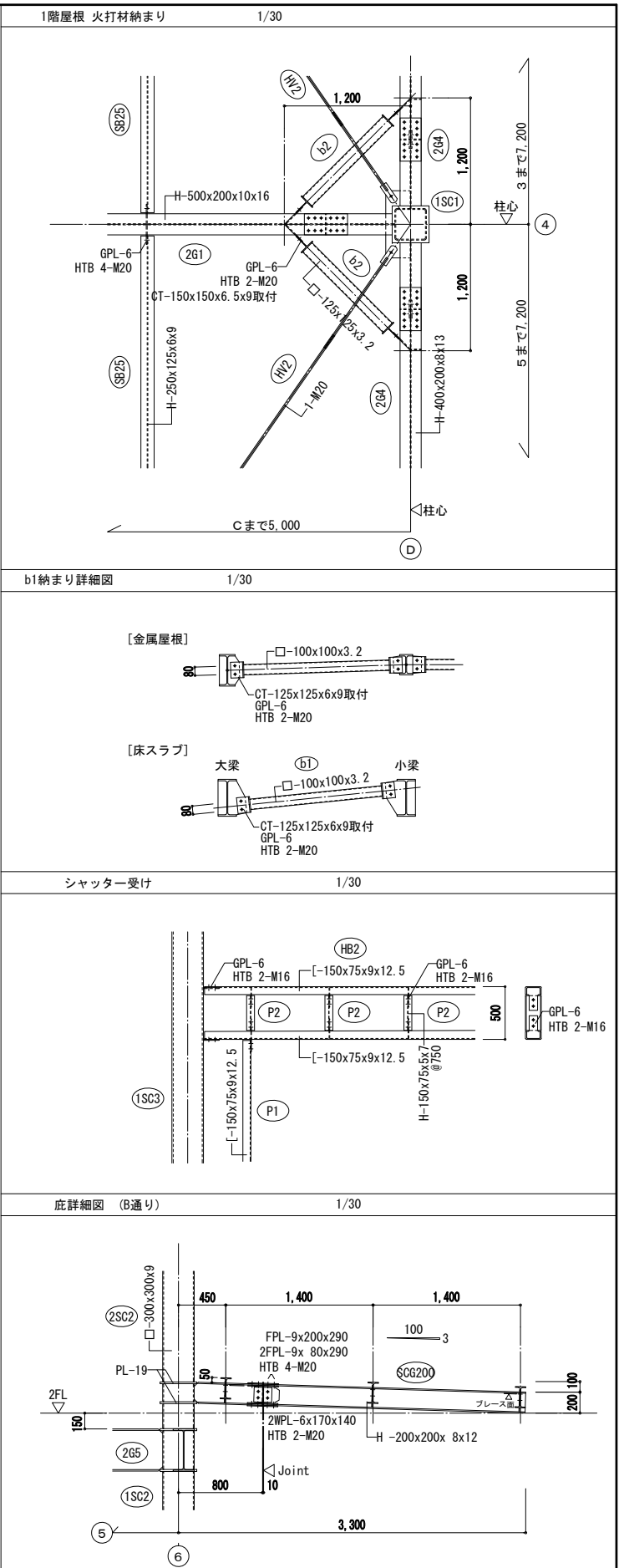
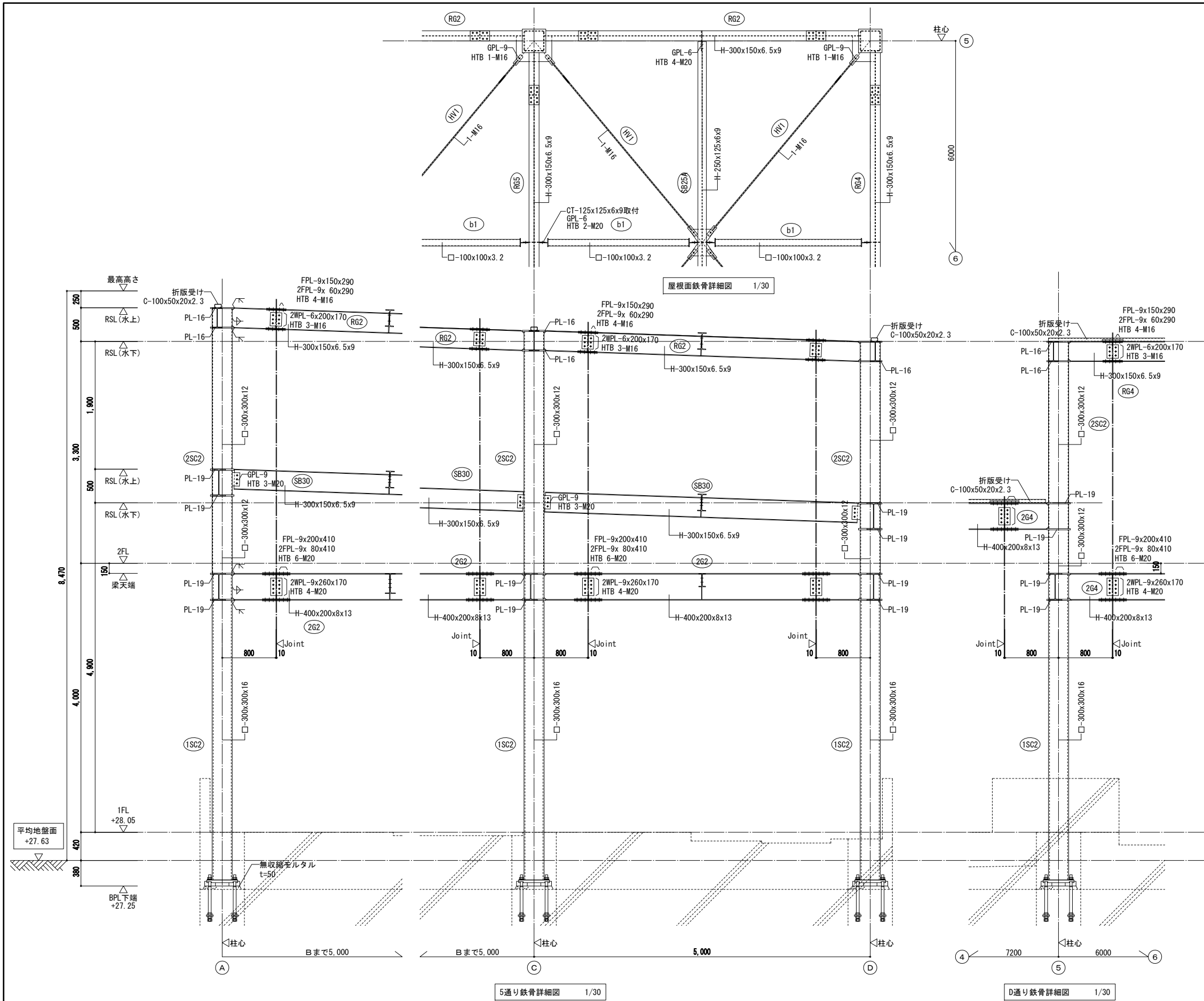
符 号	部 材	WEB(ピン接合)		備 考
		G. PL (S. PL)	HT-BOLT	
SB20	H -200x100x5. 5x 8	6	4-M20	WG2 (@P=60)
SB20A	H -200x100x5. 5x 8	6	2-M16	WG2 (@P=60)
SB25	H -250x125x 6x 9	6	3-M16	WG2 (@P=60)
SB25A	H -250x125x 6x 9	6	6-M16	WG3 (@P=60)
SB30	H -300x150x6. 5x 9	9	3-M16	WG2 (@P=60)

小梁仕口	
WG1	
WG2	
WG3	

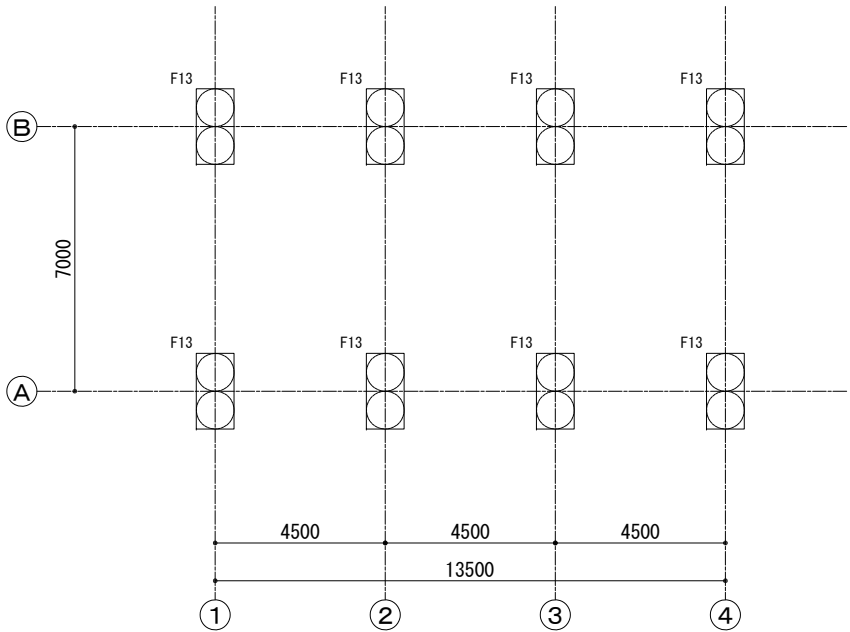
符 号	部 材	使用材料	備 考
b1	□-100x100x3. 2	STKR400	GPL-6 HTB 2-M20 @80 CT-125x125x6x9(SS400)取付け
b2	□-125x125x3. 2	STKR400	GPL-6 HTB 2-M20 @80 CT-150x150x6. 5x9(SS400)取付け
HV1	1-M16 (JIS A 5540 規格品) T.B. 付	SS400	GPL-9x70 HTB 1-M16 水平ブレース
HV2	1-M20 (JIS A 5540 規格品) T.B. 付	SS400	GPL-9x80 HTB 1-M20 水平ブレース
P1	[ -150x 75x 9x 12. 5	SS400	GPL-6 HTB 2-M16 @60
P2	H -150x 75x 5x 7	SN400A	GPL-6 HTB 2-M16 @60
P3	H -150x150x 7x 10	SN400A	GPL-6 中ボルト 2-M16 @60
HB1	H -150x150x 7x 10	SN400A	GPL-6 HTB 2-M20 @60(縦使い)
HB2	2x[-150x 75x 9x 12. 5	SS400	GPL-6 HTB 2-M16 @60(横使い)
H1	[ -100x 50x 5x 7. 5	SS400	A. Bolt 1-M12 L=360

柱脚詳細図	
BPL-16x180x180 A. Bolt 2-M20 (ABR400) L=400 D. N. 定着板付き	BPL-12x200x200 A. Bolt 2-M20 (ABR400) L=400 D. N. 定着板付き

ブレース標準図	
JISターンバックル筋かい	
ボルト	Ss
端部プレート	
ガセットプレート	
短期保証荷重	



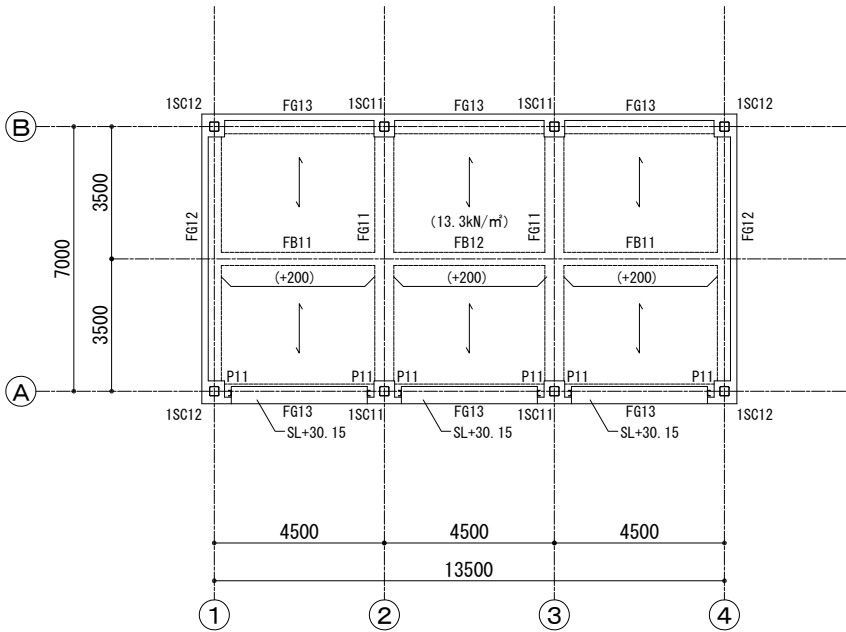
設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-23
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 自己搬入棟 鉄骨詳細図 1/30		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



パッカー車棟 基礎伏図 1/100 基礎底は1FL-1350(+28.85)とする。

○ 地盤改良 1000φ

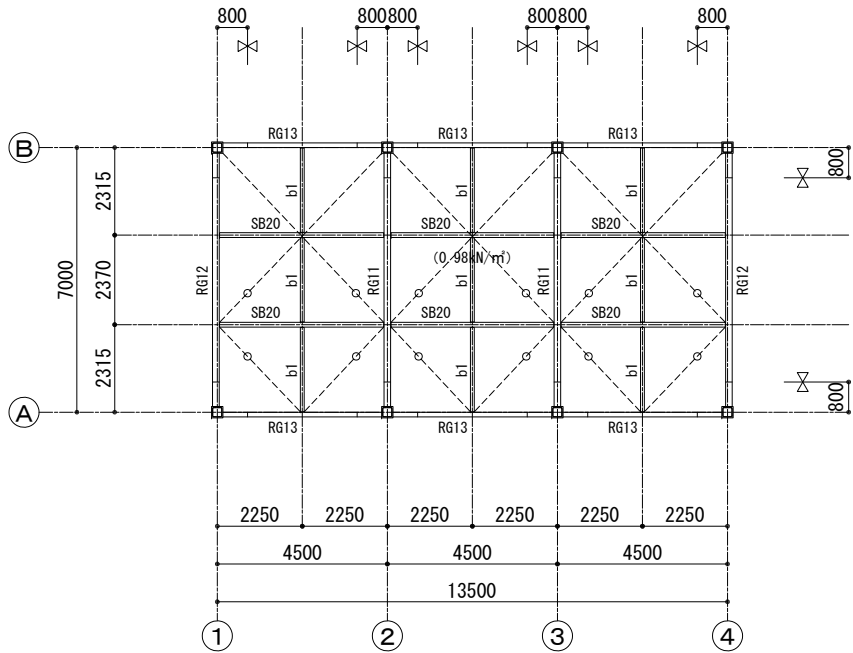
地盤改良工法	深層混合処理工法（アスコラム工法同等品）
改良径	1000φ
改良長さ	2800～5050
設計基準強度	$F_c = 1200 \text{ kN/m}^2$
施工本数	16



パッカー車棟 1階床梁伏図 1/100

特記なき限りSL=1FL±0(+30.20)とする。

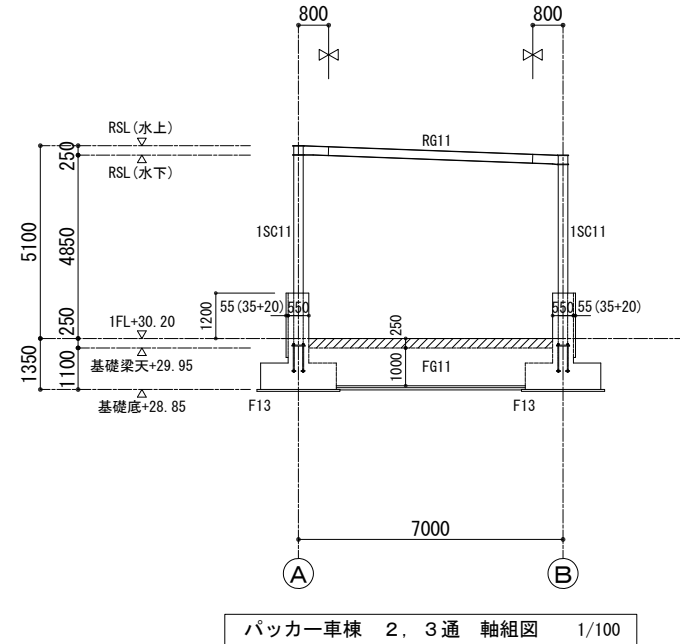
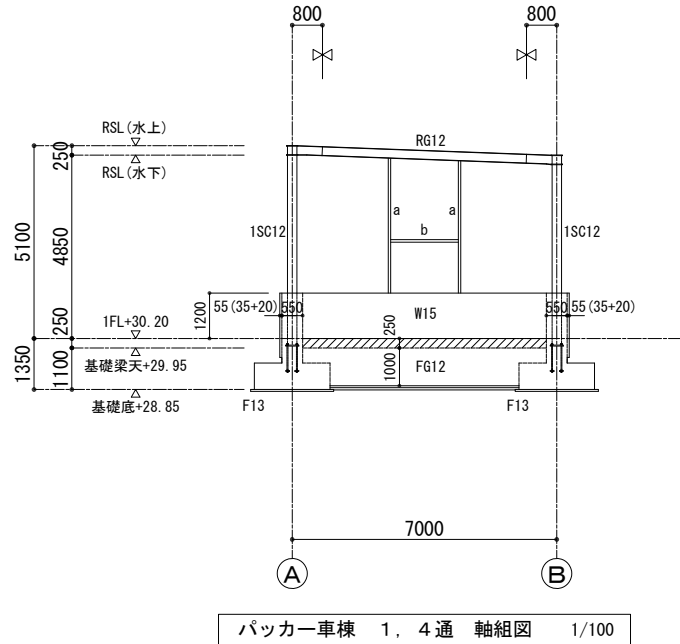
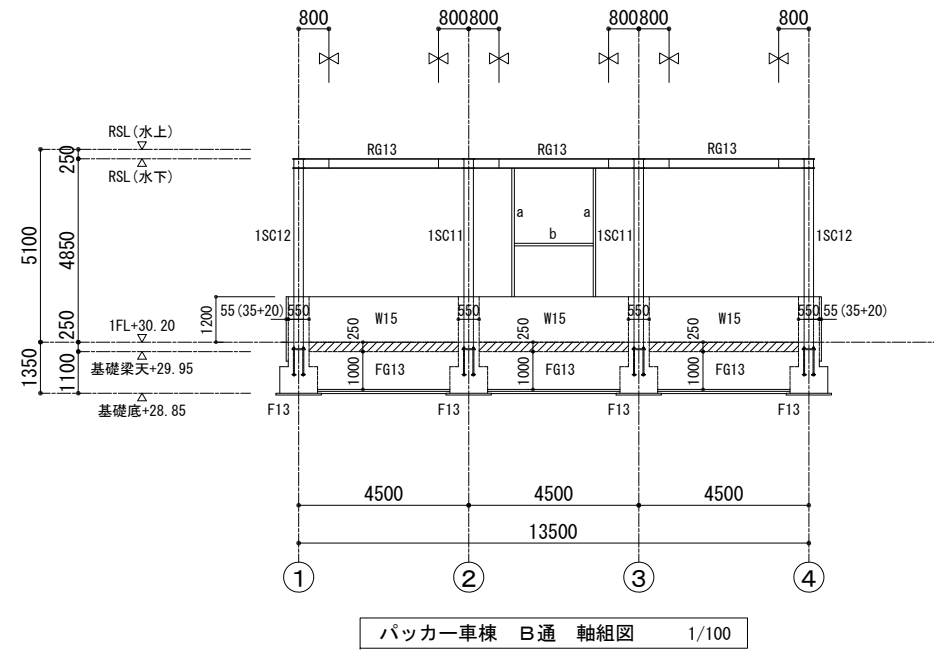
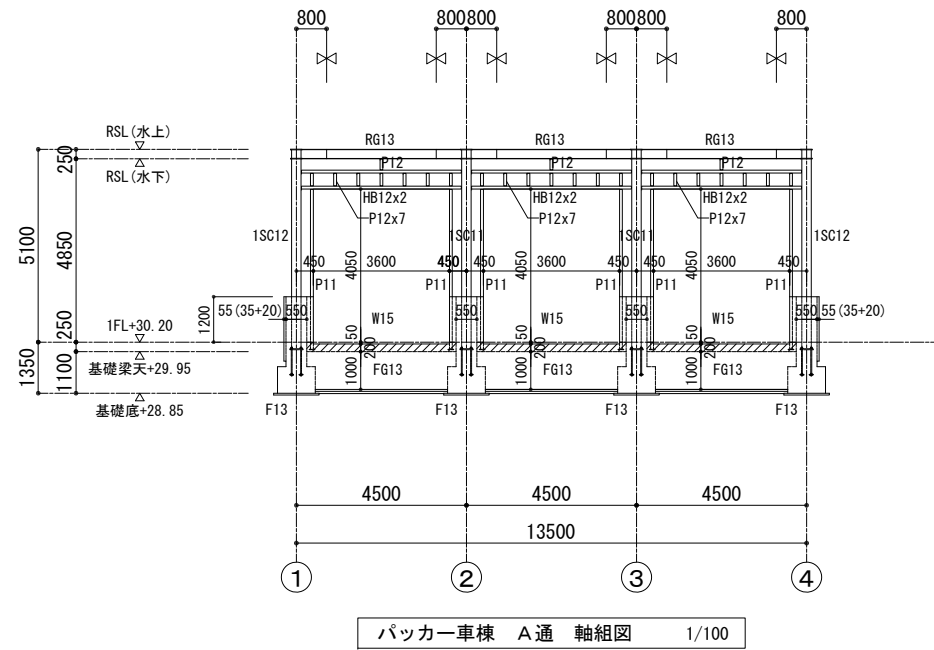
1階共通事項（特記なき限り下記による）	
	鉄筋コンクリート壁を示す
	SL=1FL±0(30.20)
	( ) 内数字は小梁増打厚を表す。+は上部-は下部
	( kN / m²) 床用長期積載荷重を示す
	スラブの主筋方向を示す。
1FL+30.20とする。	
床板は S20 とする。	
腰壁はW15、天端1FL+1200(+31.40)とする。	



パッカー車棟 屋根伏図 1/100

屋根共通事項（特記なき限り下記による）	
( kN / m²)	床用長期積載荷重を示す
	鉄骨梁現場継手位置を示す
--o--	鉄骨ブレース用ターンバックルを示す
水平ブレースはHV1とする。	
RSL(鉄骨梁天高さ)は水上+35.30(A通)、水下+35.05(B通)とする。	

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  S-24
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			パッカー車棟 基礎伏図、床梁伏図、 屋根伏図 縮尺 1/100		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		

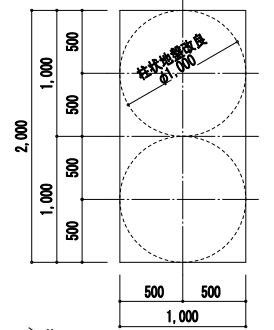
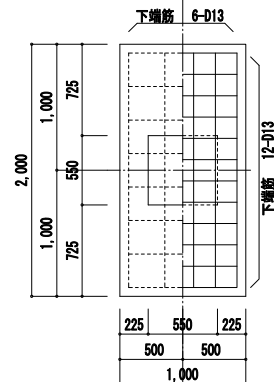
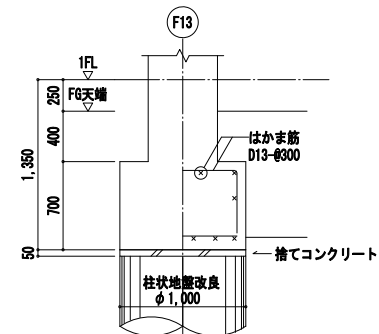


凡 例	
	梁の増打ちを示す。
a	ALC開口補強 (L-75x75x9) を示す。
b	ALC開口補強 (L-65x65x6) を示す。

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）	図面番号  S-25
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/100	
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市	

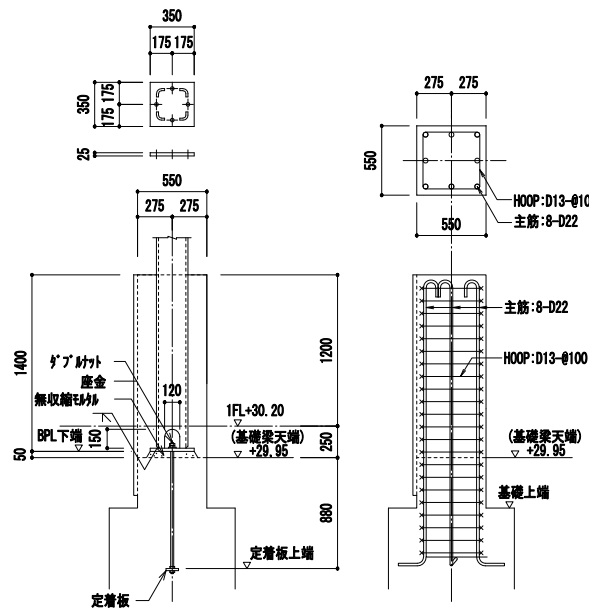
パッカー車棟 基礎リスト 1/30

柱状地盤改良を行う基礎下は捨てコン(t=50)を打設する事とする。  
改良体の設計基準強度は  $F_c=1200\text{kN/m}^2$  とする。



パッカー車棟 鉄骨柱・柱脚リスト 1/30

特記なき限り下記とする。  
使用材料は、BCR295(柱) ダイヤフラムは、SN490C



BASE PL	B. PL-350x350x25 (SN4008)
A. BOLT	4-M22 (ABR400)

パッカー車棟 基礎梁リスト 1/30

特記なき限り 幅止メ筋・受け筋は、 D10-  $\nabla$  -@1,000とする。


符 号	F811	F812	F813	梁主筋の配筋要領
位 置	全断面	全断面	全断面	
断 面				
B x D	500 x 1000	500 x 1000	500 x 1000	
上 端 筋	4/2 - D25	4/2 - D25	4 - D25	
下 端 筋	4/4 - D25	4/2 - D25	4 - D25	
スラブ	D13- □@200	D13- □@200	D13- □@200	
腹 筋	4 - D10	4 - D10	4 - D10	

パッカー車棟 基礎小梁リスト 1/30

特記なき限り  
巾止筋はD10-@1,000以内とする。

符 号	FB11		FB12	
位 置	1,4端・中央	2・3端	2・3端	中央
断 面				
B x D	350 x 600		350 x 650	
上 端 筋	4 - D19	4/2 - D19	4/2 - D19	4 - D19
下 端 筋	4 - D19	4 - D19	4 - D19	4 - D19
スリット	D10- □ @200		D10- □ @200	
腹 筋	2 - D10		2 - D10	

パッカー車棟 壁リスト 1/30

符 号	W15
壁 厚	150
断 面	
タテ筋	D10 -@150 (S)
ヨコ筋	D10 -@200 (S)
せん断補強筋	—
巾止筋	—
開口補強筋	—
タテ筋	2 -D13
ヨコ筋	—
斜 筋	—

パッカー車棟 スラブリスト

[illegible]

パッカー車棟 大梁リスト

特記なき限り下記とする。  
鉄骨材質は SN400B HTB : S10T

符 号	部 材	FLANGE			WEB		備 考
		外 S. PLATE	内 S. PLATE	HT-BOLT	S. PLATE	HT-BOLT	
RG11, RG12	H -244x175x 7x 11	9x175x290	9x 70x290	4-M20	9x140x170	2-M20	
RG13	H -250x125x 6x 9	12x125x410	-	6-M16	6x170x290	4-M16	

出展：建築鉄骨設計基準及び同解説平成10年版（SCSS-H97準拠） 継手PLの材質は母材に同じとする。

大梁接合部凡例			
フランジ		ウェブ	
型式		型式	
1  列	<p>40 P=60 10 P=60 40 ボルト本数 S.PL-1 S.PL-2 g/2</p>	<p>10 P=60 40 40 ボルト本数 170</p>	<p>t3 tw t3</p>
	<p>b=125シリーズ b=150シリーズ b=175シリーズ b=200シリーズ b=250シリーズ  c=60 c=70 c=80 c=100  F=75 F=90 F=105 F=120 F=150</p>		
2  列	<p>40 P=60 10 P=60 40 ボルト本数 S.PL-1 S.PL-2 g/2</p>	<p>10 P=60 40 40 ボルト本数 290</p>	<p>t3 tw t3</p>

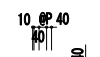
パッカー車棟 小梁リスト

特記なき限り下記とする。  
鉄骨材質は SN400A HTB : S10T


符 号	部 材	WEB (ピン接合)			備 考
		G. PL (S. PL)	HT-BOLT	仕口タイプ	
SB20	H -200x100x5.5x 8	6	2-M20	W02 (BP=60)	

**小翼仕口**


**WG1**



**WG2**



**WG3**



パッカー車棟 雑リスト

特記なき限り  
鉄骨材質は SS400 HTB S10T

符 号	部 材	使用材料	備 考
b1	□-100x100x3.2	STKR400	GPL-6 HTB 2-Ⅱ20 ⑥80 CT-125x125x6x9 (SS400) 取付け
HV1	1-Ⅱ16 (JIS A 5540 規格品) T.B. 付	SS400	GPL-9x70 HTB 1-Ⅱ16 水平ブレース
P11	[ -150x 75x 9x 12.5	SS400	GPL-6 HTB 2-Ⅱ16 ⑥60
P12	H -150x 75x 5x 7	SM400A	GPL-6 HTB 2-Ⅱ16 ⑥60
HB2	2x[-150x 75x 9x 12.5	SS400	GPL-6 HTB 2-Ⅱ16 ⑥60(横使い)

**柱脚詳細図**

P11

40 100 40

180 90 90 180

BPL-16x180x180  
A. Bolt 2-M20 (ABR400) L=400  
D. N. 定着板付き

ブレース標準図

ガセットプレート溶接長さ

The diagram illustrates a gusset plate connection between two structural members. Key dimensions and labels include:

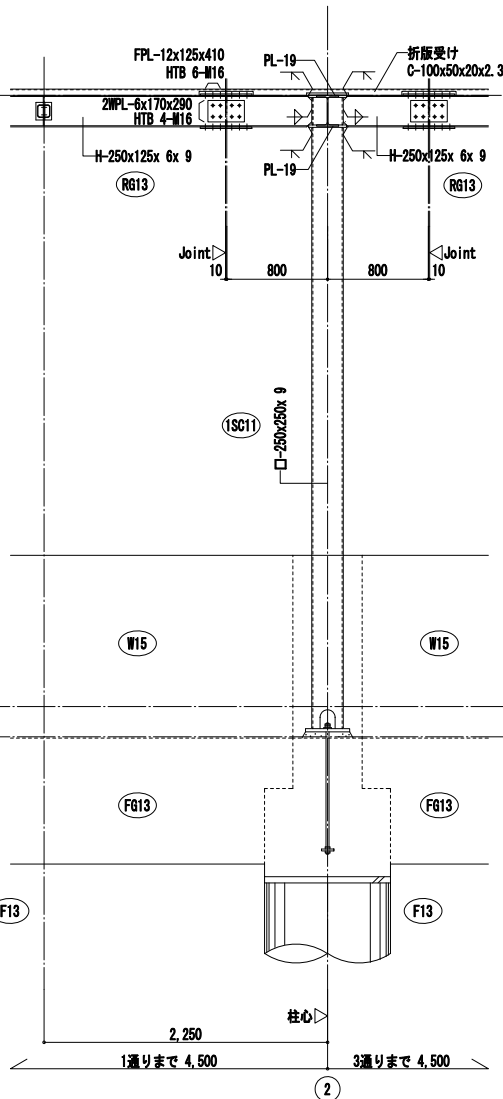
- 長さ** (Length): Indicated by a dimension line above the main member.
- gt**: ガセットプレート厚 (Gusset plate thickness), labeled at the top right.
- Sa**: Dimension from the end of the member to the start of the gusset plate.
- e1, e2, e3**: Eccentricities from the centerline of the member to the center of the gusset plate welds.
- el**: Eccentricity from the centerline of the gusset plate to the center of the end plate weld.
- B**: Width of the gusset plate.
- S**: Thickness of the structural member.

タイプ①	タイプ②	タイプ③

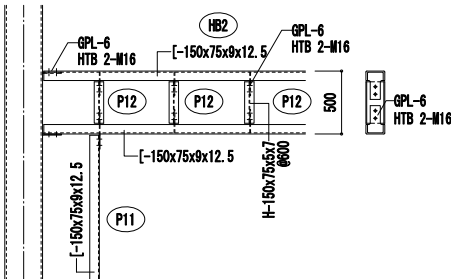
JISターンバックル筋かい

ボルト	Ss	端部プレート					ガセットプレート					短期 保証 荷重	
		プレート (t)	e1	e2	e3	溶接 長さ	gt	B	S	L			
										①	②	③	
1-M16	125	FB-6.0 PL-6.0	45	$\frac{25}{28}$	59	55	9	70	8	80	56	72	38.6
1-M20	150	FB-9.0 PL-9.0	50	$\frac{32.5}{34}$	66	75	9	80	8	97	65	81	60.6
1-M22	165	FB-9.0 PL-9.0	55	$\frac{37.5}{38}$	73	85	12	80	10	100	70	90	74.7

設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  <b>S-26</b>
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 バッカー車棟 部材断面リスト 1/30		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		



パッカー車棟 B通り鉄骨詳細図 1/30



設計事務所名 中日本建設コンサルタント株式会社 一級建築士事務所			南房総市外房地区自己搬入施設建設工事（建築工事）		図面番号  <b>S-27</b>
建築士登録番号（大臣）第338574号 建築士氏名 野口 一彦			縮尺 1/30		
検 図	製 図	設 計 令和7年10月	南房総市		